一番元気!
UFO総帥アントニオ猪木
が語るマット界の環境問題!!
前田日明
引退後、初の独占ロング・インタビュー!!
紙のプロレス
RADICAL
No.16
格闘ノストラダムス99
マット界の盟主を予言せよ
プロレスか? バーリ・トゥードか?
それとも格闘芸術か?
激烈! マット界の陣地取り!!
闘いの哲学がスパークする大特集!!
4・29 マーク・ケアーと激突する
修斗ヘビー級王者が
プロレス雑誌の表紙を奪取!!
エンセン井上
"前田引退後の世界"
"リングス・スタイル"とは何か?
田村潔司
UFCミドル級出陣希望!
リングスの核弾頭
坂田亘
本誌初登場!!
再起の髙田延彦に立ちはだかる
アルティメット・ハンマー!!
マーク・コールマン
バトラーツ、
情念の3周年ダーッ!
石川雄規
プロレス界の勝新も異様に元気!
ザ・グレート・サスケ
"1・4事変"を風化させるな!
村上一成
格闘技界に突如立ち昇った蜃気楼
アブダビ・コンバットの全貌
突然のフリー宣言の真相を語り倒す
山本喧一(ヤマケン)
最高の笑顔で旅立った"怪物"
語ろう、ジャンボ鶴田
幻のSWSの深淵を覗く長期連載
『S多重アリバイ』石川孝志
~今回は相撲の強さを再検証
5・2ドーム間近! 馬場さん追悼企画
「馬場さん、やはり貴方は日本のアイドルでした」
マット界の頂点には、
強くて凄くて面白いヤツが立つ!!
大和魂
紙のプロレスRADICAL
No.16
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

(ビッグ・サカ社長の認定書宣言風に)

紙のプロレスRADICALは マット界の総合誌を目指します!!

かつて、隆盛を極めたプロレス。怪しくも華やかな光りを発するジャンルは、その時代の中で確実に息づきエネルギーを放射し続けた。

しかし、残念ながらプロレスは、マット界の盟主の座から滑り落ちつつある。

バーリ・トゥード、修斗、リングス、パンクラス、フリーファイト、『PRIDE』、UFC、柔術、K—1、キックボクシング、空手、シュートボクシング、アメリカンプロレス、ルチャリブレ——。

いま挙げたものは競技名、団体名、大会名と様々だ。

いま、プロレスの代わりにマット界の盟主の座に座っているのは何なのか?

盟主不在。玉石混交。混乱。混沌。胎動期。世紀末。

いまや、誰かが守ろうとしても情報は勝手に電波として飛び交う時代だ。底力と能力と体力があるものしか生き残れないリアルな時代だ。

「プロレスはプロレス」
——その考え方、オッケー。

「格闘技は格闘技」
——その生き方、ノー問題。

「あんなのと一緒にされたくない」
——それはそれで素敵です。

「あそこをブッ潰してやる」
——その迫力があなたの魅力。

それぞれがそれぞれの主張と哲学をぶつけあえば、それだけでマット界は活性化される。リング上だけでぶつけてフォローできないことを、例えばこの雑誌でぶつけてほしいというかズバリ言って、遠慮すっこたぁねえよ。

かつてマット界の盟主だったプロレスは、〝度を超えたジャンル〟だった。〝度を超えた〟というのは、「強くて」「凄くて」「面白い」ことをいう。

〝度を超えたジャンル〟には〝度を超えた人〟たちがリングに集結して、日本中を大熱狂させた。

「強い」だけの人はいる。
「凄い」だけの人もいる。
「面白い」だけの人がいる。

そういう人たちが集まって〝度を超えたジャンル〟を再生させることはできないものか。一つのジャンルにまとまるのが無理ならば、せめてそういう〝場〟はつくれないものか。せめてそういう〝空気〟が流れてる空間はないものだろうか。

「強くて・凄くて・面白い」ものにプロレスも格闘技もない。
人々が見たいのは〝度を超えた〟ものなのだ。
プロならば度を超えたものが勝ちだ。
プロレスにこだわるのもけっこう。
格闘技にこだわるのもけっこう。

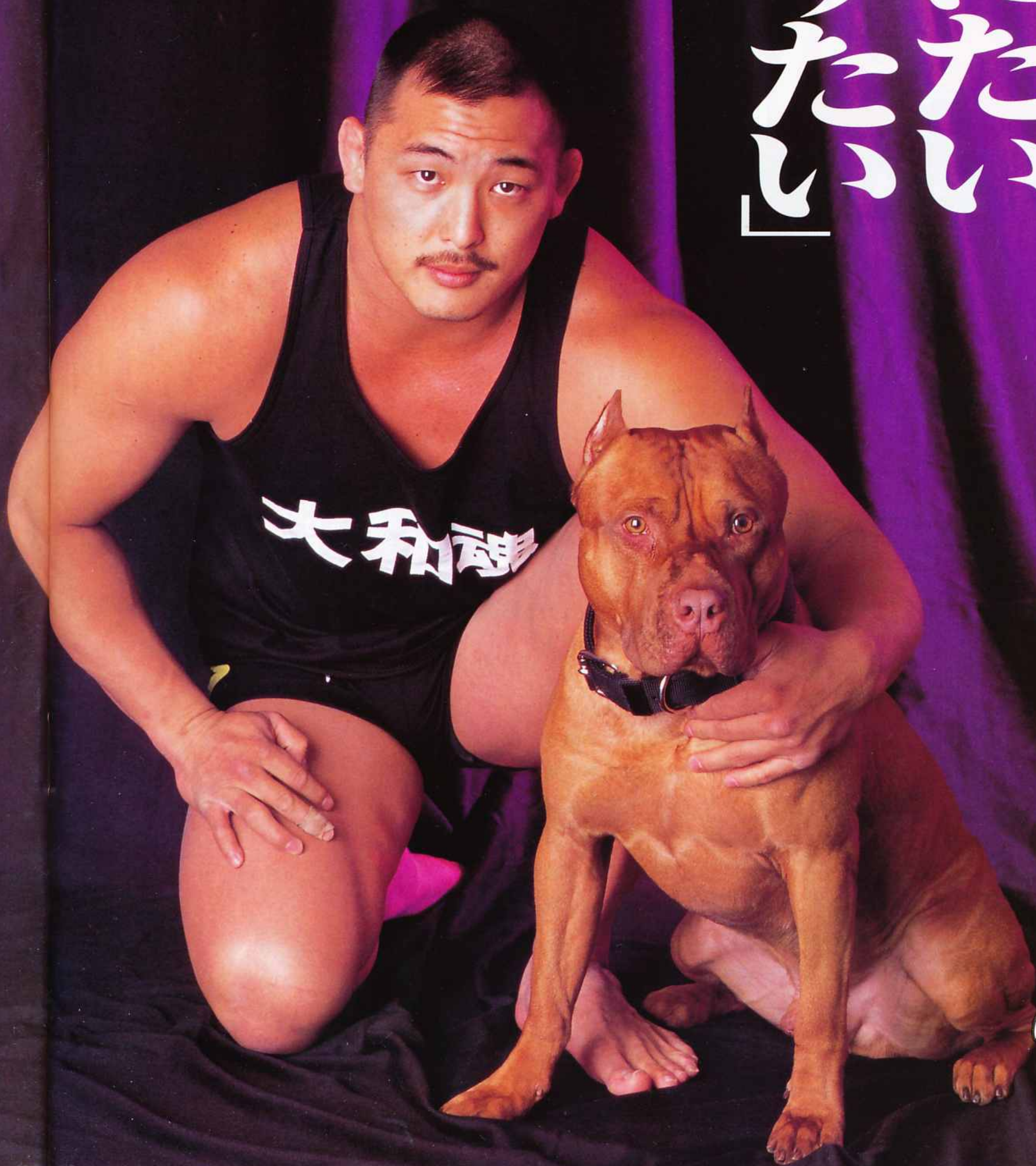
しかし、アントニオ猪木は元気よく言った。

ジャングルを守るだけじゃ
ジャングルは守れない。
ジャングルを守るだけじゃなく、
ジャングルを作ろうじゃねえか! と。

そういうわけで、
本誌はマット界の総合誌を目指します。
よろしくお願いいたします。

いきますかーッ?　やっぱり?
今日はみなさん、どんな思いかなぁ?
こんな思いかなぁ?
いくぞーッ!

イーチ、ニー、サン、
マット界の総合誌、
ダーッ!!

(なにがなんだか)

「男で生きたい
男で死にたい
男になりたい」
大和魂
格闘
ノストラダムス
'99
プロレスか? バーリ・トゥードか?
マット界の盟主を予言せよ!!

Photo/Susumu Nagao

4·29『PRIDE.5』で
“ヒクソンにもっとも近い椅子”を賭けて、
遂にマーク・ケアーと激突!!

エンセン井上

修斗ヘビー級王者、プロレス雑誌の表紙奪取記念INTERVIEW

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

エンセンが、ヒクソン戦への切符を賭けて、4・29『PRIDE.5』で強豪マーク・ケアーと遂に激突することが決定！ これはワクワクドキドキものだ――は？ うちは何の雑誌だって？ プロレス雑誌じゃないのかって？ いえいえ、滅相もない。しがないプロレス雑誌でございます。

強くて・凄くて・面白い人が一番！ そんな見る側の原点を思い起こさせてくれる存在。それがエンセン井上なのである。そのエンセンが大勝負に出るんだから、見逃すわけにはいかない。

当日は高田延彦の再起戦もある。こんなリアルな時代に、リアルに「強くて・凄くて・面白い奴」は一体誰なのか？『PRIDE.5』はそれを測るひとつのモノサシとなることは間違いないはずだ。今回は、そのモノサシの観戦手引きとして、エンセンの野性の魂を、お届けしちゃうヨ！

――そういえば、修斗クンがストリートファイトしたらしいですね（笑）。

エンセン そ～う。相手になんなかった。相手タ～イヘンだったヨ。でも、修斗クン悪かった。ワタシみたいに先に攻撃するした。

――飼い主と似てますねぇ（笑）。強そうだよなぁ、修斗クンは。

エンセン 後ろから犬の声が聞こえたから「スゴイ、犬のケンカだ!!」と思ったら、「アッレ～？・ 修斗クン？・」って（笑）。

INOUE

――ガハハハ！ その修斗クンの飼い主でもあるエンセンさんは、「今年はストリートファイトは絶対しない」って誓いを立ててましたよね？

エンセン ハイ。

――守ってる？

エンセン ……2回しました、ヒドくないやつ（小声で）。

――ガハハハ！ やってんじゃん！

エンセン でも、もう終わり。もう絶対しないよ。でも、ワタシの方がプロだから、手加減して相手にケガもさせない。修斗クン、まだアマチュアね（笑）。

――まあ、いずれにしろ似た者同士ですよ（笑）。

エンセン そうかな？ ワタシたちは絶対、無闇にケンカしないよ。ただ、カワイク散歩したいだけヨ。

――「カワイイ」と書いて「怖い」と読むって感じですね（笑）。ところで、とうとう『PRIDE』に出ることになりましたね。しかも相手はマーク・ケアーだし、実に楽しみですね。

エンセン 面白いよ！ 殺しにいくヨ!!

――殺しに行く!!

エンセン ああいうヤツ、怖いから。殺さないと殺されちゃうヨ。先に殺さなきゃ。寝技になるかもしれないけど、立ち技で殴り合いしたいネ。そのほうが仕事早いし。

――ガハハハ！ 闘犬だなぁ。

エンセン そんな感じね。グワーッてどっちかが噛む。どっちかが勝つ。それで「お疲れさま。六本木行きましょう」（笑）。

――ガハハハ！ で、六本木行ってまたケンカしたりして（笑）。じゃあ、絶対勝つ自信はある？

エンセン 運が関係あるから。でも、オレが勝ってるというイメージが、いろんな道が見えるもん。マーク・ケアーに勝てる道が多い。もちろん彼がワタシに勝てる道も多いんだけど、最後は運になるでしょ。タイミングか、彼のミスで取れるか、それ全部運だから。いま集中してるのは、彼に勝てる道。立ち技で入るか、寝技で十字取るか。全部可能性あるから。もっとハードトレーニングすると運のパーセントが増えるだけ。お互いのレベルも同じくらいだから、どっちが勝ってもおかしくないヨ。ただ、絶対倒しに行きたい。

――「運も実力のうち」っていうことわざがありますよ。

エンセン そうそう。だから、ワタシいつも言ってるよ。「練習時間で試合相手の運が増える」って。もちろん、それで練習のうまさとか、ハードなトレーニングでちょっと運が強くなるネ。運と実力一緒だよ、それ。ただ運だけではない。

――前田（日明）さんも運がありますからね。（アレキサンダー・）カレリンなんて絶対呼べないって直前まで言われてたけど、実際に試合は実現しましたからね。

エンセン ね。それ、スゴイよ。

――〝強さ〟の中には、運を呼び込む力も含まれるんですよ。でも、カレリンにはあんまり興味なさそうですね。

エンセン 前田vsカレリン戦（2・21）は面白くなかった。ちょっと、ガッカリした。

――ボクはバッグンに面白かったなぁ。

エンセン あと、もっとガッカリしたのは、カレリンの話聞くと神様みたいなイ

イノウエ一家なぜか勢揃い！

取材＆撮影の時になぜか勢揃いしたエンセン一家。お父さんはエロル"ツヨシ"井上（Errol "Tsuyoshi" Inoue）。ご存じ、お兄さんのイーゲンの本名はイーゲン"ハジメ"井上（Egun "Hajime" Inoue）。そして強そうな犬が修斗井上だ。イーゲンの『PRIDE.5』参戦も噂されるが、3月17日の時点で正式発表はない。実現したら面白いヨ！（エンセン調）

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？　バーリ・トゥードか？
マット界の盟主を予言せよ!!

ENSON

ワタシがマーク・ケアーに勝ったら、ヒクソンも、もう逃げられないヨ!!

メージだったね。すっごいバケモノな感じ？　でも直接見たらガッカリした。力はスゴクありそうだけど、言えるのは、彼は"なんでもあり"の世界では弱いね。小川（直也）はたぶん勝てる。

――でも、あれだけの人間だから、"なんでもあり"の世界でも、いろんなことを覚えたら恐ろしいはずですよ。

エンセン　でも、動きが違うよ。彼がレスリングで勝ってるの不思議だヨ。動きが遅くて関節の取り方も遅くて重い。もしかしたら、グラウンドになってもクラッチしてグワーッていうのは最高かもしれないけど、関節とかはちょっと違うネ。

――瞬発力はないということですね。

エンセン　そう、それがないと関節取れないヨ。だからカレリンが人間になっちゃたの。カレリンは悪くないけどネ。

――エンセンさんの周りは、最近、人間ばっかりになってきちゃってるね（笑）。ヒクソンも神様じゃなくなったし。

エンセン　ワタシが上がってるからみんな人間になってるかな？（笑）。でもそれ、いいことネ。ワタシ、いろんな選手に1回もサインもらってない。自分も選手だから、自分より上の人、絶対認めない。人がペン持って名前書くだけでなんで大事にするの？　その人が自分より上って認めてるじゃん。だから、自分の世界の中で、ファイターの中では、絶対サインもらわない。もったいないかもしれないけどネ（笑）。

――もしかしたら藤原紀香のサインとか平気でもらってない？

エンセン　ア！　もらいました!!　それは（笑）。藤原紀香、加藤由希、山本美憂、美人の女の子ばっかり、もらうヨ。

――しょうがねぇなぁ、ホントに（笑）。

エンセン　その女の子たちがオレより上だから認めます。オレよりオッパイ大きいし、オレより顔カワイイし、それに……。

――何ですか？

エンセン　オレより女らしいから。

――当たり前ですよ！（笑）。

エンセン　アハハハハハハハ。

――マーク・ケアーに勝ったら、いよいよヒクソン・グレイシー戦が見えてきますね。

エンセン　ワタシがケアーに勝ったらヒクソンも逃げれないヨ。あと、マーク・ケアーに勝つ目的は『PRIDE』でグランプリ、トーナメントがあるみたい。マーク・ケアーも出るみたい。ヒクソンはたぶん出ないけど、ホイス（・グレイシー）出るかもしれない。それ楽しそう。1日の大会じゃないから。別々の会場で1回戦、2回戦、決勝とかやるプラン。まだそれは未定なんだけど、もしあったら、それも優勝したいナ。

――確実にエンセン物語が最初のクライマックスに向けて動いてるね。

エンセン　うん。スゴイいいチャンス来てるよ。取るか取らないかわかんないんだけど、取りに行くチャンスはあるヨ。この『紙のプロレス』でカバーになるのも最高だね。女の子、いっぱい電話番号くれるかなぁ？　それなら最高ネ（笑）。

――プロレス界でもエンセンさんが表紙になると怒る人もいるでしょうね。まあ、怒ってもいいんですけどね（笑）。

エンセン　アハハ、面白いね。そうなったら、「ワタシ、プロレスラーだ」って言うヨ。格闘技のマスコミにプロレスのこと言うと「なんでプロレスなの？」って言うネ。プロレスの雑誌に載るのは、その雑誌を応援してるんだし、プロレスのことも好きだし。格闘技のマスコミの人、そういうことばっかり言うと、オレ、ホントにプロレスの人になるよ、バカヤロー！

――プロレス、格闘技っていう線引きよりも、強くて面白くて凄い人が一番、という方が気持ちいいですよ。

エンセン　ワタシもこういう雑誌に出て、名前広めると格闘技のお客さん増えるじゃん。どこの世界も別々にするより、別の技だけど同じファンでもいいじゃない。会場は違うけどファンは一緒でいいじゃない。プロレスラーが買ってる雑誌だったら、プロレスのマスコミが「格闘技カッコいい」とか言わないでしょ。

――雑誌はファンが買っているものということですね。プロレスラーでも、小川直也の強さは格闘技ファンにも確実に伝わってますね。

エンセン　うん。彼が新宿スポーツセンターにスパーリングに行ったとき、みんな「スゴイ強い」って言ってた。

――菊田（早苗）選手とか郷野（聡寛）選手とか、総合系の錚々たるメンバーの中での稽古だったみたいですね。

エンセン　みんな、メチャクチャ強いって言ってた。彼が格闘技の試合にも出れば最高だね。彼が格闘技に出れるようになったら最高。プロレスのファン、いっぱい格闘技見に来るネ。オレだって雑誌とかには載るけどプロレスの試合出るワケないです。ムリ。そういう動きとかいろんなこと、難しい。ホント、動きが全然違うから。でも、彼は両方できるよ。彼が格闘技やったら絶対強いから、人気になるよ。ワタシよりも、プロレスと格闘技の世界を一緒にして作れるヨ。

――小川選手と闘いたい気持ちは？

エンセン　彼はいまプロレスの試合やってるでしょ？　だから闘いたいより応援したい。彼がまず、格闘技に出てほしい。強いと思うから。元オリンピック選手だから、ハート絶対強いから。それで彼の道をいろいろ見たら闘いたいことになるかもしれないけど。こないだの試合（1・4橋本真也戦）はもしかしたら猪木サンがいけないかもしれないけど、アレ、面白かったネェ。

――ガハハハ！　面白いですよ。

大和魂
PUREBRED
GRAPPLING UNLIMITED
井上
大和魂
大和魂
大和魂

ENSON INOUE

ホイスも、もうカワイソウ。ワタシ、メッツァーとはもう闘えまセン

エンセン　いろんな気持ち入ったよ!　最初見て「スゴイ!　よしよし」って思って、よく考えたら「ヤバイ!」って思って。最近は「ヤバイ」の気持ちがちょっと軽くなって、「面白かったネ」って軽く笑って思った。

―橋本選手にはゼヒ、この危機を乗り越えてほしいですけどね。

エンセン　カワイソウね、彼。どうなってる?　試合してる?

―まだしてませんね。

エンセン　そのダサイことから、どうやって「オレは強い」って出てくるの?

―だから、充電した後の橋本選手が楽しみなんですよ。

エンセン　大仁田（厚）と小川の試合あったら面白いネ。大仁田、怖くないかな?　ああいうふうにやっちゃったら小川、全然強いと思うヨ。ヤッバイよ〜、大仁田（笑）。パンチもらったらどんな男樹や生き方あっても消えるよ。アゴに効いたら終わり。そんな感じだヨ。

―エンセンさんの電流爆破マッチも見てみたいですね（笑）。

エンセン　アハハハ。六本木で毎日やってるヨ。違う。毎日じゃないけど（笑）。

―そういえば昨日の桜庭（和志）選手とのスパーリング（TV『SRS』の藤原紀香卒業記念マッチ=P10参照）も評判いいですね。

エンセン　良かったよ。でも、あれはスパーリングだからネ。

―パンチもないし。

エンセン　「グローブつけようか?」って聞かれたけど、イヤだった。ムリだよ。

―桜庭さんだってエンセンさんと打撃戦やるのは絶対ヤダって言いますよ（笑）。

エンセン　彼は82〜83キロだって。ワタシ98キロだよ。15キロ違うんだよ。でも彼、そんな感じなかったヨ。5キロぐらい違うだけかと思ったけど。彼、自然の力あるヨ。スゴクうまいヨ。間違いなく日本で一番強い選手の中の一人ネ。でもちょっと地味すぎ（笑）。

―地味すぎ?（笑）。あれは桜庭さんの持ち味だから。

エンセン　もっとアピールして、試合のときは殺しに行ってほしいネ。

―ガハハハ!　なんでもかんでも殺しにいきますね（笑）。

エンセン　試合見たら、優しい。殴りたくないなって顔するでしょ。彼、いい選手ね。でもそういう人がいるからワタシ、悪く見えるヨ。

―悪く見えるんじゃなくて、悪いんですよ!（笑）。

エンセン　そっかぁ。悪いか（笑）。

―でも、桜庭さんも怒ったら怖いとこ持ってると思いますよ。

エンセン　うん。あるある。優しすぎると思って、でもワタシ、（98・10・11『PRIDE.4』のアラン・）ゴエス戦見たら、スゴイ根性持ってたネ。嬉しかった。いい試合だったネ。

―そういえば、ホイスとかガイ・メッツァーに怒ってた気持ちは少しは落ち着いたんですか?

エンセン　うん。完全に落ち着いたヨ。ホイスも（ヴァリッジ・）イズマイウに寝ちゃって（98・12・17／リオデジャネイロ／オスカー杯ブラジリアン柔術大会でホイスがイズマイウに失神負け）。ホイスも、もうカワイソウ。メッツァーもボコボコにされてたでしょ、ティト（・オーティズ=3・5／米ミシシッピ／第19回UFC）に。

―ここのところ、なぜかエンセンさんと因縁のある人がバタバタと負けてますね。

エンセン　だからもう、ワタシ、メッツァーとは闘えまセン（可愛らしく）。エンセンと闘いたい?　じゃあ、もうちょっとガンバってくださいね。そしたらオレと闘えるチャンスあるかもしれない。アナタはまだまだだネ。

―ガハハハ!　また嬉しそうに。

エンセン　それはそうだヨォ。自分のバチが救ったヨ。

―バチが「当たった」ですよ（笑）。

エンセン　でも、ちょっと気になったね。

ジョン・カルボ! "大イビキ事件"勃発!!

◀▲これが本文中に出てくるジョン・カルボ"大イビキ事件"の証拠写真だ。見事なタトゥーをしょったカルボは、グアムのエンセンの弟子で、昨年暮れ、富山で行われた『U―DREAM』のエンセンのエキシビション・マッチの相手も努めた。このイビキからすると、要注目の大物かもしれない

ヒクソンとは〝同じ椅子〟に座るけど、アブダビには〝王様の椅子〟あったヨ（笑）

どんな試合になったか。メッツァーはワタシと闘いたいのは当たり前だヨ（98・12・19パンクラスNK大会で当時キング・オブ・パンクラシストだったメッツァーはエンセンとの防衛戦を希望）。選手はみんな上と闘いたいから。でもワタシ闘いたくないヨ。彼もワタシと近かったのに、滑って下がってっちゃったと思うよ。またワタシと闘うんなら、もうちょっと戻らなくちゃ。ワタシの腕、そんな下まで届かないヨ。ヘイ、メッツァー！ どこ行ってるの？ もうちょっと来てヨ!!

――うまい！ そんな下までは手が届かないから、試合にならないと。トンチが効いてますね（笑）。

エンセン　ダメだよ～。蹴れないもん。メッツァーが下にいると、殴っても届かないヨ（笑）。いま闘いたいのは、自分が勉強できる選手。だから、UFCの13（大会＝97・5・30）より、勉強のほうがほしいネ。メッツァーがUFCの13の後にワタシのプライド傷つけること言ったから、「バカのムカつく」とか、「バカの格好を直したい」とかの理由があったけど、自分の評価のために、もうそういうギャンブルしないよ。自分の評価、いま売れるとこだから、メッツァーもいっぱい負けて、いまはUFCの13回大会のことのために闘うのは意味ないね。あと、彼はワタシに勝ったから闘いたいとか、ホイスがワタシの悪口したから闘いたいとかよりも、いまは評判のほうが大事。ただ、勉強になることだったら評判より大きい。アブダビ（2・24～26／俗にいうアブダビ・コンバット＝P77～参照）でやったマリオ・スペイヒーとも勉強になるから寝技だけでもやった。彼、闘いに来なかったけどね。いまは評判のこととか考えたらメッツァーとホイスは別に闘わなくていい。メッツァーはティトと、ホイスは体重が合ってるからお兄さん（イーゲン井上）とやればって感じ。オレはとりあえずマーク・ケアー。オレがボコボコにされるかもしれないヨ。でもそこから勉強になって、もっと強い選手になる。

――エンセンさんの凄いところは、常に上を見てる、そのエネルギーですね。

エンセン　スゴイより運がいいネ。もちろん、上を見る人もいるんだけど、ワタシはたまにチャンスが飛んでくる。（ランディ・）クートゥアーとできて、ケアーとできて、スゴイよ。まさかできないと思ってたから。だから運がいい。ワタシはホイスみたいじゃないネ。「ケアーと闘いたい」って言って、口だけとかじゃない。ワタシはクートゥアーと闘ってすぐに「ケアーと闘いたい」っ言ったでしょ。

――ホントに実現しちゃうからね。

エンセン　そう。ホントに口から出てるものが、ショーとか売り方ではないの。ホントにやるつもりだから。

――そういうのを「有言実行」っていうんですよ。言うこととやることが一緒のこと。

エンセン　あ、それは男だよね。ワタシ、友だちにこの言葉教えてもらったヨ。「男で生きたい。男で死にたい。男になりたい」。そういうことね。「男で生きたい」の意味はね、もちろん……。

カルボ　グゥウウ、グゥワウウー。スピー。

（突然、隣のソファーで修斗クンと遊んでいたはずのエンセンのグアムの弟子、ジョン・カルボのイビキが部屋中にこだまする）

エンセン　……ヘイ！　ヘ～イ!!

――ガハハハ！　弟子がイビキ掻いてますね！（笑）。

エンセン　もう、信じられないヨ！

――師匠が一番いいこと言おうとしてるときに（笑）。

エンセン　もう、ほっとく！　だから、「男で生きたい」のはもちろん毎日のことね。「男で死にたい」はね、死ぬときも前に行くとか、絶対、ヤダヤダとかしない。「男になりたい」の意味は、やっぱり男で生きて男で死ぬ。両方しないと男じゃないからね。今度のTシャツ、それネ。

――そんなこと考えてる日本人、いまいませんよ（笑）。

エンセン　ホ～ントに？

――わかんないけど（笑）。

エンセン　あ、こういうのどう？「女と一緒に生きたい」「女と一緒に死にたい」。

――また始まった（笑）。

エンセン　女と一緒に……

二人同時に　ヤリたい！

エンセン　アハハハ。そのTシャツも作ろうか？

――そのTシャツの方がいいなぁ。

エンセン　セット、セット（笑）。

――でも、お兄さんが、こないだアブダビでヘンゾ（・グレイシー）に勝ったでしょ。井上兄弟、強しですね。強いファミリーはグレイシー一族だけじゃないですね。

エンセン　アブダビのときも、アメリカの大きい雑誌がね、井上兄弟のスペシャルあるって言ってたよ。そこが言ってたのも同じこと。グレイシーばっかりじゃなく、他の家族がガンバってるの見せたい。〝イノウエ柔術〟作ろうかな？ 冗談で作ろうかな？

――たぶん冗談で作っても、ビジネスになりますよ（笑）。エンセンがこないだ、「ヒクソンは私の隣りに座ってる人間。電車に乗ったらヒクソンは私と同じ席に座る。彼のための特別な王様の椅子はない」って言ってたけど、あれはシビれる言葉ですね。

エンセン　それはもう、当たり前ね。ただ、アブダビ見たら、やっぱり人間は全員と同じ電車じゃないね。王様にはやっぱり特別席あったヨ。

――ガハハハ！　アブダビには王様の椅子があったと。

エンセン　王様と闘えないかと思って（笑）。ヒクソンより上だよ。ヒクソンは

ENSON

同じ席に座るからいいけど、王様はソファーだもん。

―王様は強いもんね（笑）。

エンセン そう。王様は闘わなくても強い（笑）。

―でも、エンセンさんだけじゃなく、ヒクソンとやりたいっていう選手はたくさんいますからね。

エンセン みんなやりたいよ。高田（延彦）サンもまたやりたい、当たり前ヨ。ヒクソンは負けてないし、彼と闘ったらいっぱいお金もらえるし、勝ったらいっぱい女の人来るし。

―ガハハハ！ また女か！

エンセン いろんな意味あるヨ（笑）。

―でも、エンセンさんが日本では一番近いですよ。

エンセン だから、マーク・ケアーの勝負で近くなることもあると思うけど、遠くはならない。このまま腕が届きそうな距離は遠くなんないと思うよ。絶対〝心〟見せて勝負するから。

―寝技だけとはいえ、アブダビでマリオ・スペーヒーに負けたことは残念に思ってないんですか。

エンセン 負けたことが残念じゃなくって、性格っていうか、そういう人と闘ってるのがね。どういうレベルか見たかったのに、向こうはやる気なかったから。

―向こうは負けないように、負けないように闘ってましたよね。

エンセン そうそう。だから彼、悪くないよネ。黒帯だから、スゴイ自信あると思ってたから、絶対極めにくると思ってスゴイ楽しみだった。合わせてきたら、絶対自分のレベルと比べられるって。でもああいう風にされるとなんにもできない。

―途中で我慢できなくなって強引に投げに行ったりしてたでしょ（笑）。

エンセン いっぱいやったよ（笑）。我慢とか、ダメだったから。ワタシ、グーでグリグリ彼のアバラに入れて、彼がスゴイ嫌がったけど、でも彼は試合は半投げだよ。アゴを彼の頬の骨にグリグリやったりね。最後の1分は、ムリヤリ投げちゃって、でも、もう彼はディフェンス・モードだったね。相手が闘いに来ないと倒すのは難しいネ。

―ホントにエンセンさんって闘い好きっていうか、〝つまんないこと〟が嫌いですね（笑）。あの試合見てるとよくわかりますよ。

エンセン 女の子とデートして話すだけは損。

―ガハハハ！ スペイヒーとはもうやりたくない？

エンセン やりたいよ。アブダビでやりたい。彼の素晴らしいのは寝技の技術。彼とやりたいのは勉強になりたいから。もしかしたら、もう1回闘うより、友達になって練習したほうがいいかもしれないね。また闘ったら、また守られちゃうかもしれない。彼にも試合中話してたの。寝技のとき。「このままだと何もなんないヨ」って。そしたら「イヤ、お前が危な過ぎるから絶対ギャンブルしない」って（笑）。

―ガハハハ！ 試合中に話しますか。

エンセン オレは、「ボクはギャンブルしたい」「オレ、マウント取りたいんだけど」って言った（笑）。

―ガハハハ！ 取り引きですね。

エンセン ワタシ、「いま何ポイント取った？」って聞くと「知らな～い」って。打撃がないとリラックスできる感じ？ 打撃があると、ちょっと話せないネ。

―打撃があったら、それこそエンセンさん相手に誰もギャンブルしたくないでしょう（笑）。グラウンドでの打撃といえば、船木（誠勝）選手を始めとして、パンクラス勢も、パンクラチオン・マッチって言ってますけど、〝なんでもあり〟の世界に足を踏み入れましたね。

エンセン こないだ見たよ（98・12・19 NK）。船木サンと（渡部）謙吾サン。スゴイよかったよ。パンクラスの選手はスゴイ自然にバーリ・トゥードに行けると思うヨ。

―でもいま、UFCはUFC、『PRIDE』は『PRIDE』、修斗は修斗、パンクラスはパンクラスですよね。

エンセン バラバラね、バラバラ。いっぱいチャンピオン作って、PRIDEチャンピオンがUFCチャンピオンと闘ったりする、ボクシングで言えば、WBC、IBFとかそういう目標あるでしょ。それつくらないと、大きくならないよ。バラバラ過ぎだからね。お互い闘わないと。

―そこでお互い闘おうと言えるところが、いまの時代を象徴してますねぇ。

エンセン UFCと契約したからここは出れないとかじゃなくて、もっと広く考えると〝なんでもあり〟の世界のために、一緒に強く大きくならないと。いま、小指一本だよね。もう別々だから、弱い。折れるよ、〝なんでもあり〟の世界、どんどん弱くなる。親指も薬指も小指も全部まとまれば、折れないよ。こういうチームだったら強くなるヨ。

―じゃあエンセンさんは、例えば、修斗のチャンピオンのエンセン井上、プロ

エンセン、アブダビでは“ファイト”できず!

2・24～26に行われたアブダビ・コンバットでは、昨年11月にホイラー・グレイシーを破ったマリオ・スペーヒーと打撃なしのグラップリングマッチを行ったエンセン。闘いに来ずに、鉄壁の守りに徹するスペーヒーに判定負けを喫してしまったが、膠着打開のために積極的に仕掛けていったエンセンは“ファイター”。「彼にも試合中話してたの。寝技のとき。『このままだと何もなんないヨ』って。そしたら『イヤ、お前が危な過ぎるから絶対ギャンブルしない』って（笑）」。いつ、何時でもリスキーにギャンブルを仕掛けるエンセンは、やっぱりプロとしてバツグンに面白い

レスのチャンピオンの小川選手、柔術のチャンピオンのヒクソンとか、そういう強い人たちがワーッと集まって世界一を決めるってなったとしたら、バーリ・トゥードルールが一番だと思ってる？

エンセン　そうね。一番合ってるね。プロレスとかキックとか全部合わせたら、全部その中に入ってるもん。バーリ・トゥードの中にキックの動きある、レスリングの動きある、プロレスの動きある、寝技ある。キックのルールだったら寝技の選手なんにもできない。

――そういういろんなジャンルの選手が集まれる大きなステージを作ったら面白くなるよね。

エンセン　それはね、アイデアは最高だけど、みんな来ないよ（笑）。"なんでもあり"の選手しか来ないよ。小川選手は来ると思うけど。でも、マイク・タイソンとか、アンディ・フグとか、ああいうヤツら来たらバカだよ。

――打撃だけの選手は別として、柔術、プロレス、バーリ・トゥード、修斗、みんな集まってやれるような場をイメージしてると楽しいんですよ。"そんなこと500％ありえない"ってなると、閉塞していくだけですからね。

エンセン　そうね。でももうちょっと、大きいスポンサーが入らないと難しいネ。

――エンセンさん自身は、バーリ・トゥードルール以外はイヤ？

エンセン　イヤじゃないよ。ただ、自分が一番イケるのがバーリ・トゥードルールだから。キックボクシングができたらキックボクシングのルールが一番いいって言うヨ（笑）。

――プロレスだったらヨネ原人に負けるかもしれないしね。熱くなって追っかけていってリングアウトで負け（笑）。

エンセン　そんなことないヨ～。ヨネ原人、いま引退したから弱くなってるはずよ。いまだったらワタシ、大丈夫ヨ（笑）。

――ところで『ＰＲＩＤＥ』に出ることになっても、修斗の興行にはこれからも出るんですか？

エンセン　そうね。でも『ＰＲＩＤＥ』出るときはシューティングのエンセンで出るからシューティングやってるみたいな感じ。広めたいから。シューティングの会場に出るとかの約束はできないんだけど、取りあえずワタシ、どんな試合にも「シューティングのエンセン」で出たら広まるね。だから、ワガママでシューティングの会場に出ないと思われるのは、意味わかんない。シューティングでムリヤリくだらない選手とやらされて、シューティングの会場出るのは意味ないでしょ。もう、（佐藤）ルミナとマッハ（桜井速人）とかで満員になるヨ。あと朝日（昇）選手。ワタシもそろそろ、子ども作って引退できるかな？

――子ども作りますか（笑）。

エンセン　あ、修斗クン、子どもできた！　お父さんになりました。

――何匹生まれたんですか？

エンセン　２匹しか出てない。

――出てない（笑）。エンセンさんが飼うの？

エンセン　売ります。30万から売るんで、もっと高い金額で買いたい人がいれば、大宮ジムにご連絡下さい。

――修斗クンはショップで買ったとしたら、いくらぐらいの犬なんですか？

エンセン　アメリカで買うと、７～８万だよ。日本で買うと、こないだ修斗クンの兄弟売ったとき、25万ぐらい。

――で、なんで子どもが30万からなのか、よくわかりませんね（笑）。

エンセン　修斗クンが有名になったから（笑）。

――あ、なるほど。

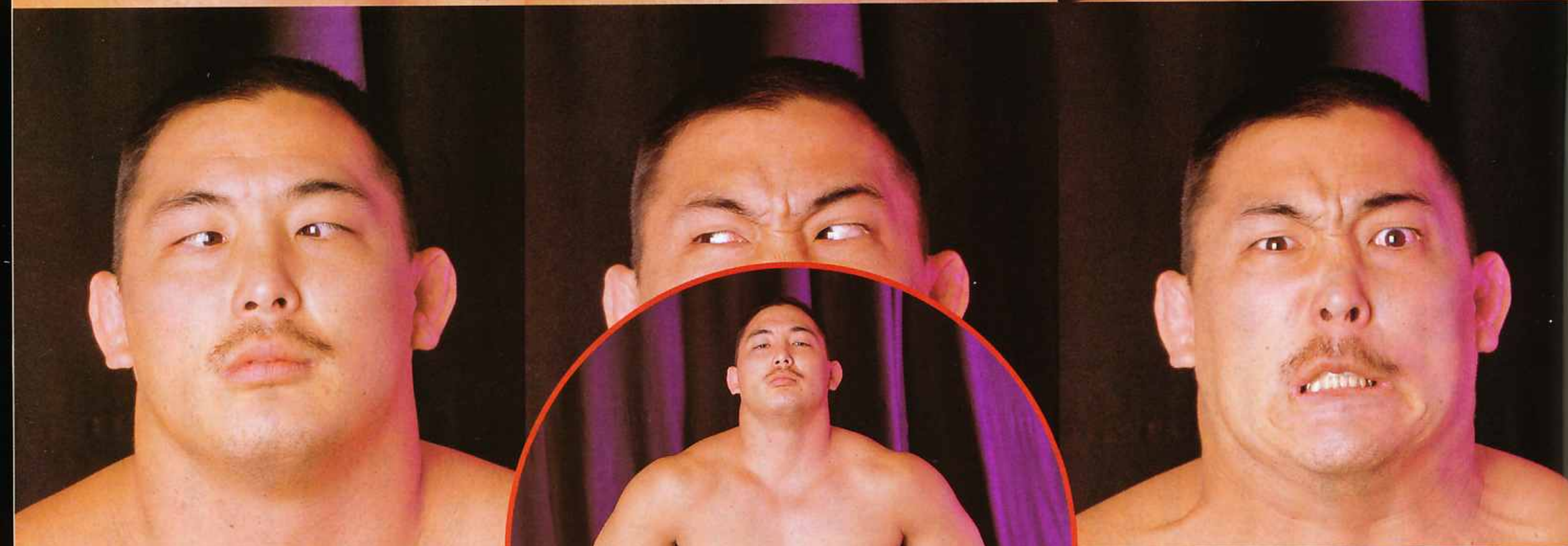
エンセン　あんまり売りたくないから売れなくてもいいから高い値段にする。気持ち的には10万とか20万で売りたいんだけど、やっぱり売りたくないから50万ぐらいほしいネ（笑）。30万以上の人に売るけど、誰でもじゃないよ。プロフィールとか、話が合ったらその方がいいよ。誰でもじゃないよ。いなかったら二匹とも育てる。

――修斗親子３匹とエンセン井上。最強親子ですね！（笑）。で、４・29でケアーに勝ったとして、そのあとヒクソン超えを実現したとするでしょ。そのあと

ENSON INOUE

VT（バーリ・トゥード）の中にはレスリング、キック、プロレス、寝技、全部入ってるもん

エンセンvs桜庭のドリームマッチ、突如実現!!

去る３月12日、地下道場で藤原紀香を賭けてエンセンと桜庭和志が激突した（ウソ）。これは、紀香の『ＳＲＳ』（ＣＸ系毎週木曜日深夜放送）卒業を記念して、番組用に収録されたもの。グローブなしのエキシビションマッチとはいえ、実際にこんな対決が実現してしまったのだから凄い。侮れないゾ、ＳＲＳ！　またこれが、バツグンにいい試合。エンセンのパワーも凄いが、それを利用しつつ切り返していく桜庭のムーブも見事だった。この日は他に小路晃vsマーク・コールマンのエキシビジョンマッチも行われるなど超豪華版。再び侮れないゾ、ＳＲＳ!!（撮影／乾晋也）

エンセン井上【えんせん・いのうえ】

1967年ハワイ出身の日系四世。本名：Enson “shoji” Inoue。プロ・ラケットボールを引退後、グレイシー柔術に入門。ストリート・ファイトにはいまでも積極的に参加する“歩く大和魂”。97・4・6ヒクソンと闘ったこともある“伝説の魔人”ズールを撃破。同年5・30ジョージア州で行われた第13回アルティメット大会では、ライト・ヘビー級トーナメントに出場。1回戦を完勝！（その後は怪我により棄権）。97・10・12には、修斗ヘビー級王者に。98・10・25の『ＶＴＪ99』ではランディー・クートァーを破る。絶対に後ろに引かないその闘いぶりは相手の肝を潰し、観る者の魂を揺さぶる。そしてその存在ぶりは、マット界のヘソとなりつつある

昨年10・25には、前ＵＦＣヘビー級王者ランディー・クートゥアーを撃破したエンセン。戦前のマスコミ＆関係者＆ファンの予想は、大方がクートゥアー有利だったが、見事に気迫の勝利。「オレが負けると思ってたヤツ、クタバレ！」と試合後にはマイクで叫んだ。ＶＩＶＡ、エンセン！
Photo/Susumu Nagao

プロレスの上がるリングでも全然ヘーキ！でも、私の試合はバーリ・トゥード!!

のエンセン井上さんの目標って何になるんですかね？

エンセン　はい、引退します！

―ガハハハ！　早いな！

エンセン　そして藤原紀香サンと闘う。

―ダメだ、こりゃ（笑）。

エンセン　紀香サンと寝技して……関節技は無視してェ……。

―しょうがねぇな、まったく（笑）。

エンセン　アハハハ。これ、紀香サンに怒られるよ。仕事しただけだから。でも、これからもきっと強い選手が出てくると思うよ。強い選手とだったらファイトマネーが合えば闘いたいよ。でも、お金が高くないと、しばらく闘わないよ。でも、「闘って下さい」って言われて「闘いたい」と思うのはお金じゃない。ワタシ、お金が大事より、エンセンをどれだけ大事にしてるかっていうのをお金で気持ちを見せてほしいって言いたいだけ。見せてくれたら死ぬほど闘える。「この人はワタシを大事にしてるから、このリングで死んでもいい」ってね。とりあえず『ＰＲＩＤＥ』の人と話してて、最初は話合わなかったけど、最後には合って、ホント、このリングで死んでもいい気持ちが出てきたんで、サインしました。

―『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がるとなると、もしかしたら高田延彦と闘う日が来るかもしれない。

エンセン　だから、もし闘うことになったら誰でも闘うよ。例え高田サンでも殺しに行く！

―こんなこと言ったら、また格闘技ファンとか格闘技マスコミは怒るかもしれないけど、ここは怒らせといて（笑）、エンセンさんがＵＦＯに上がったら面白いと思うんですけどね。

エンセン　いや、明日上がります！

―ガハハハ！　早いな！（このインタビューは3・14ＵＦＯ横浜大会の前日に行われた）。

エンセン　ＵＦＯ、試合見たことないよ。4代目タイガーマスクは友だち。猪木サンにお願いしたいのは、ＵＦＯにもし上がったら、1回めは4代目タイガーマスクでお願いします。

―なんで？

エンセン　マスク、絶対取るよォ！　絶対素顔見せる！　どうする？　審判とかどうする？　反則かなぁ？

―ＵＦＯはお互いのプライドがルールですから（笑）。

エンセン　もし4代目のマスク取って、自分が被って試合続けたら、面白いヨ！　タイガーのほうが可愛いじゃん。面白いヨ。

―タイガー・ザ・エンセン！（笑）。

エンセン　アハハハ！　面白いネ。

―ＵＦＯっていえば、「バーリ・トゥードのプロレスは許せない」とも言ってましたよね。

エンセン　そうね。でも、まぁ、許せないというと言い過ぎ、仕事は仕事ね。あれから佐山先生と話して、4代目と話して、こないだ『紙プロ』で佐山先生のインタビュー読んで、佐山先生とスゴイ近くなった感じ。スゴイ尊敬というか。やっぱり、スゴイ迷ってたの。いろいろ聞いたら「エーッ、どんな人間？　このデブいヤツ」とか思ったこともあったから。

―ガハハハ！　デブいヤツ（笑）。

エンセン　でも、それから電話来て、話して、前のような気持ちが戻りそうな感じ。彼がわざわざワタシに電話くれた。スゴイ嬉しかった。弟子のこと大切にしてるなって思った。でも、彼まだスケベなままね。

―まま、ですか（笑）。

エンセン　ただ、彼の奥サンがこの雑誌見たら困る。何か言っても、「いや、冗談ですよ」って終わらせようって約束したんだけどネ（笑）。

―リングス・ルールには興味ないんですか？

エンセン　ないよ～。スタミナもたいへんだし。ルールが難しい。だから、高阪サンとか金原サンとか、そういうルールで闘うの、素晴らしいですよ。アルティメットとか、バーリ・トゥードのほうがラクだと思う。パンクラスとリングスのルールは出たくても出れないと思う。

―性格に合わない？（笑）。

エンセン　自分でそうは言わない（笑）。
——2・21の前田vsカレリン戦のセミ終了後に、田村（潔司）選手が「Uスタイル、リングスタイルはボクが守って行きます」ってマイクで言ったんだけど、それを聞いてどう思いました？
エンセン　彼はスター性があるからね。いまの田村サン、スゴイいい身体でいい動きする。〝なんでもあり〟やったら強いと思う。でも、あれ聞いたら、リングスは続くんだな、と思った。前田サン引退しても。もしかしたら〝なんでもあり〟だったら金原の方が強いかもしれないけど、金原サン、売れるわけないじゃ〜ん。金魚みたいな顔で。
——またヒドイことを（笑）。

ENSON INOUE

エンセン　売れないよ、彼（笑）。強くてもしょうがないよね。だから、田村サンは強いしカッコイイし、いいと思うよ。
——金原さんの試合（ヒカルド・モラエス戦＝VTルール）はどう思いました？
エンセン　良かったよ。モラエスだって彼のガード取れなかったでしょ。あと、「極められる」のは問題なかったよ。ただ、「極める」の問題だったね。ひとつだけガッカリしたのが、彼が弱虫だったよ、途中。心なくなってたよ。タックルばっかりするからあっちもタックルばっかり注意してるでしょ。男になって殴ればよかったよ。一発でも二発でも。あの後、電話で話したよ。彼、やっぱり、よく考えないでみんなの言うこと聞いて、相手の大きさばっかり考えて、ちょっとビビっちゃったって言ってるから。だけど今度やったら絶対一発でも二発でも殴るって言ってたよ。ちょ〜っと、ダサかったネ。
——いいなぁ、ハッキリしてて（笑）。もうひとつのバーリ・トゥードの坂田選手と（ショーン・）アルバレスの試合は？
エンセン　坂田サン、こないだ金原と練習したときに話したんですけど、彼いいと思うよ。頭が空いてる。
——頭が空いてる？
エンセン　人の話ちゃんと聞けるから。頭が空いてる。彼いい人よ。応援してる。彼と金原サン。彼の試合見たら、アルバレスと全然大きさ違うでしょ？　それにアルバレス、柔術の青帯だけどなんにもできなかったでしょ。イケるよ、坂田サン。まだ若いし。あの試合良かったよ。試合終わったら、アルバレス蹴飛ばしてね（笑）。あれ、面白い。ファンになっちゃったヨ。
——ガハハハ！　エンセンの場合、単なるケンカ好きじゃん！
エンセン　でっかいガイジンにそういうことやるって〝心〟があるじゃん。そこでファンになっちゃった。
——例え同じリングに上がることはなくても、プロレスも修斗も『PRIDE』もリングスも、みんなそれぞれ、プロとして主張や考えをリング上やメディアでぶつけ合えば、もっと活気が出て面白くなりますよね、マット界は。ホント、遠慮すっこたぁねえんですよ（笑）。
エンセン　頭柔らかい人、格闘技にいないね。ルミナも反対してるね。プロレスと一緒にされるの。でも格闘技だって、プロレスよりくだらないとこあるでしょ。
——ガハハハ！　また、そういうことを。
エンセン　だから、格闘技を固くしても広まらないヨ。あ！　ワタシ、アレもやりたいヨ！　新日本のリングで真剣勝負!!　それもいいヨ!!　バーリ・トゥード・ルールで。
——あ、やっぱバーリ・トゥード（笑）。
エンセン　でもちゃんとそういう説明ほしいネ。エンセンの試合、バーリ・トゥード・ルールだって。
——「新日本プロレス格闘技ルール」ではイヤなわけですね。
エンセン　ただワタシが真剣に行くだけじゃイヤだ！　でもさぁ、スゴイ不思議だけど、人間、人をボコボコにするのとか好きよね。だって、考えてみればキ●ガイでしょ？　まわりに人がいっぱいいる中で二人が殺しにいく。ちょっと野蛮人だヨ。みんな、もともと野蛮人なんだよ。オレだけ自然に出してるヨ。絶対そう。女の子も、ワタシがクートゥアーの腕折りそうになったときも「キャーッ、エンセン、エンセン、エンセン！」って。「あっれ〜？　エンセンを応援するのはわかるんだけど、人の腕折っちゃったよ〜」って思ったよ。腕折れたら大変だよ。みんな野蛮人だよ（笑）。
——見てる人の方が野蛮人（笑）。
エンセン　そうそうそう（笑）。
——それは新しい発見ですね（笑）。エンセンさんは、いろんな違うルールの試合が一つの大会にあっても全然いいわけ？
エンセン　全然いい！　面白いと思うよ。プロレスが上がるリングでも全然へーキよ。ただ、自分の試合のルールはちゃんとしてほしい。全日本でもみちのくでも。
——みちのくでもバーリ・トゥードだったらやりますか！（笑）。
エンセン　そう。バーリ・トゥードやったらいいヨ〜。お客さん引っ張れると思うよ。絶対面白いヨ。
——ホントにエンセンさんは〝つまんない〟ことが嫌いですね（笑）。実に気持ちよかったですよ、今日は。どうもありがとうございました。
エンセン　はい、どうもありがとうございました。「女と一緒に死にたい」「女と一緒に生きたい」……。
——もういいですよ！（笑）。

【3月13日／六本木アートセンターにて収録】

田村潔司

RINGS JAPAN

Kiyoshi Tamura

INTERVIEW

「僕は、Uスタイル、リングススタイルを、前田さんが引退されても自分で守っていくつもりです。夢と感動をいっぱい与えてくれた前田さんが、最後の試合になります。皆さん、声援、応援のほどよろしくお願いします！」前田vsカレリン戦を前にしたリング上でマイクを掴んだ田村潔司が力強く宣言した！ 前田日明引退後のリングスはこの男に任せた！

——前田vsカレリン戦の前に、田村さんは、自分の試合より前田さんの試合の方が気になるって言ってましたよね。実際どうでした、田村潔司が見た、前田vsカレリン戦というのは？

田村 う～ん……まだあんまりじっくり見てないんですよ。ボクの試合が前だったんで、慌てて用意して、シャワーも浴びないで、その場で着替えて、で走っていって、で、落ち着いて試合を見れなかったんで、え～……でもその、周りのお客さんの反応ですか。反応が良かったですから、で、結果的にいい試合だったじゃないですか？

——いい試合でしたねぇ。

田村 だからそれは凄いいいことだと思いますんで。

——前田さんは引退試合に向けてシアトルに飛び、あの様な見事なボディーを手に入れたわけですけど、あの身体を見たときはどう思いました？

田村 え～……そうですね。いや、足がね、凄い太くなったなって思いましたね。まぁ脂肪ものってるんですけど、その脂肪と、筋肉が付いた分、たぶん繊維が太くなったんで、脂肪と筋肉といいバランスで太くなったらいいですけど。まあ脂肪って、すぐ落とせるようなものじゃないですから。ただ筋肉の繊維が太くなって、しっかり見えるようになったと思うんで、また練習休んだら……。

——アハハハハ！

田村 もとの身体に戻ると思うんで（笑）。でもこの間は、凄くいい身体してましたねぇ。

——前田さんは、ケビン（ヤマザキ）さんのもとでのトレーニングで、あのようなボディーを手に入れたわけですけど、高阪さんも前からやってますけど、田村さんは興味持ちました？

田村 あっ、凄い興味持ってますね。ただボクもねぇ、実際自分でやってみないことには、なんとも否定も肯定もできないじゃないですか？

——まあそうですよね。

田村 ボクは肯定もしてないし、否定もしてないんで……まあまだ二十代ですけど、いろいろ吸収できるものは吸収したいと思いますので、そういう意味では凄い興味があります。

——前田さんは、「田村もケビンさんのところに行かせてやらせたいんだけど、ジムを抱えてるから」って言ってましたよね。

田村 はい、はい。

——前田さんが言ってたように、現時点では、興味があったとしても行けないわけですか？

田村 はい。でもまあ一ヶ月ぐらいだったら行けると思うんで、行ってみたいなぁって思いますね。

——その間、Uファイルは上山（龍紀）さんに任せてですか？

田村 そうですね。はい。ジムはボクも一年半やってますから、ある程度その初級中級上級って今は別れてますけど、上級者の人は全然手が掛かりませんから。でも初級者に対しては教えなきゃいけないですから。まあ上山も、こっちで一年ぐらいやってますから、その点で……まあ会員の方も理解してはいただけるとは思うんで、機会とタイミングがあえば、ええ。あとは、その月に合コンが入ってなければ。

——アハハハハ！　それは重要ですからね（笑）。今でも合コンとかはいかれるんですか？

田村 フハッハッハッハッ！　いやいや冗談ですよ（笑）。ハッハッハッ！

——昨日（3月8日）はキャンペーンで大阪に行ってたらしいですよね。

田村 そうです、そうです。

——前田さんが引退して、今後キャンペーンとかも田村さんとかが駆り出されることが多くなってきますよね。

田村 うん、そ…うですね。まあ昨日は坂田とかも一緒に付いていったんで、そ

聞き手／**チョロ**
interview by Choro
撮影／**モーリー**
photographs by Morry

2・21、横浜アリーナ■バーリ・トゥードマッチが2試合続き、会場に漂うどんよりとした空気を切り裂いた、オーフレイムの強烈なヒザ蹴り！　顔面に喰らった田村の前歯は吹っ飛んでしまった。その後は、抜け落ちた前歯を気にしながらも、いつにもまして素晴らしい動きでオーフレイムを翻弄。最後は技有りの腕ひしぎでフィニッシュ！

の辺はバランス良くやっていこうと思うんですけど、やれって言われたらやりますし。その辺は、お仕事として考えて全然苦にはならないです。
―高阪さんとかは、アメリカでの活動に比重を置いてますから、そういう意味でも、田村さんに……。
田村 そう。アイツが一番キタナイ!
―アハハハ! キタナイっていうか、高阪さんは、スマートですよね。
田村 キタナイ……キタナイっていうか、頭がいい!
―前田さんの引退がありましたけど、田村さん自身は引退って考えたりします?
田村 考えましたよ。オレは25の時に考えました。僕らは年に12試合じゃないですか、やって。で、25歳の時にあと何試合できるんだろうなって計算したんですよ。そうすると5年で60試合ですよ。10年やったとして120試合ぐらいですよ。で、35の時点で引退するとなったら25の時点であと100試合しかできないんですね。
―新日、全日だったら1年ぐらいで消化しちゃう試合数ですよね(笑)。
田村 そうそうそう。そう考えると1試合、1試合を大切にしなきゃいけないっと思って。
―田村さんは1年に12試合でOKなんですか。1ヵ月に1試合じゃ、スキルアップにつながらないってヤマケンさんは言ってましたけど。
田村 月イチが理想でしたけど、もっと欲を言えば2ヵ月に1回がいいかもしれないですね。年をとってきたんで調整期間を長めに取りたいなと。若い頃は1週間休んで3週間練習するって感覚でよかったんですけど。年取ると1週間休んで3週間練習ってなると練習のための練習をやらなきゃいけないんで、もう1週間ぐらいほしいなっていうのがありますね。

Uスタイル、リングススタイルを独占させてもらいます!

―だけど、会社としては月イチぐらいで興行をやらないと経営的には厳しいところがあると思うんですよ。だから、興行形態自体を変えていかなきゃいけないっていうのがあるんですかね。
田村 いやいや、全然全然。だから、月に1回でも2回でもいいと思いますよ。それは。だって月に1回やらないと収入が得られないというだったらね。じゃあ、給料が半分になってもいいですから2ヵ月に1回っでいいですって選手方が言っ

てくれんならいいと思いますよ。だから、それはもうしょうがないですよね。だから1ヵ月に2回ってやってもいいと思いますよ。ただ、できるできないって話がありますから。ケガしてでもやれっていうのはできない話なんで。

――それはできないですよね。話は変わりますけど、この間の、（ヴァレンタイン・）オーフレイム戦の前の2試合はバーリ・トゥードマッチだったじゃないですか。それでバーリ・トゥード特有の膠着した試合が続いてしまって……ハッキリ言って田村さんからしてみれば、願ったり叶ったりだったと思うんですよ。

田村　……うん。

――前田vsカレリン戦は当然ですけど、会場で盛り上がった試合って、田村さんの試合とハンの試合だったんですよ。結局リングスルールの試合が面白かったと思うんですよ。だから田村さんが言いたいことというか、バーリ・トゥードには興味を示さない理由が一番伝わったと思うんですよ。

田村　そうそうそう（笑）。あの日は、もう思った通りでしたね（笑）。

――やっぱり（笑）。オーフレイム選手は、打撃主体の選手ですよね。直前の2試合がバーリ・トゥードで、2試合とも全体的に動きのない試合だったからかもしれませんけど、田村さんの試合は、いつもより余計にグルグル回ってるって感じましたね。染之助・染太郎じゃないですけどね（笑）。

田村　はい（笑）。

――それで試合後にマイクを取りましたよね。ボクは何か衝撃の発言があると思ったんですよ。

田村　フハハハッ！　ヘッヘッヘッ。

――あのマイクは素直な気持ちだったんですか？

田村　そうそう、その時点では素直な気持ち。

――その時点では（笑）。最初からマイクアピールをしようと決めてたわけですか？

田村　え～、そうですね。試合前夜に寝ずに考えたんですよ。

――アハハハ！　まあそれはないと思いますけどね（笑）。

田村　はい（笑）。まあでも、タイミングですよね。前の試合で、バーリ・トゥードの試合で、一本取った試合だったら、ボクが言う権利っていうか、なくなっちゃうじゃないですか。

――例えば金原さんがモラエスから一本取ったら、金原さんがマイクをしても良かったと？

田村　いや、ボクが言う場合にですよ。ボクが言う場合に、そこで金原が勝つにしろ負けるにしろ、そこで一つのストーリーは終わってるじゃないですか？　前の2試合が引き分けたっていう点で……。

――前の2試合のストーリーが田村さんの試合に繋がってくるわけですね。

田村　そうですそうです。だからまあ全てタイミングですから。

――昔っから田村さんは、興行全体のバランスを考えて試合をするって言ってますよね。

田村　はい。そうですそうです。

――前の試合が膠着してたら、逆に動いてやろうとか言いますよね。

田村　はい。

――田村さんは、「ボクが、Uスタイル、リングススタイルを、前田さんが引退されても守っていくつもりです」と、寝ないで考えたアピールをしたわけですけど（笑）。

田村　はい（笑）、そうです。

――ちっと、この間、田村さんを取材した人の話を聞いたんですけど、「ボクがUスタイル、リングススタイルを守っていきます」って発言に対して、田村さんに聞いたらしいんですよ。「Uスタイルって何ですか？」って。そしたら田村さんは考え込んでしまったらしいんですけど。

田村　ん、え～、いやっ、覚えてますよ。その人はね、「Uスタイルは何ですか？」って聞いたんじゃなくて、「リングスって何ですか？」って聞いてきたんですよ。

――それは難しい質問ですね。

田村　そうそうそう。だからそれは広い意味でプロレスですけど、まぁプロレスがボクは格闘技だと思うんで、格闘技が

1・23、日本武道館■当初、田村と対戦予定だったフランクの負傷により、急遽高阪とのランキング戦が組まれた。試合は、高阪の払い腰からの腕ひしぎで田村はタップ。試合後、田村は「高阪は乗る技術とかは、素晴らしい選手だなと。それと同時になにかを失ってるような感じがします」と非常に考えさせるコメントを残した。

Kiyoshi Tamura

プロレスだと思いますから

――田村さんは、格闘芸術って言葉についてはどう思いますか。いま猪木さんが言ってることなんですけど、割とピンとくる言葉だと思うんですけど。

田村 うん。そうですね。いい言葉ですね。UFOに行こうかな（笑）。

――アハハハハ！ UFOの試合とかは見たことありますか？

田村 全くないです。全然ないです。

――例えば、デスマッチとかを売りにしている団体も含めて格闘技と言っていいんですか？

田村 でも、それもプロレスですよ。

――ハハハ！ 広い意味で（笑）。

田村 はい。広い意味でのプロレスで、その中にUスタイルがあって、リングススタイルがあって、だから自分のスタイルですよね。Uスタイルっていうか、ボクはUWFで育ったんで、生まれ育ったわけじゃないですか。だからその家系に育ったら、その家系のしつけとかを、子供の頃にインプットされて、ボクはそこで十年間育ったんで、他のことは知らないし、それでそのスタイルで行こうと思ってるんで、はい。

――田村さんにとって、田村潔司＝Uって感じなんでしょうか？

田村 そうですね。はい。

――リングスでも時代の流れっていうのもあるんでしょうけど、ルールも変わってきてますよね。実際やってる選手はリングスルールについては、どのような考えを持ってるんですか？

田村 そうですね、一応みんなで決めたことなんで、え～……決まった以上はやらなきゃいけないんですけど、ただそれが極端に顔面パンチありだよってなっちゃうと、ボクは会社で決まったことであれば、勝手にやって下さいってなるけど、自分のレールからは外れちゃうんですよ。

――あんまり脱線はしたくないんですね。やっぱり田村さんにとって見た目が重要になってくるんですか（笑）。

田村 はい（笑）。ボディーパンチは技術として認められるんで、それはそれでいいと思うんですけど……まあみんなで相談して決めたことですから。

――それで1月の武道館では、リングスルールで対戦する予定だったフランク（・シャムロック）から急遽、高阪さんに変わりましたよね。

田村 もったいないですね。

――フランクとの試合もカードだけで呼ぶんじゃなくて、お客さんが盛り上がって興味持ってくれるようにフロントにも頑張って欲しいというようなことを田村さんは言ってたんですけど。

田村 うん、そうですね。

――高阪さんもアルティメットでの試合から、そんなに日にちも経ってないですし、ベストコンディションじゃなかったわけですよね、お互い。

田村 まあ、お互い、興行的にはファンの人も知らなかったと思うんですよ。半分以上の人が。フランクとやるのも、噂をいろいろ聞いたんですよ。

――リングスルールでやるとか、バーリ・トゥードになるとか、いろいろ話がありましたからね。

田村 その辺で、お客さんにしてみればいい迷惑だったですよね。発表されてなくて、戸惑いはあったと思うんですけど。そこで高阪とボクがやるっていうのは、その辺で会社的に気を使ったんじゃないですかね、お客さんに。ただ、選手個人として言えばもったいないなと思うんですよ。その時は、武道館大会を捨てちゃって、次の興行に持っていこうか、そういうことも考えられるけど、いい意味でお客さんに気を使ったんじゃないですかね。

――実際、田村vs高阪戦っていうのは武道館クラスの会場を超満員に持っていかなきゃいけませんよね。リングスの切り札的カードだと思いますし。

田村 そうですよね。

高阪は技術的にはうまいんですけど、やっててつまんなかった

――お互いコンディションは悪かったとはいえ、試合内容は素晴らしかったですから。アレだけのものを魅せてるのに満員にならないっていう、もどかしさもあると思うんですよ。もっと多くの人に見てもらいたいですよね。

田村 武道館の場合はしょうがないですね。流れがなかったですし。ボクも怪我してたし。正直言って、対戦相手が二、三転したんですよ。だから、最終的に決まったのが三日前ですから、しょうがないですね。

――結果的には、高阪さんに初黒星を喫したわけですけど、試合後のコメントで「高阪はうまくなってるし強くなってる。それと同時になにか失っているような気がする」っていう発言があったんですけど。気になったんですけど、高阪さんが失ってるものって何なんですか？

田村 高阪は、どっちかっていうとアルティメット系の動きになってるんですよ。だから高阪のスタイルっていうのは「動かざること山の如し」って感じじゃないですか。それで高阪は、アルティメットとリングススタイルっていうのを混同しちゃってるんですよね。だから、技術的にはうまいんですけど、やっててつまんなかった。

――つまらない！ 高阪さんは、リングスマットではバーリ・トゥードはやらないって言ってますよね。

田村 それは、頭いいですね。うん高阪は頭がいい（笑）。

――UFCではUFCルール、リングスではリングスルールだけっていう、切り替えは、高阪さんの中では出来てると思うんですけど、でも田村さんはファイ

ト内容には混同してるものがあると感じるんですね。

田村　混同っていうか、そうですね。どっちかっていうと向こう重視のスタイルになってると思うんですよ。結局ね、難しいな、やっぱり、アルティメットって押さえこむのが技術になっちゃうじゃないですか。高阪も柔道やってるし、押さえこむ技術も素晴らしいものがあるんですね。それは技術は技術なんですけど、押さえこまれるとボク、つまんないんですよ。たぶん、それだけです。

――つまんないんですか。田村さんは大相撲とかのシステムを引き合いに出して、「リングスっていう競技でやってるのにバーリ・トゥードをやれっていうのはおかしい。横綱にそういうのをやれって言ってるのと一緒だ」ってなんかで言ってましたよね。

田村　おかしいっていうか、そういう発想がないんですよ。理想は、今はそれが理想なんですけど、なかなかね、難しいもんであって。

――高阪さんもそうですけど、今度、対戦が決まったフランク選手とかも、バーリ・トゥードスタイルも、リングスタイルもできるじゃないですか。

田村　……はい。

――それで、バーリ・トゥードとリングスルールで2連戦すると。リングスルールで田村さんらしい面白い試合をして逆にバーリ・トゥードでは膠着した試合になると（笑）。それで2試合とも勝ってもらって（笑）、「バーリ・トゥードでも勝てるけど、つまんないでしょ？　バーリ・トゥードはもうやりません！」って、マイクアピールできたら、田村さんの考えがよく伝わると思うんですよ。

Kiyoshi Tamura

田村　う〜ん……確かに僕もそう思うんですよ。だけど、それはホントそう思うんですけどね。う〜ん……難しいですね（笑）。何が善だか悪だかわかんない情況ですから。難しいなぁ。リングス・スタイルって一言で言っても、選手一人一人のスタイルも違うし。

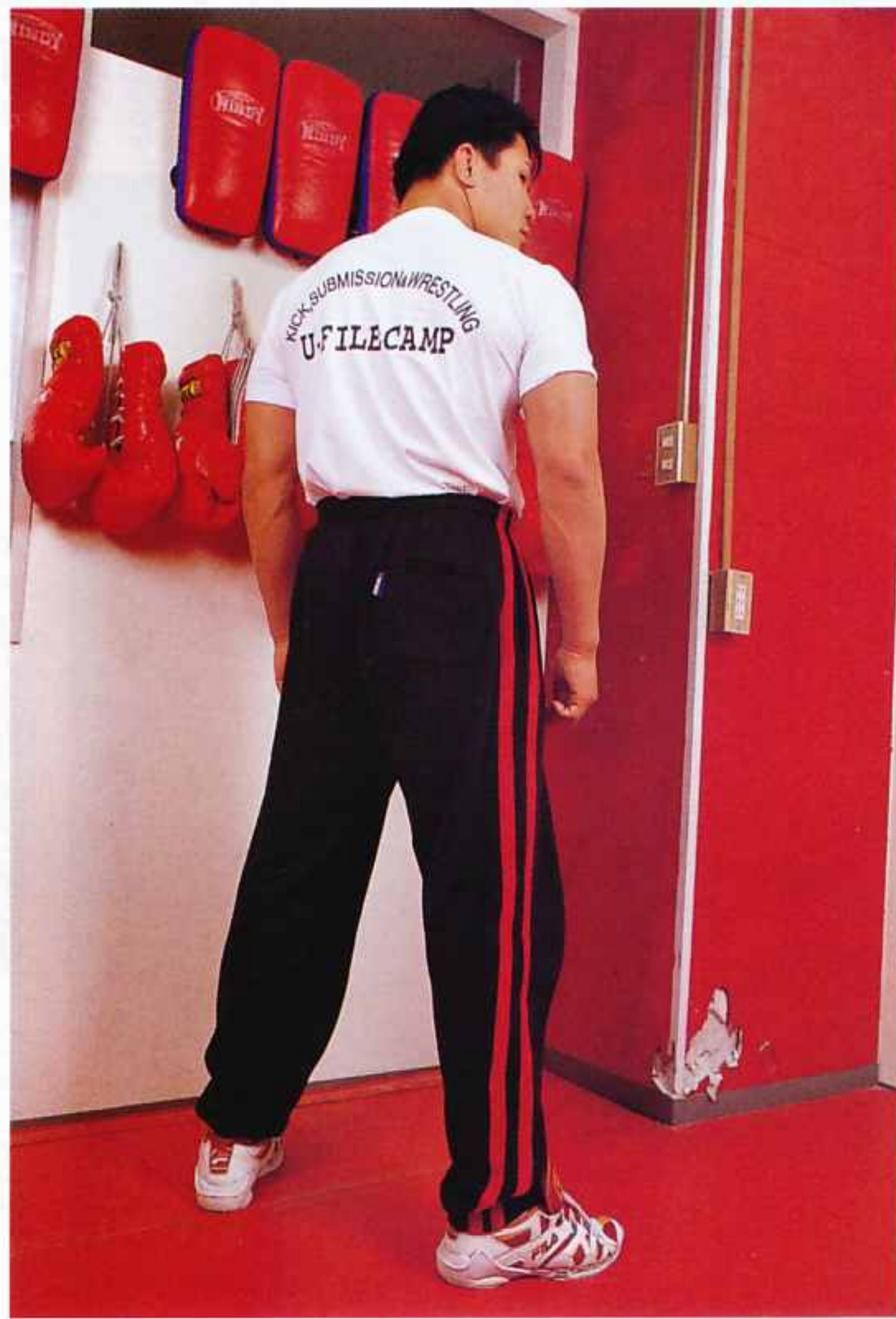
――それで、坂田さんがアルバレス戦の試合後に「オレは絶対、田村さんにはバーリ・トゥードやらせません」って言ってたんですけど、田村さんっていう個人名の名前を出すっていうことは、そういう要請があるのかなと思っちゃうんですけど、田村さん的には、それだけは譲れないっていうのがあるんですか。

田村　うん。本意じゃないですね。だから、坂田は、ボクの気持ちを理解してくれてるんじゃないですかね。理解してくれてるとは思うんですけど。坂田は若い割にはいろいろ考えてる方なんで。坂田もそうだったと思うんですけど、結局、やってる選手もつまんないし、見てる側もつまらないと思うんですよ。それが面白い人も中にはいると思うんですけど、え〜……それはそれで、どっかよその試合見に行ってくれればいいし。

――坂田さんも同じようなこと言ってて、「ああいう試合が見たいんなら、修斗とかに行って下さい」みたいなことを言ってたんですけど。

田村　はいはいはい。今、いろいろ矛盾とかあると思うんですね。ボクの言ってることも。リングスがバーリ・トゥードをやってることも。だけどその〜え〜……矛盾はしてるんですけど、結局リングスの選手が好き勝手やるとしますよね。リングス所属で高阪みたいにアルティメットに出たり、山本（宜久）がそういうことしたり、坂田がそういうことしたり。ボクもできるわけですよ。声掛けられたことありますし。「じゃあUFC行きます」……ってことをしちゃうと、リングスっていう団体が成り立たなくなるんですよ。

――リングスルールも意味がなくなっちゃいますからね。

田村　リングス事務所になっちゃいますから、選手派遣事務所になっちゃうし、

選手個人個人もボクに合わせなきゃいけないことってあるんですよ

リングスのスタイルとか、Uスタイルっていうのは意味がなくなるわけですよ。だからボクがそこを守っていきたい。ボクまでがそういうことしちゃうと、そこでリングスっていう芽は摘んじゃうってことになるんで、ボクはそこで小っちゃいけど種撒かれてる状態ですけど、守っていきたいですよ。せっかくUスタイルっていうのが生まれて十何年か経ちますけど、まだまだ畑を耕してる時点だと思うんですね。種を撒いて、これから芽の部分をしっかりして、これから大きくなっていこうという段階なんで、その花を咲かすためにボクはちょっとこの辺でがんばっていかなきゃと思ってます。下の新しく出てくる選手のためにも。本当の理想は、リングスのチャンピオン目指して、ボクがチャンピオンになって、タリエルがチャンピオンになって、今度山本、高阪がチャンピオンになって、ボク入れて4人ですよね。4本柱でチャンピオン目指して頑張ると。その抗争も面白いと思うんですよ。その中に3年から5年経った頃に、坂田なり、滑川が加わってくれれば、6本にも7本にもなってチャンピオン取るのは難しいことですよと。で、その抗争の中で夢と感動を与えられるような試合をやっていけば、今までどおり大きい会場でできると思うんですよ。すぐには無理だとしても。

――しばらくは大会場では苦戦すると思っていると？

田村　みんな危機感は持ってると思いますよ。そこで、どっかで妥協しなきゃいけないって部分があると思うんで、ボクは自分のスタイルについてきてくれる人に、支持をいっぱいしてもらいたいん

12・23、福岡国際センター■新調したフード付きのガウンを取ると、スキンヘッドで気合いの入ったヤマケンが登場。試合は、ヤマケンの顔面に田村のミドルキックが決まりTKO勝ち。試合後は田村からヤマケンに「俺を恨んでくれ、そしてもっと強くなってくれ！」とのエールが送られた。

で、他の選手が自分のスタイルを守っていきたいんであれば、それは頑張って欲しいし。だけどリングスにいる以上はそういうふうにしなきゃいけないし、そういうふうに持っていかなきゃいけないんで、選手個人個人もボクに合わせなきゃいけないことってあるんですよ。

——全員が全員、田村さんに合わせてついてきてくれればいいんでしょうけど、最近はリングスでもアルティメット系の大物選手も結構呼んでますし。いろいろと難しいところもあるんでしょうね。

田村　でも、目玉っていうか、そういう選手も、結局はリングスの上の選手に勝ちたいわけじゃないですか。結局、ランキング入るなり、チャンピオンになりたいわけですよね。だから、リングス内ではタイトルマッチありますよと。リングスのチャンピオンになるヤツは凄い競争率があって、挑戦権を与えられるまで凄い道のりが長いと。そこでタイトルマッチがありますっていうような流れになっていけば、権威が高まって、「リングスのタイトルマッチは凄い面白いんだ」と。またランキング戦があるときも「これに勝ったら挑戦権」ってだんだん広がっていくと思うんですよ。そういうふうにできればいいと思いますから。

——そういう意味では外人選手ではなく、田村さんなり、日本人選手がベルトを巻かなきゃいけないですよね。例えばタリエル選手だって、毎回毎回、来日するわけじゃないですからね。

田村　そうですね。

——田村さんは、ベルトを取り返すなら取られたタリエル選手からがいいわけですか？

田村　そうですね。タリエルですかね。ただ、取れるときに取っておきたいです。一回取って手放したんですけど、また今度取ればいいやって考えだったんですけど、取ればいいやっていうのは年に2回も3回も挑戦権を与えられるわけじゃないじゃないですか。よくて1年に1回、悪くて2年に1回ですから、ボクは今年で30になって、現役何年やるかわかんないですけど、その中でベルト取って、防衛してベルトを取るまでの挑戦権取ってからの防衛ってなると数は限られてくると思いますから。だから、そういう意味で今はノドから手が出るほどほしいですね、ベルトは。今日の取材だって、僕がタリエルに防衛してればハクがつくじゃないですか（笑）。

——はいはいはい（笑）。

田村　僕がチャンピオンですよと（笑）。そうすると、もうちょっと偉そうにできるんですけど（笑）。

——やっぱりベルトがあるのとないのとでは発言権は全然違いますか。

田村　違いますよ、チャンピオンですから、なんてったって（笑）。

——そういう意味では、リングスのタイトルマッチで客を呼べるようにするには、しばらく地道な活動が必要だと？

田村　そうですね。いまはまだリングスのファンっていうのは離れていないですから。うまい具合にタイトルマッチっていうのをつなげていけば良いかなと。いまタイトルマッチって消えてるじゃないですか。ベルト自体があるのか、ないのかわかんないじゃないですか（笑）。

——そういえば、しばらくタイトルマッチやってませんね。田村さんの理想は、一日でも早くベルトを奪回し、チャンピオンになり、今後のリングスを面白くしていくことですね。

田村　理想は（笑）。理想と現実って違いますから。理想は、今日ボクが言ったことです。そういう風にしていきたいと思ってます。

【3月9日、U-FILE CAMPにて収録】

田村潔司【タムラキヨシ】■S44年12月17日 岡山県出身。180cm／87kg 平成1年5月21日東京ベイNKホール vs 鈴木実でデビュー　新生UWFの第1回入門テストに合格しレスラーとなる。その後、新生Uが崩壊すると、UWFインターナショナルへと参加。後期Uインター時代は新日本プロレスとの対抗戦を頑なに拒み、K-1のリングでバーリ・トゥードを行った。その後リングスに移籍。リングス初代無差別級王者。U-FILE CAMP主宰。

渡る世間に物申す！

満を持して本誌初登場！

リングスタイルを守る！
UFCミドル級出場希望！
大仁田厚とのデスマッチもOK！

RINGS JAPAN

坂田亘 INTERVIEW

Wataru Sakata

聞き手&撮影／チョロ
interview & photographs by Choro

Wataru Sakata

——この間の（ショーン・）アルバレス戦が、坂田さんにとって初のバーリ・トゥード戦となったわけですけど、ビデオで見ると、セコンドと話したりしてて結構余裕ありましたよね（笑）。

坂田　会場で見てた人にはビデオでも見て欲しいですよね。僕は全然焦ってもいなかったし、なんてことなかったんで（笑）。アイツはプロとは思えないですよ。負けたんだけど（笑）。

——結果だけ見みれば判定負けですからね。余計に悔しかったでしょうね。

坂田　まあ、でも……ある程度、予想はしてたんですよ。もし万が一、向こうが僕のことを手強いと思ったら「勝負に来ないな」とは思ってたんで（笑）。それよりもルールミーティングの時に「絶対にグローブを掴むな」って向こうから言ってきたくせに、あいつ、俺のグローブ掴んできたんですよ！

——それが試合後の蹴りに繋がるんですね。アレは坂田さんらしくて良かったです（笑）。

坂田　掴んだのを認めろってことじゃなくて、アイツがトボけてたからキレただけですよ、あれは。

——でもUFCとかは、だいぶスポーツ的になってきましたよね。

坂田　そんなこと言っても全然技術がないヤツだって上がってるわけじゃないですか。シューティングとかも見ますけど、彼らは技術がありますし、ああいう闘いでは日本ではトップクラスの団体だと思いますよ。うーん……、なんて言ったらいいのかなぁ。それでも、「こんなのお金取ってお客さんに見せる試合じゃないだろ！」っていうのが、中にはあるんですよね。これは批判ではないですよ。ただ、そういう選手が僕らから見るといるんですよねぇ。海外とかのバーリ・トゥードの大会でも肩書きだけ立派な柔術大会何連覇とかあっても、試合してみたら街のアンチャンを連れてきたみたいなのっているじゃないですか。そんなヤツだって試合に出ればプロと見られるんですからね。

——初期のUFCだと度胸があれば出られるっていう感じもありましたけど、リングスルールというか、田村（潔司）さんが目指しているものは素人ではできないというか。

坂田　マネだったら何でもできますよ、マネは！　たぶん、そんなこと言ったらキリがないと思いますね。それはやってる僕らが決められることじゃないんで。

——坂田さん自身は今後もバーリ・トゥードを要請されればやるわけですか。

坂田　要請っていうか、じゃあ、突然「アイツとやれ」とか言われたら考えますよ（笑）。見たこともないヤツだったら、「ちょっと待ってくれ」って思うし。でも、自分のスタイルの幅を広げるって意味では凄くいいと思いますね。っていうか、UFCのミドル級には出たいと思いますね。

——それは見たいです。じゃあ、高阪さんがよく言うようにリングス内ではリングスルールでやる方がいいと。

坂田　そうです。次の大会から前田さんがいないですからね。正直言ってキツイと思いますよ、興行的に。だけど、キツイからと言って大会の目玉みたいな感じでなんかを持ってきたりするのは、一時はいいかもしれないですけど、それぱっかりになっちゃうと僕らがやってることが嘘になってしまうんで。リングスを応援してるファンにも申し訳ないし、僕ら自身も張り合いがなくなってきますよね。

——坂田さんは、「田村さんには絶対にバーリ・トゥードはやらせない」って言ってましたよね。

坂田　絶対にやらせない！

——それはどのような意味でとらえたらいいんでしょうか。あえて田村さんっていうことも含めて。

坂田　なんの雑誌かは忘れましたけど、〝それでも見たいと思うのはファンとかマスコミとかのエゴなのか〟って書いてあったんですけど、まさにその通りだと思います。エゴですよね。違う話でいうなら例えばヤマケン。彼はナイスガイだし、彼とはいい人間関係を作れてるとは思うんですけど、アイツがたまに口にする青少年育成みたいなこと？　プロって名がつくと発言に影響力があるわけですよ。田村さんがこの間もマイクでいろいろ言いましたけど、あのマイクで違ったことを言ったとしたら大変なことが起こるかもしれないじゃないですか。

——あの時は何を言い出すのかドキッとしましたけどね（笑）。

坂田　だから、ヤマケンの考えてることは凄いわかるんですよ。ヤツの言わんとしてることはわかるし、苦しみもわかるし。だけど、それならそれで、もうちょっと違う伝え方をしないと、結局彼を本気で好きでついていくヤツを騙すことになると思うんですよ。

——フリー宣言についての反響は結構ありましたよね。

坂田　プロっていうのは雑誌のこういうインタビューでも影響力ってあるんですよね。だから、ヘタなことは言えないっていうか、正直な気持ちをぶつけるのはいいんですけど、それが最終的に自分のわがままとかになってきたら、ファンとかまでそうなってしまうと思うんですよね。マスコミさんにも、田村さん本人がバーリ・トゥードには出たくないって言ってるのに、出て欲しいみたいな記事を書く必要はないですよね。

——アルバレス戦後に「妄想をふくらますのはいいけど、あのプロレスラーはバーリ・トゥードに出たら弱いんじゃないか、強いんじゃないかっていうのは違うんじゃないか」っていう発言もありましたねぇ。

坂田　そんなもんはねぇ（笑）。まぁ、見てる人たちっていうのは勝手なんですよね。僕らにしたって芸能人とかを見て、顔がきつそうだったら性格悪そうだなぁって勝手に思っちゃうじゃないですか。それだけでも勝手な妄想なんですね。だけど、それを田村さんにぶつけるっていうのはよくないですよ。例えばこの間、（高阪）剛が田村さんに勝ちましたけど、やっぱりリングスタイルのスペシャリストって意味では田村さんは絶対に群を抜いてると思いますよ。

——確かにリングススタイルでは、田村さんの動きは群を抜いてますよね。

坂田　だから、お客さんからお金をもらってちゃんとファンを満足させてる選手は田村さんだと思いますよ。だから、そういう人がひょっとしたら、僕みたいな試合になる可能性がある闘いをする必要はないんですよ。刺激的って意味では僕とアルバレスの試合の方があったかもしれないですけど、やっぱりアスリートとしての動きを見せて、お客さんもグイグイ引っ張って見せたっていうのは田村さんの試合が一番だと思うんで、あの日は。

——マスコミでも同じように「PRIDE」とかが出てきたことによって「バーリ・トゥードで勝つと強い」っていう変な認識ができて、ファンの目もそうなっていったというところがありますよね。

坂田　なんか最初はねぇ、わかってねえってもどかしい気持ちもあったんですけど。なんか、あきらめモードになってますよね。まあ、あの試合のあとに僕がちゃんと勝ってたら、いろいろ言おうと思ってたことがあったんですが、今になって思えば言わないでもいいかなって思ってるんですけど。だから、お金払って見にきてるんだったら、ダブらせて見てほしくないんですよ。それが嫌なだけですね、僕らは。

UFCのミドル級には出たいと思いますね。

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？バーリ・トゥードか？マット界の盟主を予言せよ!!

——坂田さんもアルバレス戦後に、「ああいう試合が見たかったらシューティングを見にいってください」って言ってましたよね。

坂田　でも、ああいう試合で細かなテクニックを見たいんだったらシューティングに行った方がいいと。シューティングの選手は桜井（速人）選手とか佐藤（ルミナ）選手とか、いい選手がいますけど、僕らの身体のサイズではあの動きができないですよ。だから、そういうのが見たいんだったら、そっちの方に行ったらいいと思うしね。

——シューティングは、アマも含めて選手層も厚くなってきてますよね。

坂田　うまいですね、やり方が。見習うべきところはたくさんあると思いますよ、リングスは。

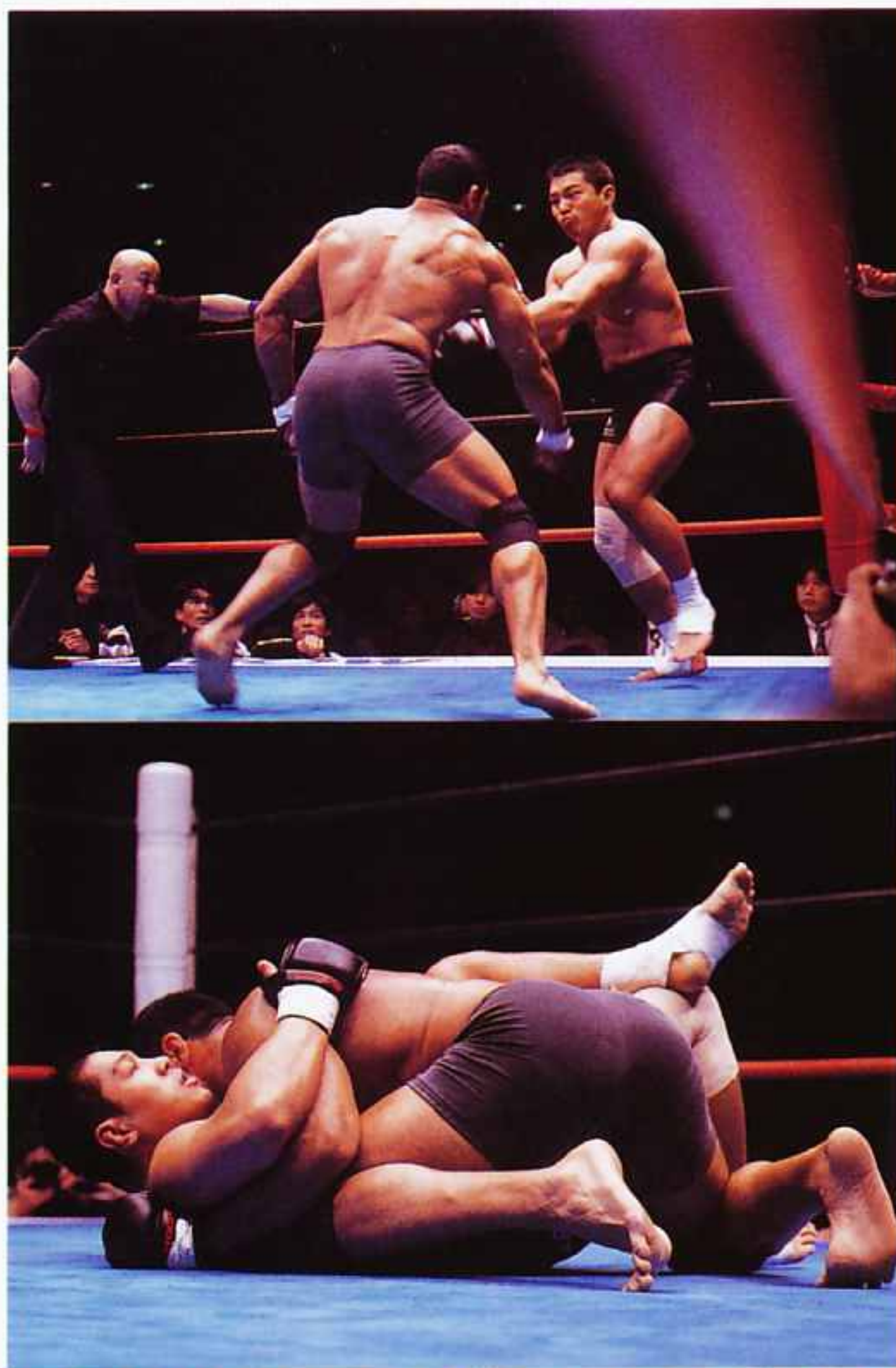
——リングスには現時点で新弟子さんとかはいるんですか。

坂田　いません（笑）。

——ゼロ（笑）。

坂田　だから、実際にそういうところも考え直した方が。僕とか高阪なんかはもっと前からいろいろ言ってますから、会社に対して。だから、一言で片付けちゃえば古くさいんですよね。まあ、会社が今を食いつないでいくだけでいいっていうんだったら、そこまで考える余裕はないと思うけど。先のことを考えてるんだったら、もうちょっと方向を変えた方がいいっていうか。

——坂田さんも昔、鶴巻（伸洋）選手との試合後に前田さんにムチャクチャ殴られたりしてましたけど……。鉄拳制裁を受けて大きくなったわけですね（笑）。

坂田　普通辞めますよ（笑）だから、僕とか高阪みたいな時代にはそういう道しかなかったんですよ。

2・21横浜アリーナ■ゴングとともにダッシュし、コーナーに追い込めたアルバレス。サイドポジションからマウントに入られた坂田だったが、高阪直伝の、ＴＫシザーズでマウントから脱出、すぐさまアキレスを狙うも惜しくも失敗。積極的に攻めようとする坂田であったが無念のタイムアップ。判定で勝利はアルバレスの手に。

非現実的なこと言わしてもらえば大仁田とやりたいですね（笑）

——それが当たり前の時代（笑）。

坂田　そうそうそう（笑）。いろんな道が切り開かれていけば、僕もリングスに入ってないかもしれないし。だから、今はいろいろあるじゃないですか、プロのリングに上がる手段って。

——坂田さんは「プロだから辛くても月に一回試合をしなきゃいけない」って言ってますよね。

坂田　会社としてはそれでいいと思います。それしかないですよね。興行会社だったら、「ＰＲＩＤＥ」みたいに何ヵ月かに一回でいいですけど。だけど、毎回出るっていうのはちょっとキツイかな。さっき剛とも電話してたんですけど、向こうのＵＦＣとかの選手に剛が「日本で何試合くらいやってるんだ？　何年ぐらいのキャリアなんだ？」って聞かれるらしいんですよ。で、4年か、5年ぐらいだから30試合ぐらいかなって言ったら、向こうの人間はみんなびっくりするらしいですよ（笑）。クレイジーだって言うらしいですよ（笑）。だから、10年持つのが5、6年で終わるような感じがしますね、今。これをあんまり強調すると前田さんに怒られるかもしれないけど、前田さんたちの時代は時代で良かったと思うんですよ。ただ、今はちょっとレベルが違うって言うのは認めざる得ないことだと思いますよ。

——デビュー直後の坂田さんは喧嘩っ早いっていうか、そういうイメージがありましたけど、顔つきも含めて変わってきましたよね。

坂田　今でもそうですよ（笑）。例えば選手が3人いてね、一人は凄いテクニックを持ってる、一人は目茶苦茶パワーがある人で、もう一人はとにかく気持ちでいくタイプ。で、その中でどれかを選べるとしたら、僕は気持ちでいくタイプを選びたいんで（笑）。

——昔から変わらないと。

坂田　血なんでしょうね（笑）。

——田村さんのところに教えてくださいって頭を下げにきたのは坂田さんが最初なんですよね。

坂田　いまでも僕しかいないでしょうね（笑）。

——弱いヤツは強いヤツに頭下げなきゃいけないって田村さんはよく言ってますよね。

坂田　その通りでしょ。教えてほしければ教えてくださいって頭下げるのは普通ですよね。だから、僕はこの間のバーリ・トゥードの前でも試合の前でも金原さんとかにレクチャーを頼んでましたからね。

——例えばバーリ・トゥードをやるにしても、相手は誰でもいいってわけじゃないですよね。

坂田　まあ、ビッグネームっていうのは誰でも狙ってると思いますからね。自分の自己満足だけでいいってなったら、弱いヤツを選びますよ。だけど、お客を意識したら、ちゃんとそういうところでは返事するまでにちゃんとビデオを見て、これならできそうだっていうのは考えますけど。

——坂田さんは今現在、誰々とやりたいっていうのはあるんですか？

坂田　それはもちろんありますよ。ありますけど、あまりにも非現実的なことを言ってもしょうがないし。やっぱりやりたいヤツって自分の手が届く範囲だとそういう風に夢を抱かないと思うんですよね。いま自分の置かれてる段階でやりたいと思ったら、なんらかのアクションを起こしていかないと、そこまで届かないじゃないですか。プロとしては、そういうことを口に出した以上は絶対にやっていかなきゃいけないと思うし。だから、個人的に名前を挙げてくださいと言われても、あまり現実的じゃないとね。ただ日本人対決は興味ないですね、

Wataru Sakata

田村さんと金原さん以外は。これは書いていいですよ。だから、非現実的なことを言わしてもらえば大仁田とやりたいですね（笑）。

――エッ！　大仁田さん。それは是非みたいですね（笑）。

坂田　ボコボコにしてやりますよ（笑）。

――ルールは電流爆破でも（笑）。

坂田　いいですよ（笑）。全然平気ですよ。

――有刺鉄線には当たらないで極める？

坂田　当たるかもしれないですけど（笑）。

――それはやっぱりプロとして？（笑）

坂田　ワザとは花火の中に突っ込むわけにはいかないですけど（笑）。面白いですよ（笑）。この間たまたまテレビ見てたら、大仁田が出てきてなんかいろいろやってたじゃないですか。試合はつまんなかったですけど。

――マイクアピールとかですね（笑）。

坂田　そういうのは面白かったですね。新日本の佐々木さんもボコボコにしてくれるのかなって思ったら試合はなんてことなかったんですけど（笑）。

――レスラーとしてはともかく、プロとしては凄いものがあるじゃないですか（笑）。

坂田　うん。……ただ、……そうですね（笑）。前田さんも大仁田のことが嫌いだと思うし。

――高田さんもそうですしね（笑）。U系の選手は……。

坂田　大嫌いですよ（笑）。別になんか言われたとか、恨みがあるわけでもないですけど、ホント、なんか……「これがオレの生き様じゃあ」とか、なんかわけのわからんこと言ってたけどさ。上に立つ人間が煙草をくわえてね、闘う前ですよ。煙草をくわえて、なんかわけのわからんチンピラみたいな出方してね。誰が勝てると思うんですか、あんなの。大仁田選手を本気に応援しにきてる人に申し訳ないと思いますよ。負けっぷりが見たいんだったらいいですけど。素人には強いみたいですけどね（笑）。素人を蹴り飛ばしてましたね。

――テレ朝の真鍋アナですね（笑）。

坂田　かわいそうですよね（笑）。

――あれを含めて大仁田信者といわれる人は楽しんでますし。もちろんボクも。

坂田　そうなんですか。でも、それでプロと呼ぶんであったら。

――雑誌的には同じ雑誌に載っちゃいますからね（笑）。

坂田　そんなことはいいんですよ。あんたはプロならそんな発言をしてていいのかって思うよね。で、なんかナイフかなんかを仕込んでたんでしょ。

――詳しいですねぇ（笑）。

坂田　僕は見ましたもん。それこそ、子供が見て真似したらどうするんだって。バカじゃないのって！　ホント、僕はギャラは5万円ぐらいでいいから、新日本から要請があれば大仁田とやりたいです（笑）。有刺鉄線バーリ・トゥードマッチでいいですよ（笑）。ホントになんでもありですよ、バットを持ってきてもいいし（笑）。

2・21横浜アリーナ大会ショーン・アルバレス戦後の
坂田のコメント完全収録！

坂田　なんだ、アレ。ふざけやがって！　押さえこまれるのとか、向こうの思うツボっていうか、こっちのきっかけがつかめないね。パンチはぜんぜん怖くなかった。パンチ打ってくるのはわかってたから。

（今日の相手の印象は？）

坂田　印象？　なんもないっすよ。押さえてくるだけでなんもしないもん。コツコツパンチは当ててきたけど。勝負にきてなかったよ。試合に勝てる試合の進め方したんじゃないの？

（途中で横四方の状態が続きましたよね）

坂田　横四方になりかけね。あれはマウント取らせて三つぐらい確実に返せるっていうのがあったんで、それをやろうかなって思ったんですけど、まだ時間が早いっていうのと、相手の汗の量が多かったっていうのがあって。でも、まぁ一回マウント返したの見たでしょ？　あれぐらいの重さなら、負けて言うのもなんですけど、まだ怖くないっていうか。ウチ、ヘビー級多いじゃないですか。揉まれてて良かったなって感じですね。あれぐらいじゃ全然怖くないです。

（かなり体格差がありましたけど）

坂田　だから、試合全般を見てもらうと、ボクが押さえられてるっていうのは、まぁその通りだと思うんですけど、逆にボクがあの立場だったらもっといろいろ動いたと思いますよ。けどアイツは、結果論だけど勝負には出てなかったと思う。ボクが動くときにアイツはパンチ打ってたでしょ。それ以外はコツコツしか当ててこなかったから。アイツは最初から試合に勝てばいいと思ったんじゃないですか？　だけど、ルールミーティングのときに、アイツらがグローブ掴んで腕を離すのは反則だって言ったんですよ。だけど、オレはね、下からアームロックに見せかけてネックロックに入ったときに、一回手首のところまで反対側のアゴにかかってたんですよ。あとは左手を入れればかかると思ったら、その瞬間に、アイツ、オレのグローブ掴んだんですよ。掴んでグッと引っ張ったから、オレすぐ言いましたよ、大声で。「グローブ掴んでるぞ！」って。アイツらですよ。グローブは絶対掴むなって言ってきたの。オレなんにもやってないですよ。

（試合後、坂田選手が怒ってたのは）

坂田　それですよ。テメエらがさんざん主張しといてね、なに言ってんだって感じですよ。最初、ボクらはね、ＵＦＣのルールみたいに、ブレイクを作って欲しいって言ったんですよ。それは何故かと言ったら、今日みたいな展開になるのが一番怖かったから。だからオレも金原さんもブレイクが欲しかった。けどアイツらは「オマエたちが動かないだけで、オレたちは20分フルに動く」って言ったんですよ。なにもやってないじゃないか、アイツ。なんだよ、アレ。効いたのっていったらちょっとここらへんに入ったパンチだけだよ。なんにもないよ。脚だって一回アキレス入りかけたけど、まぁ裸足っていうのもあって取れなかったけど。

（押さえられてる時の重さってどうでした？）

坂田　ウチの選手の方が重いよ。押さえ込み上手いって感じじゃないよ、全然。ただこっちがミスするのを待ってるだけ。アレは技術と言えないと思うよ、オレは。攻める技術とは言えないと思う。無難にやる技術だとは思うけど。

（再戦については？）

坂田　アイツとですか？　アイツがやりたいって言うならいいんじゃないですか？　でも、あれでヘビー級とか言ってるんだから、笑っちゃうよね。オレなんて88か89キロですよ。そんな相手にヘビー級だとか言って、あんなアゴ上げて立ってられたらね、笑いが出ますよ。なにがブラジリアン柔術だと思いますよ。アホかって！

（セコンドから高阪さんと田村さんの指示がありましたけど）

坂田　メチャメチャ心強かった。最強でしょ。最強のコンビじゃない？　落ち着いてたしね。出だし向こうからくるとは思わなかったけど、一回手を取ってタックル切れそうだったんですけど、やっぱりコーナーに頭が詰まっちゃって、自分の身体のバランスが取れなくて、これは倒れた方がいいと思って。ガードしようと思ったんですけど、脚が入らなかった。だから、最初、横四方に入りかけられたけど。だからホントは、アイツ脚細かったから、ローキックとかバンバンやりたかったんですけど。

（最初の対策としては打撃で行きたかったんですか？）

坂田　あのね、試合決まった時点で、最初に思ったのはウチも選手が増えたのもあって、あと高阪があぁいう技術をいろいろ身につけてるっていうこともあって、寝技勝負で行ったろうかなって思ったんですけど、高阪が武道館終わってからも一週間ぐらい残っててくれて、二人で考えてたのは、たぶんアイツは上になったら極めに来るんじゃなくて、パンチをコツコツ打って、それで20分行くって話してたら、その通りだったんですけど。そうなると思ったんで、打撃勝負で。一回、マウント返した時にも、落ち着いてパンチ打ってたでしょ、ボク。あれも立ち際だったから蹴りブチ込んでやればよかったなと思って。あとヒザかなんか。時間がないっていうのと、アイツも攻めてこないっていうのがあったから、もう打撃で行ったろかと思ったんで。あと、２週間ぐらい前にスパーリングやってる時、肋軟骨をヒビだか離したんだか知らないけど、ケガしちゃって。それで、ちょっと上に乗られるだけでキツかったんで。まぁ、今日は麻酔打ったんで、全然大丈夫でしたけど。それ以前にね、アイツらホントにプロだったら、あとになって自分が勝ったっていう記録だけじゃなくて、いかに勝ったかっていう、そういう練習してこいって言いたいよね。確かにブラジリアン柔術は強いと思うよ。ボクも試合前に、金原さんと一緒にエンセンさんとこで練習みてもらって、いろいろ聞いたけど、彼なんかと手合わせてみて、やっぱりブラジリアン柔術は凄いと思うよ。素晴らしい格闘技だと思うけど、だったらね、そういう凄い格闘技を身に付けてるんだったらね、その名の通り、誰が見ても強いと思わせるような闘いをしろと。そしたらオレが５分で負けてたかも知れない。でも全然いい試合になったと思うよ。とりあえず試合のことはこれだけです。ただ試合後にあんなことしたのはボクが悪かったです。あとで謝りに行きますよ。あと、一つだけ言いたいんですけど、ファンの人たちに言いたいんですよ。コレ絶対書いてください。やれ、アイツがノールールやったら強いだの、そういうことを言うなと。バカバカしいよ。ウチのリングでやるんだったら、ウチのルールでやらせるように、ウチのルールでやるんだったらオレはいつでも受けるよ。だけどオレらが向こうのルールを飲んでるのに、アイツはそれやったら強いんじゃないか、弱いんじゃないかって、勝手な妄想膨らますなって。オレは断言するよ。田村さんにはノールールやらせないよ、絶対。オレは絶対やらせない！

（実際ノールールって言ってもルールはありますからね）

坂田　あんなのノールールじゃねぇよ。ノールールだったら決着つくまでやってやるよ。なんだよ、アイツ。20分持ちゃあいいって感じでしょ。今日の試合見てわかったでしょ？　あんな試合だったらいくら田村さんとかでもあの素晴らしい動きは見せられない。オレたちのように攻めと攻めが噛み合ってこそ、田村さんとか、山本（宜久）さんとか、そういう選手が活きるんですよ。それをね、ウチのリングでやるんですから、ノールールでやらしてみたらどうだとかね、そんなこと、勝手に思うなって。思うのは勝手だけど、お前ら勝手にそんなこと話してんじゃねぇって。そういうのが見たいんだったらね、そういう試合はそういう試合で素晴らしいですよ。だから修斗さんとか行ってください。ウチには来なくていいです。絶対やらせないよ、田村さんたちには。

（練習でエンセンさんとスパーリングはやりました？）

坂田　試合直前だったんで、そんな激しいスパーリングじゃないです。彼は凄く強いと思いますよ。

（今日の反省点は？）

坂田　勝ち気になるのはいいんですけど、もうちょっと冷静に。あと、もうちょっと早くアイツが勝負にきてないっていうのを見抜ければね。それが10分過ぎまで見抜けなかった。それだけです。機会があったらボクはこのルールでやってもいいと思うんで。ただリングスでやるっていうんだったら、もうちょっと時間が欲しいです。でも、田村さんにはやらせないよ。以上。

Wataru Sakata

——ホント見たいなぁ（笑）。

坂田　それぐらいですね（笑）。だから、こいつとやったら面白いんじゃないかっていうのはいますけど、そういうのは難しいですね。

——今後のリングスは、坂田さんも含め一人一人がリングスを引っ張って行くっていう意気込みをファンに見せていかなきゃいけないでしょうね。

坂田　それはみんなが思わないとダメでしょうね。でも僕は、いまの段階では田村さんがトップにいればいいと思いますから。まあ、高阪はスポット参戦みたいな感じなんで抜きとして考えた方がいいと思いますから。まあ僕も、いろいろ考えてることがあるんで。

——先ほど言っていたUFCとか以外の話なんですか？

坂田　それはまあ、他のルールとかだけじゃなくて、いろんなことに挑戦したいってのがあるんで。自分が死なないために。生き残ってくために、この世界で。結局、僕は団体が潰れて、どこも上がるリングがなかったら、そこで僕は死んじゃいますから。あとこれは書いといてください。絶対に書いてくれないんですよ、どこの雑誌も（笑）。

——なんですか、絶対書きますよ！

坂田　闘いというのは美しいものが勝つ！

——ハハハハ！　一体なにを言い出すのかと思いましたよ。

坂田　僕の合い言葉みたいなもんですけど、常に思ってるんで（笑）。一生懸命やってれば、それが美しいんですよ。

——どこの雑誌も書いてくれなかったんですか（笑）。

坂田　みんなただの冗談だと思ってるんですよ（笑）。

——ところで太田章さんってご存じですか。「格闘技系のプロレスも、本気っぽく見せてるだけ」とか、カレリン戦の前にも「前田さん、命が危ないからやめた方がいいですよ」とか言ってる元アマレス銀メダリスト、現・早大助教授の方なんですけど。

坂田　お前が何やってきたんだよ、何様だ！って感じですよ。それだけですね。

——カレリン戦後の前田さんの控室に来てましたけど。

坂田　前田さんは怒ってないのかもしれないですけど、オレは気に食わないですね。ちゃんと見てないからわからないけど、会場にいたらブン殴りにいってやろうかと思いましたよ。

——熱いですね〜（笑）。

闘いというのは美しいものが勝つ!

坂田　だけど、前田さんの引退試合にドロを塗ったら嫌なんで、別に……うん！　でもね。許せんとかいうのもないですけど、気に入らないですね。そんなことを言ってるヤツが見にきて。金を払って見に来てたんならいいですけどね。雑誌を読んだら「僕は前田日明を評価したいですね、今日は」とか書いてあったんですけど、どういう意味だ！「今日は」って！

——『ゴング』に書いてありましたね。確かに「今日は」は余計ですよね。

坂田　気に入らないですね。今でもたまにファンの人達に、「ホントに前田さんは辞めるんですか」って聞かれるんですけど、じゃあ次に何やれっていうのって思いますよ（笑）。遊戯じゃねぇんだぞって思いますよ、ホントに。そんなふうに僕らに言うのはいいですけど、前田さんに対してファンの人たちが言うのは可哀相ですよ。失礼とかを通り越して、お前ら何を見てるんだって感じですよ、ホントに。前田さんから、たくさんの夢と感動をもらったんだったら、素直に「ありがとうございました」って言えばいいんですよ。

——ホントそう思います。今日はありがとうございました。

【3月9日、前田道場にて収録】

坂田亘【サカタワタル】■昭和48年3月11日愛知県出身／175cm、90kg　上京後、アニマル浜口ジムに入門。翌年前田道場に入門。平成6年11月19日、東京・有明コロシアムvs鶴巻伸洋でデビュー　他団体のリングにも積極的に参戦している。前田道場だけではなく田村潔司のU-FILE CAMPでも練習を行っている。お気に入りの言葉は「闘いというのは美しいものが勝つ！」

バーリ・トゥード初挑戦
金原は"柔術怪獣"モラエスを退治できず、無念の判定負け!

○ヒカルド・モラエス（時間切れ判定）●金原弘光

金原初のバーリ・トゥードマッチの相手は身長差27センチ、体重差31キロもある柔術怪獣・ヒカルド・モラエス。金原はその体格差を克服するため、現在・全日本マットで活躍中の高山善廣を相手にスパーリングを繰り返した。バックを取らせてアームロックを盛んに狙っていった金原だったが怪獣喰いはならず。

ヒカルド・モラエスに対し、積極的に片脚タックルを狙っていった金原だったが、ガードポジションになると何発かパンチを浴びてしまい、試合後の金原は左目を大きく腫らしてしまった。試合後、「ボクはリングスでチャンピオンベルトが欲しい」と言いながらも、最後は、モラエスへのリベンジを誓っていた。

新生RINGS誕生!!

RISE 2nd

チケット絶賛発売中!

4.23(FRI.) 大阪府立体育会館

●OPEN 17:30 | START 18:30●

田村潔司 VS F.シャムロック

髙阪 剛 vs G.アイブル

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000
スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所
チケットぴあ大阪 ☎06-6363-9999／チケットセゾン大阪 ☎06-6232-9999
ローソンチケット ☎06-6369-6633(Lコード53117)
リングス大阪インフォメーション ☎06-6364-9115
ビデオショップ・チャンピオン大阪店 ☎06-6645-5186
プロレスショップ・バディスラム☎06-6645-1378

◉お問い合わせ
リングス大阪インフォメーション ☎06-6364-9115

RISE 3rd

チケット絶賛発売中!

5.22(SAT.) 有明コロシアム

●OPEN 16:30 | START 18:00●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／スタンドS…¥7,000
スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999
CNプレイガイド ☎03-5802-9999
ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード35662)／オデッセー ☎03-3796-9999
後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011
大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

RISE 4th

チケット絶賛発売中!

6.19(FRI.) 愛知県体育館

●OPEN 17:00 | START 18:30●

FIGHTING NETWORK RINGS

主 催

BS-5ch WOWOW

FIGHTING NETWORK RINGS

プロレス界があの“1・4東京ドーム”を風化させたいのなら
本誌は“あの大事件”を独占します！

驚愕の“1・4事変”最後の証言者ついに登場!!

聞き手／中村カタブツ
interview by Katabutsu Nakamura
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

元気！ 殺気！ 無邪気が炸裂！
U.F.O.はこれからもマット界に“おいしいモノ”を生身で提供していきます!!

前号で読者からの要望が最も高かった場外乱闘の若武者・村上一成がついに登場！ ケガも治って非常に元気！「金もない、名誉もない。そんなUFOは元気が売り物」（byアントン）ってことで、小川vs橋本戦の場外乱闘を激白!! そして小川＆村上が菊田軍団が集まる新宿スポーツセンターに出掛けた顛末も併せて伝える衝撃の事実続出の驚愕のインタビュー。

村上一成

格闘ノストラダムス'99
プロレスか？ バーリ・トゥードか？
マット界の盟主を予言せよ!!

やっぱり「ヤルならオレしかいないだろう」とは思ってましたね

Kazunari Murakami

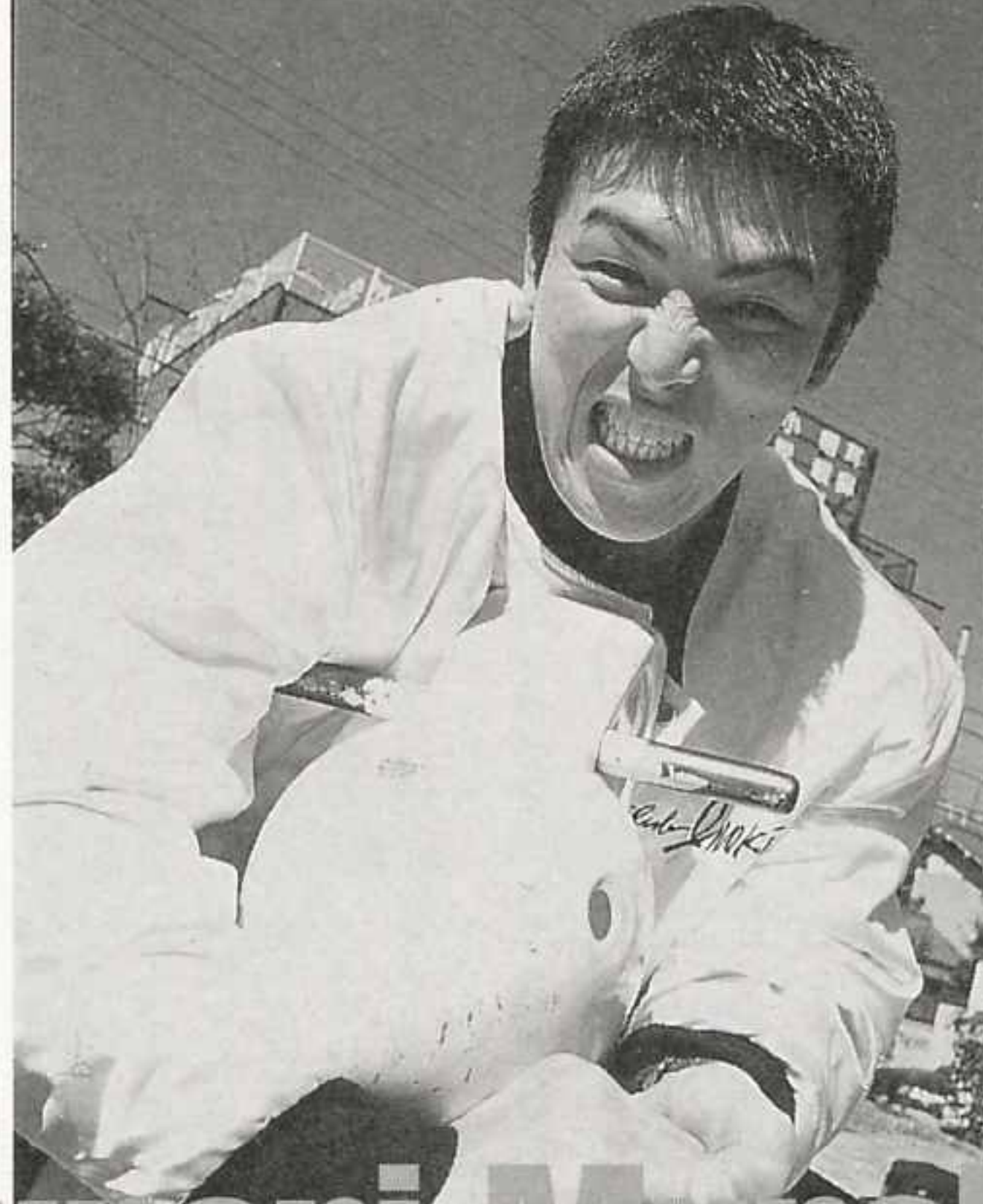
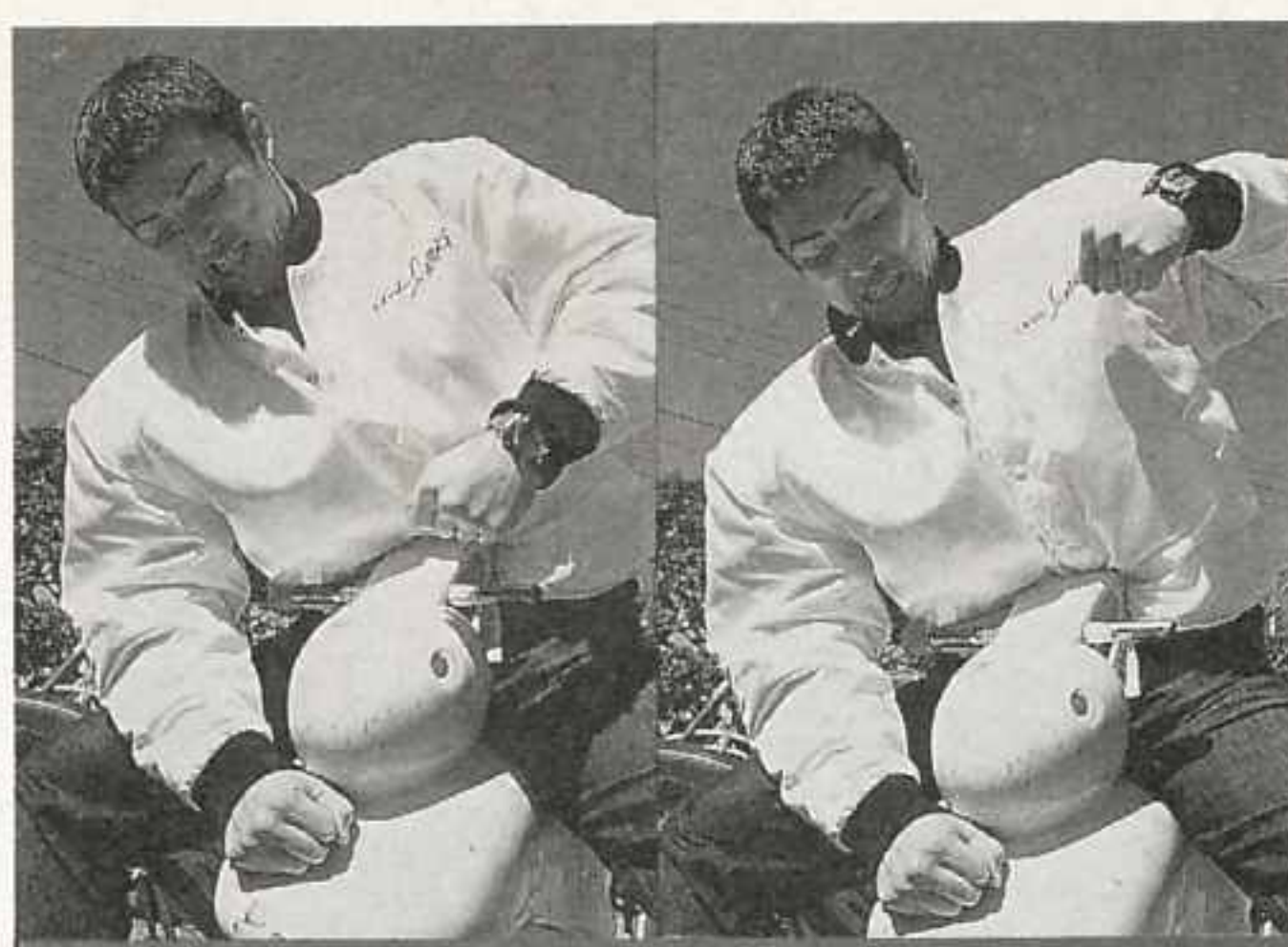
あのめくるめく興奮を呼び起こした1・4東京ドームからほぼ3ヵ月。新日勢との乱闘で「やるじゃねぇか、村上！」と一気に株を上げた村上一成が1・4の映像を見ながら怒涛の修羅場を振り返る。溜まりに溜まった怒りが弾ける!!

——あの日、会場に入る前はどういう流れだったんですか。

村上　僕と小川さんがタクシーに乗って、途中で四代目と小幡（太郎＝JJA所属。3・14でUFOデビュー）さんを拾ったんですよ。四人も乗って狭かったですねぇ（笑）。

——小川さんも村上さんもデカイですからねぇ（笑）。車中ではどんな話をしてたんですか。

村上「今日は頼むね」って感じですね。でも、小幡さんは全然そういうのに関わったことないですから、やっぱり臨戦態勢になってないんですよ。だから小川さんが「今日はホントに頼むな」って何回も念押しして。「お前、ホントなんだって」って感じですね（笑）。

——もちろん、村上さんや四代目さんはああいうことになる可能性があることは感じてたわけですよね。

村上　まあ、なるだろうなって思ってたけどあそこまでなるとは思ってなかったですけどね、僕だって（笑）。ヤル時はヤラなきゃって腹はくくってますからいいですけど（笑）。で、会場に着いたらゴルドーもいて「一緒にいくよ」って言ってるし。「かなり厳重な臨戦態勢だな」とは感じてましたね。

——本職の用心棒ですからね（笑）。控え室には何時ぐらいに入ったんですか。

村上　3時まわってたんじゃないですかね。だから、完璧に第一試合、第二試合とかは始まってますよね。

——それは時間を見計らって入ったわけですか。

村上　そうですね。作戦なんじゃないですかね。

——控え室はどんな空気だったんですか。

村上　気合い入ってましたね（笑）。佐山さんとかも気を張ってましたね。

——いつもより口数が少なかったりとか。

村上　少なかったですね。冗談とかもないし。

——なにも食べずに（笑）。

村上　食ってなかったですね（笑）。ゴルドーと小幡さんは控え室の前に立ってがっちりガードしてたし。

——ピリピリしてたんですね（笑）。そんな様子だったら当然、新日側にもその空気は伝わるわけですよね。

村上　それは当然ですよ。橋本（真也）さんが知らなかったとかはわからないですけど、こっちの様子は伝わってるでしょう。「殺気だってるよ」とか。

——前号の四代目タイガーさんが発言してるんですけど、その控え室で「佐々木（健介）とか上の方はオレに任しとけ」と村上さんが言ってたと。

村上　はい。僕はUFOでは小川さんの次を担ってるつもりですから。やっぱり「ヤルならオレしかいないだろう」って思ってますからね。

——カッコイイですね（笑）。

村上　佐々木さん……とか？　名前はよく知らないんですけどね。まあ、誰でも良かったんですけどね（笑）。

——あれま。まあ、「上の方はオレに任しとけ」と（笑）。

村上「来たらいくぜ！」ですよね。「やってやる」って感じですね（笑）。だって僕はそれまで新日とかと関わりないですからね。ほかの人はそれぞれあるでしょうけど、僕はUFOの看板を背負ってるだけですから。

——選手もよく知らないし（笑）。

村上　はぁい（笑）。だけどnWoは知ってますよ。野球は好きなんで「へぇ～。ベイスターズの人も入ってるんだぁ」って思ってましたから。だけど新日とはまったく別の団体だと思ってましたけど（笑）。

——ヒッドイなぁ（笑）。それであんなことしたんですか（笑）。

村上　佐々木さんのことは知ってましたよ。「女子プロレスラーと結婚したんだぁ」って（笑）。新聞で見たことがあるんですけど、「レスラー同士で結婚できるんだぁ」ってインパクトがありましたけどね（笑）。

——佐々木さんについての認識が女子プロレスラーと結婚した人（笑）。無意識にタチが悪いですね（笑）。好感は持ったんですか、その記事を読んで。

村上　いやぁ、スゴイなぁ～って。いろんな意味で（笑）。

——ククク。わかりました（笑）。それで試合ですけど、小川さんを中心に村上さんたちがまわり囲んで登場してきた、あの花道の入場はカッコ良かったですね（笑）。

村上　エヘヘヘヘ、そうですかぁ（笑）。だけど、僕はあの時キョロキョロしてたでしょ。リングに入るのを邪魔されたくなかったからですよ。

——それはないでしょ、いくらなんでも。

村上　リングに上げさせてもらえなかったら終わりですからね。僕らはみんなそこまで考えてましたから。

——へぇ～。表には出てこなかったですけど新日vsUFOは水面下ではそこまで緊迫したものがあったわけですね。

村上　はい。普通だったらみんなでいかないですよ。小川さんが一人で行った方が目立つしカッコイイわけですから。

——そうですね。だけど、あの軍団で入ってきた時はゾクゾクするほどカッコイイなって思いました（笑）。

村上　いやぁ（笑）。いま見てても「なんか危ねえな、この軍団」って思いますけどね（笑）。

——ドームの花道を歩いてる時はどんな気持ちだったんですか。

村上　別になんとも思わなかったですね（笑）。

——なんでぇ！　日本で一番デカイ会場の花道ですよ。ハレ舞台ですよ（笑）。

村上「小川さん、頑張ってぇ～」って感じですね（笑）。

——他人事みたいに、UFOを背負ってるってさっき言ったのに（笑）。

村上　ねえ（笑）。テレビでちょうど乱闘のところだけは見たんですけど、「これは痛てぇなぁ」とか他人事みたいに感じましたね（笑）。

——また、他人事か（笑）。

村上　だけど、ヤラれたことは覚えてますからね。

——ヤッた人と（笑）。

村上　自分、名前は知らないんですよね、すいません（笑）。試合の相手しか知らないんですよねぇ～。

——じゃあ、今回の3・14の相手の名前は言えます？（笑）

村上　それはねぇ～……。長い名前なんですよねぇ～（笑）。（取材時はリチャード・ローランド・ラックス）

——ダメだ、こりゃ（笑）。

村上　だけど身体のサイズは知ってますよ（笑）。ドン・フライとか、そういう短い名前の人しか覚えないことにしてるんですよ。

——「覚えないことにしてる」って、そんなことは決めなくていいですよ（笑）。で、1・4に戻りますけど、試合中の小川さんの調子についてはどう感じてましたか？

村上　全然気負いもないし、いいですよ。さすがに最初からパンチでイクとは思いませんでしたけど。あのパンチは早かったですね。（橋本選手が小川選手に抱きつき、ロープをつかんで離さない場面）これでもう小川さんは余裕だろうと。ただ、このパターンで終わるのかなとは思ったんですけどね。

——この時は臨戦態勢ではあったんですけど少しそれが解けてきた感じですかね。

村上　そうですね。

飯塚さんは喧嘩のやり方知らないでしょ。このモヤシッ子!!

——いま、橋本さんがレフェリーを蹴りましたね。

村上 小川さんは「そっちじゃねぇだろ」って言ってましたね。で、ここで「ヒジ、ヒジ」って言ったのは僕らですからねぇ（笑）。

——あの背中に落としたエゲツないヒジは村上さんの指示だったんですね（笑）。

村上 このぐらいから向こうはセコンドがいっぱい来はじめてるじゃないですか。

——山崎（一夫）さんも来ましたね。

村上 あの人、山崎って言うんですかぁ、へぇ〜。

——あなたが掴み掛かった人ですよ（笑）。ホントにもう（笑）。

村上（小川選手が橋本選手のマウントを取って、顔面パンチを入れ始めた場面）この顔面殴ってる横パンチはボクが言ったんですよ、ボクが（笑）。エヘヘヘヘ。「横パンチはイイですよ」って（笑）。

——村上さんの指示通りってワケですね（笑）。

村上「いいですよぉ」って（笑）。

——このへんのパンチとか蹴りとかは、どう思いましたか。結構、ビシビシ入れてますよね。

村上 いやぁ〜、小川オンパレードでしょ（笑）。

——ワハハハハ！ 小川・オン・ステージというか（笑）。

村上 ねぇ（笑）。自然の流れですよ。練習してるものがそのまま出ましたね。それで自分らはレフェリーがいなくなってから完全に臨戦態勢ですね。この時はもう向こうのセコンドも増えてますからね。ヤツラはこの時点で「来い！」とか「なんだコラ！」とか言ってますからね。

——この時に目立った選手って誰だったんですか。

村上 ……佐々木？

——健介さんですね（笑）。

村上 それが小川さんにワァーと言ったでしょ。この時には小川さんが「来い、来い」ってオレらに言ってますから。

——花道のところのもみ合いの時ですね。

村上 さんは山崎さんに突っ掛かっていきますけど、なんか言われたんですか。

村上 小川さんになんか言ってるからですね。ボクらは始めから喧嘩しようと思ってるわけじゃないし、小川さんがなにも邪魔されずに試合ができるようにするガードとして、あそこに居たわけですから。小川さんが光るのを邪魔する者を排除するのが仕事ですから。

——ただ、この時はもう、排除とかその程度じゃあ済まないなと思ってるわけですよね。

村上 それはもう。小川さんも「こいつを狙え！ こいつを狙え！」って言ってましたからね、佐々木さんとか指差して。

——佐々木さんとか指差して（笑）。

村上 みんながワッと来て、小川さんがコーナーポストに乗ったじゃないですか、あの時に「こいつを狙ったれ！」って（笑）。とりあえずボクは止めるしかないって思ってますけど収まりがつかなくて、こう（飯塚選手とリング上で乱闘）なってるでしょ。

——この時は藤田（和之）さんと（ケンドー・）カシンさんが間に入って止めてますね。

村上 こいつに思い切り殴られたんですよ！ こいつ、こいつ！

——飯塚（高史）さんですね（笑）。でも、その前に村上さんが殴ってますからね（笑）。

村上 これは誰ですか？ イス持ってるハゲチョビンのヤツ（笑）

——ワハハハハ！ 高岩（竜一）さんです（笑）。

村上 なんですか、高岩って！

——「なんですか」って（笑）。ジュニアのパワー系の選手ですね。餅つきパワーボムを得意としている人です。

村上 そんな技があるんですかぁ？（笑）

——あるんです（笑）。

村上 このイスを持ってこられた時には、「どうやって受けようかなぁ〜」とは思いましたねぇ（笑）。

——高岩さんはイスで殴りかかってますよね（笑）。

村上 まぁ当たりはしなかったですけどね（笑）。イスにはビックリしたなぁ、イスですよぉ（笑）。で、僕が藤田さんとカシンさんに抑えられてる間隙をついて、その高岩さん？……が僕にヘッドロックして、それを振りほどいた瞬間にボコっと殴られたんですよ。「なんだ、この野郎」って思ったら、それがアイツだったんですよ！

——飯塚さんだったと（笑）。

村上 お前は汚ねぇことしかできねぇのか！（画面に向かって） 何を考えてるのかわからないですよ。

——何がなんでも一発返したかったんでしょうね（笑）。このあと長州さんが出てきて、村上さんがロープに上って。

村上 この時、「どいつを仕留めたろか！」って思って下を睨んでたんですよ。どうせ、まわりに人がいっぱいいるんで止められるから上から飛び蹴りして顔面踏み潰してやろうと思ってたんですね。でも、この辺で終わりだなとも思ったんですよ。

——小川さんがここで一旦、引き上げかけますからね。

村上 それで後からよく言われたんですけどなんでボクらだけリングに残ってたかっていうのが不思議だったらしいんですよね。

——そうなんですよ。

村上 だってボクらは小川さんが降りていったの知らなかったですもん（笑）。

——ワハハハ！ 置き去りにされたんですか（笑）。それで長州さんと面と向かうことになったわけですね（笑）。この時、長州（力）さんはなんて言ってたんですか。

村上「お前も一緒か！」って（笑）。ボクは高校の時に長州さんのテーマ曲を聞きながら練習してたんですよ。それで初めて会って最初に言われた言葉が「お前も一緒か！」ですからね（笑）。

——それはショックですね、ファンだったんですか（笑）。

村上 違います。曲が好きだっただけです。

——ワハハハハハ！

村上 プロレスとか興味なかったですからね（笑）。だけど、なんかノルんですよね、あの曲を聞くと（笑）。

——悪質な発言だなぁ（笑）。

村上 そうスかねぇ〜（笑）。それで、この時、自分は小川さんに「降りて来い」って言われたんで「いこうかな」って思った瞬間に殴られたんですよ。

——初めて会って怒鳴られて殴られて（笑）。

村上 降りようとした瞬間に二発ぐらい殴られて（笑）。「なんや、この野郎」と思ったら、横のタイガーが怒ってボクの方に来ようとしたら、コイツが！

——小原（道由）さんですね（笑）。

村上 そいつがタイガーとモミクチャになったんですよ。コイツ、なんか文句言ってるんですよ！

——「潰すぞ」とか言ってたらしいですね。

村上 お前が潰されるゾ、コラ！（画面に向かって）

——ところでこの乱闘中に妙に目立ったのがＪＪＡ所属の米屋（利展）さんでしたね（笑）。

村上 ワハハハハハハ！ お前は仁王立ちしてただ立ってただけやねんって、置物ちゃうねんって（笑）。誰も何も触らず、ヤツも何も触らず。♪飾りじゃないのよ、米屋わぁ〜って歌ってやろかと思いましたよ（笑）。

——ワハハハハ！ リングサイドで長州さんのほぼ目の前にいた形でしたもんね（笑）。

村上 雑誌を見たら、目立つところにいましたからね、私服で（笑）。

——たぶん「誰だ、この太った人は？」って思った人は多かったと思いますね（笑）。

村上 まさか観客じゃないだろうなって（笑）。

——ＪＪＡの米屋選手ですよね（笑）。

村上 はい（笑）。

——アダ名が〝ブーちゃん〟ですね（笑）。

村上 はい（笑）。

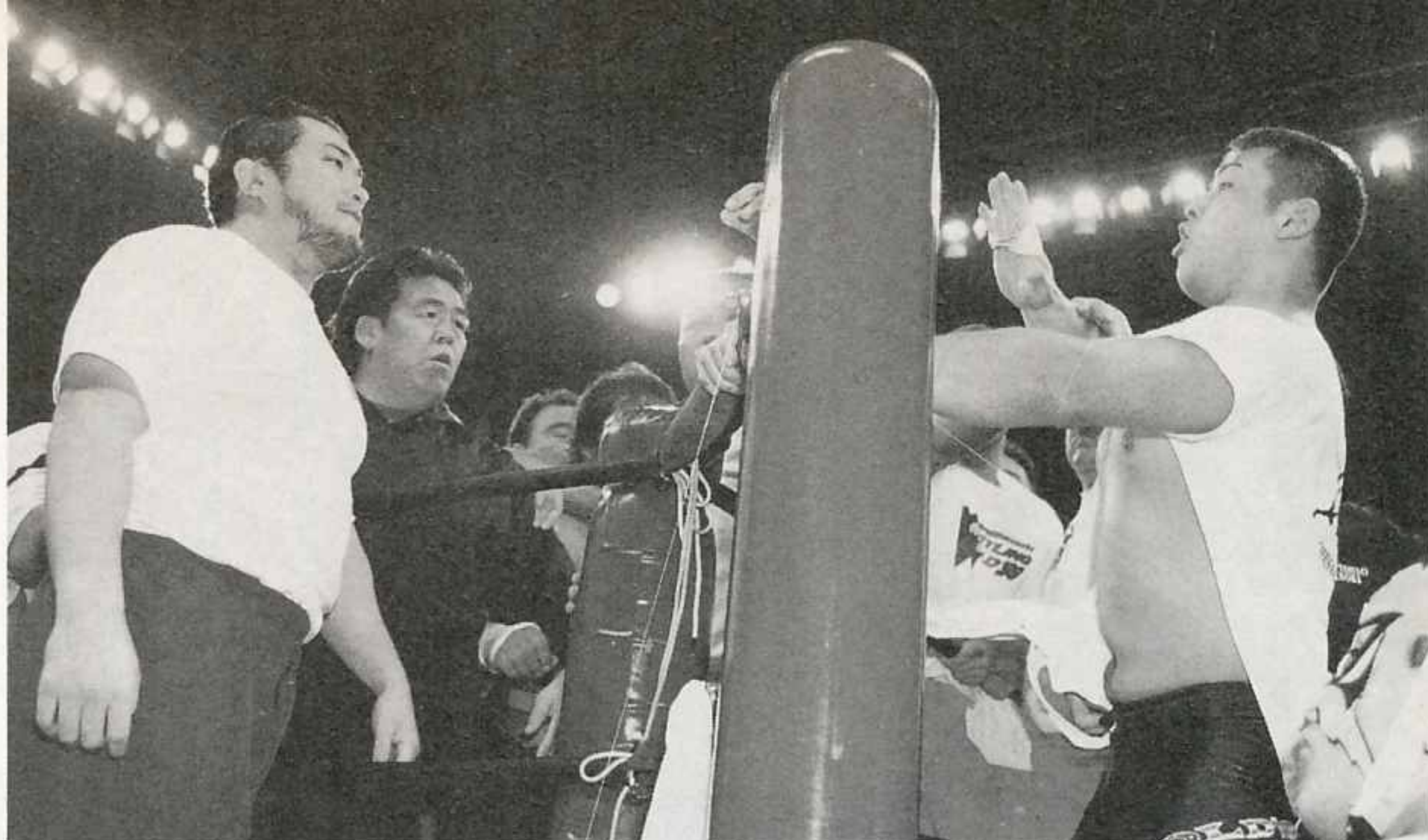
——ベタですけどピッタリですよね（笑）。乱闘とかには向かない優しい感じの人ですからね。で、小川さんが一旦リング降りた後で本格的な乱闘になるわけですよね。

村上 タイガーは可哀相ですよ。全員来てるからねぇ。（画面に向かって）お前ら、

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？バーリ・トゥードか？マット界の盟主を予言せよ!!

ふざけんなよ！　これで自分、このデッカイ人を投げたんですよぉ（笑）。

—安田（忠夫）さんですね（笑）。

村上　で、小幡さんはこの安田さんに乱闘がほぼ終わって帰ろうとした時に「お前もだ！」って投げられたらしいですよ（笑）。

「肩を掴まれたと思ったらいきなり二発殴られた」直後の自称“通りかかっただけの人”村上さん（右）

—ワハハハハ！

村上　オォオ！　いいストンピング!!（飯塚選手のストンピングがやたらと目立つ場面で）

—ワハハハハ！　この直後ぐらいに失神したんですよね。どのくらいまで意識があったんですか。

村上　安田さんを投げて倒れて「やべぇ」って思ってパッと見たら、リングサイドで「アレェ～」って言ってるオバサンと目が合ったんですよ。

—それが覚えてる最後ですか（笑）。

村上　それが最後のショットですからね、ボクの（笑）。

—死ななくて良かったですね（笑）。悲鳴上げてるオバサンがラストショットっていうのもかなり切ないですもん（笑）。

村上　はい（笑）。でも、あん時瞬間的に思ったことは「こいつらはファンを無くしたな」と。ヤツラがやってたことを間近で見ていた人たちはファンじゃなくなるでしょ。あのオバサンの顔はボクの頭から離れないですよ（笑）。青っぽい服を着てたなぁ。

—ククク。ビデオでは飯塚さんがスゴイ形相でストンピングをしてますが、誰が蹴ったのかって言うのはわかったんですか。

村上　わかんないです。だって、スゴイ一杯居るんですもん。バァーっと来た瞬間にウワァーっとスゴイですもん。雪崩ですよ、雪崩。ドォーン、ドドドドォって（笑）。で、気が付くと、もうメッチャクチャ足がいっぱいあるんですよ、顔の前に（笑）。

—ワハハハハ！　そりゃわかんないですね（笑）。

村上　だって病院で自分の顔見たら、10足ぐらい足跡があるんですよぉ（笑）。

Kazunari Murakami

—ワハハハハハ！

村上　顔中一杯、首まで。いまだに額にタンコブみたいな跡が残ってますもん。

—大変な目にあいましたね。ケガはもう残ってないんですか。

村上　コブの跡ぐらいですね。だけどまだ検査中なんですけどね。今週も病院にいくんですけど。

—気をつけてください。それで改めて、試合を見てどうですか。

村上　もう日が経ったからアレですけど、痛みは忘れないですね。ただ、自分が逆の立場になったらやったらいけないなと思いましたね。

—ファンを無くすから（笑）。

村上　ねぇ（笑）。

—安田さんに投げをうったのが失敗でしたね（笑）。

村上　小川さんに言われましたもん。「絶対にロープを背にしてなきゃダメだよ」って。「向こうは大人数だから勝てるわけないじゃん。オレから離れちゃダメだよ」って。だけど、「はぁ～、オレだって必死さぁ～」って思ったんですけどねぇ（笑）。

—ワハハハ！　そうですよね（笑）。でも、安田さんのパワーはどうでした？　元相撲取りなんですけど。

村上　力なんて関係ないですから、投げなんてタイミングですからね（笑）。

—確かにタイミングですね。投げる時と場所を考えないとね（笑）。

村上　ねぇ～（笑）。でも、力なんて要所でいいんですよ。技術は伸びないですから、力だけだったら。

—今回、新日の選手の中で強いなって感じた人っていましたか。

村上　ボクは頭が低い人間が好きですから。

—腰が低い人間ってこと？（笑）

村上　はぁい（笑）。だから、それは結局、利口ってことですから。未知の力を持ってるんじゃないかと思うんですよ。

—飯塚さんなんてどう思いますか。

村上　喧嘩したことないんじゃないですか。ボクは思うんですけど、強いモンは加減を知ってると。これだけやったら人間は死ぬんだっていう自分の力を知らないんですよ。プロなんですよ、そこらのモヤシッ子じゃないんですから。

—モヤシッ子（笑）。

村上　だから、自分の力をわかってないってことは自分の実力もわかってないってことですよ。自分を見失ってるってことですよ。だって佐山（聡）さんがスッ飛んで止めようとしてるじゃないですか。

—それだけ限度の枠を超えていると。

村上　はい。佐山さんは怖さがわかっているというか。普通は場慣れしてれば勝手に身につくことですけどね。

—それにしても飯塚さんの目は〝完全に飛んでるやん〟って感じですね（笑）。

村上　ボクにもそういう時期がありましたよ。ガムシャラでグワァーってやってた頃は自分が一番強いって思ってましたよ。中学生ぐらいの時ですけどね（笑）。

—ワハハハハハ！　新日の道場長を捕まえて、さっきから（笑）。

村上　え！　道場長って？　それじゃあ、教えてるんですか、アレが？

—そうでしょうね。

村上　怖いなぁ。教えてるんだ、殺人ストンピング（笑）。だけど、新日の中でも考えさせられた人間は正直なところ絶対いると思うんですよ。

—目を覚ましたというか（笑）。

村上　ねぇ～。どうして長州さんがこうなるの？　なんでボクが長州さんに殴られなきゃいけないの？　だって、通りかかっただけのような人間ですよ、ボクは。

—「通りかかっただけ」って本気で言ってるんですか（笑）。

村上　はぁい（笑）。高校の時なんか、柔道の先輩からリキ・ラリアートをくらいながらも頑張ってきた人間なのに（笑）。肩を掴まれたと思ったらいきなり二発も殴られて（笑）。

—ワハハハハ！　殴り返そうとは思わなかったんですか。

村上　とも思ったけど。「えぇ！　なんでオレやねん」「オレじゃなきゃダメなの？」って感じですかね（笑）。

—小川さんじゃなくて（笑）。そこで殴らなかったのはなんでですか、何がストップをかけた理由ですか。

村上　だって、そこで殴ったところで面白くないじゃないですか。そう思ったところで少しはプロ根性がついたのかなって思いましたけどぉ（笑）。

—ここじゃもったいないなと（笑）。

村上　だから、いろいろ考えると決してオレらは間違ってないと思いますよ。

—ホントに興奮しましたからね、この試合は。ボクの中では最高のレベルですよ。それで、こうやってイスまで持ち出してくる人間までいましたが、新日の選手についてはどんな感想を持ちましたか。

村上　キャラクターが一杯いるなぁって（笑）。ピン・キリだなって思いましたね。

—ピンって言うのは誰ですか。

村上　この中でも冷静でいられる人間。たぶん、裏でこれを見ていた人間っていうのもいると思うんですよ。その人は頭いいなって思いますよ。プロなんだからケガしたら試合できなくなりますもん。

—だけど、こういう時に威勢のいい人間は評価が上がると思うんですよ。例えば小原さんとか。

村上　だけどタイガーにやられてたじゃないですか。タイガーはこんなにちっちゃいんですよ。だけど、全然倒れないじゃないですか。

—そうですね。タイガーさんも途中でマスクを取られちゃって喧嘩できなくなったって言ってますもんね。

村上　アレはおかしいと思うんですよ。自分らの仲間のマスクを取られたらどう思うのってことですよ。問題はこっち側じゃないんですよ。ボクが言いたいのは自分がやられて嫌なことは人にもするなってことなんですよ。

—それはまた至極真っ当な意見ですね（笑）。

村上　簡単な話なんですよ。外の立場で言えばですよ。リングで闘ってる二人は別ですよ。ボクらにしてみれば、こうなるのは仕方ない部分だとは思うけど、節目はつけられるだろうと。

——その節目が切れた状態があのストンピングに象徴されるわけですね。

村上　中学生がカツアゲやって、金を出さないから十人ぐらいで袋叩きにして気が付いたら死んでたっていうのと一緒ですよ。あれはボクじゃなかったら死んでます、絶対！　それは自信ありますね。あとで人に聞いたら倒れてイビキかいてる状態でも、それでも蹴ってたみたいですから。

——ホントに危なかったみたいですね。

村上　ボクは病院で血を吐いた時は内蔵が出てきたと思いましたから。そのぐらいデカイ塊が出てきましたから。オレは死ぬなと思いましたから。

——うわぁ～。何日ぐらい入院してたんですか。

村上　ボク、病院大嫌いなんですぐに出てきちゃったんですよ（笑）。

——ワハハハハ！　好きとか嫌いの問題じゃないでしょ（笑）。

村上　病院からは「ちょっとでも気持ち悪かったらすぐに来てください」って言われてましたけど、そんなの一回出たら帰るわけないじゃないですかねぇ（笑）。

——無茶しますね、死にかけてたのに（笑）。病院を出てどうしたんですか。

村上　取りあえず実家に戻ってよく寝ましたね。一日の3分の2は寝てましたね。

——それは家の人は心配だったでしょ。

村上　夜中とか起こしたりしたみたいですよ。息してるかとか（笑）。

——家の人はそんな世界から足を洗えとか言いませんでしたか。

村上　オヤジは試合とか全然見ないんでわからないんですけど、たまたまあの試合の翌日にスポーツ新聞を買ったらしいんですよ。そしたら救急車で運ばれたって書いてあって。電話してもつながらないし、その日は眠れなかったらしいですよ。

Kazunari Murakami

——そりゃそうですよ。

村上　そのあとで電話したら「どうするの？」って聞かれて「頑張るぜぇ～」って答えたら笑ってましたけどね（笑）。母親もオレがそう言った瞬間、心わかってますからね。もう「頑張るぜぇ～」で終わりですよ（笑）。

——簡単ですねぇ（笑）。じゃあ、これからプロとしてやっていこうと決めたわけですね。

村上　僕は小川さんについていこうと思ってます。ついていこうと思った人にシゴかれたり、やられたりするのは何ともないんですよ。何クソと思えるし。

——ところで飯塚さんの顔と名前は一致しましたか（笑）。

村上　覚えましたね（笑）。

——村上さんが投げた身体のデカイ人は？

村上　なんだっけな。あっ！　やっ、やっ、安田さんですか（笑）。

——いい加減に名前をスパッと言いましょうよ（笑）。

村上　だって覚える必要ないじゃないスか（笑）。

——名前を覚えないと挑戦状とか出せないじゃないですか（笑）。あの試合のあとに法的措置も辞さないって発言してましたけど、どうなったんですか。

村上　どうなんですかね。音沙汰がないですからねぇ。

——音沙汰がないっていうことは新日側に対してなにかアクションを起こしたということですか。

村上　それはないですよ。ただ、ああ言えば逃げられないんじゃないかなって思って。

——前号のインタビューで佐山さんが「村上は柔術の選手ですからね。うちとはまた別の違ったところにいるんで、これは抑えが効かない」とか「これから大変なことになるでしょう」とか発言してるんですけど、まさかそれが法的措置ってことではないんですよね。

村上　結局、ボク側の人間がいるよってことですよ。バーリトゥードのヤツらとかボク自身が持ってる枠というか、仲間たちがいるよってことですよ。

——村上軍団が別にあるよと（笑）。

村上　そうですね。だから、それについてはUFOサイドでも止められないよってことですね。

——一時は新日の道場破りをするとかって話もあったわけですよね。

村上　逆に来いって言ったわけですよ。乱闘に関わったヤツらにこっちの道場に来いって言ったんですね、マスコミを通じて。1・4の時はこっちが出向いていったわけですから。

——それでも反応はなかったと。

村上　そうですね。

——あの当時はかなりキレてたじゃないですか。

村上　いまでも怒りはありますよ。こうしてビデオを見直すと一気にムカついてきますからね。いつでも闘いますよ。だけど、来ないもんはこちらとしてもしょうがないじゃないですか。結局、「来れないじゃん」って思うしかないじゃないですか。いくらこっちで言っても向こうは何にも言ってこないわけですから。UFOとしても、それ以上できないですよ。

——だから、その辺で村上さんのJJAが突破口になるのかなって思ってたんですよね。

村上　僕もそう思ってたんですけどね。「ヤルんだったらやろうよ」とボク自身はいろんな場所で言ってるのに来ないわけでしょ。やっぱりいまとなっては日にちが経ちすぎたってことじゃないですかね。

——たぶん新日側にも土足で人のリングを踏みにじりやがってっていう思いはあったと思うんですけど、具体的に飯塚さんなり、高岩さんなりの発言って言うのは出てきてないですね。

村上　新日側の意見だと橋本さんの意見だけじゃないですか。あとは蝶野（正洋）さんが「あれは村上君に謝罪すべきだ」みたいな発言はしてましたよね。だから、そういう考えの人もいるんだなって。だけど、あそこで直接関係していた人間の意見ってないですよね。橋本さんが全部一人で背負ってやってる感じじゃないですか。

——なんか言ってほしいですよね。

村上　そうなれば「じゃあやろうか」ってことになるんですけど、ないでしょ。だから、この一ヵ月間っていうのは向こうの立場になってみたり、小川さんの立場になってみたり、佐山さんの立場になってみたり、葛藤の連続でしたよ。

——タイミングがズレちゃうと、そうなりますよね。

村上　ヤルってなったらヤリますよ。だけどもうノーコンテストっていうのだけは嫌ですね。とりあえず白黒だけはつけようよって、ことですね。

——村上さんのぶつけどころのない苛立ちみたいなのは十分わかりました。それでは現時点であの1・4というのは何だったんでしょうか。

村上　小川さんは強いぞ！　心も身体も！

——じゃあ、村上さんは？

村上　僕は場外乱闘のヒーロー！

——米屋さんは（笑）。

村上　門番！（笑）

——ワハハハハ！　ところでいま週何回くらい小川さんと会ってるんですか。

村上　週に4回から5回会ってます。会わなくても電話したり。だけど、最初はあ

小川さんと比べたら たとえ菊田さんでも ナンボ何でも違うでしょ

んな偉大な人と仲良くなんてできないだろうなって思ってたんですよ。だけどアメリカに行って変わりましたね。

——UFO旗揚げ前のアメリカ道場破りの時ですね。仲良くなったきっかけって何ですか。

村上　一緒に買物に行ったんですよ。僕のジーパンを選んでくれたんですよ。十本ぐらい持ってきて「これがいいよ」とか選んでもらって。それでオレのピアスも選んでくれたんですよ（笑）。

——変な関係ですね（笑）。

村上　その頃ボクはピアスをしてて、小川さんが「サソリのピアスがいいよ」と言ってくれて標本みたいのがあるじゃないですかぁ。アレの尻尾のところをピッと切って針金をつけてもらったんですね。ケガしちゃいけないからってその針金の先を小川さんが爪きりのヤスリでキレイに一生懸命丸めてくれて、「これで痛くないでしょ」って。僕も「ここはもうちょっと曲げましょう」とかプールサイドで二人でしゃがんでやってたんですね（笑）。

——何をやってるんですか、アメリカのホテルのプールサイドで（笑）。ホモか（笑）。そんな仲良しのお二人が先日、菊田軍団が練習してる新宿のスポーツセンターに行かれたんですよね。

村上　2月の第二週目ぐらいだったですね。

——その時は誰がいたんですか。

村上　菊田（早苗）さんとか郷野（聡寛）さん、桜井（速人）さん、（佐藤）ルミナさんとかですね。

——豪華メンバーですね（笑）。ルミナさんとか、桜井さんは小川さんとは練習したんですか。

村上　やっぱり身体が全然違いますから。二人は見て学ぶって感じでしたね。

——その二人と小川さんのスパーリングは見てみたかったですけどね（笑）。

村上　やっぱり身体の違いっていうのは大きいですよ、強いとか弱いとか関係なくですよ。

——それで小川さんは先輩筋ですから、下にゴロンと寝て、そこから乱取りスタートって感じですよね。

村上　そうですね。

——一番初めは誰とやったんですか。

村上　菊田さんですね。

——どうでした？

村上　いやぁ……。やっぱり違うでしょ、ナンボ何でも。ボクも小川さんと一緒に練習してて「深いなぁ」って思いますもん、なんでも。普通の人があとちょっとってところで壁に当たるじゃないですか。そのあとちょっとを全部持ってる人間だと思いますよ。それだけ持ってて、またさらに奥を持ってますから。それは何をやっても勝てないでしょ。

——菊田さんの方にしてみれば世界の小川から一本取ってやろうって気持ちはあったんですかね。

村上　っていうか、必死でしょうね、みんな。小川さんは慌てやしないですけどね。見てて羨ましいですもん（笑）。

——凄いなぁ。

村上　国際大会の無差別級で何度も優勝してるんですからね。その国で優勝するデカイ奴らが集まって、その中で一番になってるわけですから。

——改めて世界って凄いことがわかりました（笑）。村上さんの方はどうだったんですか。

村上　結構関節とか取られちゃったんですよ。

——ええ！　取られちゃったんですか。取ったり、取られたりだったんですよね。

村上　もちろんそうですよ。

——良かった（笑）。

村上　だけど、取られました（笑）。力を入れずに闘う練習してるんで、それは当然ですよ。

——どういうことですか。

村上　例えば相手の足を持ってますよね。それで引っ張ったら相手も力を入れてくるから膠着状態になっちゃうんですよ。だから、こっちは力を入れずに足を持っているだけにして身体ごと相手の動きに合わせていくって感じなんですよ、もの凄く簡単に言っちゃうと。いままでは力で強引にねじ伏せてしまうところがあったんでそれを一切捨ててやってるんですね。だから、動きの早い、小さい人がいるスポーツセンターに行ったんですよ。だから、当然取られますよ。初心者に戻ったようなもんですもん。

——ムカっとしませんでした？

村上　正直に言えば悔しい部分はありますよぉ。だけど、そこで力を使ったスパーリングをしたら練習にならないし、第一、小川さんのところまでは絶対にいけないですもん。いまは全力を出して闘ったって全然歯が立たないんですから。謙虚が一番！（笑）。

——元気が一番じゃなくて（笑）。

村上　そうです。それで村上が弱いとか言う人もいるとは思いますけどクダらないですよ。お前は強くなりたくないのかって感じですね。小さな世界で満足してろってとこですよ。ボクは世界でトップを取った小川さんを追っ掛けてるわけですからねぇ（笑）。

——そうかぁ。前号で猪木イズムはモノを創ることだと定義したんですけど、まさにニュー村上をいま作ってる状態なんですね。

村上　そうですよぉ（笑）。

——イイですね、その姿勢（笑）。

村上　場外乱闘のヒーローですからねぇ（笑）。次は場内乱闘のヒーローになりたいじゃないですかぁ（笑）。

——ワハハハハ！　リング内でまで乱闘しなくてもいいです、ちゃんと試合しましょうよ（笑）。ホントに今日はありがとうございました。

【99年2月28日　GOLD'S　GYM行徳にて】

格闘ノストラダムス'99
プロレスか？バーリ・トゥードか？マット界の盟主を予言せよ!!

『ハマのリングで勝負しろ！』【3・14UFO】in横浜アリーナ JJA速報（？）

１・４の乱闘以降、村上への期待感がかなり高まっていた中で行われた3・14ＵＦＯ横浜アリーナ大会。第2試合にはこれまた乱闘に参加していた小幡太郎がＵＦＯデビュー。猪木さんがかなり可愛がってるらしいアメリカの元アマレスラー、ジェイソン・ブレスを裸絞めで下し、文句なしの初戦勝利を飾った。デビュー戦にありがちなダレたところもなく、常に自分から動いていく積極性は初戦としては１００点満点の出来。さて次なるプロデビューはＪＪＡの門番・米屋だ！（ウソ）

村上が登場したのはセミ。ドン・フライの欠場によって急遽変更となり、なんと喧嘩屋ジェラルド・ゴルドーが相手。″乱闘のヒーロー″と″乱闘の本職″の闘いに荒れた試合は必至。ゴングが鳴ると同時に組み合った両者だが、ゴルドーは村上の肩口にいきなりの噛み付き。期待通りの喧嘩ファイトに場内は騒然だ。あくまでクリーンファイトに徹しようとする村上だが、再度の噛み付き&目潰しについにキレて乱闘に突入。だけど、今度は主役だぜ、村上！　だが、喧嘩になったらゴルドーのが何枚も上。リングインとアウトを巧みに繰り返されて村上のやる気は完全に空回り。結局、裁定は両者反則無効試合。ところが試合後には引き上げようとするゴルドーに再び喧嘩を仕掛ける村上。あんな怖い人によく喧嘩売るよな、やっぱ場外乱闘のヒーロー！（場内乱闘のヒーローはまだ遠く？）３・14についてはバウトレビューでもどーぞ。

プロレスラーにも大好評！シリーズ第3弾

紙のプロレスRADICAL バックナンバーのお知らせ

人として・・・・・

そこの君！立ち読みしてないで、買いなさい！

このバカチンガーっ!!

モデル　DDTで衝撃のデビュー（?）を果たしたゴールデンエイトさん。

『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNo.4までは完売いたしました。チャンチャン

第5号

打倒ヒクソン・グレイシーに立ち上がった最後の刺客、高田延彦。『RADICALはいつだって高田延彦を応援するぜ!!』

◎猪木、Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎読者人気爆発!! ストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。伏せ字だらけの超過激対談パート2 ドン荒川vs藤原喜明
◎全てはここから始まった！開始前から話題騒然の新連載！前田日明のウルトラ・メガバトル人生相談『人生は語らず』
◎世界格闘技連盟を語りたおす！食い倒す？『ケーキクェイ』佐山聡（タイガーキング）インタビュー
◎"活字プロレスの悪魔（ターザン山本）"が語る高田vsヒクソンの意味！「今は高田延彦の方が前田より100倍魅力的ですよォ！」

第6号

「俺たちが世界を支える!!」と腕組みをしてRADICALに初登場したのがnWo・蝶野正洋！プロレス界、『紙プロ』の救世主となってくれ！

★特集「"プロ"と"レス" 融合か分裂か！」
◎前田日明の人生相談&パンクラス問題に日明兄さんプチッインタビュー&前田のイラダチ頂点に達す!! リングス大会終了後の共同会見完全再録
◎ゴリさんことアレクサンダー大塚のみちのくひとり旅日記'97
◎「サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合っているからだ！」TAKAみちのく毒舌爆発インタビュー
◎高田×ヒクソン戦直後、Puffyに独占インタビューを敢行！
◎打倒！八百長論議！ザ・グレート・サスケが素人相手にお説教！
◎井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司インタビュー

第7号

特集「反骨の剣」堂々の読者人気1位奪取！赤いパンツの頑固者・田村潔司鮮烈ロング・インタビュー

◎読者もシビレまくり！黒いパンツの心意気・激白 木村健悟
◎酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな大型不良新人！中原奈々インタビュー（現在失踪中）「凶器しか使わないプロレスをしたい！」
◎みちプロ経営危機の真実をザ・グレート・サスケが独占告白！「こんな経営をしていたら50年もつみちプロが5年で潰れてしまう！」
◎……ああ、好評すぎて怖い。寸止めなしの殺戮連載！前田日明の"ワールド"メガバトル人生相談「人生は語らず」
◎祝！復帰記念 モハメド・ヨネインタビュー
◎ラジカル初登場2連発！冬木弘道／MEN 'Sテイオー

第8号

「見てみ、この面!! 」シリーズ第1弾・桜庭和志の戦闘スマイル満開ショット「ヒクソンですか？ いけそうな感じするんですけどねぇ」ズバリ永久保存版！

★特集『格闘技世界大戦前夜!!』
◎アントニオ猪木「元気」と「気づき」のロングインタビュー
◎ヒクソンとの再戦が決定！高田延彦の意気込みを聞け！
◎「プロレスラーはホントは強いんです記念」格闘家から見たプロレス エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
◎波動砲！前田日明の人生相談『人生は語らず』
◎必読！黒いパンツの心意気PART2 猪木を裏切らなかったもうひとりの男 木村健悟が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る！
◎業界内外で話題騒然 吉田豪の書評の星座PART2

第9号

「見てみ、この面!! 」シリーズ第2弾・高阪剛！この顔はマット界の宝だ！「ヒクソンに勝つのは自分も自信あるし誰もが狙ってると思う」もちろん保存版！

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖！無礼講大特集!!」前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番　久々に大炎上！ターザン山本／燃える情念！石川雄規
◎衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言 業界病を吹き飛ばせ!!
◎前田日明 ラス前ロングインタビュー&炸裂人生相談
◎日プロOB吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海マット界時事放談
◎各方面で大反響!! ［格闘家からみたプロレス！］朝日昇
◎大ブレイク谷津嘉章最強宣言！「グレイシーよりアマレスの方が強い！」ハッキリ言ってこれを読まなきゃプロレスファンとはいえない！

第10号

「驚愕の表紙」シリーズ第1弾・前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げ掛けたスクープ対談がここに実現!! まさにプロレス者必携の一冊

★特集「灼熱の地殻変動'98」大和魂は連鎖する!!
◎とにかく元気！高田延彦ロングインタビュー
◎「タイガーマスクのマスク取れって言ったの、俺じゃん？」等々またまた大爆発！衝撃の谷津嘉章インタビューPART2
◎社長&会長対談 ザ・グレート・サスケvs松永高司全女会長
◎『紙のプレイボーイ』発進!! ダイアナ&宮内美穂
◎大噴火!! ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
◎『紙のプロレス』スーパースター列伝 北沢幹之
◎冬木弘道（with金村ゆきひろ&伊藤豪）ロングインタビュー

第11号

「驚愕の表紙」シリーズ第2弾・格闘Viagra'98 高田延彦vsエンセン井上烈談!! こんな対談が出来るのは本誌だけ！お買得にもほどがある一冊

◎前田日明引退記念特集&ラストマッチ後・初インタビュー　前田日明
◎良くも悪くも大反響！ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評！
◎「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）／福田雅一インタビュー
◎ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本インタビュー
◎バトラーツ両国進出記念特集 石川雄規／トンパチ・マシンガンズ（折原&小野）／岡本衛／マッハ純二／土方隆司
◎SWSの真実がいま初めて語られる！「S多重アリバイ」アポロ菅原
◎他じゃできない！UFO大特集!! &Mr・ウォーリーピンナップ

第12号

10・11「PRIDE.4」マルコ・ファスに激勝した、我らがアレクサンダー大塚！マット界の救世主アレクのマルコ戦直前の声を聴け！　そして感じろ!!

★特集「格闘TEPODON!! '98」
◎ヒクソン戦直前！ なにかが違う 高田延彦暴走ロングインタビュー
◎「プロレスファンよ踊れ！祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド登場
◎人気大炸裂！「S多重アリバイ」第2弾 アポロ菅原インタビュー
◎桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一／神取&北尾／八木淳子／ダンプ松本／志生野温夫インタビュー
◎猪木イズム世界一決定戦 石川雄規&ザ・グレート・サスケ
◎格闘王から相談王へ前田日明人生相談「人生は語らず」堂々復活!!
◎話題騒然!! What is プロ格闘家？菊田早苗&郷野聡寛インタビュー

第13号

10・11『 PRIDE.4』アレクサンダー大塚が路上の王マルコ・ファスに激勝し一気にマット界の救世主に！もちろん表紙もアレク。んむはぁ。

★特集「四角いジャングルRADICAL」
◎実写版『1・2の三四郎』降臨！アレクサンダー大塚インタビュー
◎『10・11 PRIDE.4』とは何か？ザマアミロ雑談会!!
◎高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
◎前田日明・エンセン井上が語る『高田vsヒクソン戦』!!
◎谷津嘉章（プロレスラー代表）・島田裕二（レフェリー代表）・浅草キッド（プロレスファン代表）から見た『10.11 PRIDE.4（その他）』
◎大反響！SWSを徹底再検証『S多重アリバイ』第3弾 ケンドー・ナガサキ
◎ボブ・バックランド／松永光弘／リッキー・フジ／堀辺正史インタビュー

第14号

創刊2周年記念号やんけ！前田日明最後の大航海!!　戦慄のカレリン戦迫る！泣いても笑っても、この一戦がラスト・オブ・アキラ!!　でしょ。

★特集「格闘DREAM CAST」
◎前田日明独占ロングインタビュー／これがカレリンの発した言葉だ!! ／池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談／"人類最強の男"に関する証言ファイル
◎連勝街道爆進中！金原弘光ロングインタビュー
◎RADICAL版　ゆく年くる年'98－'99座談会　マット界へ愛をこめて
◎舌好調！谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!! '98年マット界総括編
◎『高田道場1999!』高田延彦／桜庭和志／佐野友飛／松井駿介／豊永稔インタビュー
◎幻のSWSを再考察『S多重トンパチ』第4弾　折原昌夫
◎『虎の尾を踏む男たち'99』小路晃／4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫

第15号

"1・4事変" ボッ発!! 猪木イズムは連鎖する!!『プロレスファンの皆様！目を覚ましてください!!』と小川直也が東三四郎マスクとともに見参！

★特集1「格闘MARS ATTACKS!」
橋本戦の核心を語る 小川直也with.S.Sインタビュー
「乱闘？あれはね、強い者イジメ!!」佐山聡／4代目タイガーマスク／UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
◎前田日明USA特訓を直撃！本物降臨!! アレキサンダー・カレリン 浅草キッドの前田日明熱烈応援文 アニマル浜口親子のハラワタ対談！
◎「馬場さん、目を覚ましてください!! 」ジャイアント馬場追悼特集
◎みちプロ分裂直前SASUKEインタビュー&デルフィン退団記者会見
◎マサ・サイトー引退記念座談会「語ろうマサ・サイトー！」
◎夢の団体SWSを徹底検証2連発！『S多重アリバイ』第5弾 佐野友飛 & 第6弾 MrK

【バックナンバーの購入方法】

●お申込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります。
（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）

●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702
（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。

代金は創刊号＝610円　2号＝660円　3号〜10号＝680円　11〜15号＝780円　送料1冊＝310円　2冊＝340円　3冊〜4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円

●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店

・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店・横浜"AO" CORNER・下北沢バンバンビガロ

1999 no.16

人間で生きたい
人間で死にたい
人間になりたい
(byジャイ子)

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.16 MAIN-EVENT

● SCANDAL&SCOOP

● SPECIAL NOVELS

● RADICAL FIGHT

● COLUMNS

● ANOTHER

※ピンポンパンポーン。青空プロレス道場生のグラン様、堀江様、観戦記送ってくれたのはいいんですが、これ、チット使えませ〜ん。ピンポンパンポーン。

RADICAL特製
★ピンナップ★
みちのくエイド開催記念
ザ・グレート・サスケ

RADICAL特製
★ポートレート★
修斗クンの息子誕生記念
エンセン井上&修斗クン

Art Director
出田さん●San Ideta
Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/エンセン井上&修斗クン
撮影/斉藤ユーリ
スタイリング/Enson Inoue
ヘア&メイク/Enson Inoue

※「RADICALとは何か?」って、ワタシわかるヨ。簡単ネ。「根源的」、「根本的」って意味ヨ。これで女の子、また寄ってくるネ。

プロレスか？ バーリ・トゥードか？ それとも格闘芸術か？
混迷のマット界の次なる盟主は誰だ!?
格闘ノストラダムス座談会
あるいは編集部員たちによる度を超えたヨタ話

危機感は誰もが口にしますよ 問題なのはその先に見えるものがあるかどうか（チョロ）

ノブ　え〜、今回も司会をやらせていただきます。

山口　懲りずにまたやるの？（笑）。オレ、ヤダよ、お前の司会で座談会やるの。まとまりがなさすぎるんだもん。まあ、いいや。えー……まず言っておきます。日本一の写真週刊誌『FRIDAY』の副編集長、かつて猪木さんのスキャンダルを仕掛けた「仙波山にはタヌキがおってさ」で有名な仙波久幸記者から、クレームが入りました（笑）。前号の1・4ドームのことについての座談会において、ボクが「断言します！　当日、仙波記者は酔っ払ってて試合はよく見てない。あとでコトの大きさを知ったというね。けっこういい加減なんだよ、日本一の写真週刊誌も（笑）」「人のバッグにビールを引っかけたりして、酔っぱらってたんだから、仙波は」とか発言してるんですが、その部分についてのクレームです。「確かに山口編集長のバッグにビールを引っかけたかもしれない。ただ、ビールを奢ったのはオレだ！」ということです（笑）。クレームの内容は以上。「あと、呼び捨てにするな」とも言ってました。

一同　ガハハハ！

山口　これは、仙波の名誉を著しく傷つけたと思うので謝罪致します。

豪　また呼び捨てにしてますよ。

山口　ビールをおごってくれた仙波記者はエライ！　万歳！　というわけで、え〜、全国一千万の読者の皆様！　ジャイ子が便器に携帯電話を落としました！

ジャイ子　むー!!

豪　それ以来、ブルーでひとこともしゃべりません!!　でも、ジャイ子はただデカいだけじゃないですからね。

山口　そうだ！　その仙波記者は「ジャイ子さんはただデカいだけじゃない。キレイだよ」と気の狂ったことも言ってました（笑）。さ、お遊びはここまでにして。大変だよ、もう。怖ろしい時代だね。インターネットで『週プロ改造計画』なんていう掲示板が出てくるなんて（笑）。

豪　「キ●●●に原稿を書かせるな」とか（笑）。大変ですね。

山口　素人がプロに文章指導してるもんね。

チョロ　インターネットの『紙プロ応援団』っていう掲示板に関する見解を出さなくていいんですか？　小さい頃の『紙プロ』が大好きな読者がやってるみたいで「公認してくれ」ってハガキが来てましたけど。

山口　ウチはド素人には触りません！

豪　ボクのことをホメてくれてるから、ボク的には許可ですね。

山口　じゃ、オレもホメてくれるヤツだけは許可する（笑）。

ノブ　公認はしないんですか？

山口　お前もド素人だね、どうも（笑）無断転載だなんだと面倒臭いことがあるから、一概に「公認します!!」とは言えねえんです。個人的にはしてあげたいけど。ま、その問題はまたあとでね。

豪　まあ、『紙のプロレスRADICAL』もロクに読まずに、「『紙プロ』本誌を出せ」とかいう意見を言ってるうちはダメってことですかね。

チョロ　でも、「『紙のプロレスRADICAL』は吉田豪の成長による部分が大きい」っていう書き込みがありましたね。

豪　その通り！　だからお前らも成長しろよ!!

ノブ　お前らって言いながら、ボクの方しか向いてなかったですね（笑）。では、始めさせていただきます。

山口　せっかく、前回の座談会が「1・4は『マーズアタック』だった」っていう素晴らしい展開を引き出したんだから、今回も話を盛り上げようよ（笑）。

豪　っていうか、ボクが素晴らしいことを言ったようにね。

山口　何言ってんだよ、この金髪のナルシスト!!（笑）。オレが話しの流れを作って、ヒントを出したんだよ。吉田豪ファンは勘違いしてるよ、目を覚ましてくださ〜い（笑）。

豪　いいから今号の奥付は「スーパーバイザー」にしとけよ。

ジャイ子　したよ、ジャイジャイ。

ノブ　ジャイ子は奥付担当だからね。ジャイ子はSB（性病）？（笑）。

豪　あっ、オレもSB（ホントはSV）か？

ブチ　ハハハハ！　性病仲間（笑）。

ノブ　……え〜、この対談を始める前に、ボクが中村さんに「最近、プロレス界はつまんない」って……。

豪　お前、この仕事を辞めろよ!!

山口　ガハハハハ！

ノブ　いや、オレは「『つまらない』って言われてますよね」って言おうとしたんですよ。たとえば、大仁田選手が上がってる新日に対して「あんなの新日じゃねえ」とか……。

豪　違うよ。大仁田選手を上げたりするのは昔ながらの新日。ラリアットとか雪崩式を乱発してるのが、間違った新日。

ノブ　でも、ホント大仁田選手は面白いですよね。

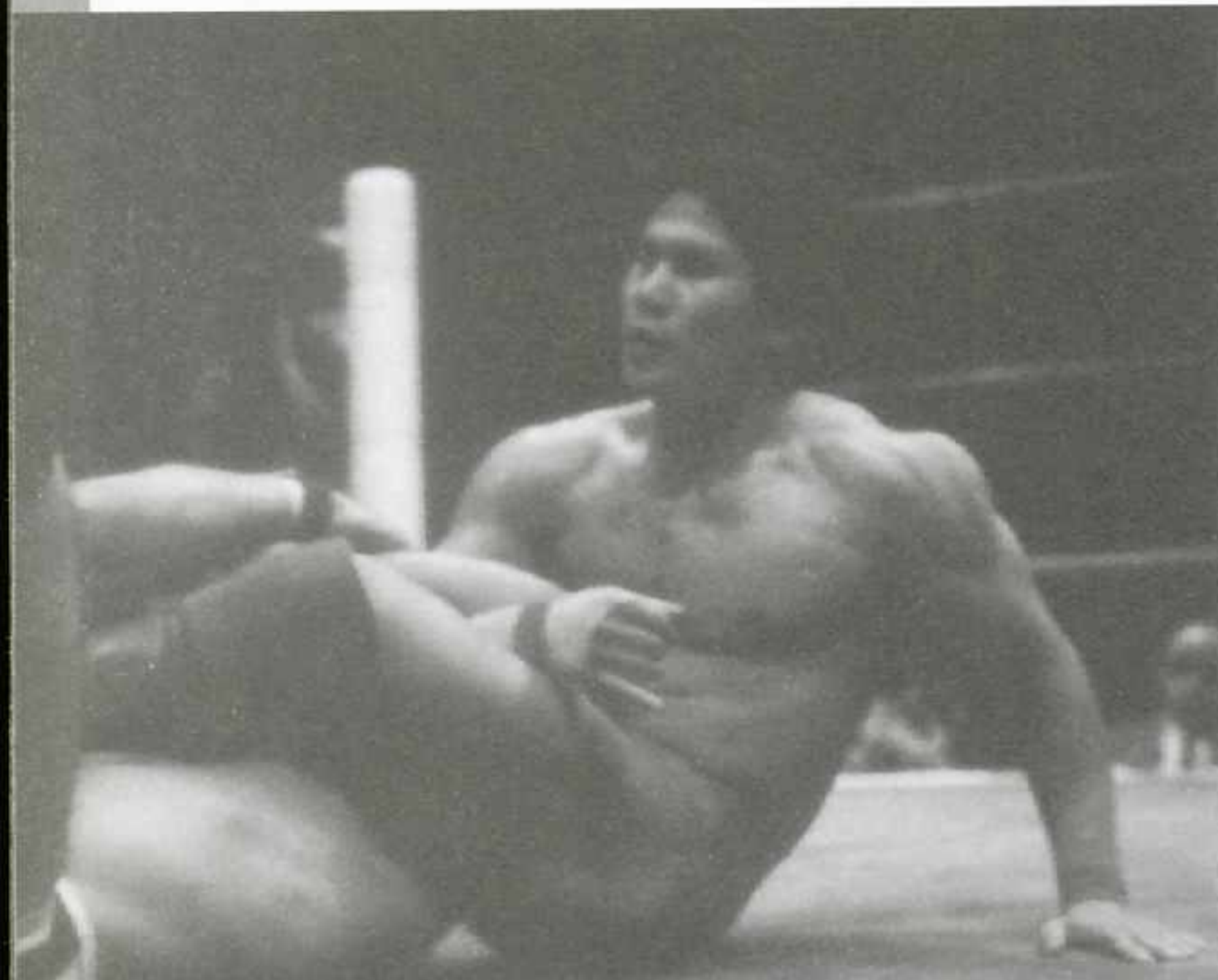
豪　試合はつまんないけどね。

チョロ　3月7日の大仁田興行で真鍋アナと大仁田選手のやり取りを見てたけど楽しかったですよ（笑）。大仁田選手が前から歩いてきたときに、防波堤のように立ちはだかったんですけど、殴ってくれないもんなんですね。

山口　またお前は自分の宣伝かよ！

ノブ　会長（＝山口日昇のあだ名）もメチャクチャ面白がってたじゃないですか。

山口　……大仁田についてはノーコメント！　ただ、ひとつだけ言っておく！　オレも、オレもハンバーガーが好きなんじゃ！

チョロ　それ、ネタ的にもう古いですよ（笑）。

プロとして、己の信じる道を進む田村。UWFスタイルで、最も光輝く存在なだけに、ファンのからの期待も絶大である

山口日昇（やまぐち・のぼる）本誌編集長。非常に凶暴な男。最近は『ワールドプロレスリング』の大仁田劇場に首ったけ。

山口　いまは「永島のナマハゲ！」か（笑）。韻を踏んでるよね。

豪「山本、Uはお前なんだよ」に続く発見ですね（笑）。

山口　それで思い出したけど実はね、今回の表紙は佐山聡でいこうと思ったんだよね。コピーは「Uスタイルはボクが守りま〜す、ウフフ」っていうの。どう？（笑）。

ノブ　日明兄さんが激怒しそうですね。前号でUFOの小川直也選手を表紙に使いましたよね。で、今号では「新日を取材しないのはおかしいじゃないか」ということで、ボクは交渉したんですけど……。

山口　キミが新日本の声を聞きたいというから行ってきたんでしょ？

ノブ　ええ、もちろん。編集会議でやるべきだという話が持ち上がりましたからね。

豪　何を人のせいにしてるんだよ！　お前の力不足だろ？

山口　ポシャッたんだろ？

ノブ　いや、そのとき言われた台詞が、「山口日昇が編集長である限り、そして『紙のプロレス』という雑誌名である限り、取材は受けられません」ということでした。

山口　わかった。オレも名前をケビン・ヤマグチにして雑誌名も『紙のドームプロレス』にしよう（笑）。

豪『紙のアメプロ』とかね。

山口　それで？

ノブ　えっと……うう〜ん、あ〜。

山口　話を進めろよ！

ノブ　今回の座談会のテーマが「プロレスか？　バーリ・トゥードか？　マット界の盟主は誰だ？」というテーマです。でぇ、『PRIDE.5』とか全体的にそういう流れで……。

ブチ　どういう流れ？　お前はわけもわからずにしゃべらないでみんなに聞けば？

ノブ　最近、何か面白いことありましたか？

豪　そうじゃねえだろ（怒）。なんか、バーリ・トゥードとプロレスっていうテーマで感じたことないの？

ノブ　田村（潔司）選手はだいぶ危機感を持ってて、日明兄さんの引退試合のときも「ボクがUスタイルを守ります」っていう発言をしてましたけど……。

豪　試合を見てる限りは、危機感っていうか楽しそうだったよなぁ。

チョロ　危機感は誰でも彼でも口にしますよね。実際に客が入ってないわけだから、たとえバカでも考えてなくても、そういう単語は出てきますよ。その先に見えるものがあるか、ないかですよね。

豪　何を提示するかでしょ？　そこで田村はグルグル回るような進化したUスタイルの面白さを提示してるわけだよね。

ノブ　ヤマケンは、そこから出ていきましたよね？　チョロさん的には、どちらの方が共感できますか？

チョロ　どっちもわかり過ぎるほどわかりますよね。田村はUと共に育ってきたわけだし、他のことを知らない。Uの10年間で他の純プロレスなことはわからない。だからUスタイルからはみ出したことは、やりたくない。相撲出身ですから、相撲に例えて言ってましたね。「横綱がバーリ・トゥードとかに出ていきますか？」って。その通りだと思いましたね。だから、オレはそっちには出ないで欲しいです。

豪　でもK-1出てる（95年12月9日、名古屋レインボーホール vs パトリック・スミス）じゃん。あれがなかったら、いまの田村幻想ってないでしょ？　1回でもああいうことをすることによって幻想は出来るわけだけど、そろそろ風化してるからね。あの頃はバーリ・トゥードをやること自体に刺激があったけど、いま見ると「あの相手で、あのルールだったら勝って当然」っていう感じがしちゃうから。

山口　要するに、ファンは鬱憤を晴らしてほしいんだよ。アレク（サンダー大塚）選手や他の選手が結果を出してる時代の中で田村選手にもやってほしいという意見が多いんでしょ？　で、「どうだ、見たかーっ」ってファンも胸を張りたいっていうか。

チョロ　でも、田村選手に「UFCやバーリ・トゥードに出ないんですか？」って聞くのも気が引けるんですよね。

豪　なんで？

チョロ「そういう質問をする方がおかしいんですよ」っていう答えが待ってそうじゃないですか？　まあ、実際聞きましたけどね……。

豪　出ないでいる以上、いまのリングスはああいう状態なわけでしょ？　それは好転しないよね。出れば好転するのかどうかはわからない。ただ、田村はクルクル回転する華麗な試合を見せつけてるけど、それじゃあ現状維持なんだよね。

山口　でも、確かに田村の試合はいつ見ても面白いよ。

豪　それはわかるんですよ。ただ、じっさいに会場まで行こうという気にさせるかどうかなんですよね。

山口　それに、田村が守っていくと宣言した「Uスタイル、リングス・スタイルとは何か？」の定義がハッキリしてないんだよね。

ブチ　ボクは村上（一成）さんに新しい流れを感じましたよ。

豪　プロレスに興味のない人間が、プロレス界に入ってきてるということだよね。

ブチ　そう、それで「プロです」と名乗ってるにも関わらず、新宿スポーツセンターに行

ルスカが講道館に出ゲイコに行ったらしいんですよ。翌日から"プロ禁止"の張り紙があったって（吉田）

ついに、あのPRIDE.シリーズが帰ってきた！　真ん中に座ったのはエンセン井上。高田の表情も心なしか冴えないのは気のせいか

って、菊田（早苗）選手に取られちゃう。普通の感覚で言ったら「なぁんだダメじゃん」ってなりますよね。

山口 それはいままでのプロの価値観でいったらね。

ブチ だけど、村上さんがやろうとしたことは単なる練習なんですよ。「強くなるために練習してるから、（一本）取られて当然だ」っていう。言ってることは正しいわけですね。プロだから「勝っちゃいけない」っていう……。

山口 は？ 勝っちゃいけない？ 何言ってんだよ、このナマグサボーズ!!

ブチ デヘヘヘ、「負けちゃいけない」という幻想も崩れてますよね。間違えちゃった（可愛らしく）。

山口 「プロが素人に極められてはいけない」という幻想が、崩れだしてるということね。

豪 それは村上がプロレスが好きじゃないからだと思うな。プロレスという概念が頭に入ってないんでしょ。ブチの中で村上さんってプロレスラーなの？

ブチ まだどっちでもない。なろうとしてる状態ですから。なれるか、なれないかは村上次第ですよ。

山口 昔は、団体や道場や会社がプロレスラーになるまで面倒を見てあげてたんだよ。でも、選手たちの側の希望もあって、いまはフリーとしてやっていける状況でしょ。その分、甘えられない、評価も厳しくなっていくからね。

ブチ たしか田村選手も2年くらい前にサンボの五木田（勝）選手に極められたって言ってましたよね。

豪 でも、それはサンボだからだよね。完全に土俵がちがうんだよ。田村自身も「土俵の違うものであれば、負けてもいい」って言ってるんだよね。

山口 「プロレスラーが素人に交じって、そういう練習をするようになったというところが新しい」と、ブチはそれに衝撃を受けたっていうけど、そういう流れはとっくに始まってるんだよね。〝娑婆じゃない世界〟と〝娑婆〟のクロスっていうのは。それに田村の話は、それを公にしたことが衝撃的だったわけで、それまでにもあったんだよね。

豪 今日、あるプロレス評論家の方に聞いたんですけど、ウイリエム・ルスカは各大学に出稽古ガンガン行って、講道館にまで行ったらしいんですよ。そしたら翌日、「プロ禁止」っていう張り紙がしてあったって（笑）。

山口 ガハハハ、いいファンタジーだねぇ。

チョロ パチンコ屋みたいっスね（笑）。

豪 山下（泰裕）あたりを片っ端から倒してたらしいですね。

山口 いま、それに近いことをやってるのが小川直也だね。新宿スポーツセンターに張ってあるんじゃないの？ 「プロ禁止」って（笑）。逆に、昔の新日本プロレスの道場は「素人禁止」だったわけだよね。

豪 来た以上はタダじゃ返しませんよ、と。

山口 一筆書かせて「ただじゃ返しませんよ、ケガしても保証はしませんよ」ってやってたわけだよね。

豪 誰か全日本に道場破りに行ったりしてないんですかね？

山口 いくら何でも、三沢のエルボーを食らいたくないだろ（笑）。

ブチ 佐山さんがプロの技術を素人に教えこんで外に流出させちゃいましたよね。だけどそれによって競技人口が増えたわけですから、これから新たに「プロ」というラインの引き直しが始まるんじゃないですかね？ そういう流れがあるから、面白い時代になると思うんですよ。

山口 メチャメチャ面白いですよ！ ウチらマスコミの世界でも『週P』の記者たちが素人にインターネット上で叩かれてる時代だからね（笑）。読者ハガキとかだと編集部側が都合の悪いものは載せなきゃよかったけど、いまは読者の善意も悪意もすぐに広まる時代でしょ。

豪 怖ろしい時代になりましたよね。

山口 要は〝悪意が宙を飛ぶ時代〟だから、プロレスも格闘技も本当の実力勝負の時代になっていくよね。たとえアメリカンプロレスの中でも完全実力主義になっていくと思うよ。シュートだとか、フェイクだとか、そういう次元の問題じゃなくてね。本当にプロとして通用する次元のものしか食っていけなくなるだろうし、やる側も個人個人が責任を持っていかなきゃいけない時代でしょ？

豪 ボロが出たらすぐバレちゃいますからね。

山口 以前は団体が個人を守っていた時代だったわけだけど。これからは、個人個人が自分を演出して、戦略を考えて自分を売り出していく。すっごい個人主義になってやりやすい状況になっていくと同時に、選手ひとりひとりにはしんどい状況になるよね。

豪 「ノブはキャラが立っていない」とか素人に書き込まれてましたからね、怖ろしい時代ですよ（笑）。

山口 それが1時間以内に、世界中を駆け巡るわけですよ（笑）。

豪 「吉田豪は素晴らしい」というのも世界中に広まるんですよ（笑）。

山口 そう来るか、この金髪鬼（笑）。

豪 プロレス側の記者が叩かれるのと同時に、格闘技側の雑誌も叩かれ始めてますね。「格通の編集姿勢がダメだ」とか。

山口 でも、いくら素人が文句言ったところで、「プロ」と「アマ」っていうのは、線引

2月中旬、仙台でキャンプを張り、バトミントン特訓を開始した高田。反射神経を使う練習に取り組む。一方、マーク・コールマンはＳＲＳのスタジオマッチで小路晃を相手に、脅威の殺人スープレックスを披露した。高田、再起への道は、いきなり大きな難関に立ち向かうことになった

プロレスと格闘技っていう分け方自体がもう古い。ウチはプロフェッショナルな世界しか扱わない!!(山口)

きとして厳然としてあるものだから。その「プロとは何か?」ということを前田日明はずっと唱えてるわけでしょ? 「月に1回の興行をやっていかなきゃいけないんや」と。食っていくためには、現実を見なきゃいけないこともあるよね。要は、シンドイ作業も含んだ上で、その道で食っていく覚悟があるかどうかということだね。な、ノブ?

ノブ …………。

山口 話を進めろよ!! このデブ(怒)。

ノブ まあ、素人に極められようとも、批判されようとも、プロはプロで……。

ブチ そういうことを言ってんじゃねえんだよ。

豪 最近はアマチュアが確立してきてるわけでしょ。

チョロ ヤマケンは「Uはアマチュアを確立出来なくて、それが顕著に現れてる。客も来ない。下から選手も育ってない。逆に修斗はアマチュアが確立して、選手は少ないとはいえ、競技として確立し始めてる」って。テレビ東京で中継も始まるんですよね。

ブチ そう。記者会見に行ったんだけど、佐藤ルミナ選手は「広く一般の視聴者をターゲットにしていきたい」って言ってるんですよ。逆に魔沙斗選手(全日本キック)とか、パンクラスの渡部謙吾選手は「自分が強くなる」とか、「パンクラスの中で強くなる」とか、まだ考え方が内側というか。若いから当然だけど。

ノブ 一方、プロレス界に目を移してみると、話題となってるのは新日と全日がほとんどという状況ですよね。

山口 そんなことはねぇだろ。

豪 面白いことは起きてるんだけれども、なんかね、『紙プロ』的にはやりづらいネタが多いっていうかね。雑誌的に見ると馬場さんの死と大仁田で占めてはいるよね。「1・4を消せ」っていう思惑もあるだろうし、いろんな思惑がありますよね。

チョロ アブダビ・コンバットは一般誌にも取り上げられていますよね。単純にあれ、結果は興味ありましたよね。

豪 盛り上がってるとはいうけど、それって日本だけでしょ?

山口 関係者に言わせると、世界的なムーブメントだというんだよね。まあ、柔術っていうのは認知されてきたよね。

豪 やってることは凄いのかもしれないけど、打撃がないからなあ。

山口 修斗も盛り上がってるよね。いや、底辺拡大っていう部分でね。『PRIDE.』シリーズもやりゃあやったで、盛り上がるでしょ、観客動員は別として(笑)。だから、いまの話題は全部局地的なんだよね。マット界を関連づけて考えられるような、大事件が1・4しか出てきてないんだよね。「マット界」という大きな括りがどこからどこまでなんだっていう問題もあるしね。ウチは「プロレスも格闘技も関係ないですよ、面白いもんが善ですよ」っていうスタンスをとってるからいいけど、『週プロ』『ゴング』『ファイト』と『格通』はそうも言ってられないだろうしね。

チョロ ウチも今号は悩みに悩んで、エンセンが表紙になったということもありますけど、エンセンは重要なポジションにいる選手ですよね。

山口 ウチはプロフェッショナルなものしか扱わないという線引きがあるからね。格闘技方面になってくると、プロとアマも関係なく強い者がトップを取る時代になってきてる。

豪 そういう場にまた足をつっこんじゃった佐野(友飛)選手っていうのは(笑)。

山口 リアルな時代だよねぇ(笑)。でも刺激的だよね、リアルな時代って。

ブチ 佐野選手はパンクラスを一段と熱くさせましたよ(笑)。

豪 面白い状況なんですよ、いまの状態は。ここで誰がトップに行くかっていうのがキモですけどね。

山口 プロレスと格闘技っていう分け方自体がもう古いんじゃないの? 「プロレス=格闘技」だとか、Showみたいなヤツが、人が言ってることをうろ覚えのまま、あっちこっちでベラベラしゃべってるみたいだけどさ(笑)。

ブチ ウヒャヒャヒャ。

豪 プロレスは格闘技を含むものなんだけど、格闘技はプロレスを含んでるわけじゃないんですよね。格闘技のすぐれたものが、プロレスに通じる魅力があるだけでプロレスと格闘技が「イコール」であるはずがないんですよ。全然、格闘技を含まないプロレスも山ほどあるし、プロレスにはほど遠いダメな格闘技もある。それを「イコール」って言ったら、怒りますよ。「イコールなものもあるよ」っていうだけで。

山口 そう。あくまでも「地続き」として捉えておかないと。そうしないと広がりが少なすぎて、プロレスにしろ格闘技にしろ局地的でマニアックなものになってしまうからね。

豪 その括りが「戦国! プロレス=格闘技読本」じゃダメなわけですね。

山口 Showは人が言ったことを自分が考えたようにホントに思い込む才能があるから(笑)。やれやれ、なんだよね。

豪 「Showは立ち直れるのだろうか」ってハガキも来てましたよね(笑)。そういえばノブの頭の中では「プロレスと格闘技をハッキリ分けちゃってる」ってこの前言ってたよね。

ノブ ええ………。

山口 なぜそこで止まる(笑)。でも、分けちゃってても全然問題はないと思うよ。前号のインタビューで佐山聡は「プロレスは真剣勝負じゃ………ない」って言ってるよね(笑)。あれは、プロレスファンには衝撃だったと思うんだけど。でもよく佐山の言葉を読み込んでみると「プロとアマは違いますよ」って言ってるだけなんだよ。それは言葉が足りないから誤解を生むんであって……もしくはわざと誤解を与えるようにしてるんであって(笑)。

ブチ デヘヘヘ、そっちのような気がする

向かうところ敵なしの大仁田vs真鍋アナの遺恨シリーズ。抜群に面白すぎる展開である。これ見たさに、新日の中継が視聴率が上昇中だとか。本誌編集部も大仁田タイムは全員テレビに釘付けである

（笑）。

山口　プロとアマは違うんだよね。エンセン井上はプロの闘いをしてる。

豪　そうですね。アブダビでもプロらしく投げようとしてみたりして。マッハ（桜井速人）とエンセンぐらいだね。

山口　プロレスラーの中でもアマチュアみたいな試合をする人もいるだろうし、プロ格闘家の中にもアマチュアみたいな試合をするヤツもいるしね。

豪　というか、「プロ」ってものを勘違いしたヤツが多いんですよ。

山口　いまはプロとアマが線引きしにくくなってる玉石混淆で刺激的な時代なんだけれども、いまこそ「プロ」っていう概念を考えなきゃいけないと。それを考えてるのが、たとえば田村なわけでしょ？　だから「Uスタイルを守っていきます」という発言につながってくるんでしょ？

豪　「オレがプロや！」ってグルグル回って見せてますもんね（笑）。

山口　それが10年前のUスタイルかどうかを論じることは重要じゃないんだよ。田村選手が何を考えてるか、考えてないかが重要なんであって。ヤマケンも確かに考えてるし。オレは、みんな正しいと思うよ。蝶野選手も言ってることは正しいと思うし。だけど、UWFがなぜ魅力的だったかというとリングの中、つまりソフトの改革をしたからだよね。蝶野たちがやってることはハードの改革だから。ソフトの本質的な部分を変えようというわけじゃないでしょ？　会社の待遇を良くしようということだからね（笑）。

格闘ノストラダムス'99
プロレスか？ バーリ・トゥードか？ マット界の盟主を予言せよ!!

豪　「金よこせ」ってことですね（笑）。

山口　一言で言ってしまえばね（笑）。UWFがいつまでも語られるムーブメントを起こせたのはソフトを変えていこうとしたからだよ。

豪　リングスが凄いなあと思うのは、前田日明にしても田村潔司にしても、ヤマケンにしても、高阪剛にしても、みんなプロ観がバラバラなんですよね。

山口　それがひとつの〝場〟に集まってるっていう魅力があるよね。

豪　いつ壊れるかわからないっていうギリギリの危うさですね（笑）。

山口　その緊張感が本来プロのせめぎ合いの〝場〟として機能していくんだけどね。どっかみたいに選手の思想をおしなべて画一的にさせちゃ面白くない。

チョロ　全日も最初はプロ観がなくても、段々と馬場イズムを身につけていきますからね。

豪　新日も長州イズムのプロ観でしょ？　どこもプロ観は統一されてくるんだけど、リングスはグチャグチャですね。

山口　その昔のUWFを産み出した昔の新日本っていうのも、みんなプロ観はバラバラだったと思うんだよね（笑）。

豪　荒川さんがいたっていうだけでわかりますよね。

日本からアブダビに遠征した選手団の集合写真。鶴巻は以前、リングスそしてW★INGに参戦経験あり

山口　ジョージ（高野）がいて、クロネコがいて、星野勘太郎がいて、藤原組長がいて、猪木さんはそのトップにいる。おまけに前田、高田、山崎がいて、長州、藤波までいるんだから（笑）。

豪　グラン浜田までいた（笑）。

山口　そういうグチャグチャな中にいて、みんながイデオロギーの違いを争っていたから、面白い〝場〟として機能してたんだよ。いまは細分化されて、それぞれが画一的すぎちゃってて、ビッグバンは起こらないよね。

豪　グチャグチャなものをぶつけ合う場が欲しいわけですよね。

山口　そういう場を作って欲しいと思わない、ジャイ子？

ジャイ子　なに作るんですかぁ？

山口　また聞いてねえよ、このデカ女。たしかに、プロレス＝格闘技ではないんだけど、プロとしてイデオロギーの違いを主張できる場がなきゃダメじゃない？　ということをボクはマット界の総合誌宣言の肝として押し出したいわけだよ。ノブ！

ノブ　……はいぃ。

豪　リアルな時代は辛いね、ノブ（笑）。

山口　UWFが従来のプロレスに対立概念を置いて、理念を突き刺していったように、それぞれが主張しあわずに、傷つかないように閉じこもってたらマット界は活性化していかないですよ。エンターテインメント路線もレベルアップしていかないとキツくなっていくと思うよ。WWFとかの映像を見てりゃわかるけど、向こうはキャラクター付けるのにも徹底してやってるからね。

豪　日本のキャラクターは犬軍団とかですよね（笑）。

山口　貧乏臭いんだよね（笑）。どっちの方向に針を振るにしても、徹底的にやらないとキツくなるんじゃないの？　アレク（サンダー大塚）は、その振り幅が評価されたんだよね。

ブチ　アレクさんにしてもそうですけど、プロレスやる以前のバックボーンって重要ですよね。

豪　最近、その重要さが言われてますよね。この間、ジャンボ鶴田にインタビューしたときは、アルティメットが出てきてからバックボーンが重視されるようになってアマレスの強さが認められた、っていう話をしたら鶴田が大きく頷いてましたね。全日にはバックボーンがしっかりした選手が集まっていたけど、昔はまったく気にならなかったじゃないですか？　結局、昔の新日が幻想を持てたのは、道場に幻想があったからですよね。砲丸投げの猪木さんでも、中卒でそれまで何もしてない藤波だろうが、それでも幻想を持てたんですよ。

坂井ノブ（さかい・のぶ）本誌デブ。入社2年で体重15キロ増量。酒癖が悪いポンコツ野郎。

山口 「中卒で何もしてない藤波」って。ひどい言い方するね（笑）。
豪 藤原組長だって、ボディビル出身ですよね？ 何もないんですよ。（ドン）荒川が柔道やって、長州力のアマレス、ぐらいですよね。
山口 でも、もう昔の道場論じゃ通用しなくなってきてるよね。新日本の道場では「しごきがあって、ハードな練習があって、あそこを通過すれば超人的な強さを身につけられる」という幻想があったでしょ？
ブチ 小川選手は、40～50キロあるバーベルを片手でひょいひょい持ち上げるらしいですよ（笑）。
山口 ナチュラル・パワーも大事というのが再認識されつつあるよね。
豪 それとデカさ！
山口 そして元気で、面白い！っていうのが、求められてるプロ像だよ（笑）。
豪 そうすると、全部当てはまるのは小川直也ですね。
山口 長州、前田、猪木と引退してしまい、ジャンボ鶴田も引退し、馬場さんも亡くなっていう中で、求められているプロ像に近いっていったらエンセンしかいないじゃない。プロレスラーじゃないけど。あとは、田村潔司、アレクサンダー大塚、桜庭和志……うちが好きな連中で正解なんですよ。ただ、それが大きな起爆剤になってないところが、歯がゆいところでさ。『格通』だって、プロレスラーを載せるべきだと思うよ。

大仁田興行が面白かった新日、全日でもひとりの力で後楽園ホールを札止めに出来る選手はいない!!（チョロ）

豪 カレリンさえ載せませんでしたからね。
ブチ 小川選手にしても、エンセン選手にしてもジャンルとしてはバラバラのところにいるんですよね。それが集まる可能性がある場がいま『PRIDE』ぐらいしかないんですよね。
豪 あとは『SRS』のスパーリング？（笑）。
山口 それを超えるくらいの大きい場を前田日明につくってもらいたいんだけどね。リングス・ネットワークを7年間やってきた経験を活かして。
豪 小川選手にもSRSのスパーリング出演依頼が来たらしいですね。でも、「行ってもいいですけど何かするよ」って言ったら、それっきり依頼が来なくなっちゃったっていう（笑）。

桜庭vsエンセンのスペシャル・ドリーム・スパーリングがSRSの藤原紀香卒業マッチで行われた。プロレス、格闘技の枠を超えて、クロスオーバー現象が続いている

山口 プロレスが輸入された頃は、いろいろな格闘技の経験者が集まれる場がプロレスだったんだけど、それが最近はUFCやバーリ・トゥードになってきてるよね。でも、それらがプロレスの代わりになれるかっていったら難しいよね。やってることが長距離、短距離でいったら短距離だから。
豪 最近、プロレスがつまらなくなってて格闘技が面白いといわれることの原因を考えたんですけど、最近はプロレスも第一試合からメインみたいな試合をしてる。メリハリがないんですよね。でも、格闘技の場合、前座では技術がない選手が出て最後に爆発する。そりゃ興行も楽しくなるよって気づきましたね。
山口 ●●●が全部悪い！ ●が新弟子にロープワークばっか道場で教えるから……って何の話しだっけ？ お前、流れを作れよ！

フランク・シャムロックと談笑する世界のTK。1月のリングス武道館大会での顔合わせ。全体的に枠は取り払われている

ノブ ……流れねぇ。
ブチ ダメだね（笑）。チョロ、話を進めて。
チョロ オレ的には最近見た中では大仁田興行が面白かったんですよ。新日、全日でもひとりの力で後楽園ホールを超満員札止めに出来る選手っていないですもんね。
豪 また藤波辰爾と木村健吾がワンマッチ興行をやってもダメ？
チョロ メモリアル的な意味で（笑）。
山口 いま、チョロはいいこと言ったね。確かにひとりで超満員に出来るような選手はいないですからね。
ブチ みんな試合を見に来たんじゃなくて大仁田を見に来たんでしょ？
山口 試合よりも人を見に行くのは根源的なことだからいいことなんだよ。でも、「人よりも試合を見て欲しい」っていう若い選手のイデオロギーも大事でしょ？ いまは、それぞれ主張することを伝えていく媒体もない。選手が、「あの選手と一緒に載せるな」って

テレビ東京では金曜日の夜に格闘技番組がスタートする。格闘技が徐々にお茶の間に進出し始めた！

松澤チョロ（まつざわ・ちょろ）本誌出たがりボンバー（©金沢克彦）。女性読者に個人的に手紙とプレゼントを送りつけるのが趣味。

発言するのはいいことだよ。そういう角が立つ発言をいまの媒体はどこも載せないじゃん？　坂田亘の「大仁田を許せない」っていう発言をどこが載せるんだよ？　ウチだけだろ？　ウチは偉いんだよ（笑）。

チョロ　新日本はそういう〝場〟を持ってますよね。大仁田は復帰当初なんてパッとしませんでしたけど、新日に上がったら自分の団体にも客を引っ張ってますもんね。そういう意味で今度のドームにバトラーツを取り込んでるあたりも……。

山口　そこらへんはさすが新日本っていう感じがするんだけど、昔ほどのエネルギーが飛び散るような〝場〟にはなってないよ。新日本が別につまらないって言ってるわけじゃないよ。

豪　いや、いまの新日は最高ですよ。

山口　また始まったよ、この男は（笑）。ホント、戦略的に発言するなあ！

豪　会長（山口日昇）が嫌われるのはわかりますよね、ボクにも。

山口　いいもん、オレは誰に嫌われたっていいよ。仙波にも嫌われたし。冗談じゃないよ、一升瓶持ってこい！

豪　ダハハハハ！

山口　で、なんだっけ？

チョロ　使い捨てで、自分のところだけで利用してたら、マット界全体は活性化されないですよね。

山口　結局ＵＦＯとはダメだしね。自分たちの価値観とはそぐわないものは上げられないっていうことになっちゃうんだよね。昔、新日本のリングにはモハメド・アリが上がってたんだよ（笑）。モハメド・ヨネじゃないんだから（笑）。それを考えたら何だって出来るよ。くどいようだけど言っとくと、選手たちが「あんな選手と一緒にやりたくない」と考えるのは当然のことだし、そう思ってもいいんですよ。だけど、そういう広がりのある〝場〟をどんどん排除していく方向だけは、阻止したいよね。

豪　バイタリティがプロレスの魅力なんだけどねえ。

山口　そう、最近では、そのバイタリティを感じさせてくれたのがバトラーツだったんだよね。いかんせん団体がちっちゃいから現実的になかなかマット界を席巻するまでにはいかないわけでしょ。

ブチ　だからバトラーツみたいな小さな団体が、うまくのし上がるために格闘技を利用するという方法もあるわけですよね？

山口　そうそう。それはうまくやってると思うよ。いまはプロレスラーには勝って当たり前っていう風潮になってきてるから。小川直也が「要は強くなきゃいけないんです」っていうのは、プロレス再興のためにはすごく説得力のある言葉だよ。

ブチ　でも、ボクには小川選手があんまりプロレスラーとして見えない部分が残ったですよ。やっぱり元柔道の世界チャンピオンだから強いのは当たり前っていう部分？　プロレスに入ってきて、小川選手は何を学んだろう？

豪　学んでるよ。いまの時代、プロレスラーにバックボーンがある人が少ないからそう見られてるだけであって、たとえば（ケンドー・）カシンがバーリ・トゥードに勝ったからってアマレスが勝ったってことになる？　渡部謙吾が勝ったらラグビーが勝ったことになる？

ブチ　いや、違いますね（笑）。なんで小川選手だけ、そうなっちゃったんだろうな？

豪　それはデビュー戦が柔道着だったからだよ。

山口　それがオチか（笑）。そうやって人の話の腰を折って自分の発言を上げることしか考えてないよ、この金髪の爆撃機は（笑）。

豪　力道山がケガしたときに付けてたようなプロテクターをして、渡部謙吾がデビュー戦を闘ってたらラグビーVSプロレスになったはずだけどね（笑）。

ブチ　小川選手の打撃って藤原道場で学んだものでしょ。じゃあ、プロレスの技術って何？っていうのがやっぱり。

山口　関節技と闘魂だよ（笑）。

豪　（カール・）ゴッチのところに1ヶ月ぐらい弟子入りしてたらイメージは変わるんじゃないの？

山口　いろんな技術を身につけられる〝場〟がプロレスって考えればいいんじゃないの？　プ

中村カタブツ君（36歳／なかむら・かたぶつくん）元『紙プロ』編集部員、現在はフリー。新進気鋭の中年ライター。セクハラが生き甲斐のエロじじい

選手としての強さの他にも人としての強さ、酒の強さ（笑）いろんな強さを見ればいい（山口）

ロとしてのパフォーマンスも含め。そして、アマチュアの精神を大事にした上でプロの精神も身につけなければいけない。それを一貫して出来るのがプロレスだと言ってるのがアントニオ猪木でしょ。それをファンタジーと捉えるか大ボラと捉えるかは、その人の感性だけど、プロレスっていうのはそういうバイタリティのある〝場〟なんですよ。

ブチ それがどんな場であってもいい、と。

山口 面白い場であれば何でもいいし、ウチが一貫して唱えてるのは、「面白けりゃ何でもいいんです」ってことだけど、面白いのにも一流から五流まであるからね。逃げ口上みたいに面白けりゃいいって言ってる、何の根拠もないものはドンドン淘汰されていくんですよ！

豪 俺はDDTが面白いっていうのはまだちょっと引っかかるんだよなあ。ゴールデン・エイトとか。

チョロ WWF的なエンターテイメント路線では金銭的な面で突き抜けられない。だから、日本人の心の琴線をくすぐるようなものですね。それだけじゃダメだからということで、シラット柔術とか、怪しい格闘技路線もあるんですよ。

豪 キャプチャーみたいにプロレス側から格闘技にアプローチする方法もあるよね。前号のインタビューは、あまりにも反応なかったけど（笑）。

チョロ でも、地下室マッチは凄いですよ。

山口 ノブは何が見たいんだよ。

豪 アブダビだろ？

ノブ それはもう終わりましたね。いまの興味は『PRIDE.5』の高田選手ですね。立ち上がる高田選手を見たいですね。

山口 オレはお前が立ち上がるところを見たいよ（笑）。

豪 高田選手も余計なものを背負い込みましたね、ノブの期待っていう（笑）。

チョロ まだ、そんなに盛り上がってないですよね？

豪 格闘技マニアの連中は、とりあえず盛り上がってますよね。

山口 でも、プロレスファンの間でも盛り上がれるよ、確実に。

豪 いまプロレスが格闘技に飲まれてるようなムードはあるけど、実際に飲まれてるんですか？

山口 飲まれてないと思うけどね。

チョロ 飲まれてはいないけど、格闘技が上がってる状態ですね。

豪 対抗意識として危機感を持って、新日や全日が純プロレス的になってるわけじゃないですか？

山口 いや、プロレスが落ちてるんでしょうね。

ブチ オレはプロレスラーがバーリ・トゥードに出て行ったら、「勝てるのかなあ」という単純な疑問ってまだありますよ。

山口 でも、オレは前々から言ってるけど、「バーリ・トゥードで勝ったから強い」とかいう意見にも、問題提起したいんですよ。かといって突き詰めていって「そのときコンディションのいい選手が勝つ」ってなっちゃったら、夢も希望もないしね（笑）。だからいろんな強さを計っていくしかないと思うんだよね、カテゴリー制じゃないけど。人間としての強さとか、酒の強さとかね（笑）。いろんな強さがあるわけだからね。

チョロ だから、それをいちいち誌面で紹介していくという地道な作業ですよね。

山口 格闘技方面の強さを押し出す人は、そっちで結果出さないとダメだよ。プロレスラーであれ、何であれ。エンターテイメント路線を押し出すんだったら徹底的に面白くなきゃ時代に切り捨てられる。

豪 ハッキリ言って、ダン・スバーンはプロレスは下手だったけど、バーリ・トゥードでは強い。それをどう評価するのかだね。藤波選手はプロレスが上手いけど、格闘技的にはわからないし。

山口 また、辰っつぁんネタか（笑）。

豪 前田日明も強さの幻想はあるけど、プロレスは下手。船木誠勝はどっちもバランスが取れてるけど、爆発力がない。

山口 『文藝春秋』で猪木さんが手記を書いてるのね、「猪木のプロレスや馬場のプロレス、あるいは力道山のプロレスは日本人を熱狂させた時代があった。しかし、プロレスそのものにいまの日本人を熱狂させるような力は蘇るのだろうか？」ってね。バーリ・トゥードじゃ長く大衆を熱狂させることは難しいけど、そういう〝場〟が徐々にできつつあるということは、ひょっとしたらプロレスそのものの役割が終わってるとも言えるわけだよね。その手記に「プロレスの本能である格闘、すなわち人間の怒りを取り戻せば、プロレスは新しい世紀に向けて、新しい生命力を与えられるだろう」これはいいヒントになるんだよ。大衆に突き刺すには「怒り」がなきゃダメだよ、怒りをぶつけなきゃ！ エンセンには怒りがあるから面白いんですよ。

豪 前田日明とかね。高田延彦は酒が入らなきゃ怒らないけどね（笑）。

チョロ ヤマケンも言ってましたね、プロだから強いのは当たり前。テクニックがいくらあっても「どつきあい」を見せていかないと、客は呼べないんですよって。

宮戸優光ついに動く!! 〝日本版蛇の穴〟U.W.F.スネークピットジャパン始動

Uインター時代、高田の〝最強〟を陰から支え、対北尾戦やバービック戦など新間チックな大仕掛けをしてはプロレス界を熱くさせた男・宮戸優光がついに動き出した。昨今のレスラーたちがプロレスの技術をなおざりにして柔術へと走る傾向に憂慮する宮戸は、ならば〝プロレスを独占します〟とばかりにトレーニングジム『U.W.F.スネークピットジャパン』を開設したのだ。名誉コーチはルー・テーズ、ヘッドコーチはビル・ロビンソン、打撃コーチは大江慎とクラクラするほどUインター。記者発表の席上、宮戸は忘れ去られようとするプロレスの技術を21世紀に伝えていくことが自分の使命であるとし、それはいわばプロレス界の環境保護であるとの名言を吐く。その仕舞いには自分で自分の言葉に酔い、涙を流し始めるなど、むやみに熱くていい。さて、ジムの方だが、アメリカではフッカー（〝極め〟の裏技を持つレスラーの意）で鳴らしたビル・ロビンソンが常駐でコーチし、ランカシャーレスリングのフックの凄味を素人にも教えるというゴージャスなもの。ビル・ライレー・ジム（通称〝ヘビの穴〟）の名を冠したジムらしい温故知新な、これまた新しいプロレス界の流れなのである。

山口　クールな時代が終わりを告げるときが来たのかもしれないね。かといって、無理して大仁田みたいになっちゃったら困るけどね。世の中全体に怒りが足りない！

豪　時代的なもんですよ。

山口　その、時代的なものを「しょうがない」って言ってると…。

豪　ボクに「怒れ」って言われても困るし。

山口　う〜ん。でも、人に何かを伝える時に「怒り」は必要でしょう。むしろ、クールさよりも先に。

ブチ　だけど豪さん、人を怒らせるの得意じゃないですか（笑）。

豪　怒らせるのはね。

山口　この男は人が怒ってる様子見て自分のストレス発散してんだよね（笑）。

ブチ　人の楽しみ方はわかってますね（笑）。

山口　卑怯な男なんだよ〜、ホントに（笑）。自分の労力をいかに使わずに楽しむかっていうさ（笑）。でも、プロレスの話に戻すとファンはそんなに面白がってなくはないと思うんだよ。「熱がない」とかさ、「面白くないね」って言ってるのはむしろ、キャリアの長いヤツらで。

豪　単に1・4のあれで再び火が点いて期待してた人たちにしてみれば、あのあと何もないっていうのは確かにあるんですけどね。

山口　それはマスコミが悪いんだよな。

豪　マスコミっていうか団体側もですよね。

山口　団体とマスコミのツルみ方がよくないんだよね。

豪　違いますよ。そのツルみ方を断ち切ろうとするウチは諸悪の根源なんです！『紙プロ』さえがなければね、みんなそっとしておいてくれるのに。

山口　そうそう。でもそっとしておいても好転しないようには思うんだけどね。大きなお世話かもしれないけど。

豪　ウチがやってんのは、はたしてプロレス界のためになることなのか、どうか。はたして足を引っ張ってるのか。どう思います？

山口　深い問題だね、それは。だけど、思い入れを持って見りゃ面白いぞってことなんだよ。そのヒントを差し上げてるだけで。

チョロ　そうなんスよね。つまんない試合されても取材対象になったりするとね、そうやって思い入れを持って見れば面白いですよ。

山口　思い入れっていう言葉は陳腐だけどもさ（笑）。

豪　ドラマが見えりゃ、面白いに決まってるんですよ。要はドラマの見せかたがヘタなんですよね。

山口　それは団体側とマスコミのツルみ方の責任ですよ。

豪　ターザンはどうですか？

山口　ターザンもよくないね。あれは諸悪の根源ですよ（笑）。だから、ウチも一緒に潰れてもいいからさ、プロレスマスコミなんて1回グシャッと潰れればいいんだよね。ウチだけ生き残るのは卑怯だからさ。ウチも潰れてもいいよ（笑）。

ブチ　誌名変えてね（笑）。

山口　そう。それで甦りますよぉ〜。ゾンビのように（笑）。

最高の引退試合を飾った前田日明。前田がマット界に残した"場"を食いつぶしてはならない

あまりに突然だったジャイアント馬場の逝去。生涯現役を貫き通した

米国で大学教授としての生活を送るというジャンボ。プロレスに関わることなく、第2の人生をスタートさせた

爽やかな引き際だったマサ斉藤。引き続き新日本で手腕を奮う

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？バーリ・トゥードか？
マット界の盟主を予言せよ!!

余計なことしなきゃ動かねぇですもん!! 風穴開かないもん（山口）

ノブ　プロレスと格闘技の対立概念に話は戻るんですけど……。

山口　だから、対立概念にならないようにお互い仕向けてるよね。格闘技側もプロレスを認める発言ってよく出てきてるし。

豪　いや、プロレス側が格闘技を見ないようにしてるのと同じで、格闘技雑誌とかもプロレスを必死に見ないようにしてますよね。どっちもくっつけたくはないんですよ。ウチだけ余計なことしてるんです。

山口　余計なことしなきゃ動かねぇもん。風穴開かないもん。

チョロ　余計なことは面白いですよね。

山口　いいこと言うねぇ。そうそう。余計なことは面白いんだよ！　小川直也がね、前号でいいこと言ってたじゃん。「なにかしようと思ったら波風が立つのは世の常ですから」ってね。波風立てましょうよ（笑）。

豪　いままでだって余計なことして波風立ててきただけですからね。

山口　ノブは余計なことばっかしてんだけど、面白くねぇな、お前。余計なことにも一流と五流があるっていうかさ（笑）。

豪　難しいもんですねぇ（笑）。ブチも余計で面白いですね。

山口　余計なことばっかしてるからおもしろいよね、最近。

ブチ　してる、の？　オレ余計なことしてます？

豪　余計なキャラだよね。

ブチ　ウヒャヒャヒャ、まあね。あってもなくてもねぇ。いらないもんねぇ～。

一同　ガハハハ！

ジャイ子　膀胱炎だもん！

豪　それは面白いですね。

山口　世の中とまったく関係ないところで面白いよね。

豪　プロレス界とも関係ないんだけどね。

山口　関係ない。『紙プロ』とも関係ないし（笑）。

豪　DDTの物販とかしてるし（笑）。

ジャイ子　む～。売れたんだよ。

どこに行くのか、何をするのか、まったく見えないが、マット界を間違いなくかき回す存在になるだろう

豪　そこがいいんだよ。ジャイ子も余計なんだけど面白くないんだよ。ね。

山口　いや、ジャイ子面白いと思うけどね。

豪　なにが？　見た目？

山口　便器の中に携帯電話落っことすんだぜ（笑）。

豪　性病になったりとか。

豪　ところでノブ！　お前は何もしてねぇな（笑）。

ノブ　オレ、どうなっちゃうんでしょうね。

山口　どうにもならない!!　ノブもジャイ子もどうにもなりません!!　というわけで、新人を募集します。応募方法はP112をご覧ください。

豪　ということですね（笑）。

【3月12日／編集部にて収録】

マット界という大海原に荒波を立てる慧舟會の次なる出航（たびだち）はパンクラス

積極的にプロ格闘技と交わる慧舟會の次なるリングが決定した。それは4・18パンクラス横浜大会。中野巽耀でも倒せなかったアマチュア相撲チャンピオン、エマニュエル・ヤーブローからタップを奪った高瀬大樹が石井大介と対戦するのだ。

それにしても慧舟會はスゴ過ぎる。『PRIDE』のリングに送り出した小路晃はいまや"ミスター・プライド"の異名を持つほどの男に成長し、修斗参戦中の宇野薫はウエルター級チャンピオンを完全に照準に捉えている。団体としても、ことし1月組み技のみのコンテンダーズ大会を開催し、五輪アマレスチームRJWとの交流戦を行うなど、展開があまりにもダイナミック。交流、交流と言いながら面子を捨てきれないプロ団体とは違い、どんなリングにも上がっていく逞しい貪欲さがある。

プロを活性化させるにはアマチュアの底辺拡大が必要とプロ側からはよく発言されるが、ノソノソしてるうちにアマチュアがプロの領域を侵犯し、ダメなプロは次々の淘汰されていくことになるだろう。実力がなければプロでもアマでも食ってはいけない、リアルな時代が実はもうやってきているわけだ。

3月1日、急逝されましたパンクラス・長谷川悟史選手のご冥福を心よりお祈り申し上げます

（株）ダブルクロス
『紙のプロレスRADICAL』編集部一同

RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的観戦記

旧紙プロファンのみなさま　今日は珍しいお客さんがいらしております

あたいはまた観たいナ　すんごく面白かったナ

ヘッヘッヘッヘックション！　花粉症の季節が到来。鼻がむず〜い。目が痒い。そんな日に生小川選手とアレク選手を観に行って来ました（ちなみにあたいアレクの母で〜す。御腹痛めて産んでないけどネ？）。ヘックションがなぜ、どうしてバウトレビューなんで？　とぶつぶつみんな言っていると思います。そうそのとおり「あたいプロレスの敵」でーす。プロレスなんてぜーんぜん知らないノータリンでーす。これを書かせた山口日昇の手抜きです。小川選手は、もちろんRADICALの表紙になったりテレビで観たりしていますが、生生生です。お口がキュートでヤンチャで、できることなら添い寝してほしい〜。キムタク、前田日明の次ですけどね！　あっバウトレビューって試合の報告ページ？　え〜試合は、あたいは第5試合目から観ていました。あーリングが丸いみたい　あーUFOはワン・ツー・スリーがないみたい……。ダンスバーンと小川戦が始まって、レフリーが赤シャツ、赤キャップ、三本線の黒のジャージおまけに笛をぶらさげてまるで監視員みたいなドリーファンクでした。両者がもつれ合ったりするとすかさずピーピーあたいは大笑です。パウントポジションでバーンが下に……ドリーがカウントを数えだすんだヨ!!　「あっスリーカウントあるんだー？」そうこうしているうちに試合が終わって小川選手の胴にはキラキラベルトでした。帰りに業界人らしいかみの毛の長いちょっと大デブな人が山口編集長に「オレもう絶対観ないヨ。プロレスだか格闘技だかはっきりしろ。エセ格闘技はよくない」山口編集長は「あいつの心は節穴か？」だって。あたいはまた観たいナ。すんごく面白かったナ。

（林〝ヘックション〟一枝＝プロレス素人・自称28歳）

注・すべて原文ママ。バーンとはスバーンのことと思われます。

『ハマのリングで勝負しろ!』

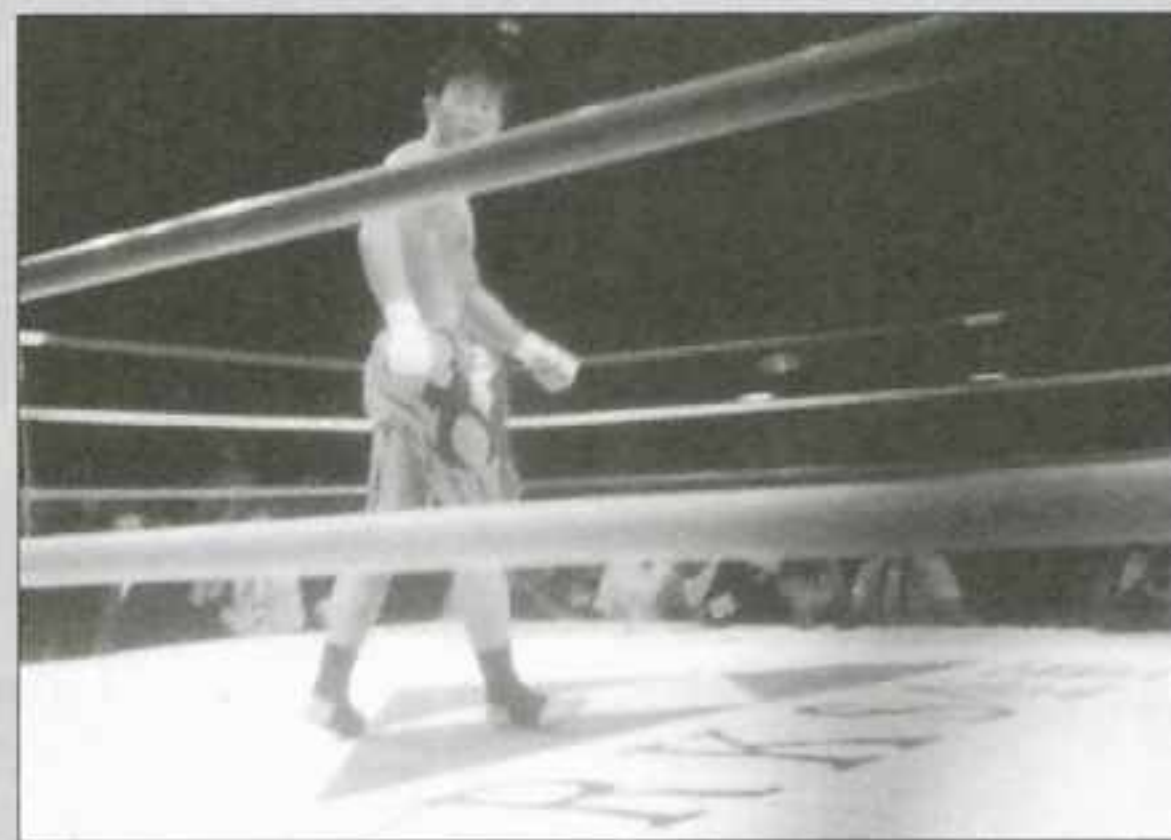
3/14（横浜アリーナ）

U.F.O

極私的ベストバウト

1位　小川直也 vsダン・スバーン

2位　アレクサンダー大塚 vs初代タイガーマスク

3位　あたい、小川とアレクしか知らないの。

AGAINST SBvsDRAKA

3/10（後楽園ホール）

SHOOT BOXING

極私的ベストバウト

1位　村浜武洋 vsダニー・スティール

2位　試合後、判定に対する怒りからレガースを客席に投げ捨てる村浜

3位　ドラッカの選手を投げも出させず1RKOした緒形健一

シュートボクシングによる世間へのシュート

なぜ、プロレス雑誌のバウトレビューに打撃格闘技のシュートボクシング（SB）が載るのかと言えばSB主催者のシーザー武志が格闘技を〃いかにして観客に見せるか〃という観客論と〃いかにして世間に伝えるか〃という興行論を意識しているからだ。それが昨年4月横浜アリーナで開催した修斗との合同興行『Shoot the Shooto』であり、おかまキックボクサーの招聘であり、昨年11月キック各団体&井上京子を迎えて開催した武道館大会『GROUND ZERO』に結実した。

横浜アリーナでシーザーはリング上でマイクを握りながら泣いた。武道館でも泣いた。自分の言葉に自分で酔って気持ちよく泣いた。興行的には伸びなかったが、その心意気は男として素敵だ。そしてシーザーの次なるアドバルーンはロシア生まれの格闘技ドラッカとの交流戦。ドラッカとは投げありの打撃格闘技でルール的にSBと似通っているが、特に投げ技が光る注目の競技だ。となればSBvsドラッカの闘いの〃肝〃は投げのうちあい。

こういう時、瞬時に闘いのテーマを察知するのが村浜だ。村浜が最初に出した目を引く技はムチャクチャ強引な背負い投げ。お客さんが何を見たいのか、よくわかっている。これに対してドラッカのダニー・スティールはバックドロップで対抗。闘いは村浜が背負い投げを仕掛け、スティールがバックドロップで返そうとして、さらにそれを村浜が河津掛けで防ぐという、手に汗握る展開。まさに平成によみがえった力道山vsルー・テーズ。だが村浜は試合後ホームタウンデシジョンで勝ちを拾わされたことに激怒し、レガースを客席に投げ捨てた。すぐにキレる村浜。すぐに泣くシーザー。魅力的な男たちだ。（ブチ）

PANCRASE 1999 BREAKTHROUGH TOUR 長谷川悟史追悼興行

3/9（後楽園ホール）

PANCRASE

1位　近藤有己 vs國奥麒樹真

2位　美濃輪育久 vs窪田幸生

3位　セーム・シュルト vs伊藤崇文

佐野の参戦でパンクラスはさらに暗くなったか？

昨年の『PRIDE4』で本間聡にボコボコに殴られ、プロレス・ファンを困惑させた佐野友飛がパンクラスに参戦、山宮恵一郎とパンクラチオン・ルール（バーリトゥード・ルールに頭突き、ヒジ打ちが加わった過激なもの）を闘った。前回のことがあるだけに佐野に対する思いは期待と不安が入り交じったもの。不安の割合はかなり大きいが、それは見事的中。山宮のパンチを一方的にもらい、頭突きで大流血と『PRIDE4』とほぼ一緒。あまりの一方的展開に、佐野ならこれはこれでいいのかなと思わせるほど説得力があった。前々号の本誌のインタビューではパンクラスには暗いイメージがあり、自分が参戦したらもっと暗くしますと語った佐野だが、結果はあまりの打たれっぷりの良さに観客はヒートアップ。言葉とは裏腹にパンクラスのリングを熱くさせてしまったのだ。マイナス×マイナスはプラス。ここまでやれば100点満点。しかも、試合後のインタビューでは「自分の中では楽しくやれたかなと」と、佐野らしいまったく晴れやかでない笑顔で答えて抜群。試合の反省点を聞かれた時もホントにしばらく悩んだあと、「相手にくっついていかなかったことかなぁ」とあまり問題点はない様子。「それでいいのか、佐野！」と非難してもしょうがない。本人が〃楽しくやれたかな〃と言ってるんだから問題などあろうはずがない。

何を考え、どこにいくのかまったくわからないが、その場、その場で居心地のいい心の置き場所を用意できる才能がある、とでもいうか。子供時代ならいざ知らず、暗くて狭い押入れの中に何時間でもいられるダメな大人とでもいうか。とにかくむやみに闇の人。佐野、そのままいってくれ！　でいいのかな？（ブチ）

『'99エキサイトシリーズ最終戦』

3/6 日本武道館

全日本プロレス

極私的ベストバウト

1位　ジャンボ鶴田 引退セレモニー

2位　三沢光晴&小川良成 vs小橋健太&秋山準

3位　垣原賢人vs菊地毅

「信用」を大事にした馬場さん「裏切り」から始めた三沢

「信用」は生前の馬場さんが最も大事にしたものだった。三沢がまず始めたのは「裏切り」だった。

もちろん、いい意味での「裏切り」である。裏切りっぱなしでは客もついてこない。観客の喜ぶことなら、それを受け入れるというのが馬場流のやり方なら、三沢流は観客の意表を突いて、それを上手く転がしていく。素晴らしい「裏切り」である。たとえば小川がヘビー級に交じる。三沢と田上が越境タッグを組む。昨年、秋頃からの積極的なメディアへの露出も見逃せない。いままでのインタビューは、見事に角が取れたものが多かったが、昨年の秋頃からは歯に衣着せぬ物言いが新鮮で気持ちいい。最近の三沢のさりげない下ネタ発言などは、ただ者ではないセンスを感じてしまう。馬場が作り上げた世界を基本線をハズさずに、少しずつ変えていこうという心意気に1票入れたい。

この日、意表を突かれたのは菊地vsカッキーのシングルマッチ。かなりU寄りな試合展開で、カッキーがかなり主導権を握った試合だった。フリー参戦であろうと磨けば光る選手には、しっかり光が当たっている。

「三沢が社長。元子さんが名誉会長。その間を百田さんが取り持つのがベスト」と言い残してジャンボは日本を去ったが、こうした政治的な話題で、選手の口から元子夫人の話が出てきたのは初めてのことだろう。部外者の立場から見ても大変だな、と感じてしまう。いままでの全日には、そういった裏読みの要素がまったくと言っていいほどなかったものだが、これも全日が変わったひとつの現象。「全日本プロレスを見る」という行為に、深みがひとつ加わったと言っていいだろう。（ノブ）

前田日明引退試合～The Final～
2/21（横浜アリーナ）RINGS

極私的ベストバウト
- 1位　前田vsカレリン
- 2位　前田がガウンを脱いだ時の観客のなんともいえないどよめき
- 3位　田村のマイク

前田がリングスに突きつけたものとは？

東スポにも後日談として書かれていたが、カレリンは来日しないのではないかという話は、業界周辺ではかなり信憑性のある噂として流れていた。前田対カレリン戦と銘打ちながら、リング上でシカティックと対峙することになったら、前田はどんな顔をして闘うのかという意地悪な興味もなくはなかったが、とにかく無事、カレリンはやってきた。

前田の引退試合とはいえ、新鮮なだけにやはり目が行ったのはカレリン。投げようがグラウンドに入ろうがとにかくヘタクソ！　そしてそのぎこちなさは圧倒的な説得力と殺気に満ちあふれていた。ボクの親しい友人でもあり、目利きとして定評のある柳沢氏は、「タコ、あれはお前、ローラン・ボックだぞ！」と興奮気味に語っていたが、うまいこと言うと思った。確かにあれはボックの佇まいを彷彿とさせる。凄玉だ。池袋の墓堀人が舌を巻くのもわかる。

結局、カレリンの判定勝ちに終わったこの試合だが、戦前よく引き合いに出された猪木対アリ戦ほど鮮やかなドラマに仕立て上げられたとは正直思えない。がんじがらめのルール、テーブルの下のピストル、鉄板入りシューズ、世紀の凡戦、そして闘った者同士にしかわからない友情……。様々なキーワードでもって紡がれていった大河ドラマに比べて前田対カレリン戦にはわかりにくい部分も多かった。しかし一方でそれが前田らしいのも事実だ。

「前田のわかりにくいところは、業界にいる人や格闘技をやってる人よりもテレビでボヤッと観てる人の方が鋭く感受している」という村松さんの言葉を思い出す。果たして田村や高阪らがこの試合を観て何を感じたのか。この世紀の一戦の本当の意味は結局そこにしかないのだ。

（原〝人気者〟タコヤキ君）

全女vsネオvsLLPW お台場スタジオマッチ
2/16　（台場・フジテレビ・V4スタジオ）

極私的ベストバウト
- 1位　全女vsネオ5対5
- 2位　堀田祐美子、脇澤美穂 vs神取忍、八木淳子
- 3位　ZAP・T、ZAP・I vs納見佳容、前川久美子

貴子の闘いとは闘わないこと

前号のインタビューで井上京子は「貴子は入団した時から大嫌い」だとか「名前を聞くだけでジンマシンが出そう」とか「アタシはアイツと一生しゃべらない!!」とか、小学生レベルの罵倒の言葉をブチまけて実に気持ちが良かった。それを受けてのこの日の試合は何かが起こりそうな予感にかなり胸をふくらませていたわけだが、事態はやっぱり起こった。

全女vsネオ5対5勝ち抜き戦で京子は全女のセコンドについていた貴子にこう叫んだ。「なんでお前がここにいるんだッ！」と。いくらフリーとはいえ、貴子は実質的に全女の選手。その貴子に向かって「なんで」ってことはないだろう。そして試合直後「もう頭きた！　頭きた！　頭きた」と連呼する京子が貴子を捕まえ、「アタシの名前で商売するな！」「お前はレスラーとして終わってるんだよ！」と罵詈雑言。掴み合いが終わったあとも「マスコミの人は貴子とアタシの試合を望んでるみたいだけど、試合したらアイツを殺しちゃうから。アタシを殺人者にしないで」とマスコミ相手に熱くブチまける京子（ところが最近貴子戦を表明）。それに対して貴子は「試合したら壊されちゃうから。アタシは壊されたくないから」とあくまでクール。その横では試合中、元気に挑発された奈苗が泣きじゃくり、〝あんまり他人のことはわからない〟（『紙プロR』14号より）豊田がLLとの抗争について呑気にコメントしていたりと非常にバラバラ。

何があっても、まずは自分。女子の闘いはこうあってほしいもの。だからといって貴子と京子の直接対決はいただけない。京子の方から対戦を表明してきた以上、貴子は闘わないことが闘いだろう。つまりは意地悪。

（ブチ）

『第2回 全女ガレージマッチ』
2/14　全女事務所・駐車場
全日本女子プロレス

極私的ベストバウト
- 1位　ZAP.I&T&L vs角掛留造
- 2位　試合前のトークショー
- 3位　響き渡る松永会長の「やきそばあるよ～」の声

バカ殿メイクでリングの撤収 ナナモモに見た興行の原点

全女が今年1月から始めた自社ビルでのガレージマッチは、まるっきり手作りの野外興行だ。テントにお客さんを詰め込んで、露店を出す。もちろん、ここで松永高司会長はヤキソバを焼く。今井リングアナ曰く「会場費0円。そしてヤキソバを焼く。これが松永高司の夢の興行です！」。

オープニングは、非常に投げっぱなしな企画だ。若手選手の司会による、ベテランレスラーのトークショー。こういうイベントにはレスラーの人間性がにじみ出るので見逃せない。

この日は、豊田が鈴木その子よろしく美白メイクでやってきた。もう余裕の貫禄がある。それを迎え打つのはナナモモ。

中西百重は多少ぎこちないが小気味よく質問を浴びせかける。リング上の動きそのままに、軽やかだ。その点、高橋奈苗も負けていない。「あー」とか「うー」と言ったままフリーズしてしまうのだ。とにかく重い！　こちらもリング上の動きそのままだ。なんだか珍しい動物を見ている感じ。試合を見る前の予習としては最適だろう。競馬でいうところのパドックである。

試合になると一転して、いつも通りの全女式ブチかましプロレス。リングと客の距離がないので、ごまかしが利かない。そこでグーの音も出ない見事な試合をしている。

この日のメインは豊田＆中西＆高橋がタッグを組んだのだが、試合前のネタ振りが効いた。全員、その子（というよりバカ殿）メイク。

かっこつけずに、客を笑わせて、驚かせて、熱くさせる。バカ殿メイクのまま、真顔でリングの片づけをするナナモモに興行の原点を観た!!

（ノブ）

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 月〜土 AM11:00〜PM7:00 日祝祭 AM10:00〜PM6:00
年中無休

待ってました!!春の到来!! レッスルフェアー"春の章"

今回もやります!!

開催期間 3/20〜4/15

フェア記念大サービス特典

●ビデオ¥5,000以上お買い上げの方に、ビデオ割引チケット¥500券をプレゼント!(1本に付き1枚)
●店頭もしくは通販で¥1,000以上商品をお買い上げの方に、抽選でビッグプレゼントを進呈! ※通販の場合、期間中、応募券を差し上げます。その応募券を次回注文の際に同封された方に、もれなくプレゼントあり!

★★★好評!レッスルフェアーのお楽しみ!★★★

●ガンバレ・プスプリングみちプロコーナー グッズ御値打ち商品コーナーを開設!
●バックナンバーコーナー 好評だったバックナンバーセールをより大きく開催!
●レッスルモーニングサービス レッスルでグッズお買い上げのお客様にいつもの2倍のレッスルスタンプ!(チケット、ビデオを除く)
他にもいろいろあります!!

蝶野正洋SPECIAL

3/25発売 ¥10,200

蝶野ビデオの決定版登場!!プロレスのワクを超えて超人気の蝶野の本人がプロデュースするビデオ!!破壊から創造が生まれる!!80年代の反逆児が長州力ならば、長州力は90年代のレジスタンス男!その蝶野正洋徹底インタビュー。今、真実が明かされる。

インタビュー内容
プロレスよりハードなものはない/理想のプロレス/欠場中の苦しい日々/進化するプロレス/海外修行/武藤論/NWO未来形/表より裏が好き/武闘派転向の本音/NWOの功績/アメリカとの勝負/IWGP論/NWO・JAPAN誕生ほか
もちろん試合も多数収録されるが特に注目はヤングライオン杯優勝戦の橋本戦。若さあふれる蝶野を見よ!そして蝶野自らが選ぶベスト3マッチ。

〜Chono's self-selection DIGEST〜
●'88.7.29有明コロシアム 蝶野・武藤・橋本vs藤波・木村・越中
●'91.8.11両国国技館 蝶野vs武藤
●'92.8.12両国国技館 蝶野vsリック・リード
nWo総帥蝶野正洋の真実がこのビデオにある。

nWoウルフパック〜赤nWoヒストリー〜

3/25発売 税込¥6,800

全米及びアジア、日本国内で人気爆発中!
"nWo"ついに赤と白に分裂!ナッシュを中心とした赤nWo"ウルフパック"のWCWマット征圧までのヒストリー。
収録内容 ●赤nWoついに結成(ナッシュとホーガンの仲間割れ、nWoが赤と白に!)●スティング赤nWo参戦か? スティング、ルガーvsザ・ジャイアント、nWoスティング●赤vs白のnWo全面抗争開始! ナッシュ、ルガーvsホーガン、ザ・ジャイアント●WCWドル箱マッチ! スティングvsザ・ジャイアント●ナッシュの旧友ホールの動向は? ホーガンvsホール●ナッシュがゴールドバーグとチーム結成! ナッシュ、ゴールドバーグvsホーガン、ザ・ジャイアント●"アル中"ホール登場! ルガーvsホール●12年振りのチーム結成! スティング、ウォリアーvsホーガン、ハート●ついにシングル対決実現! ナッシュvsホール●"スコーピオン"vs"シャープシューター"の最終回 スティングvsハート●ビガロ乱入! ゴールドバーグvsザ・ジャイアント ●WCW主導権争い。因縁の三者が"3・ウェイ・ダンス"で激突! ナッシュvsゴールドバーグvsビガロ ●"スターケード'98"WCW世界ヘビー級選手権 ゴールドバーグvsナッシュ●マイクパフォーマンス、その他多数試合収録

nWo 4ever 97.7.13〜98.7.6 nWo HISTORY 2

★初回封入特典!・赤nWoステッカー! 120分¥5,000

今回は前作「nWo 4life」の続きで全世界をアッと言わせたデニス・ロッドマンのプロレス・デビュー戦から、ゴールドバーグがホーガンを破って、WCW世界王者となった'98.7「マンデーナイトロ」までの1年間を収録!nWoの全ドラマを詰め込んだ超豪華、贅沢な(日本限定企画)ビデオです。
収録内容 ●97.7.13 NBAの"反逆児"ロッドマン衝撃のプロレス・デビュー●97.12.28 スティングがホーガンを破り、WCW世界ヘビー級王者に!●98.1.24 ブレッドハートがフレアーを相手にWCWデビュー!●98.5.4 ナッシュが、サベージ、コナンらと「ウルフパック」(赤nWo)結成宣言!●98.6.1 スティングが「ウルフパック」入りを宣言!●98.7.6 ゴールドバーグがホーガンを破り、WCW世界ヘビー級王者に

アルシオン1st ANNIVERSARY STARDOM`99

3/中旬発売 120分発売6,930円

'99年1/17クラブチッタ川崎&2/18後楽園。女子プロレスビデオ超人気シリーズ、アルシオンの第9弾!旗揚げ一周年を迎えたアルシオン。その旗揚げ一周年記念シリーズからクィーンオブアルシオンタイトルマッチがあった1/17川崎大会と2/18後楽園大会を収録。1/17川崎ではアルシオンの最高峰・王者吉田に僅かデビューして半年の新人秋野が挑戦!ミサイルキック、ノータッチトペコン、最後にパンチまで繰り出す秋野の全てがみれます。2/18後楽園ではフリーの矢樹が挑戦。グランドを中心にした密度の濃い試合は正にアルシオンの集大成!その他、4vs4サバイバーゲーム、アジャ&大向&府川&浜田vs二上&玉田&矢樹&マリー、吉田vs府川、奥津の復帰戦(スタイルの変化に注目)、そして第三の新人・門恵美子デビュー戦!それもいきなりアジャにジャーマンをしかけるこれまた驚異の新人ぶり。ニューハイパービジュアルファイターを見よ!プラス1/17試合後の吉田発言、2/18重田抗争開幕も入ってます。
収録試合 吉田vs秋野、アジャ&大向&府川&浜田vs二上&玉田&矢樹&マリー、レジーvsジェシー、吉田vs府川、大向vs二上、玉田&矢樹vs浜田&秋野、アジャ&ファビーvsレジー&マリー、吉田vs矢樹、奥津vs大向、秋野vs浜田、府川vs玉田、レジーvs二上、マリーvs2000vsファビー、アジャvs門

カーニバル アルシオン

120分¥6,930

'98年12/18横浜文化体育館。'98年2/18旗揚げしたアルシオンの総決算大会。メインはアルストーナメント覇者・キャンディvsシオントーナメント覇者・吉田のクイーンオブアルシオン決定戦。アルシオンを旗揚げ準備段階の'97年そして旗揚げの'98年に2人共言い尽くせない程の苦労をし、その思いをぶつけていったこの一戦が名勝負にならないわけがない。(もちろんこの試合はアルシオンのベストマッチを受賞)セミは今年デビューしたスーパールーキー浜田が師であるアジャ・と一騎討ち。浜田に欠けていると言われたガムシャラさが見れるよ〜!他にも最強外人格闘家ロジーナ・イリーナ・レジー・ベネット、二上vsテコンドー王者の2大格闘技戦、ツインスターオブアルシオンタイトルマッチ王者組玉田&矢樹vsナチュラルツインビー、女子キック史上NO.1ベストマッチ三井vs中沢他、ルチャあり、柔術戦あり正に女子格闘技のお祭りです。もちろんインタビューもたくさん入ってます。

前田日明メモリアル3 完結篇

※プロレスカード封入!

〜RINGS設立から引退まで〜

90分¥6,930

主な収録内容 ◆たった一人の旗揚げ戦でフライと激突('91.5/11.横浜)◆格闘帝国ロシアからヴォルク・ハン初来日('91.12/7.有明)◆伝説の熊殺しウィリーに引導を渡す激勝('92.7/16.大阪府立)◆初のトーナメントで盟友ドールマンと対戦('92.12/19.有明)◆タリエルを破りトーナメントを制覇('94.1/21)◆フライの反則攻撃に前田が切れた!('94.7/14.大阪府立)◆愛弟子山本の初めての挑戦('94.12/16.愛知県体育館)◆実力者ナイマンとの屈指の名勝負('95.12/19.有明)◆キックの王者からアルティメットの王者へ、変身したスミスと初対決('97.1/22.武道館)◆新時代の旗手・田村との2度に渡る激闘('97.3/28.N.K.ホール/'97.12/23.福岡)◆TK高阪との一度きりの邂逅('97.8/13.鹿児島)◆ロシア大会、対ズーエフ戦('98.4/25.ロシア・エカテリンブルグ)◆山本を相手の引退試合('98.7/20.横浜)◆全20試合の他、特別インタビュー＋ドールマン、ハンらライバルが語る前田日明像などを収録

前田日明メモリアルシリーズ発売中!! 各¥6,930

1 黎明篇 〜入門、デビューから第1次U.W.F.まで〜
2 神話篇 〜新日本Uターンから新生UWF解散まで〜

前田日明 戦いの証

DVD

天の章

815分 ¥31,290

ユニバーサルプロレスの17試合とUWFの全29試合の計46をノーカット収録。今までビデオ化されていない当時のインタビューや練習風景を収録。

地の章

716分 ¥31,290

未公開の対ズーエフ戦を含むRINGS時代の全60試合を完全ノーカット収録。試合後のインタビューも出来る限り収録。

FMW オーバーザトップ&ECWジャパンツアー

3/17発売 127分9,500円

1998年12/9大阪12/12&12/13後楽園、1999年1/5後楽園。FMW初のシングルトーナメント開催!ハヤブサ、外道、冬木、大矢、黒田、スーパーレザー、吾作、モハメッドヨネ、中川、雁之助、金村、保坂、非道、小野、フジ、折原以上16名が激戦を展開!全試合ダイジェスト収録。ECW JAPAN TOUR'98からはECW世界タッグ選手権試合ダッドリーボーイズvsサブゥー&ロブヴァンダム(N)、ECW世界ヘビー級選手権試合シェーンダグラス(withフランシーン)vsトミードリーマー(N)を収録。そして、田中将斗の凱旋帰国試合、田中vs中川を収録。(N)ボーナストラックとして田中特別インタビュー。●(N)はノーカット!

アントニオ猪木名勝負十番 日本人対抗戦

89分¥3,860(送料込)※送料サービスはこの商品にはありません

第1弾ストロングスタイル篇、第2弾異種格闘技篇と大ヒットをとばしたシリーズ最終篇、日本人抗争篇。この3部作の中で一番の目玉がこの日本人抗争篇。今まで以上にプロレス界で御法度だった日本人同士の対決に風穴を開けたのが猪木であり、猪木の名勝負=日本人対決と言っても過言ではない。'74年3/19ストロング小林戦に始まり、'74年4/26坂口戦、'74年10/10大木戦、'78年12/16上田戦、'82年11/4国際軍団戦、'83年5/27前田戦、'84年8/2長州戦、'85年9/19藤波戦、'87年10/4マサ斎藤戦、'94年5/1ムタ戦の全10戦を猪木が自ら語る闘いの真実。あらためて猪木を考えよう!

パンクラス新たなる挑戦

120分6,930円

'98年10/4&10/26後楽園・12/19NKホール。今回は何と3大会の総集編!(12/19NK大会を中心。)パンクラスがノールールに初めて挑んだ!それもノールールの試合の中でも最も危険なルール、肘有り、頭突き有り。山宮、渡部、そして船木がいかに闘ったかをじ〜っくり見て下さい。12/19のメインはメッツァーvs近藤のタイトルマッチ。お薦めは10/26の船木vs國奥!他、渡部謙吾第二戦のゴトシー戦、高田道場との対抗戦第一弾・石井vs豊永と見所多すぎ!

猪木vs藤波 激戦、闘魂飛龍師弟対決 猪木vs藤波8/8死闘60分

各6,200円

猪木vs藤波の激闘のビデオが安いお値段で登場!「激戦、闘魂飛龍師弟対決」は1985年9月19日東京都体育館で行われた試合。レフェリーはルーテーズ。「8/8死闘60分」は1988年8月8日横浜で行われたIWGPヘビー級選手権。特に「8/8死闘60分」は週プロ&週ゴンでベストマッチに選ばれた名試合。感動の試合後も必見!

TOGETHER'98女子プロレス オールスター

120分¥6,930

'98.12/26有明コロシアム。全女、J'd、JWP、アルシオン、ネオレディース、OZアカデミー、裁恐軍、猛毒隊と女子プロオールスターが集った、この大会。因縁の全女vsネオ、ジャガーの引退、飛鳥の動行、タイガー&ASARIの夢タッグと見所沢山!得に注目は全女vsネオの開戦!まさに試合ではなく、戦争。もう一つの見所はジャガー横田引退試合。全試合収録。会場では見られなかったシーンも試合前後のインタビューもほとんど入ってます。

●ビデオ新作情報案内●

日付	タイトル	価格
3月20日	闘魂V特別編 ジュニアvsヘビー	¥9,870
3月25日	蝶野正洋スペシャル	¥10,200
3月25日	三冠ヘビー級選手権試合 三沢vs川田	¥5,040
4月15日	闘魂V NWO JAPAN Vスペシャル 2	¥5,040
4月中旬予定	ネオレディース総集編	¥6,930
4月21日	格闘技オリンピック 四角いジャングル 最終章	¥5,040
4月25日	闘魂V特別 天山広吉&小島聡特集	¥9,870
4月25日	IWGP列伝 PART-9	¥4,900

闘魂Vスペシャル特別編 ジュニアvsヘビー

90分9,870円

1991年から1998年のジュニアvsヘビーの名勝負をビデオ化!収録試合は'98年12/23健介vs大谷、'98年11/22大谷vsヒロ斉藤、'96年10/20ムタvsライガー、'95年4/28馳vsライガー、'94年11/6武藤vs大谷、'94年9/24長州&ライガーvs武藤&ベガサス、'91年12/11藤波vsライガー他貴重映像も満載!特にムタvsライガーは当時も話題になった名勝負中の名勝負!

フラッシュバック オブ ガイアジャパン Vol.9

140分¥8,000

'98.9/5〜'99.1/17全国各地。ガイアの試合にはずれなし!ベストバウト第9弾。'98最終戦のガイアのリングに飛鳥が突如出現!予期せぬかつての盟友の来場に戸惑いながらも手を差し出す長与、クラッシュ復活か?しかし答えは否!飛鳥はアジャ、尾崎の元へ。共闘ではなく対立、過去ではなく現在、動乱の時代に飛鳥が導き出した覚悟の選択。閉ざされたはずの扉が、鈍い音を立てて開きはじめた!そして飛鳥参戦の今年1/17後楽園まで収録。

春のグッズオンパレード(税込)

商品	価格
●プロレスQ(CD)	¥3,500
●全日5弾テーマ集(CD)	¥2,700
●AO CORNDER(CD)	¥3,560
●前田日明引退記念パンフ	¥3,500
●パンクラスブレイクスルーTシャツ	¥3,400
●パンクラスストラップ	¥1,300
●パンクラスワッペン付ニット帽	¥3,900
●パンクラスオリジナルトレーナー98→99	¥5,500
●パンクラスカンバッジ	¥1,300
●「素顔のアルシオン」写真集	¥2,500
●アルシオンスターダム'99パンフ	¥2,500
●アルシオンリングキーホルダー	¥1,300
●アルシオンストラップ	¥1,300
●奥津&吉田テレカ(2枚組)	¥3,100
●ハヤブサストラップ	¥1,300
●キューティー鈴木写真集「Cute Tale」	¥3,650

U-DREAM

60分6,930円

1998年12/11富山市体育館。安生、藤原、中野ら元UWF戦士、現キングダムのエース入江秀忠、そしてSBのエース村浜武洋、修斗ヘビー級王者エンセン井上と豪華メンバーが揃ったこの大会。キングダムルールで初の試合となる藤原組長、中野がどのような激闘を繰り広げたかは必見!そして、バリジャバ98の覇者エンセンがどのようなテクニックを見せるのかプロレスファン&格闘技ファン必見。勿論インタビューも収録。ちなみにUWFファンには懐かしい内藤恒仁も出ているぞ〜!

最強ルード軍大暴走!!CMLLルチャフィエスタ'98

120分¥8,190

'98年8/19後楽園、8/20川崎、8/21大垣、8/23京都KBS、8/24後楽園ルチャフィエスタ'98全大会収録。「プロモアステカからトップルードの"ピラタモルガン"が来襲!EMLLのトップルード"エルサタニコ"、"レイ・ブカネロ"、"フィッシュマン"と結託し最強ルード軍団を結成。8/22KBSホールのCMLL世界トリオ選手権試合は、ルード軍vs聖者サント率いるチクニコ軍は25分を越す大激戦。」とルチャのおもしろさ満点!他4月にアルシオンデビューが決定した藤田愛のエキシビジョンマッチ2試合収録

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号 00180-8-65236 レッスル通販
通販部 TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150-0043東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170-0013東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306 TEL 03-3989-0056

★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をご送付下さい。

見られるアホウに語るアホウ 同じアホなら語らにゃソンソン!!

プロレス狂の詩

俺はかませ犬じゃないぞ!!

花くまゆうさく
「リングの汁」

梵婆家の店長
「魁! 裏ビデオ御開帳」

エンセンのマネージャー・ブナニ酒井
「もうひとつの大和魂」

杉作J太郎
「プロレスを見て女にモテろ!」

素人さん筆自慢選手権
「PRIDE.0」

椎名基樹・せきしろ
「ザ・検証」

イラスト／マスクド店長

『労働2号』よろしくどうもです

リングの汁 RADICAL

はなくまゆうさく

バレット

それにしても強盗にスープレックスしたり、警官に足関節&グーパンチしたり、熊と闘った感想が「臭い!」だったり、やはりマサ最高!!である。

そんでアブダビですよ、アブダビコンバット大会。あんな凄いメンバーをあっさり集合させ、あっさりトーナメントで闘わせてしまう。それも打撃なしの組技のみというとこがまた渋いですね。まったく金もうけなど考えてないよ、この王子。己の趣味だけでじゃんじゃん金を使うその姿勢、なんかはじめて尊敬できる金持ちに出会ったような気がします。ピュアなKRSといったとこかな? 日本の金持ちも正しい金の使い方を知ってほしい。

まさかバレット・ヨシダまで出てるとは思いもよらなかった。メンバー表にバレットの名を見たとき、「おい、王子! あんた最高だよ!!」とひっそり心の中でつぶやかせてもらったぞ。これで桜庭が出たら完璧だ、この大会。

もちろんこの大会、どこかが放送してくれるんでしょうね? これを放送せずになにが衛星放送だ! たのむぞパーフェクTVさんよ。(よ。は大仁田風に)

話は戻って、熊と闘ったマサだが、格闘家vsどうぶつといえば〝野ブタvs空手家〟〝マムシvs空手家〟の映画『殺人空手』。だいぶ昔に、このリングの汁で紹介しましたが、ひさびさにまた紹介したい映画が一本あります。

映画といったが、じつはVシネマなんですけど、どうかぜひ見てもらいたいもんです、やべきょうすけ主演『喧嘩の花道 大阪最強伝説』。

この作品、シリーズで5本あるのですがハッキリ言って2~5は見なくていいです。見て欲しいのは三池崇史監督版の1作目だけです。1作目だけテンション高くてすごくいいのですが、なによりいいのが主演のやべきょうすけだ。VT界(Vシネマ界)の帝王といえば竹内力だが、VT界の喧嘩番長がやべきょうすけである。数多くのヤンキー物に出てる彼だがベストなのはこの作品のカズヨシ役と、『岸和田少年愚連隊 血煙純情篇』での小鉄役でしょう。山田辰夫にとってのこの『狂い咲きサンダーロード』が、やべきょうすけにとってのこの『喧嘩の花道』(1のみ)ではないでしょうか。

話は、大阪の暴れん坊高校生カズヨシ(やべ)ともうひとりの暴れん坊高校生タケシとの対決というじつに単純で中学生心の血を刺激する熱いもんです。前田と田中正吾のように、タケシは年下の空手家にブチのめされ弟子入りし、やがて東京へプロレスラーになりにいきます。そして数年後、東京ドームでプロレスラー・タケシと、プロボクサーとなったカズヨシがバーリ・トゥードで激突と書けばみなさんも興味を持ってくれますでしょうか。

まあ、見ればわかるさ。ということです。日本の男の子なら誰もがダイナマイト・キッドに何かを揺さぶられたように、マサの自伝や『狂い咲きサンダーロード』、そしてこの作品を見て何か感じてもらえたら幸いであります。

はなくまゆうさく■パンチパーマしたくなってきました。たぶん、しないけど……。

魁! 裏ビデオ御開帳

大庭敏幸(「梵婆家」店長)

プロレス狂の詩

第二回 86年5月19日 新日本プロレス・後楽園ホール 前田日明vsケリー・フォン・エリック

馬場さんが亡くなったとき、テレ朝で貴重な映像が放送されてましたね。ジャイアント馬場vsジョニー・バレンタインのシングル戦の映像が放送されたんですけど、あんな凄いビデオがあったんですね。馬場さんがワールド・プロレスリングに出たのは本当の初期の初期だけですからね。見たいなぁ。

それにしても昭和レスラーが次々と引退していく今日この頃。前田引退試合は、忙しさにかまけてまだしっかり見てないです。猪木は後継者を前田と考えていたようですが、ボクは船木だと思っていました。

マサさんの引退は、そんなに〝お涙頂戴〟的なものではなかったですね。爽やかな感じでよかったと思います。逆に藤波の引退試合があったらめちゃくちゃウエットになりそうです。でも、藤波はそうじゃなきゃダメですよね。これから、店を休んで試合を見に行くとしたら藤波の引退ぐらいしかないもの。ボクの中の生涯ベストバウトは猪木vs藤波の60分フルタイムですから。長州の引退試合は行きませんでした。他意はありません。

今回は引退記念ということで、マサ斉藤vs前田日明のシングル戦のビデオでも……と言いたいところなんですけど、ないんですよね。試合は見に行ってたんですけど。マシンの乱入で試合にならなかったもんなあ。

というわけで、今回は前田日明vsケリー・フォン・エリックです。ほとんど異種格闘技戦ですよね。ミスマッチで絶対合わないはずなんだけど、爽やかに終わりましたね。

この頃の前田の格はケリーと同じくらいなんですよ。なんかお茶を濁されたような感じなんですけどね。

前田も、ケリーも手が合わないタイプなんでしょうけど、前田がケリーを気に入ったんですかね。あまりキックはやりません。当然、ケリーはグランドなんか出来ないですけど、前田はこの試合で一回だけスタンディングの状態でクローを食らいます。

ちょっと余談なんですけど、いま、ケリーが足の悪い頃のビデオを探しています。それでもドロップキックとかやっていたと記憶しています。ご存知のように足を切断してしまったケリーは、その後すごくゴツいサポーターをつけて試合をしていました。そんなことはホントに知らなかった私は、「サイボーグ!」なんてとんでもない野次を飛ばしてました。いま思うと謝りたいです。

話を戻しましょう。試合は非常にあっけなくて、最後はアッという間にリングアウトでケリーが勝ちました。いまじゃ考えられない異種格闘技戦ですね。

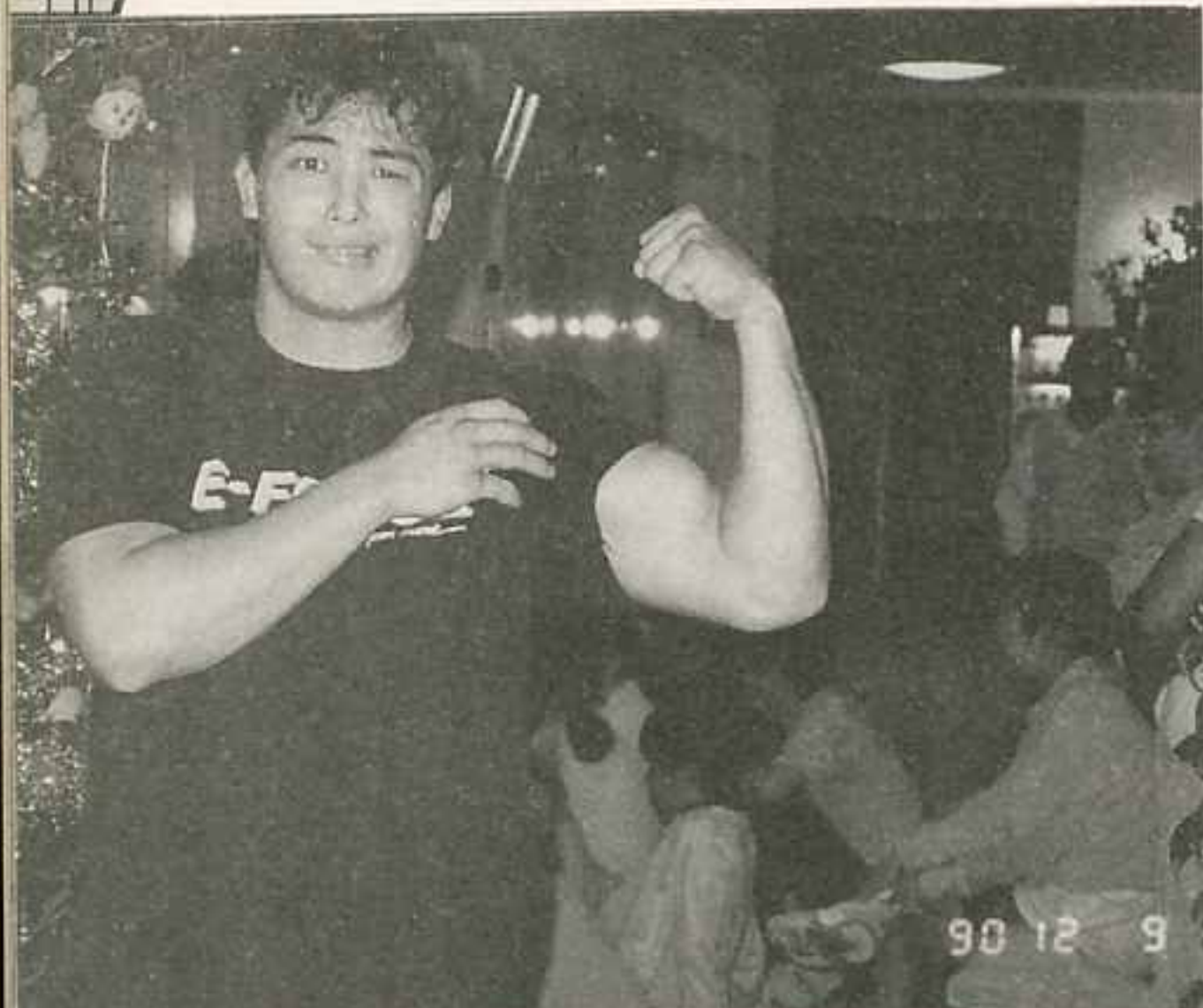
そういえば、この試合のあおりで「クローも一種の関節技と言えないこともない。だから、これはサブミッション対決だ」と『週P』記者が書いてましたけど、あれには笑わせてもらいました。そんなのんきな時代の埋もれたいい試合ですね。

ぽんばいえのてんちょう■明大前にあるプロレス秘蔵ビデオを流す居酒屋。話題の裏ビデオはだいたい見ることが出来ます。問い合わせTEL/03-3223-5629

賢い野蛮人エンセン井上のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

ブナニ酒井

第2回　使えるエンセン語講座

日系四世のエンセンは独自の変な言葉を使います。それを私たちの間では「エンセン語」と言っています。エンセン語は伝染性がとても強く、エンセンと10分話すと確実に伝染ります。

最近開発したエンセン語は「●●的に」という単語。何でも「的」と付ければいいと思っているらしく、先日も某雑誌のインタビューで「将来的に、弟子に教える的にその道が良かった！」とか言ってました。だいたいわかるのですが、何かが違います。

このエンセン語でトラブルに巻き込まれることも多いです。これは福島県郡山にいた頃。パチスロが好きだったエンセンはルール違反と知りながら、悪い癖で大当たりが出ると台の掛け持ちを始めます。ある日、2台両方で大当たり出たことがありました。すると店員がやってきて、ドル箱を取り上げようとします。エンセンもいけないこととわかっているのに「何？　日本語わからないネ。これ、ワタシのヨ!!」ととぼけながらもドル箱を離そうとせず、取り合いをしてるうちに軽いドツキあい合いになり、コインが飛び散ってしまいました。するとエンセンは状況判断が抜群に早い!!　「アナタ、話にならない！　店長と話させて!!」と言い出します。店長のところに連れていかれると「ルール違反は、知らなかったから。ワタシ悪かったネ。でもあなたの店員が、ワタシ日本語わからないのに押すから、ワタシもヒドくなったヨ！　コインも飛び散ったし」と言ってそして本当は3分の1しかなかったコインをちゃっかりドル箱一杯にして返してもらいました。その帰り道、「酒井さん、ワタシといるとエキサイティングでしょ？　ハハハハ」と笑ってます。これが賢い野蛮人と言われる所以でしょう。言葉がわからないことで、いろいろ利用される部分もあるから、逆に利用することもあるようです。

私がエンセンと最初に会った頃、エンセンはほとんど日本語がしゃべれませんでした。私も不慣れな英語で、手探り状態のままコミュニケーションをとる毎日。それでも、エンセンは独学で日本語（エンセン語？）を勉強して、いまでは日常会話もそつなくこなします。もともと人に教えることが性に合ってるのでしょう、エンセンは郡山で英会話の先生をやってたこともあります。明るくて、愛嬌があってエンセン語は面白いです。喧嘩になるとき以外は。

エンセンが友人とメチャクチャ激しい口喧嘩になったときのことです。こういう場面で、使えるエンセン語は唐突に飛び出します。

エンセン　ファッキンひどいよ、アンタ〜。
友人　何言ってんだよ。エンセンが間違ったからいけないんじゃないか？
エンセン　そうだヨ。ワタシが間違ってたけど、私だってニンジンだヨ〜!!
友人　……ハハハハハ、何言ってんだ。
エンセン　ハハハハハハ。

その瞬間に喧嘩は終わります。

今回、紹介したのはほんの一部ですが、みなさんもエンセン語を使ってみてはいかがでしょう？

ぶなにさかい■エンセン井上のマネージャー。最近、エンセンは大宮ジムのメルカー選手の骨折手術に同行。1時間半たっぷり手術の模様をビデオに収めて、大喜びしてました。

悪循環コラム決定版!!　激突!!　男と女のロイヤルランブル

プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

四十八手の二度胸千両のプロレス・パンティ論

先日、馬場さんの追悼座談会で、

「馬場さんをパンティにたとえるならば、汚れのない、純白のパンティのような人だったと思う」

と、俺が発言したところ、その発言を俺自身がヒジョーに気にいったため、家に帰ってもう一度ジックリ考えてみたんですが、確固たるステータスを築いたレスラーの皆さんというのは、それぞれパンティにたとえることが可能なのではないか……という結論に達したため、今回はレスラー・イコール・パンティ論を展開してみたいと思うのであります。

で、ここで誤解のないよーに言っておかねばなりませんが、パンティというのは決して不謹慎なたとえではないからね、ホントに！　ノーパン主義者、本格的着物愛好者、あるいは一部マニア以外は誰もが必ず着用する日常的な衣服がパンティですし、そもそもは清潔なものですし、見た目だって美しい。値段だって決して安いわけではない。それをただ単に言葉だけをつかまえて、

「偉大なプロレスラーをパンティにたとえるとは何ごとか！」

などど思う人も間違いなく存在するが、そうやって差別、区別するほうこそが実際はどーかしてる。パンティという言葉に過剰反応するその根拠なき幻想のモラルの持ち主。これは絶対に女性にはモテないと断言しておこう。根拠なき幻想のモラルを捨てよ！　プロレスは意図するにせよしないにせよ、そーしたメッセージを本来含んでいたはずなのに今やそのメッセージを強烈に発信＆受信しているのは……話が面倒になってきたのでやめときますけどな……という引き際のタイミング。これもまた女性にモテるためには必要不可欠であると話は逸れたが記しておきたい。さて。一通り言い訳を終えたところで、猪木さん。これは挑発的な真っ赤なパンティでしょう。藤波さん。これは別れ話が辛くなるタイプの女性が着用しそうな落ち着いたベージュのベーシックなパンティ。もちろんあくまでも俺の極私的な感想だということをお断りしつつ続けよう。三沢さんは以外にもTバック。高田さんはスポーティな運動選手用パンティだろうか。大塚さんは馬場さんとどこか似た純白のパンティ。ハヤブサさんはノスタルジックな若さが溢れる青春のヒモパン。サスケさんはそこまで履くかのスケスケパンティ。なにを書いてるのか、書きたいのか自分でもよくわからなくなってきましたが、最後に、前田さんはやはり天衣無縫のノーパンにたとえられるのではないか？

で、最後にもう一度なぜパンティなのか？というと、やはりパンティは日常的だけども興奮したりもする。そこが実にプロレスとリンクするのではないかと俺は思うのであります。そして説明不足を承知で、気軽にパンティに置き換えることが可能な一種の親しみ易さ。これがモテる男には必要なのだ……と断言するほどバカじゃないつもりだ。フニャ〜。

すぎさく・じぇいたろう■ついに俺の作家生命を賭けたどっこい大作……じゃなくて超大作『ヤボテンとマシュマロ』がメディアワークス＆主婦の友社から発売になったことをこの場で報告しておくことがセールスに結びつけばいいが。祈る、無事！

「素人の文章は読む気にもなれない」「素人ページには興味がない」「素人には手は出さない」それは本心か？　心からそう思ってんのか？ 思ってんのかって聞いとんじゃ！ オイ、オイ、オイ！　読者の皆さんよォ！　お前らに、十分の一でも、百分の一でも、千分の一でも、万分の一でも『PRIDE.0』のリングに上がりたいっていう気持ちがあるなら投稿してこい！　試合開始、誤字脱字！（気をつけて）

前号の結果発表！	感想
ライセンスナンバー11 **真下純子**さん **『二千二百円目の馬場』**　**134票**	●「私の場合馬場さんが大量に出て三沢さんが少なかった。川田も多かった。ダブりすぎて、馬場さんと川田をコンビニの袋に詰め込んでゾンザイに扱っていたら、川田骨折!馬場さんはあんな事に……」（福岡市／西尾徳博／34歳）★取り扱い注意!●「いーですね。チョロさん」（藤枝市／横田賢／31歳）★感情の赴くままに。●「ワイドショーかなんかの“変身コーナー”での写真っすよねー。みてましたよ。……ってワッチも昼から何やってんだ?!でもTV出るときも、やっぱ“ぴのこ”つけてくれないと……」（釧路市／上田恵／28歳）★タコヤキ君もつけましょう●「穏やかな文章でさわやかさが良い」（小笠原村／市川みか／34歳）★その通り!●「……自分に入れていい?（まさにプライドーゼロ）しかしあの写真でかいですよ〜まいっちゃった〜」（一宮市／真下純子／29歳【娘は8歳】）★デカくて千円!　まいるな!
ライセンスナンバー13 **大川義之**さん **『流浪の格闘家、長井満也』**　**85票**	●「魂がふるえる程共感したから（ああ……長井……）」（小金井市／大塚芳行／36歳）★ふるえには宇治救命丸！●「僕も長井選手が結構好きということで共感。大川氏の高阪系の顔もよし」（練馬区／中島秀夫／26歳）★同様多数●「学校をなんとかしろ。こんなの書いてるなら」（名取市／三浦隆弘／19歳）★教育的指導！●「長井マニア爆発。もう一回、佐竹vs長井が見たい」（富士見市／本間徹哉／16歳）★さしずめマニアの純真。
ライセンスナンバー12 **荒木裕司**さん **『三沢革命とは何か?』**　**65票**	●「三沢革命も『紙プロ』の取材を受けるくらいになってこそ完成すると思う今日この頃です（真面目に馬場さんの逝去とは関係無い話として）」（海老名市／岩村達朗／34歳）★骨法も『紙プロ』の取材を受けて完成したのかな？●「ＳＡＳＵＫＥのイラストがｇｏｏｄ」（横浜市／浅見昌樹／18歳）★せっかくサスケ組に入れたと思ったら、もう解散かよ〜。サスケ組は永遠に不滅だーっ!!●「いい感じな文章だと思いました」（高松市／山田修司／21歳）★同感！

2戦勝ち抜き　ライセンスナンバー11

『シンデレラと呼ばないでチョンマゲ!!』

真下純子（昭和44年生まれ）

『別冊宝島プロレス読本』。私の愛読書の一つである。

忘れた頃に書店に並んだりしているので見つけると購入するようにしている。季刊っぽいペースで出版されているからタイムリーな情報とは言い難いが、豪華な執筆陣によるコラムやレスラー・格闘家のインタビューはバラエティーに富み、わりと毎回お得感のある一冊となっていると思う。

お題に沿った思い入れたっぷりのコラムが並び、感銘を受けたり時間の無駄になったりと定価分は充分楽しませて貰っている。

しかし、「こいつ何言ってんだ？」ということを堂々と書いているライターをこの本により発見させて頂いた。

○田○了。

彼は「プロレス読本ＦｉｌｅｓＶｏｌ・2死闘本場所！プロレス×格闘技」で船木誠勝vsロベルト・デュランの一戦について書いている。

「この一戦のために伊藤みどりの取材を人に代わってもらい」、「当時は船木と面識はなくデュラン派で」、「でもデュランはブタになってて仰天し」、「デュランは負けたけど、この時船木の素晴らしさを知り」、「あの時慌てて新幹線に飛び乗ったのも、船木に出会うためだったのかも」という内容だった。

それは置いといて。

その「デュランがブタでショックだった」時の気持ちの比喩として彼はこう表現した。

「昔シンデレラ姫と呼ばれ可愛かった天地真理」が太り、「ガラガラになった声で歌っているのをテレビで見た時のショック」だったと。

さらにこうだ。「真理ちゃん、僕はファンクラブにも入っていたんだぜ」。

待て待て待てーッ!!

天地真理は「白雪姫」だろうが!!

揶揄を書くのなら事実誤認を怠らず責任を持って書いて欲しい。これは「桃太郎侍」を「金太郎侍」と言うような大変罪深い誤りだ。

「デュラン＝太った真理ちゃん」と繋げ、「笑かし」にかかったのかもしれないが、「笑かし」の元が間違っていたらどこで面白がればいいのか読み手はわからない。

「真理ちゃん」を引用することによって特定のひとたち（現在中年おやじ）に電波を送ったつもりだろうが、そこで「シンデレラ」なんて書かれると奥歯に物がはさまった感甚だしくイライラする。

「ファンクラブに入ってた」なら間違えないでしょ、普通。アル●●マーっすか？　更にこんなユルイ間違いに気付く自分の年寄り加減にも嫌気がさす。昭和も遠くになりにけり、と。

とにかく。

こんなつまらない誤認によって私は彼の書きものを信頼出来なくなった。

シンデレラと白雪姫の区別もつかない男、という烙印をじゅっと押しつけさせて頂いた。学校で粗相をした人間が一生「うんこもらし」呼ばわりを受けるように。

真理ちゃんに土下座するなら許してあげてもいいけど。

あらやだ。

なんでこんなミクロなことに目くじら立てるのかって？

だって持ってたんだもん。

「真理ちゃん自転車・白雪姫号」。

※主婦らしく人の悪口を書いてみました。訴えられたりして。「天地真理→白雪姫」を立証するためダメもとでインターネットでサーチしてみましたら「天地真理ホームページ」がちゃんとあってなんだかとてもびっくりしました。（一部編集部の配慮により伏せ字にしました）

ライセンスナンバー14

『何でもありだが金はなし』田上大統領を都知事に!(5歳)

バーリ・トゥードとヒクソン。総合格闘技の世界では、今年もこの二つが大きなキーワードとなることは間違いない。「バーリ・トゥードでヒクソンに勝ったら最強」この公式は現在成立していると言ってもいいだろう。先日もパンクラスの船木までが、バーリ・トゥードの世界に足を踏み入れた。最早バーリ・トゥードは総合格闘技の極北であり核(コア)である。

例えば昨年暮れのパンクラスの大会で注目を集めたのは船木の試合も含むノールール系三試合。メインのタイトル戦は戦前の興味も薄かったし、実際試合当日もノー・ルールの試合以上に観客を沸かせる事はできなかったようである。何故か。

これはパンクラスに限ったことではないが、「ルールある闘いよりノールールの闘いの方が厳しい。その勝利に価値がある」この様な認識が選手、ファン双方に根付いてしまった感がある。確かにバーリ・トゥードのリングに上がるのは、技術面、精神面でも非常に勇気が要ることであろう。しかしこのままバーリ・トゥードの波に飲み込まれてしまうようでは、日本総合格闘技界はお先真っ暗である。

まずどこのメジャー格闘技を見ても、「ノールールこそが最強」なんて馬鹿げた図式が成り立つ世界はない。喧嘩、野試合ならともかく。例えば貴乃花、タイソン等が「もう俺に敵はいない。何でもありで俺にかかってこい!」とは言わないだろう。己のリング(土俵)で充分「最強」を証明することができるし、その「最強」には金銭、名誉、社会的地位までついてくるからだ。K-1にしてもそれは言えよう。最強へのステップが確立されているリングには、ノールールなどでる術はない! しかし悲しいながら総合格闘技界は団体が乱立し、各々のルールでそれぞれのベルトを競い合っている。プロレス界のように全日、新日といって二強、頂点がないだけ始末に悪い。いわばオールインディーズの状況である。

現在のバーリ・トゥードの隆盛は、一時のインディーマット界のデスマッチブームを思い起こさせる。「電流爆破」の味を占めた各団体はより刺激の強いデスマッチを実現させ、観客もより刺激的なデスマッチに足を運んだ。しかしデスマッチがプロレス界を席巻するまでに至らなかったのは周知の通り。なんでもありの元祖、FMWですら最早デスマッチは主流ではない(大日本では凄いけど)。だがもう極地的な盛り上がりでしかない。

プロレス界のなんでもあり、デスマッチが行き着くところまで行き尽くし勢いを無くしたのとは反対に、総合格闘技界のなんでもあり、バーリ・トゥードはまさに日の出の勢いである。このままでいけば、ルールがよりなんでもありになることは容易に想像できる。より刺激的だから。しかしそれでいいのか!

現在の総合格闘技に必要なのはバーリ・トゥードではなく、共通の「強くて面白い闘い」ができるルールを創りあげることではないのか。現在のように「今日はバーリ・トゥード、次は団体ルール」なんてやってるようじゃ「最強」の焦点はぼやけるだけだし、K-1を超えるムーブメントなど起こせる訳はない! 長々と書いてきたが要するに中途半端なことをやっているからダメなのだ!

ダメだといえばヒクソンに、「金のことはゴチャゴチャ言わないでリングに上がれ!」なんて発言をする人達。ヒクソンはプロであり、現在最強と言われている男である。金にこだわるのが当たり前である。「金をくれなきゃ仕事しない」この姿勢はまったく正しい。スターを呼ぶには金がかかる。常識である。まったくアマチュアじゃないんだから「金のことは抜きにして」なんて話はするべきでない!

結局、バーリ・トゥードだヒクソンだと言ってるうちは、たいして面白くならないね! ということだ。鈴木みのる風スペシャルの今後にもっと注目すべきだ! なあ、みんなー(小路調)。失神するぜー! 今年も鈴木だ! (何が?)

ライセンスナンバー15

『プロレスと生きる』村田卓実(18歳)

約3年前まで『紙プロ』を買い、『週プロ』も買い、全日をビデオに撮ってた。会場には一度だけ全日に行った。

今は『紙プロ』と『トウナイト』だけだ。5巻まであった全日本プロレス中継も全部消した。

何故なのか考えたい。

『週プロ』は始めは全日の為に買っていたがFMWとW★INGを見て、ただのデスマッチ好きになりました。

『週プロ』の月間スケジュールを見てデスマッチ団体の興行に合わせて『週プロ』を買うということ(全日はいつも載ってる)を中学生らしくやっていました。

そしてアルティメットが始まり、大仁田は辞め、金村は焼豚みたいになってW★INGは消えた。IWAは荒谷のサクセスストーリーになるかと思ったら辞めちゃったんで見んのやめた。

立ち読み期スタート。

そんな時『週プロ』白黒ページの団体情報に「新格闘プロレスの茂田信吾、シュートの日系人(エンセン井上)に馬乗りパンチでボコボコ」というような話が載っていて『格通』(カラーページ)とTVでそれを見たら、エンセン側はちょっと感動的な感じで報道していて、それを見て初めて「プロレスラーは最強」てのはウソだと思った。

それから、「リングの汁」と『格通』の立ち読みでシュートとは何かを知り、仮面シューター・スーパーライダーが元シュート(ウェルター級)王者だということを知った。

そして『紙プロ』を買い、他は立ち読みで今にいたるが、最近、小路晃=誠軍団1号、木村浩一郎=スーパー宇宙パワーということを『紙プロ』で知った。それは浅すぎる私にとって大きなショックだった。

『週プロ』で新日、全日のレスラーが言う「リングに上がってほしくない奴」だったはずの彼らがプロレスラーが「勝てない」奴らと戦っていたのだ。

「プロレス」は消えると思った。

世間では昔の子供の前にプロレスがあったように、今の子供の前にはK-1がある。

大人の為に夜中に放送するプロレスには大人しか集まらない。今のままだとイノキとババが歴史に残るだけだ。

プロレスよりも残酷なもの、暴力的なものがそこにある今(格闘技か否かに関わらず)プロレスは終わってゆくのか、変わっていくかを死ぬまで見たいと思った。

98年10月のバーリ・トゥードを、昔全日に一緒に行った友達に誘われました。

それは私の新しい「プロレス人生」の始まりでしょうか?

投稿してよ!'99

君の見たこと、感じたこと

チョロ

今回のプライド・ゼロはいかがだったでしょうか。いつものように今回の三選手の中から一番気に入った作品を一つ選んで投票して下さい(応募方法はP144参照)。

2戦勝ち抜き中の「真下純子」ママは果たして今回も勝ち抜くのか? それとも「田上大統領を都知事に!」クンが無邪気なヤングパワーで、世代交代をはかるか? そんな中、個人的に応援したいのが「村田卓実」クンだ。短い文章の中で、考え、悩み、騙され、ショックを受け、最後に問題提起。彼の新しい「プロレス人生」は始まったのだろうか? なお一番得票を集めた選手は勝ち抜きとなり、強制的に次号も参戦してもらいます。掲載者全員に、プロレスグッズ詰め合わせセットを差し上げますので、とにかく投稿してきて下さい。プロレス・格闘技についてのことであればなんでもOK。面白い投稿! 衝撃的な投稿! 泣かせる投稿! なんでもいいから君の投稿でボクたちを感動させてよ! 参戦希望選手は、400字詰原稿用紙1~5枚程度、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真(イラストでも可)を同封の上、〒151・0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス『紙プロ』編集部「愛に雪、鯉の城」係まで。ただし、ページの都合上、文章を一部変更(捏造はしません)、割愛することもありますので悪しからず。

●締切は4/17まで『ありがとう』!

椎名基樹&せきしろの ザ・検証

サミットだ!(スーパーマーケットを指さして藤波が)。ということで、大人気につき1ページ減(しかもギャラは風呂券)でお送りする、ザ・検証。今回も「プロレスばっかり見てると、こうなっちゃうぞ」ってことを、無職2人組が証明します。やったね!

椎名基樹のザ・検証 リングスオランダ大会

今回で第5回目の開催となるリングス・オランダ大会には感心させられた。

実は、リングスのオランダ大会は、第2回大会から見に行っており、今回で4回目の観戦だった。第2〜4の3大会には、衝撃を受けた。あまりにも、過激だったからだ。それは、アルティメットの初期大会どころではなかった。特に、1997年の第3回大会は、凄すぎた。うつ伏せにダウンしている相手のコメカミを、ディック・フライが蹴り上げた。去年、『紙プロ』誌上で前田日明が「ファッキン・ガッツ」と絶賛した〝総合格闘技界のプロディジー〟ボブ・シュライバーは、パンクラスに参戦していた、トーン・ステリングを馬乗りパンチでボコボコにした。

話はそれるが、毎年、リングス・オランダ大会が開催される会場は、帰りの出口に向かうとき、選手控室がある一角を横切るのだが、第3回大会のとき、点滴を下げたストレッチャーに顔も分からないほど、白い布で包まれた人が運ばれて行った。黒人の女の子が泣いていたのを覚えている。この女の子は、入場券を買えずに入口付近でうろちょろしていた俺に、「ハ〜イ」と手を振って来た女の子だった。彼女は数人と揃いのジャージで決めていて、誰かのセコンド陣営であることは一目瞭然だった。それも、オランダ人でない感じだった。敵地に乗り込んで来たからこそ、どちらの味方でもない(マサ・サイトー風に言えば)イエローの俺に気さくに愛嬌を振り撒いたのだろう。その女の子が泣いていた。トーン・ステリングはイギリス人だ。やられっぷりからいっても、女の子の涙から見ても、あのストレッチャーに乗っていたのは、ステリングだったのだろうか? ステリングは、当時パンクラスに出場していた外人選手で一番好きだったが、あれ以来、音沙汰がないので、ずっと気になっているのだけど……。

横道にそれたが、それほど前回までの大会は過激だったのだ。そうなってしまったのには、ワケがある。まずは、ヨーロッパのやつらの複雑な戦争の歴史だ。俺は受験科目も日本史だったし、よくわかんないけど、とにかく国同士仲が悪い! 客は皆「イギリス人? ドイツ人? ブッ殺せ〜!」な勢いなのである。それと、何といってもルールのあやふやさが原因だ。シュライバーがオープン・フィンガー・グローブを着けて出てきたとき、「リングスなのに、どんなルールなの?」と思っているうちに、とんだことになってしまった。それは、戦っている方も同じで、ステリングは「え? それありなの?」と思ってるうちに、ボコボコになってしまったように見えた。それは整備された「何でも有り」より、全然危険なことは誰でもわかるだろう。

この大会には日本人選手も大勢参加しており、最初に出場した成瀬が「こりゃ危ねえ」と思っただろう、次の日本人選手のセコンドについたとき、ものすごい勢いで、リング中を雑巾掛けしていた姿が印象的だった。大会後、前田がドールマンに抗議し、ドールマンの謝罪文が専門誌上に掲載されたのを、覚えている人も多いのではないか。とにかく、第4回大会までの、リングス・オランダの『FREE-FIGHT GALA』は、衝撃的ではあったが、感心できない大会だったのだ。

しかし、今年は感心した。素晴らしいルールだった。じつにフェアでスポーツライクだった。そのスポーツライクの象徴が上の写真の『リングス・オランダ・グローブ』だ。これを見れば、いかにリングス・オランダルールが考え抜かれているかわかる。

ざっとルールを説明する。グローブを着け、スタンドでは、もちろん顔面打撃OKだ。スタンドはキックボクシング&タックルの攻防。で、問題はグランドだが、グランドでの打撃はリングス・オフィシャル・ルールと同じ、顔面打撃は無し。ボディーまでOK。そして、ロープエスケープは無しだ。さらに、最も重要なポイントとして、ブレイクのタイミングが違う。インサイド・ガードであろうが、サイドであろうが、マウントを取っていようが、動きが膠着すれば、即ブレイクとなる。最後に、ここがじつにユニークなのだが、グローブを着けた場合、レガースは無しなのだが、逆に、グローブを着けなければ、レガース着用を義務付けられ、顔面掌打となる。ストライカーは前者を、グラップラーは後者を選びなさいよ、というワケだ。試合時間は3分×3Rか5分×2R。

去年まで、リングス・オランダは自分たちのスタイルをフリーファイトと呼んでいた。しかし、今年からミックスド・ファイトとした。正に、俺が見た競技はミックスド・ファイトだった。それは、今流行の言葉で言えばGCM。しかも組技系だけでなく、打撃系も含めた最大公約数のスポーツといった感じだ。自分たちが作った競技を、正確に言葉付け出来ている点もこのルールの完成度を表してるといえると思う。さらに、完成度を示しているのが、リングス・オランダ・グローブだ。

見ての通り、このグローブはボクシングのグローブの指先を自由にしたものだ。だから、既存のオープン・フィンガー・グローブに比べて、ずっと肉厚だ。これじゃあ、まず、チョークは入らないだろう。さらに、手のひら部分も革で覆われていて、つかみにくい。しかし、グリップするにはほとんど問題ないと思う。試合でもグローブをしたままアキレスなどを結構決めていた。(もちろん、レガースを選ぶこともできる)。オープン・フィンガー・グローブの最高傑作は、何と言っても修斗グローブだろう。修斗グローブは、ずっと薄く、つかみやすい。しかし、それはどちらが良いという問題じゃない。その成り立ちが全然違う。リングス・オランダの方は、ミックスド・ファイトという新しいスポーツをするために、一方、修斗の方はバーリ・トゥードをスポーツに発展させるために、試行錯誤されている。

ここで思うことは、リングス・オランダ・ルールの最大のポイントは、アルティメット以降、総合格闘技のトレンドとなった、グランドでの顔面打撃を排除した点にある。あれほど、バイオレンスな試合をしていた彼らがだ。グランドでの顔面打撃は、スポーツとして市民権を得られないと理解したのだろう。だから、グローブも最低限ボクシングの肉の厚さが必要なのだ。もしかしたら、リングス・オランダは、グランドでの顔面打撃を排除し、退化することによって、スポーツとして進化したのかもしれない。かもしれないと書いたのは、まだ試合数が少ないし、試合のレベルが低かったからだ。もし、高阪なり、田村なり、日本人の「デキる」選手が、この試合を試してみたら色々、わかることも多いと思うのだけれど……。ただ、ハッキリ言えるのは、リングス・オランダが実に真面目に、自らを確立しようとしていることだ。思えばドールマンやフライは、総合格闘技の是非について、TVで討論していた。に、してもイサミ社の修斗グローブ。ローニン社のリングス・オランダ・グローブ。真面目に取り組んでいるところには、ポリシーある道具が生まれるのには妙に感心してしまう。

しかし、これによってリングスには2つのルールが存在することになった。これは矛盾だ。そして、俺個人がどっちを支持するかといえば、ずばりリングス・オランダだ。現行のリングス・オフィシャル・ルールはどうしても、不完全に感じてしまう。特にロープエスケープは問題があると思う。(まったく個人的には掌打も違和感があるが)。このルールは、新日→新日異種格闘技戦→佐山原案のユニバーサル・プロレス・オフィシャルルール→現行のリングス・ルールと推移してきたからこそ、俺たちは理解できるのだ。でも、外国人はなぜ首を絞められた人間がロープを掴むと助かるのか、理解できるとは思えない。もちろん、俺は今まで推移してきたルールを全て見て、全て興奮させてもらった。好き嫌いなら好きだ。でも、ワールド・ワイドなスポーツを目指すなら、やはり不完全だ。田村は前田のラストマッチのとき「Uスタイルを守ります」と言った。そして、リングス・オランダのミックスド・ファイトは、俺の中では、まさしく整理され進化したUスタイルだった。さすが、バイオの国オランダ。Uの遺伝子が花を咲かせつつある。

こりゃ強え! 今大会に出てたオランダの高性能ストロングマシーンズ

ヨーブ・カステル
ディク・フライの後を継ぐべく、すごくプッシュしていた(相手もメチャクチャ弱い)。今回はセミに登場。明るいパフォーマンスでリングス・オランダのホーガンって感じだった。俺は好きじゃないけど。

ギルバート・アイブル
セミ前に出てた。こいつもあまりタフな相手じゃなかった気がする。ごめん試合の印象薄い。俺は好きだけど。

サンドラ・トンハウザー
今回、リングス・イングランドの選手を相手にして、負けられない状況で、一番タフな試合をしてた。今大会MVP。リングス・オランダのバロン・フォン・ラシク。

リカルド・フィート
Matuariというジム所属で、ドールマンジムがシューティングジム大宮だとすると、慧舟会やワイルド・フェニックスって感じか。修斗と同じく、ジム対抗となってるところが、素晴らしいじゃないですか。ロドマン的変態キャラでとても良かった。

せきしろのザ・検証

藤波が熱望しつづけた鶴田戦の可能性

「この腰がギミックだ！」

『俺が天下を取る』という藤波本の中に、「家康を心の師と仰ぐ自分としては、なんとしても家康になってみたい」「徳川の三つ葉葵の紋所の入ったペンダントをいつも肌身はなさずしている」「自分の家には、葵の間という部屋まで設けているほどの家康フリークだ」などと、自分がどれほど家康が好きなのか、どれほど家康に憧れているのかを必要以上に主張した後、「いったい誰がプロレス界の家康になるのか!? ファンの皆がそんなことを推理してみるのも面白いかもしれない」と結ぶ章がある。読者に「そこまで言うなら藤波でいいよ」と半ば諦め顔でもいいから言って欲しかったのであろう。皆が首を傾げるほどに家康が好きな藤波。そんな藤波が時には自分を奮い立たせるため、時には注目されたいがため、時には話題をすりかえるために、事あるごとに口にしてきた言葉がある。それが「鶴田戦実現」である。

鶴田戦発言の例をあげてみよう。例えば、先に家康云々を抜粋した『俺が天下を取る』だけみても、「（飛龍十番勝負の残る三番は）今は無理かもしれないが、ファンが望むなら、鶴田選手とだって戦いたい」「鶴田よ、もっと燃える男になってほしい。そして、いずれは自分と戦おうではないか」「自分は〃馬場・猪木戦〃にかわる戦いをやってみたい。それは、鶴田戦である」などの記述がある。が、そんな表だった意思表示だけではない。

この本は〃サミット提唱〃についての記述（＆クーデターの言い訳も少々）が核となっている。（ちなみにサミットというのは、当時ニュー・リーダーと呼ばれていた人たち、例えば全日本の鶴田や天龍、ジャパン・プロの長州、UWFの藤原、そして藤波がひとつの席につき、藤波が永遠と城の話を皆に聞かせる、のではなく今後のプロレス界の発展のために腹を割って話し合い、プロレス界を発展させようという、いつの時代でも誰かが言ってそうなこと）。藤波はサミットを提唱し、「サミットが実現すれば、四団体が一同に会した〃プロレスの祭典〃が行われるはずである」とサミット以後の夢まで膨らませているのだが、サミット開催→プロレスの祭典という流れのたどり着くところは、プロレスの祭典、イコール鶴田戦というドラゴン方程式により、鶴田戦に他ならない。サミットと鶴田戦は表裏一体だったのである。当時このサミット提唱の真意をめぐって色々と物議をかもしもしたが、ただ単純に鶴田戦がやりたくて、藤波はサミット提唱したに違いない。つまりこの本は丸々一冊鶴田戦について書かれた本（＆弱音も少々）と言って良いだろう。

また、鶴田戦実現発言で記憶に新しいところでは、昨年の全日ドーム初興行の前であろう。「鶴田戦を今年中に実現したい。この言葉を言うのは今年が最後」「ある意味ラスト・チャンス。……実現するでしょう！」と鶴田戦を口にしている。しかも「今年中」だとか「最後」などの言葉でそれっぽく装飾までし、「実現するでしょう！」と断言までする始末。なにか確証があって断言したのであろうか？ それともまた注目してもらいたい一心で周りを巻き込むという悪い癖が出たのか？ その辺のことは知らないが、とりあえず同じ鶴田戦発言でも進化していることはわかるであろう。しかし、皆さんご存知のとおり、結局は実現していない……。

鶴田戦発言の例はこれくらいにして、今回の検証の本題に入ろう。これほど藤波が熱望しつづけた鶴田戦の可能性は？ その答えはゼロに近い、というかゼロ！ 理由は鶴田が引退したから。〃ドラゴンスープレックスの解禁を宣言しておきながら結局『飛龍逆さ押さえ込み』で鶴田をフォールし、指を三本立ててレフェリーに確認しながら信じられない表情をする藤波〃や、〃鶴田戦が不本意な結果に終わり雪の中へ裸で飛び出す藤波〃をみることはできないのである。せっかく修得したボクシングを鶴田の前で披露することも無理……。しかも鶴田は引退会見の時に闘ってみたかった相手として「前田選手」と発言している。これには藤波もガッカリしたことだろう。ライガーのラブコールならぬ藤波のラブコールはまったくといって鶴田には届いていなかったのだ。せめて鶴田が嘘でもいいから藤波の名前を言ってくれたのなら、今回の検証結果もゼロではなく数パーセントになっていただろう。

『鳴かぬなら 鳴くまで待とうホトトギス』精神を貫き通すわけでもなく、かといってムシするわけでもなく、迷走を続けてきたミスター無我こと藤波。もはや迷走を止めると藤波が藤波でなくなるレベルに達している。これからも「鶴田戦を実現したい」と発言し続け、相変わらずの空回りっぷりを見せて欲しいものだ。可能性がゼロであろうとそんなことは関係無い。お構いなしに言い続けてもらいたい。そして鶴田の前で自らの髪の毛を切り「やらせてくれ」と言ってほしい。そんな高等なギャグを期待したい。

検証コラム

昔、フレッド・ブラッシーの噛みつき攻撃をテレビで見ていた人がショック死するという事件があったらしい。私は維震軍が解散する時、ショック死したらどうしようといつも思っていた。そこそこの笑いは取れるだろうが、そんなにプロレス好きをアピールしなくてもなあ、と考えていた。だいたい私が部屋で死んでいたからといって、ショック死したとは誰も思ってくれないに違いない。仮にショック死したとわかったとしても、その原因が維震軍解散にあるとは誰も気づかないであろう。というか、気づかないほうが自然である。それならショック死した意味がない。笑いも取れない。

そんなことを考えていたら、とうとう維震軍が解散した。越中は「維震軍としてはやるべきことはやった」ようなことを言っていたが、それは嘘である。維震軍でベルトを総ナメ（越中がヘビー、後藤&小原がタッグ）してないし、彰俊に体重を落とさせてジュニアで大暴れさせていない。nWoの看板も外してないし、シリーズ名を「維震軍タイフーン」に変えてない。そして一番の目標であった、本隊をぶっ潰していない。それならなぜ解散なのか？ そこにはまたビートルズが関係してくるのである。

以前にも本誌（6号）で書いたが、維震軍の前身である反選手会同盟の結成のきっかけはビートルズであった。知らない読者のために書くと、越中は大のビートルズファンである。以前、元ビートルズのジョージ・ハリスンが来日したとき、チケットを数枚余計に持っていた越中は蝶野や武藤に「行ってこいよ」とチケットを渡したのだが、返ってきた答えは「誰ですか？」。これに怒った越中は、選手会を脱退したわけである。そうして結成された維震軍であるから、解散もビートルズが原因に違いない。きっと蝶野とかもビートルズを聞くようになったのだろう。維震軍が残した最大の功績、それは皆ビートルズを聞くようになったことではなかろうか。

ところで話は戻るが、維震軍が解散しても私はショック死しなかった。当然である。しかし、ある事柄が私の頭をよぎった。よく老人が孤独に死んでいたりするが、その中には「ドラゴンボンバーズが解散してショック死」した人なんかが、もしかしたらいたのではないかと。以上！

ジャイジャイ日記

突然ですが、みんなは「性病（SB）」というアダ名を付けられたことがありますか？ジャイ子はあります。いや〜、屈辱的だよ。なぜなら性病ではないから。なのに近寄ると「性病がうつる!!」と怒られる日々。せっかくコンタクト買って、髪型も変えて（メチャメチャ不評）、路線変更を狙ったのにさ。ちなみに3月14日現在、病気はほぼ治ってます。もちろん感染はしないのでみなさん安心して近寄ってください。

「病院ではどんな格好したんだ!!」と中村カタブツ君（36歳）にムリヤリ再現させられたＳＢジャイ子。もちろんシュートボクシングとは無関係です。

2月12日

「誌面で使え」と言わんばかりにこんなものをプリントしてくれました。他の患者はもらった写真をどうしてるんでしょう？

銀歯が取れたので、5年ぶりに歯医者に行った。最近の歯医者は凄い!! ちっちゃいカメラを口の中に入れられて、モニターで一緒に見ながら説明してくれんの。ジャイ子は虫歯を6本も発見され、超ダーク。見てられなかったよ。帰りには汚い口内風景をプリントしてくれた。サービスか？ ジャイジャイ。

2月14日

国際プロレス鶴見大会。初めて行った鶴見青果市場は予想以上に遠かった。そして寒かった。ババシャツ重ね着も効果ナシ。30分遅れで試合は始まって、第1試合終了後リングが壊れた。直すのに約30分、寒いっつーの。ちなみに第1試合は幻vsモンゴルマン。「モンゴルマンとは何者だ！」とのおハガキを最近よくいただくのでモンゴルマン・プチ情報。ＴＯＫＩＯ出演の、ねるとん＋貧乏旅行番組『なりゆき』でホレた女子にゴー・フォー・ブロックしまっくってるハートブレイクな28歳。二瓶組所属。キャプチャー、国際等で活躍中。「最近、モンゴルマンと一緒に街歩いてるとキャーキャー言われるんだよ（幻・談）」「でも、モンゴルマンの部屋、すっげえ汚いんスよ（怒）!!（タノムサク鳥羽・談）」。場外乱闘のときに選手の間近で写真撮ってたら、目の前にイスが飛んできた。危ないじゃん!! あとで客が投げたことと、その客が二瓶組長に制裁されてたことが判明。さしづめ「セントバレンタインズ・マサカー」鶴見版って感じ？ 「ホワイトデーズ・マサカー」もあったりして。（緊急速報）「ホワイトデーズ・マサカー」ホントに勃発！（マボマボ情報）

2月21日

リングス横浜アリーナ大会。写真で見た限り、やたらと若返ってたアキラ兄さん、いよいよ今日が最後の日。会場では『紙プロ』からも、引退記念特別編集『紙の前田日明』の売店を出しました。物販クイーンを名乗る以上、ビッグマッチの売店はハズせない。おかげさまで大盛況だったよ。すっかり物販に夢中になって試合直前まで兄さんのこと忘れてましたぁ。もちろんメインはしっかり見たよ。スターの引退試合っていうのは、去年の猪木さんのときもそうだったんだけど、歓声と会場の大きさに吸い込まれる感じ＋思い出がグルグルまわって夢見心地というか不思議な気分になるね。ジャイアントスイングってこんな感じ？

2月28日

ＤＤＴ鶴見大会。今月2回目の鶴見青果市場。前回は風邪をひいたので、さらに厚着＆ホカロンで挑んだんだけどやっぱり寒いわ。しか〜し！ 鶴見まで行った甲斐はあったよ。シラット柔術vs酔拳のエキジビションはあるし、なんといっても初登場のゴールデンエイトに胸キュン。海援隊の『人として』で入場、コーナーで控えてるときはもちろん、試合中ずっと金八な姿にホレた。もしかしてホンモノ？ 空中殺法が得意なとこもまたステキ。覆面刑事、覆面番長に続いての脱力キャラシリーズは今後も楽しみ。いつもながら、ＤＤＴの興行には企業努力を感じるね。ジャイジャイ。

3月1日

ＷＡＲ後楽園大会。1試合目からメインまで、全試合セコンドにモンゴルマンがついてた（ＬＬＰＷの試合まで！）。なぜだ？

3月2日

とっても体調が悪い。林〝ヘックション〟一枝に相談したところ、膀胱炎の疑惑。でもちょっと症状が違う。まったく身に覚えがないのに、性病だったらどうしよう？ ジャイジャイ。

3月3日

1日経って、痛みが尋常じゃなくなった。じっとしてても泣きそうに痛い。自宅の最寄りの医者（内科＆産婦人科）までしか行けず、しょうがないので診察してもらうも「たぶん膀胱炎です。膀胱炎だったらこの薬が効くと思うのでとりあえず飲んで様子を見てください」と、一つもハッキリしたことを言わない医者にキレた。「冗談じゃない!! 病名もわかんないのに薬を出すのはおかしい、ちゃんと見れないのか!! ジャイジャイ!!」って言ってやったよ、泣きながら。困った医者はジャイ子を待合室に追い出した。産婦人科の待合室で一人号泣するデカ女。きっと他の患者は中絶したとでも思ってるんだろうな。結局その後、メチャメチャ痛い思いをさせられた結果、膀胱炎と判明。最初っから自信たっぷりに言えよ。歩くのも苦痛なので家で仕事をしよう。しかし道具を取りに編集部に行かなきゃいけない。行くのも苦痛だし、みんなにバレたらどうしよう。恥ずかしい。嫁にも行けないよ……。あー!! 間違えた。ジャイ子自分から言っちゃったよ。バカだね。もちろんみんなに大笑いされました。ジャイジャイ。

3月4日

家で仕事をしてると、滅多に掛けてこない山口日昇から「性病は治ったか？」と励ましの電話。悔しい！

ジャイ子、携帯電話を便器に落としてしまい、メモリーがすべて飛んでしまいました。ジャイ子の友人、知人の皆さん、至急連絡先教えてください!!

格闘
ノストラダムス
'99
プロレスか? バーリ・トゥードか? マット界の盟主を予言せよ!!

みちのくスタイルは俺が守る!

ザ・グレート・サスケ

みちのくプロレス

in 青空プロレス道場

新年早々、デルフィン派7名の大量離脱という名のハルマゲドンが投下されたみちのくプロレス! そんな中、SASUKEは人生とともに四国八十八ヶ所巡礼へと旅立った。苛酷な荒修行を終え、最後の一番札所にたどり着いたSASUKE。そこには愚乱・浪花の姿が! そしてSASUKEに人生から懐かしの赤マスクが手渡された。改心した新たなサスケがここに誕生した。そんなサスケのもとに、TAKAみちのく、MEN'Sテイオー、中島半蔵と続々と仲間が駆け付けた。みちのくプロレスに追い風が吹き始めた。ザ・グレート・サスケがいる限り、みちのくプロレスは永遠に不滅だ! そしてプロレス界の勝新は、絶対に死なない!

参加者/山口日昇&吉田豪&青空プロレス道場の皆様(サスケ組)
Interview by Noboru Yamaguchi & Go Yoshida
撮影/遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

俺だってさっき、マスク被って エレベーター乗ってきたんだから

今回は、大好評のまま無事全10回（ラストは発売日の2日前＝3／20現在ゲスト未定）の講座を終えた、前代未聞の一流プロレスラー参加型カルチャースクール『青空プロレス道場』！ 9回目の今回のテーマは「プロレスラーは芸人なんだよ!!」と題して、特別ゲストに、ザ・グレート・サスケ（改め＝ザ・トーイチ・サスケ）先生を迎え、その模様を特別に読者に大放出……の予定でしたが、過激度500％、我らが、ザ・グレート・サスケ先生の破壊力抜群の暴走機関車トークの前に、我々はただただ頷くばかりであった。完全収録バージョンは道場生の胸にそっとしまい込み、マイルドな内容でお届けする。
プロレス界の勝新、魂の叫びを聞け！
全ての道は、みちのくエイドに……

（サスケ本人が歌うセパラドスに乗りサスケは座頭市の格好で入場）

サスケ いやいやいやいや。この曲止めなさい！

2・7■横浜文化体育館『闘龍門』3週間の出場停止処分が解けたサスケはNWA世界ミドル級王座決定トーナメントに出場。決勝でM・トーキョーを下しベルトを奪取。そしてポカリで乾杯！

格闘 ノストラダムス'99
プロレスか？ バーリ・トゥードか？ マット界の盟主を予言せよ!!

山口 いや～たまに聞きたくなるんですよね。

サスケ いや～ダメだダメだ！

山口 久しぶりじゃないですか、社長！

サスケ ええ。どうもどうも！ もうパンツは履かない！

山口 ガハハハハ！ 勝新ですか（笑）。元気そうですねぇ（笑）。いつ何時どこでも元気ですねぇ（笑）。

サスケ こんばんは、ニコラス・ケイジです！

山口 ガハハハハ！ DEARニックですか（笑）。今日はサスケ社長の話を聞きたいがために、過去最高の道場生が集まりましたね。

サスケ やっ～ぱりさぁ、もう、ねぇ！ 皆さん何が聞きたいんでしょうか？ 何聞きたいって言ったらねぇ。改心したからさぁ。八十八番札所を回ってね（笑）。白い着物着て、確かに回ったんだけどね。

山口 おにぎり食っちゃたりなんかして（笑）。

サスケ あれ、座頭市のパクリなんじゃねぇかって。そういうのがあったんだけどもさぁ。サスケは改心したから何も喋らないんだろうって思ってるんだろうね。俺は今日は喋るぞ～ッ！

山口 ガハハハハ！ さすが（笑）。

サスケ 冗談じゃないよぉ！ 今日こういう場じゃないと喋れないじゃない？ ここが最初で最後のね。俺がまず一番最初に何を喋りたいかと言うとね、かつては、せんだみつおに金を貸し、最近では羽賀研二に五億円の手形を振り出したっていうね、盛岡の会社社長！ アレは俺じゃないってことを言いたいんだよ！

山口 ガハハハハ！

サスケ アレは俺じゃない！ 俺じゃない。それはハッキリさせたかった！ それだけはハッキリさせたい！ それを言えればもう今日はいいや。……ですけどね、申し訳ないんですけど、デルフィンたちのことはしゃべりたくないんですよ。もちろんここにきてくれた道場生の方にはしゃべりますけど（笑）。『紙プロ』誌上ではノーコメント。

山口 いいですねぇ（笑）。ところで、今日は、サスケ組の人は何人来てるんでしょうか、手を挙げて下さい。

（全員の手が上がる。ついでにサスケ社長も手を挙げる）

山口 いやあなたは手を挙げなくてもいいですよ（笑）。

サスケ でもね、もうすぐ解散するかもしれないという噂もあるんだけどね。

山口 そうかそうか。でもサスケ組イズムだけは残したいですね。

サスケ 俺たちは芸人だよ！ 芸人にさ、プライバシーもタブーもクソもあるもんかってね。冗～談じゃないよ！ 俺だってさっき、マスク被ってエレベーター乗ってきたんだから。

山口 ガハハハハハハハ！

サスケ 困ったもんだよ。で、「怪しくてどうもスイマセン」って言ってね（笑）。まあまあ、それはさておいてね。俺もさぁ、たいがいのケガしてるけどさぁ、頭蓋骨骨折した時があったよねぇ。

山口 ありましたねぇ。突然ですけど（笑）。でも頭蓋骨骨折は凄かったもんねぇ。

サスケ トペコンヒーロで自爆して、あれから無意識で闘ってたもんね、あの後の試合展開って全部夢の中なわけよ。夢の中でウラカンラナを決めてさ、八本のベルトを持ってたんだよね。気が付いたら控室で倒れてるわけだ。なんか頭が痛いんだよね。

みちプロ分裂に頭を悩ませるSASUKEを立ち直らせるため、新崎人生が提案したのが八十八ヶ所巡礼だった。SASUKEと人生が行ったのは八十八番札所から一番札所へと逆回りをするという「逆打ち」だった。無事一番札所にたどりつくとSASUKEのもとに、愚乱・浪花がやってきた。白覆面のサスケをリング上でも見たい！

で、頭触ったら、血がべっとりついててさ、パックリ開いてるわけキズが。これヤバイなぁって思いながらねぇ、したらさ、そこは新日の控室だったじゃない。ちょうど出番待ちしてた佐々木健介さんがさぁ、「大丈夫、大丈夫、そんなもん塩でも擦り込んでおけば治る！」って。

山口 ガハハハハハハ！

サスケ ひどいねぇ（笑）。

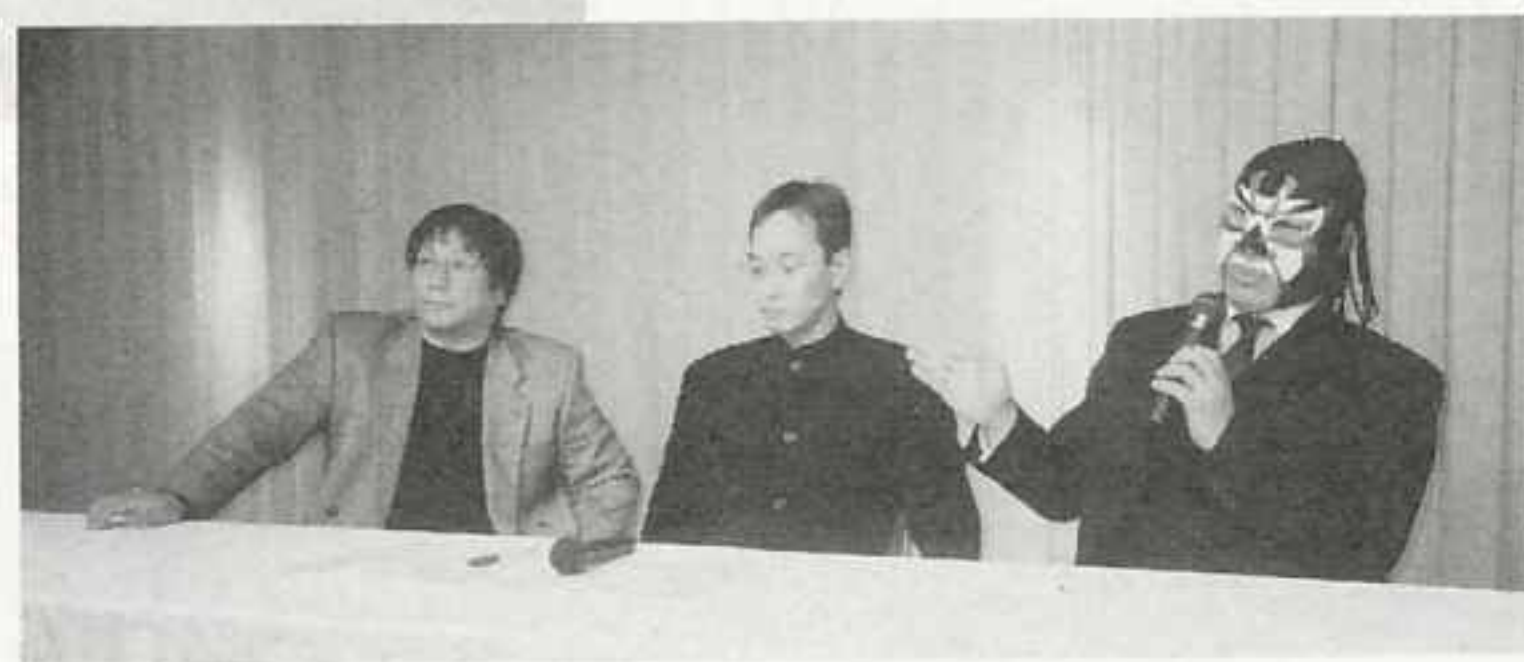
山口 さすがパワー・ウォリアー（笑）。力技だね。

サスケ 試合直前で気合い入ってたから、バンバンバンバン身体叩いて、「大丈夫、大丈夫！ 塩でも擦っておけば治る治る！ ヨッシャー！」ってリングに行っちゃったけどね（笑）。

吉田 ダハハハハ！

サスケ せめて救急車ぐらい呼んでくれよってね（笑）。

山口 ガハハハハ！

サスケ 誰か助けてくれってな。

2月10日、コミッションからＳＡＳＵＫＥに課せられていた、入場テーマ「みちのくプロレスのテーマ」、リングネーム「ザ・グレート・サスケ」の使用禁止の処分が解除されたことが報告された。会見には、中島半蔵、ＭＥＮ'Ｓテイオーらも姿を見せ、今後みちプロで闘っていく意思を表明。会見の後半には、ＦＵＬＬ新間寿恒代表が姿を見せ、みちプロとの交流に前向きな発言。過去ひと悶着あった両者が電撃的な和解。そしてがっちりと握手！

そういう時にねぇ、必ずやってくれるのがクロネコさんね。ブラック・キャットさんね。

吉田 いい人みたいですねぇ。4代目も言ってましたね。

サスケ あの人いい人だよねぇ～。なんか知らないけど、俺、新日ちょくちょく出るじゃない。いつも俺の控室くんだよね。アンタの控室ここじゃないだろうって（笑）。来るんだよね。「ヒザ大丈夫？」とか言ってねぇ。「ど～う元気！」とか言ってね。

山口 新日本で思い出したけど、『ファイト』に長州さんに怒られたって書いてあったけど（笑）、アレの真相知りたいなぁ、俺。

サスケ アレは去年十月の神戸大会だよ。対金本浩二戦。前の九月のみちのく最終戦でみんなと仲間割れしてさ、そういう状況で、俺が初めて青いマスクを被ってね、青い帯締めての初めての試合だったの。俺としては気分はもう……グレてるわけよ。

山口 ガハハハハ！

サスケ グレートじゃなくてグレタ・サスケね。俺入場の時から、イス振り回しちゃって、コノヤローッてさ。間寛平張りにさ、止まらないおじいさんみたいにさ（笑）。そりゃいいんだけど。それでサスケ・ザ・グレートをセコンドに従えて、試合にいろいろちょっかい出してたのよ。それに、長州さんがカチンときちゃって、「なんでオマエセコンドなんか連れてくんだぁ！」って。「なんで入場の時イス振り回してんだぁ」とかいろいろ怒られちゃって、も～う、アレは怖かったね。（笑）。

山口 ガハハハハハ！

サスケ もう臨戦態勢にかかったんじゃないかって、いつでもリングに上がれるよ、長州さん。「はい、すいません！ すいません！ すいません！」って。しまいには腕振り回し始めちゃってさぁ。

吉田 ダハハハ！ リキラリアットが来たんですか？（笑）

サスケ 怖かったねぇ。怖かったよぉ。

吉田 腕回したのは作りですよね？（笑）

サスケ それはう～ん（笑）。でもそれに近いとこまでは、いったよ。

山口 社長、最近、大仁田さんとの関係はどうなんですか？

サスケ いや、ね～俺のネタパクられてね、タバコくわえて、イス持ってたでしょ。あれテレビで見ててさ、なんだよマネしてんじゃねぇかよ（笑）。

吉田 サスケさんもマネだったんですけどね。

サスケ ん？ あっ、そうだっけ（笑）。俺はサンドマンのマネをしたという。俺はマネしてもいいんだよ。俺はＥＣＷの一員だからね。いいんだよ、俺は。ツーカーなんだから。

山口 何が何だかさっぱりわかんないですけど（笑）。

サスケ さっ次はなんの話をしましょうか？ 話がいろいろ飛んでますけど。

山口 社長、4月に大田区体育館がありますけど、どんなことが行われそうですか？

サスケ これはですね、あの『みちのくエイドＴＯＫＹＯ ｆｏｒ ＴＯＨＯＫＵ』と。これはなんか、どっかで聞いたフレーズじゃないですか？

吉田 『ＵＳＡ ｆｏｒ ＡＦＲＩＣＡ』？

サスケ 『ＵＳＡ ｆｏｒ ＡＦＲＩＣＡ』こういうノリでねぇ、みちのくを救えと。ということで。違うよ！ 自分で救えって言わないよ。違うんだよ、これは（笑）。みちプロが主催するんじゃないよ。みちのくエイド実行委員会。ってのが主催なんですよ。で、その主催の筆頭が……、あなたですよ！

山口 そうなんだよ！ 記者会見の時ダブルクロスって入ってんの見てビックリしちゃったね（笑）。そう、『みちのくを救え！』ねっ？ 是非とも救いたいですよ。救いたいって言っても、絶対潰れやしないですからね（笑）。ところで、新聞の親父さんはどうしてんですかね？

サスケ この間、会いましたよ。凄い元気で、それこそユニバで揉めたときはさぁ、親父さんなんか、「サスケのヤロー盛岡まで行って殴り込んでやるよ！」なんて息巻いて

ホントにやらなきゃならないことは中東和平！

たんだけどもさ、やっぱり6年経ってね、久しぶりに顔会わせて、やっぱり第一声はさぁ、「すいませんッ！」って、すいませんから始まるんだよ。

吉田 とりあえず謝ると（笑）。

サスケ 「すいませんッ！ ご無沙汰してます」って言ったら、新間さんの親父さんもさ、「オッ元気か！」ってね。ちょうどデルフィン騒動があった直後に会ったんでね、「デルフィンたちも、あんなことになったけどなぁ、サスケ頑張れよ！」って励ましてもらってね。嬉しかった。……しんみりしないでよ。で、その場にまた、坂口さんがいたんだよ。それで挨拶しに行ったらさぁ、「ど～した、サスケ！」なんてね、今回の騒動を知ってたみたいで、坂口さんってね、すっごい詳しいんだよ。

山口 プロレス界のこと？

サスケ プロレス雑誌とかも、隅から隅まで読んでるらしいですよ。だって、みちのくのこと知ってるもん。でね新日本の営業の人でさぁ、結構オレらと仲のいい人がいるのよ。で、携帯のサスケストラップってあるじゃない？

山口 はいはいはい。

サスケ それを営業の方が胸ポケットに挿してくれてるのよ。見えるように。したらある日、坂口さんに見付かったんだよ。「オイ●●、何だお前！」。そっからがね、とんちが効いてるんだよ。「お前もサスケ組か？」って言ったらしいんだよ。

山口 ガハハハハハ！ 詳しいじゃねぇかって（笑）。

サスケ ガハハハハハ！ 何だよ、坂口さんも知ってるんじゃん。あの人はインテリな人だ。

山口 ガハハハハ！ とりあえずサスケ組を知ってるとインテリと（笑）。社長、今度の新日本のドームは出るんですか？

サスケ うん。なんか出るみたいですよ。（ファンに向かって）出るんですよね？

山口 ファンに聞いてどうすんだよ。

サスケ 出るらしいですよ。

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？バーリ・トゥードか？マット界の盟主を予言せよ!!

山口 今後は、新日本にも出つつ、みちのくプロレス再興に向けて、動き出すというところですかねぇ。

サスケ いや、もう動いてますよ。

山口 どうなんですか。分裂後のシリーズのお客さんの反応とかは？

サスケ とりあえずね、春の出稼ぎっていうことで、徳島とか回ったんだけどね、もう大盛況でした。お陰様で。特に名古屋が良かったね。嬉しかった、すごい。今こそみちプロを見ようって感じ集まってくれて、すんごい嬉しかった。

山口 みんな揉め事が好きなんですけどね（笑）。

サスケ いやいやいや。

山口 ところで社長はインターネットとかでファンの声とか聞いてるんですか？

サスケ うん、たまに見ますよ。でも、今いっぱいあるでしょ。いろんなとこに、だから全部は見れないですよね。

山口 もう言いたい放題ですよ、ファンは。今やインターネットは無法地帯。

サスケ なんか暴露話系のサイトを見ましたよ。ビックリしたわ。俺が昔マクドナルドで働いてたとかさぁ、書いてんだよ。

山口 ガハハハハハ！ それは暴露じゃないでしょ（笑）。

吉田 みんな知ってますよ（笑）。

サスケ どこまでがプライベートかわからないなぁ（笑）。まあいいや（笑）。でも今ホントにやらなきゃならないことは、中東和平です。その第一弾として四月にグァムで試合をやります。

山口 ガハハハハハ！ 学園祭じゃないですか（笑）。

サスケ う～ん。まあねぇ（笑）。

山口 まあガダルカナルとかね。

サスケ まあ中東和平は、カギです。今年

2・28『大日本』後楽園、サスケはマスコミ陣に囲まれると、「こんばんわ石井苗子です！」と時事ネタで勝負に出た。さらに小鹿社長に「ボクも同じグレートということで、GKファミリーに入れてもらえませんか」と直訴。

は。パレスチナ解放機構のア●ファト議長が暗殺されますから。それをまず私が阻止しなければならない。それが一つの第一段階であるから。

山口 それは具体的にはどうやって阻止するんですか？

サスケ まぁ、身体で守ると。

山口 ガハハハハハハ！

サスケ 身を呈して。ガハハハハ！

山口 99年の7月も迫ってますけどね。どうなっちゃうんですか、地球は？

サスケ え～とですねぇ。今年いっぱいは、実は何も起こらないんですよ。

山口 あっそうなんですか？

サスケ ただ7月辺りに、まぁ、そのア●ファト議長暗殺、が起きるんじゃないかなというね。で、二千年から第三次世界大戦が、始まります。これは始まります。

山口 マインドコントロールというね、これはもう軍事兵器なんですよ。これが使用されると。マインドコントロールっていうのはですねぇ、皆さんがお持ちの携帯電話、

久々にみちのくプロレスのマットに帰ってきたＴＡＫＡみちのく！復帰戦を勝利で飾ると、「俺がみちのくプロレスを面白くする。サスケ、いつまでもテメエのみちのくだと思うなよ！」と強烈なマイクアピール！

それからパソコンです。これはインタネットの繋いだパソコンです。この二つを使って、え～、全人類。マインドコントロールを行います。つまり戦争に参加せよと。あるいは戦争が起きてるよと。

山口 はいはい。

サスケ ひょっとしたら、戦争なんか起きてないのかもしれないけど、立体ホログラムで……。

吉田 ダハハハハ！

サスケ 戦争の風景を映し出すわけですよ。立体ホログラム、これはね、この間の湾岸戦争、あれで使われたんですね。で、それでアメリカ軍が圧勝したと。……という背景があるんです。

山口 そういう背景があったわけですか。結局地球はどうなるんですか？

サスケ うん。地球は存在します。

山口 戦争起こっても大丈夫？

サスケ うん。ただしですね、あの～、我々がね、研究家がね。

山口 ガハハハハ！ 社長、そろそろ時間なんで。

サスケ 最後に、みちのくエイドについて喋っていい？ 先程ね、みちのくエイド実行委員会のお一人と話してきまして、当日に公開レコーディングを行うつもりです。

山口 ワァ～オ！

サスケ これはですね、当日会場に入らした皆さんの声を頂きます。で、実は夏に向けて、みちのくエイドという名前のですね、シングルCDを出す予定です。

吉田 ダハハハハハハ！

サスケ これはですね、だんご3兄弟に続いてヒット間違いなしって言われてまして（笑）。レコード会社には期待されてる。せめて宇多田ヒカルには勝ちたいなって。

山口 ガハハハハハ！ せめてって強敵ですよ（笑）。

吉田 やっぱり社長が歌うんですか？

サスケ いや、歌わない！ 歌ったらダメでしょ。ガハハハハ！ その代わり、みちのくエイドなんでね、やっぱりその、みちのくエイド実行委員会の方々に歌ってもらいます。

山口 あぁなるほど。アッじゃあ俺も歌うんだ！ うわぁ～、緊張するなぁ、それ

山口 もちろん佐山聡さんにも歌ってもらって。

サスケ もちろん。今ね、是非お願いしたいのが、猪木さんの声もちょっと入れたいんですよね。猪木さんがコーラスで、ダーッ！ ダーッ！ダッ！ダッ！ってね。それで、ラップっぽくダッ！ダッ！ダッ！ダッ！っていうのも面白いかなって。いいんじゃない？（笑）。そういうのやってみたいねぇ。

山口 メインボーカルは誰なんですか？

サスケ メインボーカルは、超大物ょ！

吉田 またあの超大物ですか（笑）。

サスケ わざわざ呼んで公開レコーディングのためだけに。あと当日は、ミュージシャン系でアッと驚くゲストが来ますよぉ。

山口 なるほど、ビッグじゃないですか。4・27は。みんなも行かないとね……何しに行くんだかよくわかんないけどな（笑）。

サスケ ガハハハハ！ レコーディング参加しに是非いらして下さい。

山口 ところでアラン・リードはどうなったんですか？

サスケ あぁ！ アラン・リード呼ぼうか？ でも別に、呼んだからどうなるもんでもないし（笑）。今はそんなに旬じゃないでしょ？

山口 まあもう今はね。

サスケ 誰か有名人呼ぶかっていったら、羽賀研二とかになっちゃうのかなぁ。

山口 でも今年もアラン・リード系の面白いのを考えてるんでしょ？

サスケ 考えてます。プロレス、プラスアルファがね、ウチの売りですから。

山口 社長、そろそろ時間なんで。最後に締めてもらいましょう！

サスケ 本日はご来場ありがとうございました（笑）。4月27日、大田区体育館での、みちのくエイドをどうぞよろしくお願いします。今後とも、みちのくプロレス応援をよろしくお願いします。

山口 ガハハハハ！ それじゃ普通すぎて締まんないですよ（笑）。

サスケ **いきますかーッッ！** 皆さんが一人でもいる限り、みちのくプロレスは永遠に不滅です！ ありがとうございました!!

【3月10日、青空プロレス道場にて収録】

「ルチャバカ日誌'99」

3月27日（土）
福島 福島市国体記念体育館
サブアリーナ（18:30）

3月28日（日）【最終戦】
宮城 ニューワールド仙台テニスクラブ
（15:00）

入場料金 全席自由（ゴザシート席）
一般 3100円（当日は3500円）
小中学生 1100円（当日は1500円）

チケットの通信販売、お問い合わせは
みちのくプロレス
019−626−1333

《参加選手》ザ・グレート・サスケ ＴＡＫＡみちのく グラン浜田 タイガーマスク 愚乱・浪花 ビーフ・ウェリントン シーマ・ノブナガ（闘龍門）ジュードー・スワ（闘龍門）スモウ・フジ（闘龍門） スーパーボーイ ピロトスイシーダ ペロ・ルッソ 望月成晃（武輝道場）

nちょうのマット界出来事！

クソ忙しい時に限ってワケのわからん電話が掛かってくるものだ。今何時？5時じゃっ！「お宅では、読者から電話が掛かってきた場合、即座に切るという編集方針があるのでしょうか？」「ちっとそのような方針は聞いたことないですけどねぇ」「読者なんでって言ったら切られたんですよ！ もしそのような方針があるんでしたらネット上で流そうかと思って！」「はぁ？ 失礼ですけど、お名前は？」「読者なんで……」ガチャ。(上に戻る) 犯人は俺か!?

1999.2.4〜3.1

2・4【東京スポーツ】2・5付

■『解散のウワサが絶えない平成維震軍の大将・越中詩郎が99年の維震軍改革プランをブチ上げた。越中以下、現メンバーは木村健悟、小林邦昭、後藤達俊、小原道由の５人だが、小原以外の４人が、すでに40歳を過ぎるなど、メンバーの高齢化がまず問題となる。そのうえ、今シリーズの目玉、ＩＷＧＰヘビー級次期挑戦者決定トーナメントで起死回生を狙った越中も、１回戦でｎＷｏの若頭・天山広吉にフォール負け。ハッキリ言って、現在の維震軍に明るい材料は皆無だ。ところが、とうの越中は、「たとえ今日負けても、明日勝てばＯＫなのが、この商売。問題ないって。シングル王座も武藤がチャンピオンのうちは、いつでもとる自信がある。ｎＷｏの連中は何かとオレたちを標的にしてるが、武藤はヒザが悪いし、蝶野は半病人。強がっているけど、オレより状態はマズいんだろ？ 小島や天山だってオレに言わせりゃ、まだまだオボッチャマ。ファッションでｎＷｏなんて言ってるけど、くぐって来た修羅場が違うって」と鼻息も荒い。確かに維震軍は結成以来、いつも修羅場だった。８年間、軍団を引っ張ってきた越中の進軍ラッパにはそれなりの重みがある。「後藤も小原も、もっと好き勝手に暴れて構わない。テロでも誘拐でも恐喝でも何でもアリだって。変に遠慮なんかしてほしくない」と越中は解散説を吹き飛ばす“やるって節”を繰り返した』。テロ・誘拐・恐喝・何でもアリ・維震軍万歳！ 一部ファンから絶大な支持を受けている維震軍のボス・越中の“やるって節”満開の発言だったのだが、数日後には残念なことに解散！……もったいないって！

2・14【新日本】日本武道館

■この日マサ・サイトー引退試合が行われ、34年間のレスラー生活にピリオド。リング上でマサは「皆さんにすっごくご迷惑をかけました。でも今日でみんな忘れました！」と最後の最後までマサらしさを全うしてみせた。マサイズムを連鎖しろ！（無理か？）■久々に生で見た後藤達俊。一部では「上田馬之助そっくり！」などと言われているが、そのたたずまいといい、適度に脂肪がのったお腹の具合といい、革ジャンからサングラスまで、すっかりアドリアン・アドニス化していた。タツトシなんてフツーの名前はよくない。このさい、後藤アドニスに改名したら…。とにかく後藤にはこのままバイオレンス路線で突っ走って欲しい。となると必要となってくるのが、ディック・マードックである。ここは是非、安田に名乗り出てもらいたい。安田も当然、ディック安田もしくはディック忠夫に改名すれば、大ブレイク間違いなし！

2・15【高田道場】

■高田延彦の再起戦が４・29名古屋レインボーホール『PRIDE-５』と決まった。仙台で合宿を張る高田が取り入れたスポーツはなんとバトミントンだった。元バトミントン全日本王者の松浦氏が打ち込むシャトルを片っ端からガードしまくる高田の姿は一見滑稽にも見えるが、時速何百キロの全日本クラスの選手の打ち込むシャトルを見切れるようになれば、格闘家の繰り出すキックやパンチでも容易には喰らわなくなることだろう、きっと。

2・21【IWRG】／メキシコ・ナウカルパン

■この日、メキシコマットに初登場したサスケ・ザ・グレート。さらに偽サスケに寄り添うようにして入場してきたのが、セクシーなコスチュームに身を包んだ女サスケ。ん〜、どこかで見覚えがあるが、正体は一体誰!? 教えてサスケ組長！

2・23【平成維震軍】

■焼肉店「漢城苑」において平成維震軍の解散が発表された。七輪を前に越中は「維震軍としてやることは全てやってきたって！」と笑顔で解散報告。会見終了後にはマスコミを囲んでの食事会が開催された。俺も呼んで欲しかったって！

2・26【全女】

■「死にくたばるまで一日も休まない」が座右の銘の松永会長が、インフルエンザでダウンしてしまった。何でも、車の中で下から2番目の兄弟・松永俊国氏にゲロを引っかけられたのが原因だという。

3・1【DANGER】

■ミスター・デンジャーこと松永光弘公認ファンクラブが発足された。その名も『KING OF DANGER』。「キングオブデスマッチとしてインディーの盟主でもあり、また、実業家としても活躍中の松永選手を応援して下さる方を大募集します」とのことなので、W★INGフリーク及びに、松永ファンの皆さん、今ならブッチャーと一緒に血のしたたるステーキを食べられるかも。

［問合せ］KING OF DANGER事務局「Mr.デンジャー四つ木店」〒124−0011 東京都葛飾区四つ木4-29-9 TEL03−3693−9159まで

3・1【パンクラス】

■パンクラスの長谷川悟史選手がこの日の午後1時45分頃、東京・広尾のパンクラス事務所近くのマンション3階踊り場から転落。帰らぬ人となってしまった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

1999.2.21

【ＲＩＮＧＳ】本誌14号での「今からでもいいですから、やめた方がいいですよ、前田さんは。命が危ないですよ」というショッキングな発言で話題となった太田章氏が、カレリン戦後の前田の控室を訪れた。周囲の緊張をヨソに二人はしばし談笑。そしてガッチリ握手！ あい〜や。

1999.2.24〜26

【アブダビコンバット】ＵＡＥの王子様が、金と名誉と元気で世界中の格闘技界のビッグネームを集結させた“組み技系バーリトゥード”アブダビ・コンバットが開催された。日本からも修斗系の選手が大挙参戦。記念撮影ということで油断したのか、廣野の飛びつき腕十字にタップ寸前のエンセン。（写真・エンセンの弟子メルカー）

1999.2.25

【ＳＰＷＦ】後楽園大会のカード変更を要求してきた、後藤、矢口の革貴十字軍。谷津とのデスマッチを実現させようとアピールする矢口だが、とうとう谷津はつかまらず。そこへタイミングよく現れた嵐。入ってくるなり「寒いなぁ、お茶くらい用意しろよ」（ｂｙ嵐）「お前の服パンパンじゃねぇかよ。金ねぇんじゃないか？（ｂｙ後藤）」「風呂入れよ！（ｂｙ嵐）」とアットホームな挑発合戦で、集まった取材陣を大いに楽しませてくれた。

1999.2.28

【大日本】この日のベストバウト、藤田VS日高戦の余韻をかき消すかのように乱入してきたのが、イカしたファッションで身を包んだボーゴ。Ｂ級パンクのボーカリスト気取りで「出てこい、小鹿！」とシャウトし続けた。そして小鹿に殴られた。

1999.2.28

【ＤＤＴ】ＤＤＴ初参戦のインドネシア拳法・シラット武術のスナヤン。シラット武術をマスターしているのは日本でわずか10人程度だけらしいのだが、今回の参戦を巡り分裂騒動が勃発！ スナヤン派では現在入会者募集中！

1999.2.28

【全女】この日のガレージマッチには近所にお住まいの健悟兄ィも来場。数日前に惜しまれながら解散してしまった維震軍だが、健悟兄ィにはどこ吹く風。背中に“覇”を背負った 維震軍グランドコートで登場！ 維新軍は不滅だ！

1999.3.2~3.13

3・4【UFO】UFO事務所開き

■今まで『闘魂ショップ』の２Ｆにある猪木事務所を間借りしていたＵＦＯだったが、この日、総帥アントニオ猪木を迎え正式に独立した。会見の途中、猪木さんは、佐山、小川、村上に向かって「どうした！ お前ら元気がないな。ＵＦＯには金も名誉もないが、元気だけが取り柄なんだから。元気が一番！」と闘魂一喝！

3・9【東京スポーツ】3・11付 沖縄・平仲ジム

■「小川直也はこの日、１・４ドーム大会で橋本真也をボコボコにした裏拳マウントパンチを『目覚ましパンチ』と名付けた」という。次号の読プレでもらおう。

3・10【全女】

■代々木第二体育館●ＬＬＰＷvs全日本女子プロレスの全面対抗戦が行われた。中でも注目は、八木淳子と伊藤薫の柔道ジャケットマッチ。さすがに柔道では伊藤も八木にはかなわなかったか、試合開始直後から巴投げ、一本背負いなどで投げられまくった。当初、格闘技戦のハズだったが、５分を過ぎると両者とも道衣を脱ぎ捨て通常のプロレススタイルに…。結局、最後は伊藤がダイビングフットスタンプであっさり勝利。こうなったら八木には、「ＰＲＩＤＥ」か「バリジャパ」のリングに上がって欲しい。相手はズバリ山本聖子！ 聖子ちゃんは、アマレス以外にも、エンセンのところや慧舟會でも練習をしてドンドン強くなっている。今こそ八木vs聖子が見たい。なっ！ ボクもスパーリングをして聖子ちゃんの強さを体感したい。三角絞めで一本取れたらいうことなし。それがボクの夢！

3・11【ドリームステージエンターテインメント(ドリステと呼んでチョンマゲ)】

■『ＰＲＩＤＥ.５』の対戦カード発表第一弾として、エンセン井上vsマーク・ケアーと高田延彦vsマーク・コールマンの二試合が正式決定。メインはどっちだ！

3・11【東京スポーツ】3・13付

■「ＵＦＯ14日の横浜アリーナ大会で小川直也の挑戦を受けるＮＷＡ世界ヘビー級王者ダン・スバーンが11日、来日した。スバーンは小川の新必殺技『ＳＯＳ』をアザ笑い、251回目の防衛を宣言した」。久々の来日となるスバーンだが、油断して目を離していたスキにＮＷＡ王座を250回も防衛していることが判明した。あやうし小川。さらに「同行したＮＷＡのハワード・ブロディ会長によると、スバーンは95年にベルトを巻いてから４年間で、アルティメット戦を含めなんと4000試合をこなし『１日に17試合したこともある』とスバーンは公言。ＮＷＡ世界王座も実に250回も防衛した」というから、もう正気の沙汰じゃない。１日に17試合なんて、長州の引退試合でも到底かなわない。しかもアルティメットを含め4000試合をこなしたというから、Ｕ系の選手もおちおち『月１の試合はキツイ』などと言ってられなくなってきた。あやうし小川！「スバーンは『オレにはこれまで培ってきた経験と頭脳がある。小川の柔道にも対応できるし、特別な練習は必要ない』と貫禄タップリ」に言うのも当然だ。それだけの試合をこなせば特別な練習どころか普通の練習さえ一切必要ないのかもしれない。「『以前、ＩＷＡジャパンでターザン後藤と“クレージーマッチをしたことがあるが、小川はクレージーでバッドボーイなんだろう。オレのヘッドバットで頭を叩き割ってやるよ』と小川を子供扱い」しながら、さりげなく過去にお世話になったＩＷＡやターザン後藤の名前を挙げるなど、ＮＷＡ王者としての気配りも忘れてはいない。「一方、挑戦者の小川は11日に沖縄合宿を打ち上げ帰京。『スバーンの帰りの荷物は軽くなるよ』とベルト奪取を改めて宣言」するなど、小川は小川で自信満々。戦前盛り上がりに欠けていた一戦がここにきて大きな盛り上がりをみせてきた。勝者はどっちだ!? 小川か？ スバーンか？ それともレフェリーのドリーファンクJrか？

3・7後楽園大会 密着！ テレ朝・真鍋アナ「これが私の生き方です！ はい」

有刺鉄線リストバンドはもらえなかったが、気さくに撮影に応じてくれた大仁田。同じ頃、テレ朝の真鍋アナが緊張の面持ちで会場入り。きっと今日は何かが起こるはず。個人的に密着開始！

「俺と新日本どっちが好きなんじゃ！」と問われた真鍋アナ。アナウンサーらしくカツ舌よく「私は新日本が好きです！」と言った瞬間一斉にフラッシュが焚かれた。その光景を見つめる茶坊主１人。

通路で観戦をしていた真鍋アナだったが、メインの大仁田の試合が始まると、一歩二歩とリングに近づき、その顔つきはいっそう険しいものに。視線の先には大仁田厚ただ１人！

「お前は電流爆破を見たいか？」と詰め寄られた真鍋アナは「見たいです！」と返答。体を張って新日中継を盛り上げてきたアナウンサーの力により、蝶野VS大仁田の電流爆破デスマッチが決定！

張りつめた雰囲気の中、場にそぐわないカメラ小僧１人（ドサクサまぎれで『ゴング』も制覇）。「バシーン！」強烈な張り手音とともに真鍋アナがフッ飛ぶ！GO真鍋GO！

頑張れ真鍋アナ！

チョロぷれ ダイナマイツ！ (応募方法はP144参照)

田村潔司提供 サイン入りキックミット&ビデオ……1名

U-FILE CAMPで田村選手に蹴られまくったキックミットと田村潔司ビデオ『疾走する魂』をセットで１名に！ サンクスＫＴ！ ハローＫＴ！

坂田亘提供 サイン入りRINGSタオル (キズ有り)……1名

坂田選手から、前田道場にあった超デッドＲＩＮＧＳタオル（サイン入り＆キズ入り）を入手。あなたにあげる！

ザ・グレート・サスケ提供 サイン入りみちのくエイドポスター……10名

「たとえ一人になろうともみちプロは俺が守り続ける！」サスケ組長の意気込みがビンビンに感じられる逸品！ 思い切って10名に！

下川智(読者)提供 世界のプロレスポスター……1名

読者から、道端で拾った「世界のプロレス」ポスターが送られてきた。フジヤマ・黒船・世界のプロレス！

nちょう(マット界)の出来事!　出張版

闘う帰国子女
悲しき天才

セッドジニアス　インタビュー

ナイタイスポーツ3月11日号

3月11日号『ナイタイスポーツ』の一面には、ジニアス君に関するショッキングな記事が! その前日、僕は何事もなかったかのようにジニアス君のインタビューをしていた。

—ジニアスさん、猪木さん率いるUFOが、NWAと提携したんですけど、ご存じですか?

ジニアス　NWAってノース・ウエスト・エアライン?

—はぁ? プロレスのNWAですよ。ジニアスさんも、元世界チャンピオンのテーズさんともいろいろとありましたし、ジョージ高野さんと一緒にNWAっていう団体を作ろうとした事もあったじゃないですか?

ジニアス　あったねぇ(苦笑)。

—NWAっていうのは、ジニアスさんが目指すスタイルに近いんじゃないですか?

ジニアス　いや別に目指すも近くもなんともないよ。ある種、旗揚げした時のポリシーっていうのは日本ではどうしても必要になるから、そこでポリシーを掲げただけでね。これまでやってきた試合が理想とかそういう事でもないしね。理想は……、無いわ。

—ハッハッハッ。理想は無し! でもこだわりはあるんじゃないですか?

ジニアス　それはあるよね。やっぱり180センチ、100キロはレスラーの最低基準だよね。なぜかっていうと、シロウトにナメられないっていうのもあるし、100キロって身体は、例えば、スタミナが切れたりして受け身を取りそこなった場合でも、その筋肉がプロテクターになるっていうね。

—あと、ジニアスさんが言ってるプロレスラーの最低基準として、フリーとグレコのレスリングが出来ることっていうのもありますよね。

ジニアス　最低限の基本だよね。野球が出来ないプロ野球選手はいないでしょ、テニスが出来ないプロテニス選手はいないでしょ。でもレスリングが出来ないプロレスラーって、ねぇ? 自分のとこにも、出たいっていう選手が来たら、身長、体重、経歴と必ず聞くのよ。それで「フリーとグレコってわかる?」と。そうすると「ボクはプロレスラーなんでアマレスの事はわかりません」って言うワケよ。アチャーと思って。そういう奴に限ってさ、どっかの団体で言ってるらしいのよ。「ジニアスにこんな事聞かれた」と。「プライドが傷つけられた」って。プライドが傷つけられたんじゃなくて、恥ずかしい事なんだよと。今のインディー団体がいっぱい出てきてる中ではそれが常識なのかも知れないけど、どうかなって……。

—ジニアスさんは「自分で団体を持っているからあえて他団体に上がる必要はない」ってよく言ってますけど、やっぱりもったいないって思っちゃうんですよ。身体もデカイし、レスリングもできるし、キャラクターもしっかりしてるし。でも正直言って、ジニアスさんの試合を見たことがないって人が圧倒的ですから、「お前は一体何者やねん!」って声が多いんですよね。

ジニアス　こういう者です。

—……。キャラクター的に西村(修)さんとは近いものがあると思うんですけど、無我とかは興味ないですか?

ジニアス　無我かぁ。俺は藤波さんと仲悪いからなぁ……ってそんな事ねぇか。そんなことないよォ(笑)。

—ジニアスさんの猪木さんへの挑戦表明にしても、猪木信者からすれば、「お前に挑戦の資格はない!」っていう声がこれまた圧倒的なんですよ。

ジニアス　そうだろうね。でも猪木さんだったらわかんないでしょ。もし俺が猪木さんの引退試合の相手になっていたら、前田さんをレフェリーに指名したいと思ってたんですよ。前田さん、猪木さんの引退試合のレフェリーをやってもいいって言ってたでしょ。それで、猪木さんを羽交い絞めにしようかなと思ってた……。日本国民の夢……。

—そんな夢ないです(笑)。じゃあ例えば蝶野さんに挑戦とかっていうのは考えてないんですか。過去の経緯を知る人に取っては興味深い試合になると思うんですけどね。

ジニアス　その辺が絡んでくればテーマがある闘いにはなるよね。藤波さんだってやってみたいし、木戸さんもいいねぇ。橋本、武藤だっていいし。何で俺、新日本ばっかり喋ってんだろうね(笑)。馳浩でもいいしね。でもやっぱり蝶野とはやりたいねぇ。時期的には、追悼興行での対決がベストかな……。

—つ、追悼興行!? だ、誰の追悼興行ですか!? ……まあ今名前が出た選手だったらスタイル的に噛み合うと思うんですけどね。

ジニアス　いや別に俺は今やってるスタイルが全てじゃないから。正直言って一度も目一杯闘ったことってないんだよね。なかなか対戦相手に恵まれなくてね。ジニアスはクラシックなスタイルしか出来ないと思ってる人も多いかもしれないけど、佐野(直)戦の時なんかは……。

—大技大技で秒殺しましたからね。あの試合はノリノリでしたね(笑)。

ジニアス　あれはノリノリだったねぇ(笑)。でも今のプロレスはテレビゲームじゃないんだからって思っちゃうとこがあるよね。ラリアット、ムーンサルト、フランケンシュタイナー、投げっぱなし系、パワーボム系とか全部使ってるバカはいねぇかって何かに書いた事あったけどね(苦笑)。猪木さんなんかは、冷静に見てみると大技っていうのは少ない選手だよね。ほとんどロープに飛ばさないし。長州さんなんかも極端な話し三つだけでしょ。バックドロップ、サソリ、ラリアットっていうね。超世界チャンピオンクラスの人ってみんな自分のスタイルって持ってるから。フレアーにしてもそう、ホーガンもそう、馬場さん、鶴田さんもそう。三銃士もそうだね。

—一昔前だと人の技っていうのは使えなかったっていうのもあるし、使いたくないっていうところもあったと思うんですけど、最近はその辺のこだわりもなくなってきたんですかね。

ジニアス　今はもうそういう技が出てきたらやんなきゃいけないみたいな感じってあるんじゃないかな。なんか、ものまねオンパレードみたいで。

—ものまねオンパレード(笑)。

ジニアス　そういう意味でやっぱり記憶に残らないよ、今のプロレスは。っていうかさぁ、時代がそうなのかもしれないけど、その場その場でガーッと盛り上がって、次の日にはスパッと忘れちゃうような……、昔の試合ってさぁ10年経っても20年経っても色褪せないんだよね。……でもプロレスは難しいよね、いろんな意味で。

—そうでしょうね。そういえばUNWの大会名は『時代の先っちょを行く』とか『粉ミルクを飲んで』とか『光合成完了』とか(笑)。あれって何時間も掛けて考えるもんなんですか?

ジニアス　ひらめき。ひらめきだよ。

—ひらめきかぁ。……光合成完了。

ジニアス　最後に「水車の理論」でも喋ろうか。いい?

—はい。ご自由にどうぞ!

ジニアス　俺は猪木戦に向けていろいろと研究をしていたと、その中でアッと驚くような発見をしてしまったと。それが「水車の理論」である。水の力に抵抗せず自らが死に体となることにより相手の力を吸収し、……おっと、これ以上話してしまうと手の内を見せることになってしまう。

—はぁ!? なにがなんだか……。

【99年3月1日/不二家パーラーにて収録】

ジニアス君のひとり言

【大人気ないぞゴング!】
UNW(掲載放棄による反則勝ち)ゴング
昨年8月8日大田区民プラザ大会より、日程、会場名、試合結果等掲載拒否「公正な取材がモットー」が「不公正な取材」に、竹内宏介編集人に遺憾の書簡送達も……『ゴング』が好きで『ゴング』しか読まないという人もいるハズ。大田区民プラザは、昨年8月8日がプロレスで初めて使用の為、日程はもちろん、会場名、会場へのアクセス等最低限の情報を掲載しないのは反則でございます。

【コラッ! 週刊ファイト】
セッドジニアス(携帯番号掲載の大暴走による反則勝ち)週刊ファイト

【生体学】〈筋肉海綿体理論〉
4・4に向けて、今、色々と研究をしていて……そんな時、アッと驚くような発見をしてしまった。それは〈筋肉海綿体理論〉である。よく、格闘技には柔軟性のある筋肉が良いと言われるが、私の長年の調査、研究の結果、ある一つの結論に達した。それが〈筋肉海綿体理論〉である。リラックスした状態では非常に柔軟かつしなやかであるが、いざ出陣という際には鋼鉄のように硬くなり攻めまくる。これこそが格闘技に最も適した理想的な究極の筋肉である。

【ジニアス、97年にワシントンDC近郊の都市にUNW現地法人設立も】
◎代理人の弁護士が金持ち逃げし行方くらます。法律違反(犯罪行為)勧められ、あやうく逮捕。登記書にサインした後から行方くらます。サインした登記書を州政府に送ったかも分からず。
◎バージニア州弁護士協会は弁護士の不正行為認めるもペナルティなし(弁護士は弁護士を告訴しないから知らない)
◎日本人をターゲットにした人権差別行為!?
◎クリントン米大統領、米司法省に抗議の書簡送達
◎心労で40ポンドやせる

4月4日(日)19:00
大田区民プラザ
(東急目蒲線・下丸子駅前)

[大会名]
**『あの4・4幻の
猪木戦から1年……
「水車の理論」
無い道を行けば
どう成るものか
危ぶむ無かれ
危ぶま無くとも道は無し
踏み出せば
その一足が仇となり
その一足が凶となる
迷わず行けよ
行けば自爆さ』**

■アイアンマン・コンテスト巴戦開催

■チケット料金/
5千円(当日6千円)
※有名プロレスショップ等で絶賛発売中。

格闘ロボコン、大爆発!!

格闘
ノストラダムス
'99
プロレスか? バーリ・トゥードか?
マット界の盟主を予言せよ!!

石川雄規 情念の旗揚げ3周年記念&猪木のいないリングに"イノキ"が出場記念 INTERVIEW

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

昨年11月に、両国大会を見事成功に導いたミスターBこと石川雄規。地道に地方を回り続け、いまや後楽園ホールは（ほぼ）満員、両国には8888人を集客するまでに成長した。そうかと思えば、相変わらず300人程度の小会場をコツコツまわり続けるといったスタイルは継続中なのである。そんなとき、猪木のいなくなった新日本の闘強導夢大会にバト勢の出場が決定した。猪木の影が消えた4・10の東京ドームに"イノキ"コールがこだまする、そんな痛快な展開が期待できそうだ。引き続き上昇気流に乗っているが、果たして今後もバトラーツはこのままトップギアで飛ばすのか？　それともローに落とすのか？　すべてはこの男の気の向くまま!!　チャレンジを続ける格闘ロボコンの熱き言霊を受け止めろ!!

他人と一緒に沈んでから慌ててもアフター・フェスティバルですよ!!

――まずは旗揚げ3周年、おめでとうございます。

石川　（怪しい笑顔を浮かべ）ドモドモ。

――軽いですねえ（笑）。

石川　べつに3周年も、4周年も祝うようなことじゃねえですから。まあ、やるからには必ず大きくなる!!　それは当たり前のことです。

――この多団体時代を生き残ってるわけですけど処世術はあるんですか?

石川　自分が何をすべきかっていうことに信念を持つことですよ。いまは情報化社会だから、すぐに結果が出ないと、まわりに流されてなおさら焦る。他人の価値観に流されて失敗するよりも、自分を信じて、その結果で失敗した方がマシじゃないですか?　だから、オレはまだマシな方を選んでるだけなんですよ。周りを気にしすぎてるヤツは、周りが沈んでくると、結局自分も沈んじゃうんですよ。そんとき慌てても、後の祭り！　アフター・フェスティバルですよ!!

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか? バーリ・トゥードか?
マット界の盟主を予言せよ!!

――アハハハ！　今年のバトラーツも両国というフェスティバルの後だから大変ですよね。

石川　でも、ボクらにとっては、別にフェスティバルでもカーニバルでもなかった。結局、同じなんですよ。ただ、やりたいことをやっただけで。あれによって、プロレス界も気分的に景気回復になったと思うからね。

――瞬間最大風速は凄かったですね。

石川　フハフハフハ（鼻息）、でもね、あの日は謎かけというか、すごく大きな問題提起をしたはずなんですよ。あの日は、ホントによく観客が集まったでしょ?

――いつもの何10倍ですよね。

石川　いま言ったことがテーマだったんですよ。信じることを続けること。他に流されないこと。そうすれば、あとでドカ～ンと返ってくるんですよ。

――「最初の頃は無謀だ」とか言われてましたもんね。

石川　（話を聞かずに）例えば、筋肉もそういうことなんですよ。

――筋肉？？？

石川　3日やったからって、3日分肉がつくわけじゃない。5日、6日、7日やってもやり続けなきゃいけない。でも、あるときに突如としてつくんですよ。それでグングン上がっていって、また停滞するんですよ。その繰り返し。

――いつ来るかわからないものを信じて待ち続けるということですね?

石川　そう。暖簾にボールを投げ続けるようなものなんですよ。それを「ほら、見たか！」って実現させたのが両国だということですよ。別に、俺たちが凄いんでもなんでもないと思う。

――両国以降、これだけ活発に動いていると「調子に乗ってる」とかやっかみの声も上がってるんじゃないですか?

石川　派手に動いてないですよ。オレたちが何をしてますか?

――今度、社長とアレク（サンダー大塚）選手と田中（稔）選手が、新日のドーム大会（4・10）に出ますよね。

石川　それも、あんまり変わらない。あれ、何を言おうとしたんだっけ……（宙を見上げる）……まあいいや。そのうち思い出すでしょう。

――いつ来るかわからないものを信じて待ち続ける（笑）。ダメージが蓄積してるんじゃないですか?　大丈夫ですか?

石川　いや、全然平気。頭を蹴られると冴えちゃって、冴えちゃって。逆に筆が余計に進むんですよ（笑）。

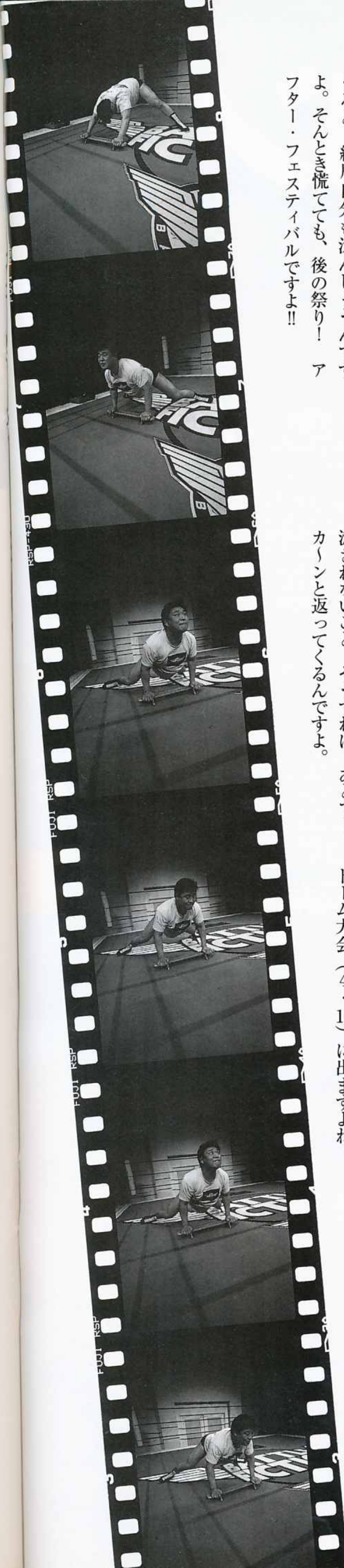
――ウチの雑誌の連載もいっぺんに2回分書いてきますからね（笑）。あの連載では石川雄規の物語を綴ってるわけですけど、3年間のバトラーツ物語を書く上で両国は欠かせませんよね。

石川　そうだね。（す～っと息を吸い込み）どっかの新聞の「マシン眼」っていうバッカみたいな頭悪いコラム！　ああいう意見があるから、オレたちは情念に突き動かされるんですよ。

――出た出た出たっ（笑）。

石川　これ書いていいですよ!!　「バトラーツの両国成功はビッグネームを呼んだから」「彼らの力ではない」とか書いて。フザケんなっっっ!!　バッッカじゃねえ

総合格闘技? わからないですね 最近はロボコンしか見てないから

石川雄規 Yuki Ishikawa

の!! オレは人を集めるためにビッグ・ネームを呼んだんじゃねえんだよ!! ブワァァァカ!! ナーシャ!! そいつは、いつもバトラーツを見てねえ、頭を働かせてねえから、そういう原稿が書けるんだ。悔しかったら記名して原稿を書いてみろって!! つまり、オレたちの両国大会は人を集めるのが目的じゃなかったんですよ。ファンタジーをつくりたかっただけなんです。

——それには国技館じゃないといけなかった、と。

石川 そう。だから、極論すれば普段来てる300人しか来なくてもいいんです。とても大切な人、愛した人、結婚しようとする人には故郷を見せたいでしょ? オレたちはゴールデンタイムという大切な故郷で育って、大人になり、そして自分たちが伝説になりたい。でも、バトラーツを通して初めてプロレスを知った人たちはオレたちの故郷・ゴールデンタイムを知らないんですよ。オレが謳ってる愛や夢のルーツを知らない!! だから、大切な愛するファンには見せたいんです。

——実際、会場にはその頃のことを知らないファンも多かったと思います。

石川 決してレトロ企画じゃないんですよ!! オレたちが両国というアイテムを使ってタイムマシンを作るしかなかったんですよ。タイムマシンに必要なコマがあのビッグネームだった。

——ボブ(・バックランド)さんは数年前にも来てたけどあそこまで大々的に注目を浴びてなかったですからね。今回も決してビッグネーム見たさに来たわけじゃないと思いますよ。

石川 全然違うコンセプトだからね。それは、オレたちのことを考えてくれてる人はわかるんですよぉぉぉ!!

——相変わらずしつこいですね(笑)。

石川 呆れ返って言葉も出ない!!

——いや、もうさんざん出てます(笑)。

石川 正しいことを言ってるだけですよ。オレたち悪くねえもん。オレがギャラ払って呼んでやってるんだよ、バ~カ! ギャラ以上に、イイキモチにさせましたよ!!

——「また来たい」ってバックランドさんも言ってましたからね。伝説に対するリスペクトがあったからでしょうね。

石川 オレの使命は伝説を完全に復活させることですよ。そのためには伝説を食いつぶしちゃダメなんですよ。オレたちシェフの腕の見せ所ですよ。

——両国からそのまま年末の『タッグバトル'98』にウォリアーズが出てたらムチャクチャ違和感あったでしょうね(笑)。

石川 そうでしょ? 客は集まるでしょう。でも、そこに意味も何もない単なる金儲けですよ。「だから何なの?」ってなりますよ……さっき言いたかったことを思い出した!! 『週プロ』の読者投票でオレたちの両国大会が去年のベスト興行の3位に選ばれたんですよ。1位の全日ドームが1595票。猪木さんの引退興行が787票、でオレたちの興行が751票だったんですからね。

——よくスラスラと数字が出ますね。

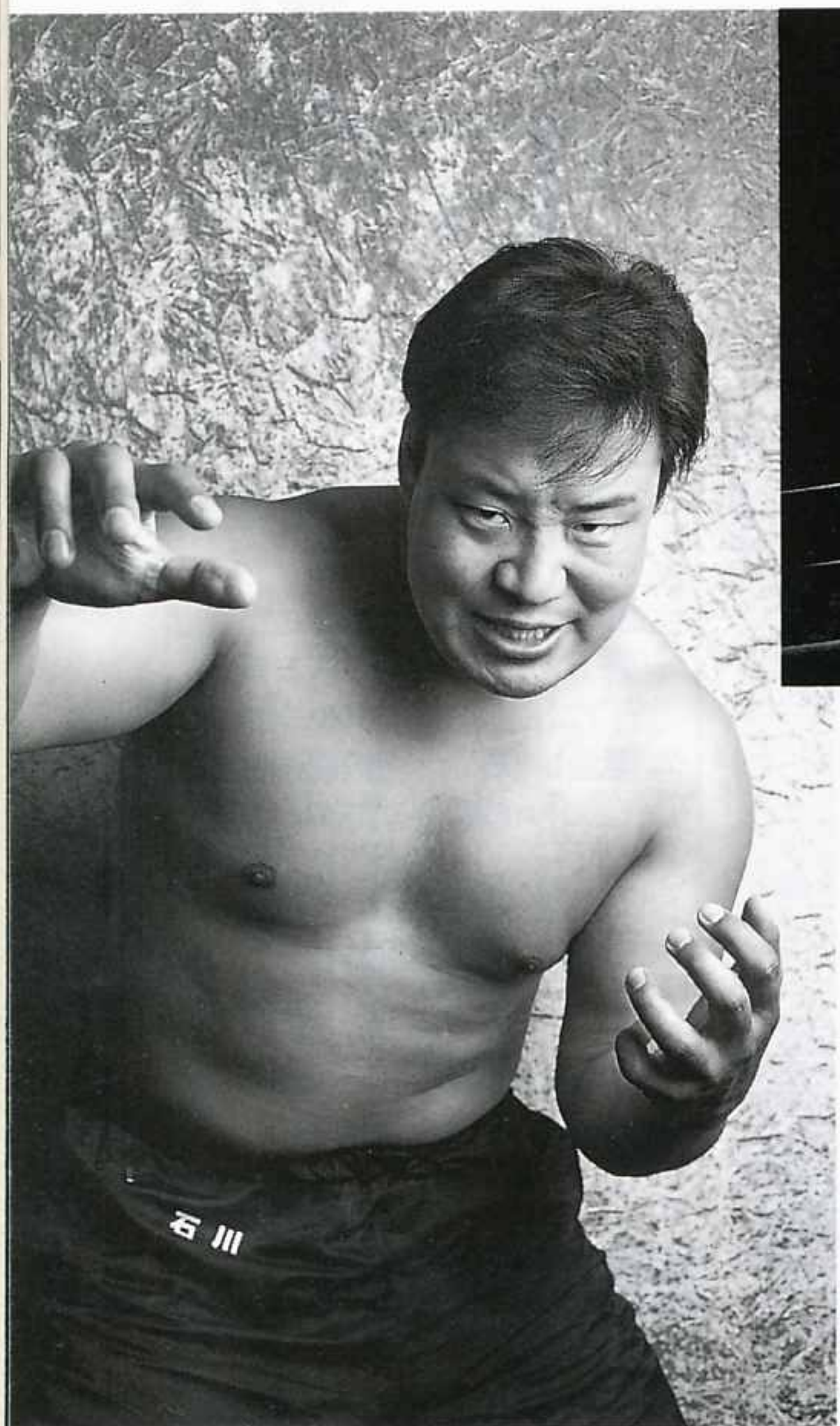
石川 どぉうですか、胸を張っていられますよ。全日本も新日本も民放で中継して、しかも何万人という人が見に来ていた。ところがウチの両国は『SAMURAI!』の中継と、会場に来た人だけですから。これがどれだけ凄いことか、わかりますか? すごく嬉しかった。

——それだけ見た人の心に残ったということですね。

石川 まあ、お客は来なくてもいいって言ったけど、人の心に残らなければ意味がないですからね。

——イベントとしては、新日本や全日本の方が完成されていたのかもしれないけど、完全にプロレスファンの記憶に残ったんですね。その直後、「原点回帰」という方針を打ち出して、1月の後楽園大会に臨みましたよね。社長的には原点回帰出来たと思いますか?

石川 まあ、ただ殴り合って蹴り合っただけですけどね。フハハ。でもね、空席がちょっとあったでしょ。あれが原点回帰ですよ。空席を見ると腹が立つから!! 来てくれた人間を死ぬほど満足させて、来なかった人間を死ぬほど後悔さ

昨年はじめから、突如猪木化した石川社長。過去への否定の繰り返しだったプロレス界で初めて過去へリスペクトをした男である。おなじみのファイティングポーズ(最近、小川に盗まれた猪木パネル調)もすっかり自分のものにしてしまった

せるオレたちでありたいですね。一生、反抗期!!

――決して大人にはならない（笑）。猪木さんも子供みたいな部分がありますからね。ところで、馬場さんが亡くなってしまいましたよね。

石川　……残念ですね。悪い思い出があるはずもないし。巨人ファン、阪神ファンみたいに、あの頃は全日本ファン、新日本ファンって分かれてましたよね。ボクは猪木信者でしたけど。

『週プロ』誌上で751票を獲得、見事に最優秀興行の第3位に入った昨年の両国大会。今年は、札幌で5月14日（金）にゴールデンタイム伝説が蘇ることが決定!! 札幌中島体育センターの取り壊し前最後のビッグマッチとなる。思い出を探しに集え、北のプロレスファン!!

オレは格闘技に興味ないもん プロレスの闘いにロマンを感じるんです!!

――猪木さんは欲望や野望をリング上にぶつけていった。一方、馬場さんは一切そういうものを出さない人でしたよね。

石川　オレはどっちかっていったら、馬場さん的な人間なのかなあ。

――えっ？　そうなんですか？

石川　だから、自分にないものに憧れるんでしょうね。だから猪木さん的な生き方を手本にしてきた。

――それは大発見ですね!!

石川　オレたちは馬場さん、猪木さんがつくってくれた大切なものを守っていくしかないでしょう。

――でも、現在は「プロレスの危機」ということが言われてますよね。猪木さんも、「馬場が去り、プロレスは死んだ」という手記を書いてるぐらいなんですよ。逆にいまバーリ・トゥードのような総合格闘技が人気を集めていてるんですけど……。

石川　見てねえからわからないですね。最近、ロボコンしか見てないから。

――アハハハ、リメイク版を放送してるんですよね？

石川　そう。あれは子供に素晴らしい影響を与えてますよ。ロボコンは人の役に立とうと頑張るんですけど、何かミスをしてしまって、いつも0点しか取れない。それでも頑張る。うちの子供も大好きで「ロボコン、いつも0点なの」って教えてくれるんですよ。いちど20点を取ったことがあったんですけど、子供は数字がわかんないから「ロボコン100点だよ！」って大喜びしてる。頑張ってやり続けることの大切さがわかりますね（笑）。

――そういう意味じゃバトラーツもロボコン的に地方や後楽園をコツコツまわって、両国でやっと20点（笑）。それでも100点目指して頑張っているのかもしれないですね。

石川　そうだね。

――そういえばバトラーツの1月大会の3日後に行われたシューティングの後楽園大会は超満員で、長蛇の列が出来ていたんですよ。

石川　へぇ。景気がいいのはいいことだよね。でも、アレクがマルコに勝ったのに、何もこっちには来ないね（笑）。

――そうなんですか。

石川　『PRIDE.4』翌日の新聞だって、「負けた」「負けた」って一面で、アレクが勝ったことは小さくしか載ってない。アレクが勝った意義は、高田選手が負けたこと以上に大きかったかもしれないのに。あの扱いは差別だよ!!

――社長はああいった総合格闘技というものには興味ないですか？

石川　オレは格闘技に興味ないもん。

――でも、社長はシューティング出身なんですよね？

石川　プロレスラーになるためにね。本来争うことは好きじゃないんですよ!!

――じゃあプロレスって何なんですか？

石川　ロマンなんですよ!!　オレはプロレスの闘いにロマンを感じるんですよ!!　歌が好きだっていったって、演歌とロックがあるように、オレはプロレスの闘いが好きなんですよ!!

――一部では、アレクの勝利にも「格闘技的にレベルが低い」とか「あれは八百長じゃないのか？」みたいな素人レベルの意見も出てるみたいですね。

石川　人の功績をやっかみして、バッッカじゃねえの!!　オレが神様だったら、そういった連中から殺しますよ!!　オレはいつか神になるから。ラオウになる!!

――『北斗の拳』の世界ですね（笑）。プロレスと格闘技はどっちもあれば面白いと思うんだけどなあ。

石川　そうなんだよ!!　オレもシューティングで長蛇の列が出来たって聞けば、「いいんじゃないの？」って思うし。お互いがあるから存在するんですよ。10円玉だって裏があるから表があるんですよ。光があるから影もあるし!!　成功があるから失敗もあるんです!!　でも、オレは謙虚な言葉なんか吐かない。

――表面的な謙虚な言葉ほどつまんないですからね。

石川　何が面白いか、それだけを考える!!　面白いことがないから、みんなバトラーツを見に来るんじゃないですか？

――見れば何かしら楽しませるぞ、と。

石川　自分の怒りをダイベンしてくれた

格闘
ノストラダムス'99
プロレスか？ バーリトゥードか？
マット界の盟主を予言せよ!!

石川雄規
Yuki Ishikawa

りね……ウンコじゃないよ!! かわりにウンコはできない、フハフハフハ。

――そういうことを日々考えてるんですね（笑）。

石川　みんなが働いて得た大切なお金をチケットに換えて夢を買いに来るんだから、夢を返さないと!! スポンサーのご機嫌取って日銭をポ～ンと集めて、「次はどうやってご機嫌を取ろうか」って考える。そんなの経営じゃない!! オレはホントの経営を考えてます。

――じゃあ、その経営方針をうかがいたいんですけど。

石川　作り上げたものはブッ壊して、また前に進む。それが面白いんです!!

――猪木イズムだ（笑）。猪木さんも今年の初めに豪快にブッ壊しましたよね（笑）。

石川　でもUFOは佐山さんに預けちゃってる印象をオレは受けるけど。

――猪木さんはいま、ライオンタマリンと夢中になって〝遊んで〟るらしいですからね。

石川　面白いなあ（笑）。素晴らしいですね、最高ですよ!! あんな男になりたいなあ。

――そんな猪木さんのいなくなった新日に社長が上がることになりましたよね。

石川　まあ、永田（裕志）選手と対戦したかったんです。永田選手とはバチバチファイトが出来そうな気がするんですよ。山崎（一夫）選手も藤田（和之）選手もオレには余りあるような素晴らしい選手ですけど、でもオレは永田選手とやりたかたったんですよ。……まあ、頑張ります!!

――社長がドームの花道に現れたら猪木コールが起こるはずですよ。

石川　いまの新日本には、あんまり猪木イズムは少ないですよ。オレの居場所もないだろうし、敢えてつくろうとも思わないし。だから、猪木イズムに飢えてる人はバトラーツに来いっ、コノヤロー!!

――バトラーツには猪木イズムが息づいてますからね。

石川　「イノキ」コールはとんでもない。「ユーキ」コールじゃないとダメ（笑）。

――今回の新日参戦は、「査定」という意味合いを持って注目するファンも多いと思うんですよ。

石川　まわりが査定とか言ってる限りは、「本気出したくない」って言いたくなるよ。査定される筋合いはねえもん。さっき言ったようにオレたちが得た751票は、すごく価値があるんですよ。

――ドームに出るというもう一方では、地方のお祭りプロレスに参加してるんですよね？

石川　オレは全部お祭りプロレスでもいいと思ってますからね。それで寂しけりゃ、好きなことを年3、4回やればいいんですよ。

――日本人はもともとお祭り好きですからね。

石川　そう。プロレスってお祭りですから。みんなが好きに騒いで楽しめばいいんですよ。金魚釣っても、ピカチュウ釣ってもいいし（笑）。好き勝手に味わうなら、バトラーツがいちばんですよね。

――当然、ケンカにもなったりして。

石川　そうそう。対戦相手と闘うと同時に、ファンともケンカしなきゃいけないんですよ、オレたちは。

――では最後に、次回の後楽園のテーマは何ですか？

石川　3周年!!

――さっき、何周年でも関係ないって言ってたじゃないですか（笑）。

石川　行き当たりバッタリで（笑）。

――その翌日に、「みちのくエイド」というイベントもありますね。

石川　まあ大丈夫ですよ。グレート（サスケ）とオレは主役になるべく生まれてきた人間ですから。フハフハフハ。

【99年3月12日、東京・TFMホールにて収録】

いしかわ・ゆうき■1967年2月8日、神奈川県出身。藤原組入門後、92年4月19日に現在はパンクラスの高橋義生（当時は和生）戦でデビュー。パンクラス勢離脱後は藤原組の若頭として、若手を引っ張る存在に。バトラーツは旗揚げとともに社長兼エースとして見事に両国大会を成功へと導く。A・猪木に心酔するあまり、猪木化した。通称TOY。178センチ、90キロ。

5月14日（金）バトラーツ札幌大会『札幌大好き』におて石川雄規vs松永光弘が決定!! ボブさんも参戦するぞ!!

必読連載 第14回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『憧れの地「小樽」』

かつて、初めてこの街を訪れたのもちょうど同じ季節だった。電車を降り、凍りついたホームを転ばぬように歩く。階段を降り小さな駅の改札を出ると、待合いのホームにある大きなストーブがつかの間の温もりを与えてくれた。外は雪。真っ白な路面を、いとも自然に自動車が行き交っている。東京であったら間違いなくパニックであろう状態も、この地では当然のことながら日常の風景である。

小樽は昔から憧れの地であった。小さな運河沿いに並ぶ旧い煉瓦造りの倉庫。舞い降りる雪を静かに照らすガス灯。港の見える小路には喫茶店や小さな土産物屋が並び、特産品の硝子細工がショーウィンドゥを飾っている。小高い丘陵地帯が小さな平地を挟んで海に迫っているため、この街の坂道の風景は特に美しい。大林宣彦監督の『はるかノスタルジィ』という映画の舞台になった土地でもある。学生時代、高校の時の友人達と共に北海道を旅行した際、この憧れの地『小樽』に初めて足を踏み入れた。そう、あれから10年の歳月が経ってしまった。当時、こんな風に小樽の街に縁ができるなんて思いもよらなかったけれど、あの頃ふとした憧れから観光に訪れた町、小樽は10年経った今、私にとって忘れられない土地となっていた。

1999年1月30日の夜、私は仙台におり、海老名氏率いる仙台後援会「B－MANIA」の新年会へ参加していた。午前0時30分に解散し、営業の石黒の運転する車で羽田空港に向かった。午前6時30分発新千歳行きの飛行機に乗るため、強行の移動スケジュールである。仙台から出る飛行機の便が10時以降のものしかなく、10時に小樽に着いているためには羽田に戻るしか方法はなかったのだ。そうまでして行かねばならない訳があった。29日の明け方、小樽に住んでいた直江三郎氏が亡くなり、その告別式に参列し、最後のお別れがしたかった。

直江さんは新日本プロレスや全日本プロレスが旗揚げした頃の古い時代からプロレス界にかかわってきた。プロモーターとして、後援者としてプロレスの興行を支えてきた一人である。人懐っこい笑顔でいつも皆の世話をしていた直江さんは、『会長』と呼ばれ誰からも慕われる人柄の優しい人であった。何十年もの間プロレスを見続け、誰よりもプロレスを愛し、気づいたら自分の財産もみんなプロレスにつぎ込んでしまった。

『もうなんにも残っちゃいないよ』

会長はそう言って笑うと、殆ど視力を失った両目で遠くを見つめた。

『ほんとにねぇ。プロレスが好きで好きで、気違いで。プロレスばっかりだったぁ』

長い道程をずっと一緒に歩んできた奥さんはそう言って部屋の中を見回した。奥さんと二人暮らしの狭い家の中は、足の踏み場もないほどたくさんのプロレスの思い出で埋め尽くされていた。その一つ一つが直江さんの宝物であり誇りであった。

会長はいつも、上田馬之助選手のサインが書かれたTシャツとバギーパンツを着込み、頭にはジミー・スヌーカからもらったというバンダナをしていた。糖尿病でかなりの食事制限があるため、昔あれほど好きだったお酒も飲めず、我々にお酒を勧めても自分はいつも水筒に入れた熱いお茶だった。それでも本当に一滴もお酒を口にしなかったのは、会長の意志の強さであったのだろう。頑固で曲がったことが嫌い、そして好きなものにはとことん愛情をそそぐ人だった。私は会長と知り合ってほんの数年しか経っていないけれど、出会えて良かったと心からそう思っている。

猪木さんが大好きで、その弟子である藤原さんとも20年近く付き合いのある会長は、いつしか藤原さんの弟子である私のことも気に掛けて下さっていた。

『雄規ちゃん、湿布いっぱい送ろうか？怪我が絶えないだろう』

『雄規ちゃん、唐黍（とうもろこし）好きだろう、送るから』

何かにつけて電話をくれ、私のことをまるで孫のように可愛がってくれた。

以前、年賀状だけのやりとりであったのが、バトラーツとして独立した頃から頻繁に連絡を取り合うようになった。

『雄規ちゃん、家族で遊びにおいで。宿も全部用意するから心配しないで』

一昨年の夏、会長の誘いに私は妻と子供と3人で小樽に遊びに行くことにした。会長を慕って集まるプロレス仲間と共に酒を飲み、初めてゆっくり会長と話ができたあの日の夜は今でも忘れられない楽

『雄規ちゃん、家族で遊びにおいで。宿も全部用意するから心配しないで』

しい思い出である。
　札幌で開催する我々の試合には必ず応援に来てくれた。そして杖を片手に目を閉じ、じっと歓声に耳を澄ませている姿が今も鮮明に思い出される。会長は視力を失っても、心の目でいつも我々を見守っていてくれた。昨年、営業で札幌を訪れた際に少しだけ時間が空き、ふと小樽の会長の家を訪れた。今から思えばそれが会長とゆっくり話をした最後になってしまった。

　直江会長の訃報を聞き、私はすぐにチケットを手配し、そしてこの一年間使った『情念タオル』と両国大会のパンフレットを鞄に詰め込んだ。告別式の行われる小さな会館に入ると、ちょうど奥さんと会った。私は来ることを告げていなかったため、奥さんはびっくりして立ち止まり、
『ほんとに、遠い所を……。喜ぶわ。きっと一番喜ぶわ。会ってあげて』
　そう言って祭壇の裏側の棺桶の所まで案内してくれた。
『ねえ、石川さんが会いに来てくれたよ。よかったね』

　奥さんが開けてくれたお棺の小さな扉を覗き込むと、すっかり痩せてしまった直江さんの顔が見えた。遺体を包む真っ白な布団は、まるで白銀の雪に覆われた北海道の大地のようであり、その中で眠る直江さんの顔はとても安らかであった。
　最後のお別れの際、皆が順番にお棺に花を添えていった。私は綺麗な花に囲まれた直江さんの胸元に真っ赤な情念タオルをかけた。選手の身に付けていたものを何より喜んでくれる会長であった。
『石川さんが一年間使っていたものだって。よかったね』
　奥さんは静かに眠る直江さんにそう語りかけて、タオルの上にそっと花を添えた。

　ここ数年、プロレス界の古き名手の方々が相次いで亡くなられた。そして、会長が亡くなった2日後、ジャイアント馬場さんもこの世を去った。誰よりもプロレスを愛した直江さんのことである。今頃天国で、往年の名選手達の闘いに夢中で声援を送っていることだろう。ジミー・スヌーカのバンダナを頭に巻いて、首には真っ赤な情念タオルをかけて……。
『部屋に飾ってある写真とかサインとか、そのままにしておいていいよね。その方が、いいよね』
　斎場（焼き場）の待合い室で奥さんがポツンと言った。
『もちろんですよ。その方が会長も喜ぶから、きっと』
　皆、そう答えた。私も同感だった。なぜならそれは、直江さんがこの世に生きていた大切な証しだから。
　誰よりもプロレスを愛し、人生の全てをプロレスに費やしてしまった直江さんは、最後の最後までプロレス狂をつらぬき通した。私は、直江さんほど自分がプロレスファンであることを誇りにして生きた人を今まで見たことがない。そしてそんな直江会長の生き様を見て、自分がプロレスラーであることをいつにも増して誇りに感じた。

　外の雪は強さを増し、札幌に戻ると大通り公園は雪祭りの準備の真っ只中であった。雪道を歩きながら、一週間後の2月8日に思いを巡らした。その日私は32歳の誕生日を迎える。そして直江会長もまた、同じ日に75歳の誕生日を迎えるはずだった。
『雄規ちゃん……』
　直江会長の声が聞こえ、ふと立ち止まった。振り返ると、暮れかかった薄野（すすきの）の街にネオンが灯りだし、鈍色（にびいろ）の空には相変わらず白い雪が舞うばかりであった。

暗い話題ばかりが続くマット界を この2人の“元気”が盛り上げる

くたばってたまるか!!

みちのくプロレス

4.27（火）東京・大田区体育館（18:30）
みちのくエイドTOKYO for TOHOKU
主催：みちのくエイド実行委員会
協賛：格闘探偵団バトラーツ
株式会社ダブルクロス

みちのくの大田区大会は、毎回何かが起こるもの……乞うご期待!!

お問い合せ：みちのくプロレス
TEL.019-626-1333

マット界にも世紀末がやってきた!! とにかく暗い話題ばかりが次々に連鎖する1999年inマット界。そんな真っ暗闇の時代の中でも、聡明なる本誌読者の方々には二筋の光明が、すでに見えていると思う。えっ、見えない？ そんなあなたはいますぐメガネスーパーにダッシュ！ 見えてる人は、そのまま読み続けて下さい。

さて、元気なことにかけては、本誌が太鼓判を押すこの2人。本誌はゴールデンウィークに1日違いで興行を打つこの両団体の大会に注目します!!

まずは、東北の勝新、もとい英雄（or石井苗子）ことサスケ。デルフィン一派の離脱は、ファン、関係者、そしてサスケ本人にとってもハルマゲドン級の衝撃だったはず。それ以来、みちのくには毎日応援の電話や手紙が舞い込んでいるという。

「元気があれば何でも出来る！」という猪木さんの言葉を信じれば、いまのサスケなら何でも出来る!! 特に東京で行われるこの大会は「みちのくエイド実行委員会」という怪しげな組織が動いて、何やらビッグなプロジェクトが進行しているとか？ 目が離せない!!

さて、もう一人の元気者・石川雄規率いるバトラーツもその前日に後楽園ホールで3周年記念シリーズ「情念シリーズ」の最終戦を行う。

この「情念シリーズ」には両国以来のボブ・バックランド参戦も決定した。ゴールデンタイムの伝説を語り継いでくれること必至だ。思えばこの3年間、バトは過去をリスペクトしながら前進してきた。両国大会では、タイムマシンに我々を乗せてくれたが、逆に普段着のままでもじゅうぶん魅力的なのがバトラーツである。

所帯は小さいがバトの底力は両国と『PRIDE.4』のアレクvsマルコ戦（とリング作り）で実証済み。3周年というめでたい舞台なので普段どおり＋αが期待できそうな予感がする。軽い気持ちで見に行くといい方向に期待を裏切ってくれることだろう。

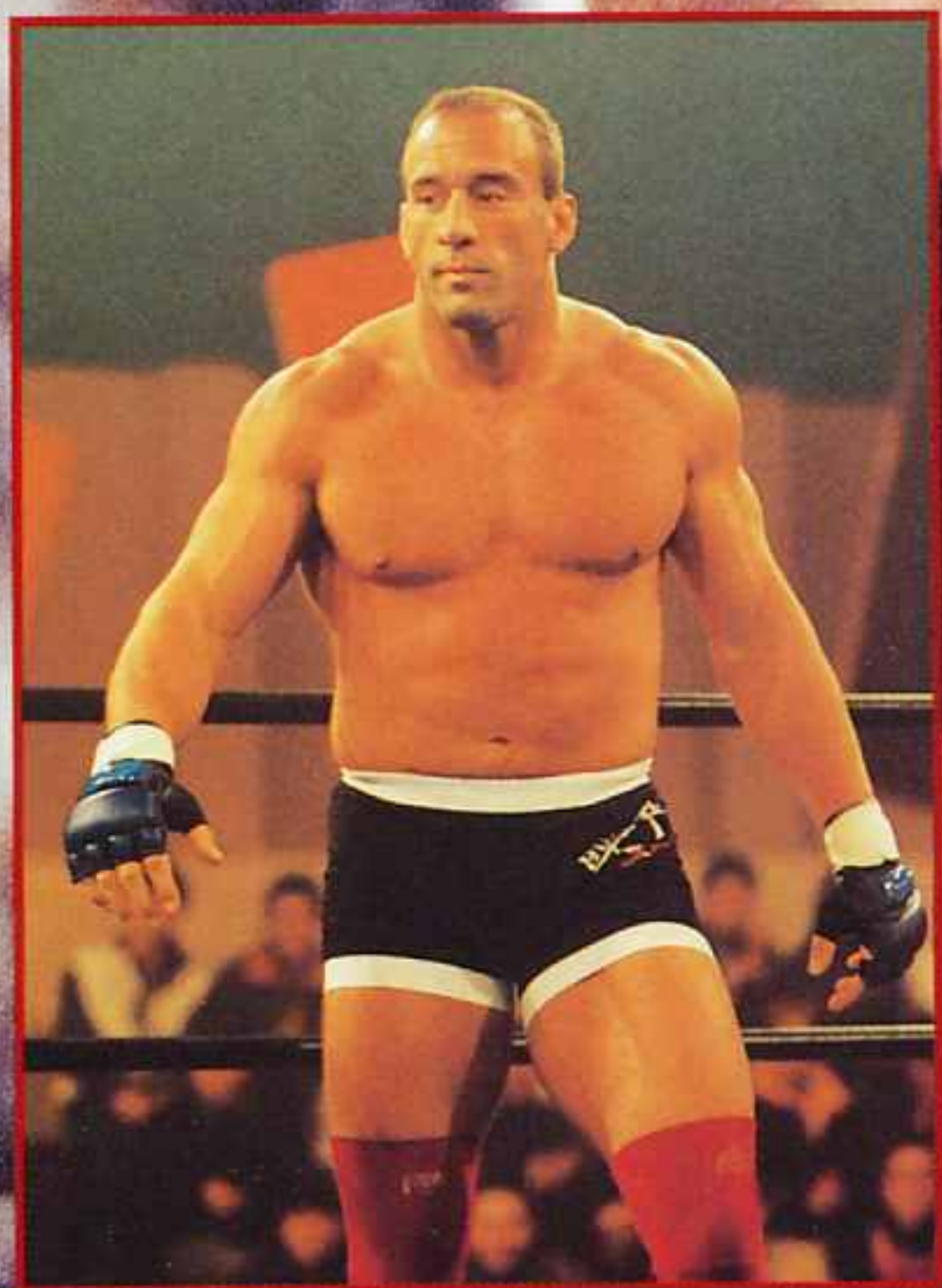
格闘探偵団バトラーツ

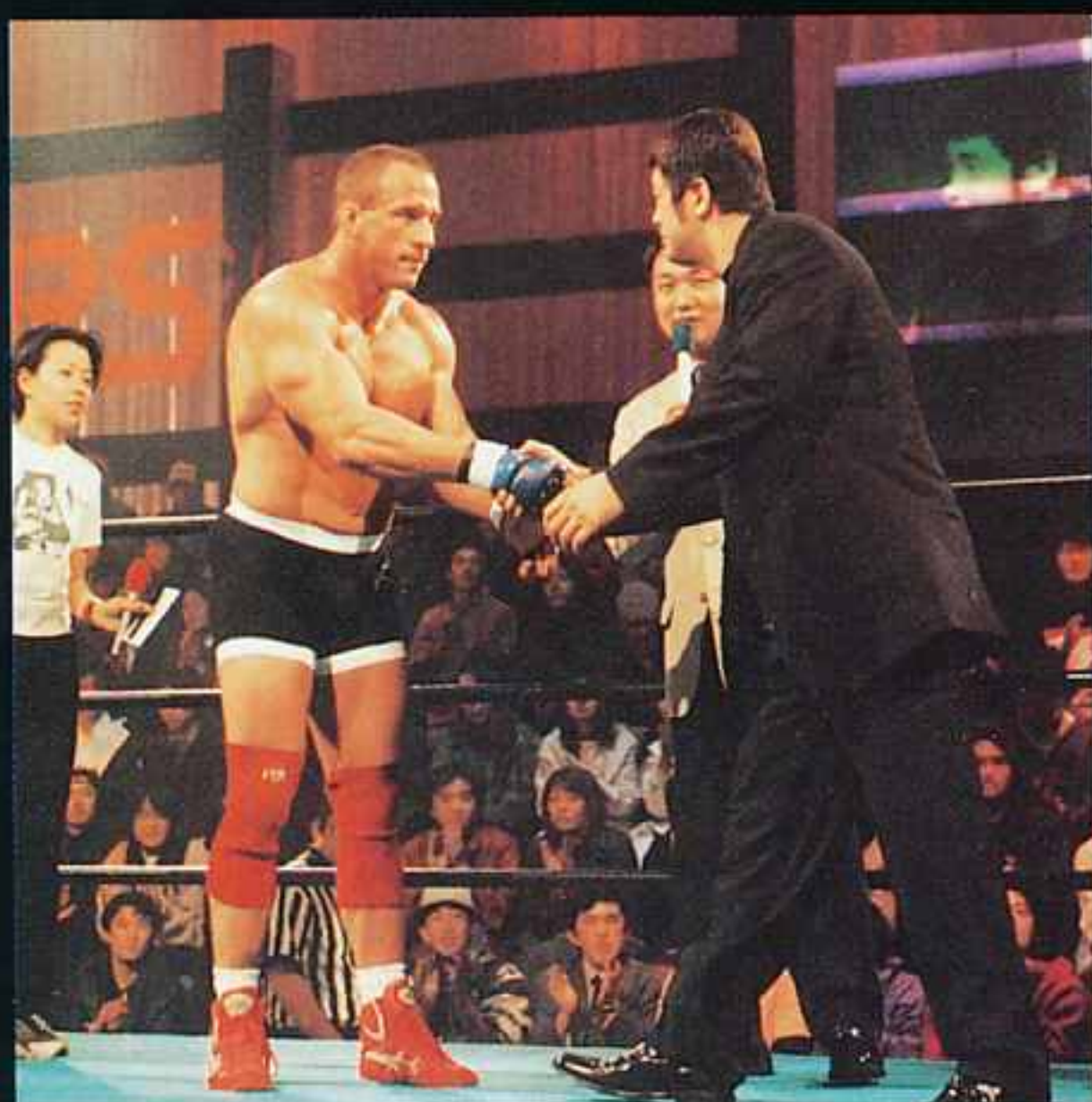
4.26（月）東京・後楽園ホール（18:30）
情念シリーズ～最終戦～
主催：格闘探偵団バトラーツ

メインイベント B-MANIAプレゼンツ
アレクサンダー大塚
vs
池田大輔

石川雄規＆カール・グレコ
vs
ボブ・バックランド＆モハメド・ヨネ

NWA世界ミドル級タイトルマッチ
ザ・グレート・サスケ（チャンピオン）
vs
田中稔（チャレンジャー）

お問い合せ：格闘探偵団バトラーツ
TEL.0489-63-0005

［UFC第10回・11回覇者、UFC初代ヘビー級チャンピオン］

マーク"ザ・ハンマー"コールマン

高田延彦、再生への試練!!
振り下ろされるか!?
究極の鉄槌（アルティメットハンマー）!!

高田延彦がヒクソンへと続くイバラの道に踏み出した。だが、最初の一歩はあまりにも厳しく尖ったイバラの先が待ち受けていた。その尖ったイバラの名はマーク・コールマン。UFC初代ヘビー級王者にして第10回11回UFC覇者である。アマレス五輪代表という肩書きを引っ提げてUFCに参戦、初出場で優勝した元祖リアル・アメリカン・ヒーローなのだ。まずは彼の言葉を聞いてほしい。そして高田vsコールマンの闘いがいかに厳しいものであるかを感じてほしい。

取材／中村カタブツ君
interview by Katabutsukun Nakamura
UFC撮影／長尾迪
photographs by Susumu Nagao
SRS撮影／乾晋也
photographs by Inui Shinya

ＵＦＣで連覇したのはホイス・グレイシー一人ではない。元アマレス五輪代表マーク・コールマンも第10回、11回大会を連覇しているのだ。しかもコールマンはＵＦＣ初代ヘビー級チャンピオンである。そのコールマンがヒクソン戦を熱望する高田延彦の前に立ちはだかったのだ。コールマンがプロとしてデビューしたのは96年7月12日第10回ＵＦＣ。（ちなみにアマチュア時代は昨年の『ＰＲＩＤＥ．４』でウゴを戦意喪失に追い込んだマーク・ケアーにも勝っている）。この大会の決勝で現在ＵＦＯ、新日マットで活躍中のドン・フライ（当時ＵＦＣでは無敗）に初めて土をつけたのがコールマンなのだ。

「ＵＦＣのドン・フライ戦は私にとって最もエキサイティングであったし、それは観客にもそうだったと思う（笑）。というのは私の名前をその試合で覚えてくれた人が多かったからね。あれは非常に野蛮で原始的な試合だったと思うが、その原始的な野蛮さはこのスポーツの核心をついたものだからね。たぶん、あれ以降、ＵＦＣでは頭突きが禁止になったんじゃないかな（笑）。だけど、あれがアメリカ人が見たかった闘いなんだ」

マウント状態からパンチと頭突きを連打する非常にエキサイティングな闘いを展開したわけだが、振り返ってみるとコールマンの闘いはプロレスラーとの因縁が深い。96年9月の第11回ＵＦＣでは現在新日マットで活躍中のブライアン・ジョンストンから頭突きとパンチでギブアップを奪い、97年2月に行われたＵＦＣヘビー級選手権ではダン・スバーンとも対戦し、袈裟固めでタップを奪っている。そもそも、コールマンがプロファイターになったきっかけもプロレスに起因しているのだ。

「アマチュア時代の私の心は満たされなかった。アマチュアレスリングは多くの人が見るようなものでもないし、金銭的にも恵まれない。当時はプライドのためだけに試合をしてるようなもので未来もなどまったくなかったんだ。そんな時に私はミスター・タカダとオブライトの試合をビデオで見たんだ。その試合は非常にエキサイティングであり、深く感銘を受けた。そして『私がすべきことはこういうことなのだ』と思うようになった。だが、その頃はどうしたらプロになれるのかわからなかった。それから3、4年後に第1回ＵＦＣのホイスvsシャムロック戦を見て私は再び感銘を受けたんだ。幸運なことにこの時はＵＦＣへのチャンスが舞い込み、そのチャレンジを制することができた。私はプライドと金銭の両方を満たすことができるようになったんだ」

つまりコールマンのプロ入りの最初の動機となったのが高田だったのだ。Ｕインター時代の高田がコールマンの人生を変えたのだ。さすがサイキョ！　高田の試合を見てプロへの憧れを抱いたコールマンが、その高田と4月29日の『ＰＲＩＤＥ．５』で対決するのだから不思議な因縁だろう。だが、いまの高田はあの当時とは情況がまるで違う。ヒクソンに二度破れ、もう負けられない崖っぷちの情況だ。

「いま、ミスター・タカダがどのような情況にあろうとも私はこれまで通りやるだけだよ。ヒクソン戦の敗北で背水の陣であることは彼の問題であって私には関係ない。なぜなら私にとってもこの試合は重要な試合なんだ。私は『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がることを光栄に思っている。だが、エキサイティングな試合をしないと二度と呼んではもらえないのがプロの世界だろ。『ＰＲＩＤＥ』は自分がどれだけ苦しみ、試練をくぐり抜けてきたかを見せる場なんだ。ミスター・タカダとの試合はエルボーと頭突きという私の得意なものが禁止されているので、グラウンドに持ち込んでパンチを食らわせることが勝利を導くと確信してるよ。自信はあるね。」

とはいえ、コールマンも最近の闘いでは精彩を欠いているのも事実。97年7月のＵＦＣでは当時キックボクサーのイメージが強かったモーリス・スミスに判定負けしたことをきっかけに昨年5月のＵＦＣ、今年1月のＵＦＣと連敗し、評価は下がっている。高田との試合は彼にとっても崖っぷちの闘いなのだ。

「ＵＦＣで優勝した当時の私はこれ以上学ぶものなどないと思っていた。レスリングの技術さえあれば勝てると思っていた大バカ者だったんだ。だが、いまは違う。スタンドのテクニックを学び、よりレベルアップしたファイターになろうと思っている」

実際のところ、1月のＵＦＣの判定負けに疑問を呈する関係者も多い。ビデオで確認しても相手のペドロ・ヒーゾからマウントを奪っている時間はコールマンの方が長かったように感じられる。その日、行われた高阪剛vsバス・ルッテン戦の判定も疑問視されている1月のＵＦＣでの敗北はコールマンの力が落ちたと一概には言えないところなのだ。そんな中、3月12日収録の『ＳＲＳ』藤原紀香ＦＩＮＡＬでコールマンは小路晃とエキシビションマッチを行った。小路はホイス・グレイシーを失神させたヴァリッジ・イズマイウを昨年の『ＰＲＩＤＥ４』でＫＯした選手。その小路をエキシビションとはいえ、フロントスープレックスにサイドスープレックスにと子供のようにブン投げまくったのだ。

「私にとってはとても楽しい経験だった

『ＳＲＳ』藤原紀香ＦＩＮＡＬで行われたマーク・コールマンと小路晃のエキシビションマッチ。体重85㌔の小路をいとも無造作にフロント・スープレックスで投げ放つコールマンのパワーに桜井速人ら多くの格闘技選手、関係者は衝撃を受ける。ちなみに左の写真の小路の右手に注目していただきたい。プロレス仕込みの見事なバンプを取る態勢だ！　さすがはバトラーツの石川雄規社長を尊敬する男だけのことはある

格闘
ノストラダムス
'99
プロレスか？ バーリトゥードか？
マット界の盟主を予言せよ!!

よ（笑）。お客さんも楽しんでくれたと思う。試合に関していえば私の方がズッと身体が大きかったので気をつけたことと言えば誰にもケガをさせないことだけだったね。私としては私らしいムーブをいくつか見せればいいと思ってたし、それはできていたと思う。とてもリラックスしてできたね（笑）」

余裕にもほどがある。いくら小柄とはいえ小路も体重85kg。会場にいた修斗の桜井速人もレスラーを見慣れている島田裕二レフェリーも、そして小路自身も、そのパワーとタックルのスピードには驚かされたと語っている。

「私の最も誇れる資質はパワーだろう。野蛮で強いファイターである資質は生まれながらのものだと思う。もちろん子供の頃からさまざまスポーツを経験し、トレーニングは積んでいるけどね」

先にも述べたが、コールマンはダン・スバーンを相手に単なる袈裟固めでタップを奪っているのだ。柔道関係者に言わせると、これは相当の実力とパワーの差を必要とすることらしい。前田vsカレリン戦でカレリンが前田から袈裟固めでエスケープを奪っているが、試合後、前田は「初めての経験やね。ゾっとした」と語るほど武骨で凄味のある行為なのだ。

高田ピンチ！　もしコールマンに穴があるとすれば、それはスタミナだろう。強烈なパワーはそれだけスタミナのロスを招いてしまう。それについてはコールマン本人もよく自覚している。

「パワーに秀でているということは良い面と悪い面がある。悪い面は筋肉が酸素を必要とする点だ。心臓血管系が丈夫でないと筋肉を維持できないということなんだ。酸素の補給が足りなければ筋肉はすぐに疲労してしまう。これは強い筋肉を持ってしまった者の宿命なのかもしれない」

私のファイトは野蛮だ。だからタカダはアームバーの心配はしなくていい（笑）

試合が長引けば高田の勝機はかなり大きくなるだろう。そして高田にあってコールマンにないものが〝極め〟の技術。U系のサブミッションに加え、ヒクソン戦に備えて柔術も取り入れた高田の〝極め〟の技術はいくらアマレス五輪アメリカ代表のコールマンといえどもかなわないだろう。実際のところ、それについてはコールマン自身こう語っている。

「私は寝技のスペシャリストになれるとも思っていないし、なろうとも思っていない。いつまでも野蛮なファイターだ。ただ、UFCでのルールチェンジもあるし、その意味でテクニックを学ばなければならない必要性があったのだ。だから、野蛮で強いファイターだという本質は変わらない。だから、ミスター・タカダにアームバーを仕掛けるかもしれないなんて心配をしなくてもいい（笑）」

警戒しつつも余裕がうかがえる。だが、4月29日の試合はファイターとして崖っぷちの二人にとって今後の人生を左右するものであり、観客にとっても本人たちにとってもビッグマッチとなるだろう。加えてコールマンにはもう一つ別の問題がある。現在、WWF入りの話が持ち上がっていることなのだ。ヒクソンに破れた高田に負けることは自らの商品価値を確実に下げてしまうのは間違いない。

「バーリトゥードというのは生涯の一時期しかできないものなんだ。私もできる限り長くやっていきたいと思うけれど、それでも限界はくる。そうなった場合は私はプロレスラーへの道を考えるかもしれない。私には家族を養わなければならない義務があるからだ。だから私はミスター・タカダには負けるわけにはいかないんだ」

プロレス入りについては前向きに考えているコールマンだが、ここで重要になってくるのがダン・スバーン、ドン・フライ、ケン・シャムロックと、UFCからプロレス入りしたファイターたちだ。彼らについてはコールマンはどう思っているのだろうか。

「素晴らしいことだと思う。アメリカでは多くの人間が金のために身を売ったかのように彼らを非難したが、私はそうは思わない。なぜなら人間はカスミを食べて生きているわけじゃない。彼らは次の年から1００万ドル以上の大金を稼いでいる。プロレスも、UFCや『PRIDE』同様に非常にタフさが要求されるものであると私は思っている。そして厳しいトレーニングを積んできた人間に対するギャランティーが微々たるもので

『SRS』藤原紀香FINALではエンセン井上と桜庭和志のエキシビションが行われた。桜庭はエンセンを相手に終始上になり、コールマンはそのグラウンド技術を絶賛する

もし私がプロレスラーになるなら日本でなりたいと思う

Mark Coleman

はあまりにも報われない」

　その通りだろう。生き抜くための真剣な闘いであることに何ら違いはない。だが、プロレスラーにせよ、プロファイターにせよ、プロと名のつく選手は試合で何を見せるかが"肝"となる。では、今回の高田戦でコールマンは一体何を観客に伝えようとしているのか。

「喜怒哀楽で言えば、観客にはそのすべてを味わってもらいたい。そのためにミスター・タカダも私も万全の準備をするだろう。リングの上には美しさがある。それは誰も助けてはくれない厳しさであり、たった一人が名誉を独占する美しさなんだ」

　では彼にとってプロレスとバーリトゥードの違いについてはどう考えているのか。

「プロレスはエキサイティングで、ある意味とても難しいエンタテインメントだ。私はそれを行うプロレスラーを尊敬している。また、バーリトゥードの世界でもエキサイティングな試合をしなければ、二度と呼んでもらえないわけだから、そういうエキサイティングなものを見せるということではプロレスとプロファイトは共通点があるかもしれない。だが、私個人の中ではまったく違う仕事だと思う。バーリトゥードでは先の予測がまったくつかないけれど、プロレスの方は予測がつくものであるからだ。相手の顔をできる限りの力を込めてキックしていいと許されているものと、許されていないのとではまったく違うものなんだ。だからと言ってプロレスに危険がないのかと言えば、そんなことはない。要は危険の質がまったく違うということなんだ。また、日本のプロレスとアメリカのプロレスは凄く違うと思う。アメリカではショー的というか、マイクを握って喋ったりとか、そういうことが多いが、日本のプロレスはもっとフィジカルなものだと思う。だから、もし私がプロレスラーになるのなら、日本でなりたいと思う。日本の方が自分のスタイルにあっていると思う」

97年2月7日UFC統一ヘビー級王者決定戦でダン・スバーンと対戦。コールマンはこの試合で1分以上もスバーンを袈裟固めで絞め続け、ギブアップをもぎ取った

　できるなら日本でプロレスをしたいと言ったコールマンだが、それは大歓迎だ。現在最も面白くなりそうなのがUFO参戦だろう。UFCではドン・フライ率いるクラブ245軍団は軒並みコールマンに負けている。クラブ245軍団vsコールマン率いるハンマーハウス軍団の抗争はすぐにでも一触即発の事態となるだろう。また、かつて、モーリスに負けた村上一成のことを「彼は寝技があまり得意な選手じゃない」とばっさり言い切っている。乱闘男として名を上げている村上としてもタダじゃおかないだろう。また、コールマンが高田に勝てば高田に対戦表明した小川直也だって黙ってはいない。NWA王者vsUFC初代ヘビー級チャンピオンの可能性もあるわけだ。

マウントを取って上からパンチを連打するアマレス流バーリトゥードの戦法はマーク・コールマン以降アメリカン・バーリトゥーダーの主流となる

マーク・コールマン　1964年12月20日アメリカ・オハイオ州フリーモント生まれ。アマチュア時代には91年フリースタイルレスリング世界選手権2位、92年バルセロナ五輪フリースタイルレスリング7位の実績を残し、96年第10回UFC大会に初参戦、初優勝の快挙を遂げる。2ヵ月後の第11回UFCでも優勝し、2連覇を達成。97年2月にはUFCヘビー級チャンピオンに輝く。だが、同年7月にモーリス・スミスに判定負けし、昨年5月及び今年1月のUFCでも連敗。高田戦に再起を賭ける

「私もプロレスを見ていて楽しいし、エンターテインメントとして優れていると思う。ダン・スバーンとドン・フライの成功は祝福しているが、もし同じリングに上がった場合は彼らのケツを蹴りあげることになるだろう（笑）。頭突き？　そんなものは必要ないよ（笑）」

　コールマンが語るようにプロレスにリスペクトがあるのなら、みちのくやバトラーツに上がるのも面白い。さまざまな角度から"強さとは何か"という命題を考えさせられることになるだろう。そして、それを味わい尽くしたところで、プロレスとは何かについて改めて話を聞いてみたい。だがしかし、話はすべて4・29の闘い次第だ。高田延彦を撃破してからの話なのだ。

史上最大の格闘ロマン　アブダビ・コンバットの驚くべき全貌

飛び出せ 夢の格闘油田

石油の国の王子様主催 賞金グラップリング大会に迫る

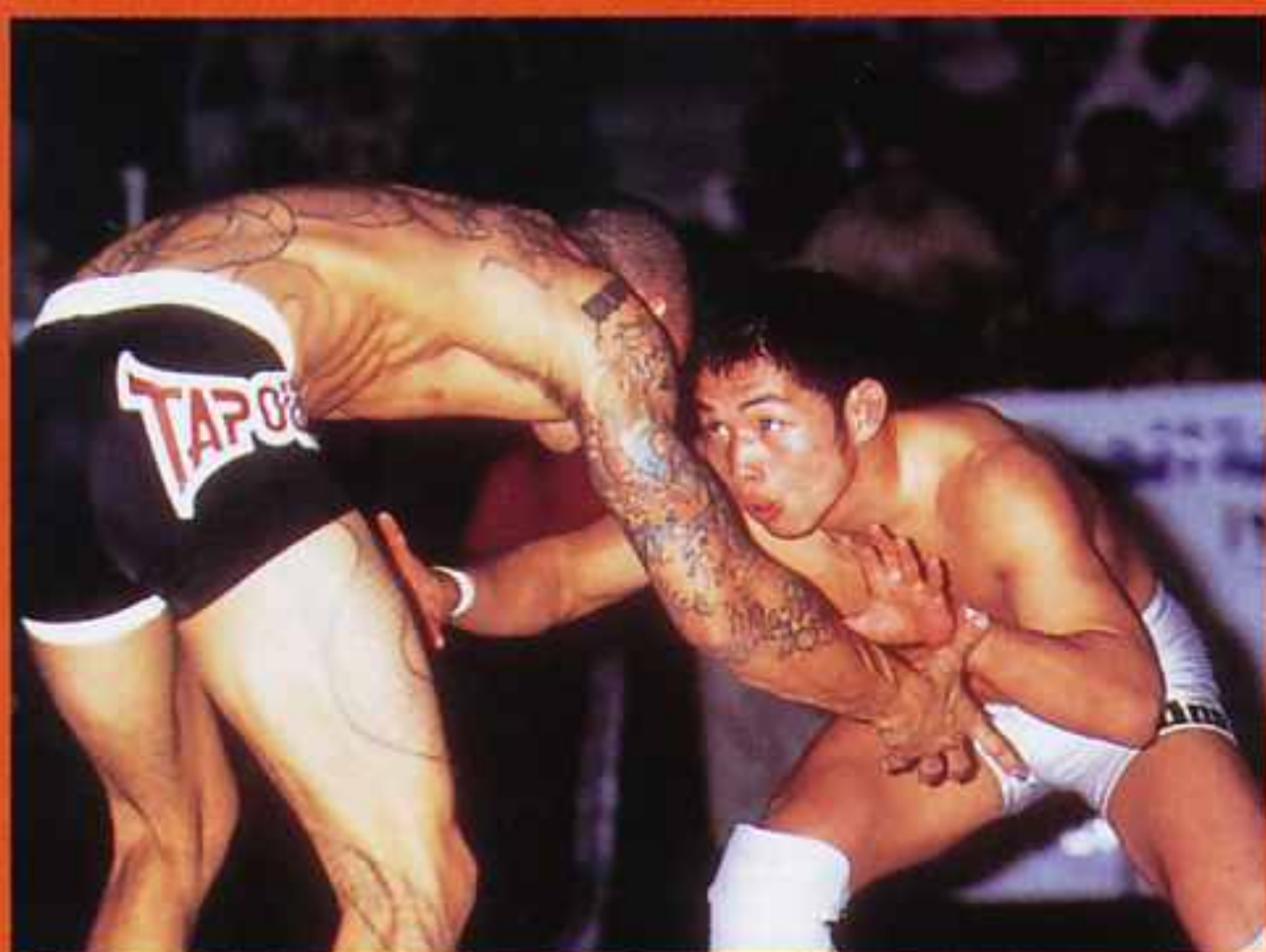
聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／長尾迪、川崎浩市
photographs by Susumu Nagao, Kouichi Nagasaki

99年2月、砂漠のど真ん中に約100人もの格闘家を集めて夢の格闘技オリンピック（賞金つき!）が行われた。

過去、プロレスのリングでも「IWGP構想」「RINGSネットワーク」等でワールドワイドな格闘ロマンを感じさせてもらったものだが、正直言って、この「アブダビ・コンバット」はそれ以上のスケール!! スゲエ!

しかし、この大会にはプロレスラーが出ていない。ましてや、打撃なしのグラップリング大会であり、遠い異国の出来事に過ぎない。ではなぜ、本誌はこの大会を取り上げるのか?

ここにはプロレス界が失ってしまったものがあるからだ。壮大なワールドワイド観と徹底した勝負論にはただただ驚愕するばかり。団体の垣根を超えた交流が実現している点も見逃せない。しかも、これはアラブの国の大金持ちの王子様が招いたものだという。何だか、現在のプロレス界に足りないものばかり。本誌では現地に飛んだフリーのブッカー・川崎浩市氏にインタビューを敢行、試合結果よりもこの大会そのものを立体的に語っていただいた。

現地で爆発的に人気を獲得した桜井マッハ速人。試合での動きもさすがなら、キャラクターも最高。是非、本誌に登場して頂きたい選手の第一候補である

本誌14号に登場した宇野薫。体重別トーナメントではマッハより上位（宇野２位、マッハ３位）に食い込んだ

アラブの王子様に絶賛されたマッハ。そして関係者や現地人も驚いた宇野の活躍。新しいスター誕生である

（上３点PHOTO by 長尾迪）

——なぜ今回はアブダビに行かれたんですか？ まさか選手の引き抜きじゃないですよね。

川崎 そう言ってる人もいるみたいですけど、とんでもない！ 私のビジネスです。ボクはフリーのブッカーですから。もともと去年の『PRIDE.2』直前に「お前の仕事に絶対重要なことだ！」と友人のヘンゾ（・グレイシー）から誘われてたんですけど、スケジュールがつかなかったんです。今回は、現地の選手招聘の責任者をしてる方から昨年の10月に「日本人を何人か送り込んでくれないか」ということを言われまして、私が慧舟會の選手と南アフリカの選手のブッキングをさせていただきました。

——海外の選手で『PRIDE』シリーズに出せそうな注目の選手はいませんでしたか？

川崎 シークレット!! 勘弁して下さい（笑）。

——日本人選手も大勢参戦しましたね。

川崎 でも、みんな他にどんな選手が参加するか知らないんですよ。昨年はトラブルがあったみたいですね、今年は参加者を徹底的に非公表でした。

——でも、そんなところによく参加しますよね。エンセン井上選手は1人だけ特別枠でしたけど。

川崎 その話も最初は僕のところに来たんですけど、僕はマネージャーじゃないからと断ったんです。それでお兄さんとうまく連絡が取れて参加が決まったみたいですけど。まあ「アラブの国の王子様が主催する大会で賞金が出る」っていうと幻想は膨らみますけどね（笑）。とにかく世界中から知名度のある総合格闘技選手が、たくさん出場しましたよ。組技系のオリンピックですね。

——スケールがハンパじゃないんですよね。

"まだ見ぬ強豪"がいっぱいいましたよ!!

川崎　ノールール系の選手の誰もが参加しやすい共通のルールで闘ったからですね。まあ、バーリ・トゥードも共通のルールだけど、1試合のダメージが大きいからこういう形の大会は不可能でしょうね。

――格闘技まで視野に入れてるプロレスファンには、思いっきり食指を動かされるものがありましたよ。

川崎　雑誌とかで名前は知っていたけど試合を見たことは一度もない選手も、ほぼ見れましたしね。

――プロレス的に言うと"まだ見ぬ強豪"がゴロゴロいた、と。

川崎　いい選手はいっぱいいましたよ今回、イーゲン井上選手と1回戦で闘ったのは、ケン・シャムロックのブラザーという人で（笑）。経歴の欄にも「シャムロックのブラザー」とだけ書いてありましたね。

――どんな経歴ですか、それは（笑）。お兄さん対決ですね。

川崎　そうなんですよ（笑）。まあ、とにかく6階級あって各階級16人、約20カ国から選手が出てますからね。

――競技自体はどんな感じでしたか？

川崎　"組技なんでもあり"ですね。柔術でもない、レスリングでもない、日本でやってるコンバット・レスリングのような感じですね。

――高阪（剛）選手がアメリカで出場した『コンテンターズ』みたいな感じですか。

川崎　そうですね。関節技で極めれば一本なんですけど、ポイントがいろんな局面であるんですよ。バックを取る、マウントを取るとか。ゲーム性があって面白いですよ。ただ、ポジションだけをキープして、何もしない選手がいて、そういう場合はつまらない試合になりますけどね。その大会全体の中でいちばん盛り上がったのは、桜井マッハ速人選手の試合ですよ。

――会場がいちばん盛り上がってたらしいですね。

川崎　無差別級での桜井選手の試合ですね。相手の選手は昨年の大会で、ヒカルド・モラエスとショーン・アルバレスを破って優勝している選手ですから。その選手にヒール・ホールドで勝っちゃいましたからね。じつは階級別の大会が終わった後、会場内に「無差別級に出たい人間は申し出てください」というアナウンスが英語で流れてたんですけど、誰も気づかなかったんですよ（笑）。

――英語ですからね。

川崎　しばらくして、主催の人が来て、「日本人は誰もエントリーに来てないけど、どうするんだ？」と言われて。そこで選手団が話し合ってたら、王子から「桜井選手かルミナ選手に」という話があったので桜井選手が出るということが急遽決まりました。

――桜井選手は、いろいろ話を聞くだけでも面白いですよね。是非、本誌にも登場してほしいんですけど。

川崎　重量級の選手に対しても、まったく臆することなく向かっていく、ホントに自然児ですよ。

――そうらしいですね（笑）。

川崎　帰りの飛行機で、金属探知器を通るとき、他の貴金属は手放したのに準優勝カップだけは持ってましたから（笑）。「カップはダメだ！」って言われてるのに、準優勝カップにパスポートを入れたまま2、3回通ろうとして。ああいう部分があるからこそ、無差別級で準優勝できたんじゃないかなと（笑）。

――いちばん残念だったのは、佐藤ルミナ選手の欠場ですか。

川崎　そうですね。でも、いちばん残念なのは本人ですからねえ。ボクも、しゃべらなきゃダメですか？　周りの人間がどうのこうの言いたくないので、次回に期待したいと思います。

――ひょっとしたら階級別の2回戦でルミナvsマッハが実現するかもしれなかったんですよね。

川崎　王子もよく知ってますから。ルミナ選手のファイトスタイルに注目してたみたいですね。自分の好きな選手を闘わせようとしたのかもしれない、そのへんは推測ですけど。

――「ホントに体調悪かったのか？」「マッハとの対戦を避けたのか？」という声も一部で上がってましたけど。

川崎　本当に悪かったですよ、ボクがドクターの手配もしたんですけど。みんながTシャツ1枚でいると

日本選手団もプチ・オールスター状態。小路晃（A³-GYM）、郷野聡寛、菊田早苗、鶴巻伸洋、大川政則（以上フリー）、高瀬大樹、廣野剛康、平松泰朗（以上和術慧舟會）、阿部裕幸（ＲＪＷ）、ら数え上げたらきりがないが強豪との対戦が続き、いずれも一回戦敗退となった

（左上＆右下）世界の名だたる格闘家も、ブッカーＫにはリラックスした表情を見せる。ホイラーもご覧の通りの笑顔。ヘンゾはいつもガード・ポジションなのか？　リラックスし切っている（右上）練習中には日本人選手も積極的にブラジル人らに手合わせを挑んでいったという。映像が見たい（左下）気さくな王子はお気に入りのルミナを呼んで話込む。２ＳＨＯＴ写真も気軽に応じてくれたそうだ

ころをひとりだけトレーナー着て寒そうで顔色も悪かったですから。

——同じ階級では、『紙プロ』にも登場した（本誌14号）の宇野薫選手が大活躍しましたね。

川崎　宇野選手は、ルミナ選手と闘ったこともあるジョン・ルイス相手に危なげなくチョークで完勝しました。「アップセット」（番狂わせ）って騒がれてたらしいけど、宇野選手の海外での知名度のなさから来るものでしょ。これから有名になりますよ。だから、このルールだとバーリ・トゥードで見えないものもいろいろと見えてきますよ。

——例えば、どういったことですか？

川崎　菊田（早苗）選手は、強豪のヒーガン・マチャド選手とやってもほんの少しの差しかなかったんですよ。そのほんの少しが問題なのかもしれないですけど。郷野（聡寛）選手は、ヒカルド・リボーリオという柔術界の強豪選手と当たりましたけど、力量も競っていたと思いますね。

——この大会で、ヘンゾがイーゲンに負けたんですよね。他のグレイシー一族はどうだったんですか？

川崎　ホイラーはいちばん軽いクラスで優勝したましたね。全大会を通じてホイラーvsジョン・ホーキの試合がベストマッチでしたね。どんどんお互いが仕掛けて、それを次々とかわしていく、桜庭vsニュートン戦を思い出しました。

——ところで、なんでアラブの国でこんな豪華な大会をやってるんですか？

川崎　王子が格闘技をやってて、世界各国からコーチを招いてるみたいですね。王子が持っているアブダビ・コンバット・クラブという格闘技の施設があるんですけど、その中には日本食の食堂まで作ってましたからね。2ヶ月後に完成するらしいです（笑）。

準優勝カップにパスポートを入れたまま、桜井選手が…

王子らが座る席は、スタンド最前列の最も見やすい位置にある貴賓席。

——凄いなあ（笑）。金の使い方がホントに素晴らしい。

川崎　超高額の賞金は出ないですよ。私も、金の使い方を見に行ったわけではないので、よくわからないですけど。

——ある程度、知名度もあるプロ格闘家の人が大勢出てるんだったら、条件さえ揃えばプロレスラーが出ても面白いですね。

川崎　そうですね、プロレスラーでもレスリング出身とかの選手ならどんどん行けるでしょうね。いろんな絡みが増えて面白いんじゃないですかね？

——こういった場にプロレスラーがどんどん出ていくことはいかがでしょうか？　個人的には面白いと思いますけど。

川崎　高阪選手や桜庭選手も出れば、もっと面白かったと思いますよ。

——こういう大会は、技術と技術のぶつかり合いになりますよね。刺激という意味ではバーリ・トゥードとはまた違ったものですけど。

川崎　プロだろうが、アマだろうが、こういう場に出れば関係ないですよ。こう着のないレベルが高い攻防は見ていても楽しめますから。

——佐山（聡）さんも、谷津（嘉章）さんも、アマチュアに出ていったのは面白かったですからね。

川崎　刺激があるし、お互いに活性化になりますからね。いいことだと思いますよ。だいたいブラジルで高いギャラもらってバーリ・トゥードやってる人もいれば、アマチュアにしか出ていない人も参加する。アマチュアもプロフェッショナルも、この大会に出れば関係ないです。そういう分け方自体がナンセンスになってきますよね。

——王子様はプロレスは見てないんですかね？

川崎　私が（ビル・）ゴールドバーグのTシャツを着てたら、「オウ、ゴールドバーグ？」って、知ってましたから（笑）。是非、来年の大会に呼んでほしいですよね（笑）。

【99年3月13日、中央区・レッスル夢ステージにて収録】

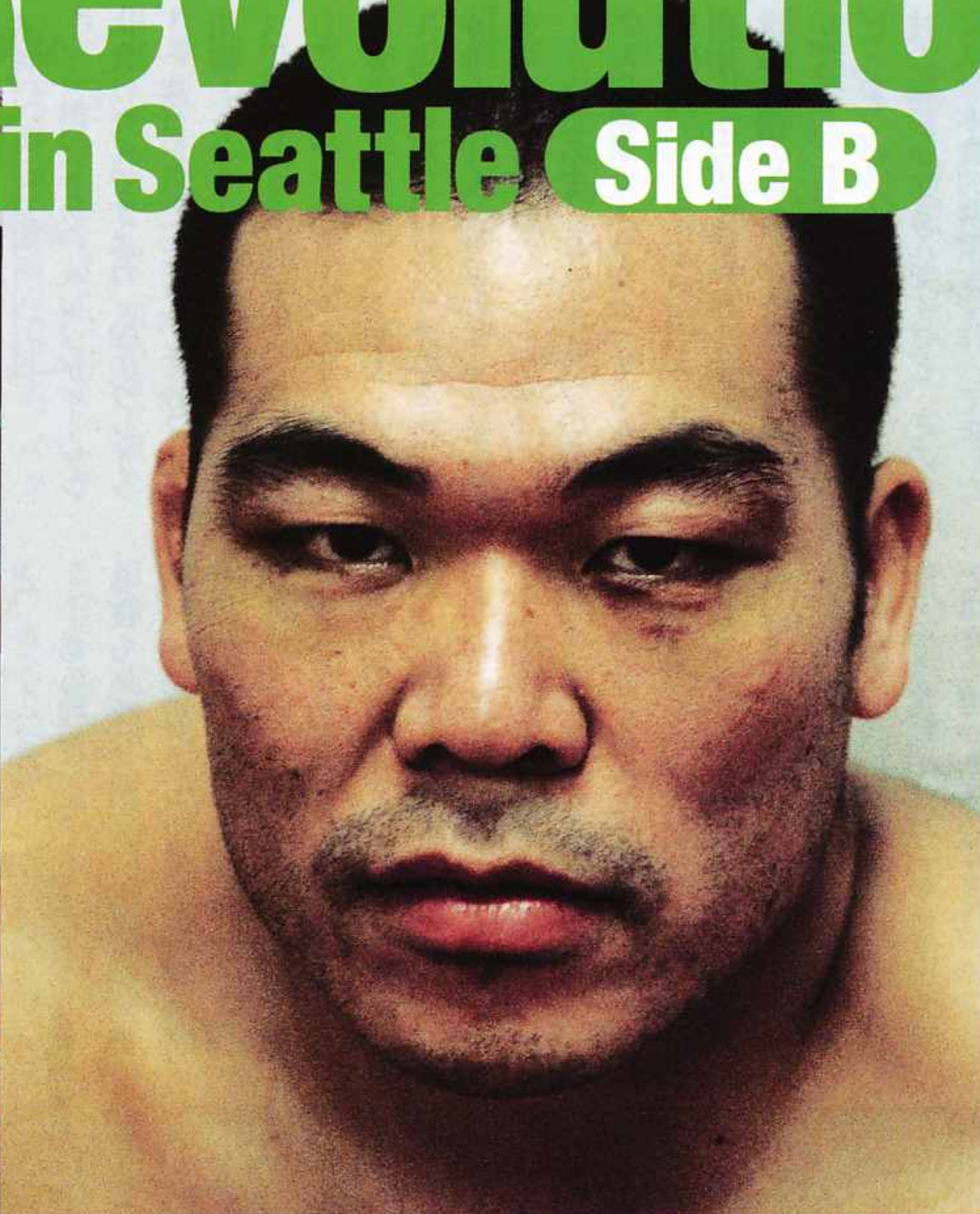
SUBMISSION WRESTLING WORLD CHAMPIONSHIP 1999

大会パンフレットには階級別のトーナメント表と、どの選手が勝ち上がったか一目瞭然の選手の顔写真シールまでついていた！　日本のプロレス団体もこのぐらいサービスがあってもいいだろう

初日の開会式直前、他の選手は慌ただしく動きまわる中、眠くなったのか地べたで寝込んでしまったマッハ。試合前から自然児の本領を200％発揮していた (PHOTO by 長尾　迪)

このようにアブダビ・コンバットにはプロレス界が見習うべき点がいくつもあったようだ。まず、誰もが上がっていける中立のリングだろう。圧倒的な大金持ちがいれば、日本のマット界も細分化しなかったろうに。『PRIDE』シリーズは、比較的こういった大会と同じく「誰もが上がれるリング」となりつつある。日本マット界でも、これぐらいのデカいスケールで大会を組んでみたいものだ!!

TK Revolution in Seattle Side B

取材＆文＆聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

リングス、UFC、フリーファイトの今後について、USAはシアトル郊外でTKが考えてくれました

髙阪剛 INTERVIEW 第2弾

格闘ノストラダムス'99
プロレスか？ バーリ・トゥードか？ マット界の盟主を予言せよ!!

TK Revolution in Seattle Side B

高阪剛は、なぜ"TK"になったのか。もちろん、高阪自身が自ら"TK"と名乗っているわけではないのだが、"剛"から"TK"へとグレードアップしていく姿は、ある意味でマット界そのものの移り変わりを象徴してるといえる。

"娑婆じゃない世界"を体現していた日本の団体システムから、いやが応にも"娑婆"と接点を持たなければならないジム制度との共存、団体の垣根を超えた交流、アメリカを拠点にした自分自身に責任を持つ活動ぶり、所属団体との斬新な関わり方、闘い模様のレベルアップ——TKの辿っている行程にはマット界の地殻変動のキーポイントが詰まりきっているのだ。

さて、英語もまったくわからないままに、モーリス・スミス・ジムの住所を頼りにシアトル在住のTKに会いに行ったのは前号で伝えたが、今回はその前号で行ったインタビューの続き、そして前回からこぼれた部分を再構成してお届けしよう。インタビューをしてから日にちはたってしまったが、TKの言葉は日もちするので全然オッケー。

シアトルの香りと、今後のマット界への問題提起をそこはかとなく含んだ、TKの静かで深い熱、といったものなどが伝われば幸いです。

※

—こっちではモーリス・スミスのジムを拠点に練習を積んでるわけだけど、ズバリ言って、どんな点が面白いですか。

TK アメリカ人の面白いところはね、同じタイプのヤツがいないんですよ。だから、モーリスのジムにいるグラウンドが好きなヤツもそうなんだけど、なんかしら一つか二つ、めっちゃめちゃズバ抜けてるんですよね。ただし、それ以外はからっきしダメだったりするんですよ（笑）。だから、アナログなんですよ。ただし飛び出てる部分がデジタルの人間より凄いっていう。デジタルは均一化してるけども、アナログの部分だけ飛び出てるところがめっちゃ凄い！

—そうか、イメージとしてはデジタルがアメリカだけど、日本がデジタルなんですね。実は日本の方が均一化してるっていう。

TK それはもう、間違いないですね。ただ、その分飛び抜けてる部分と、へこんでる部分の落差がデカいんですよ。モーリスのジムでグラウンドやってて、試合もやってるのが3～4人いるんですよ。4人とも全員タイプが違う。一人はアームロックがメッチャメチャうまくって力もある。自分も取られるし。

—え？ TKが取られますか！

TK でもそいつはね、それ以外はめっちゃ普通なんですよ（笑）。プロではないんだけど、アマチュアのパンクレイションっていう同じような試合をやってるんですよ。で、どんな体勢からもアームロックに入れる。あと、下からの三角がめっちゃめちゃウマいヤツ。こいつは、上になったときにはな～んも怖くない。

—下からのみ（笑）。

TK もう一人は膝十字と腕ひしぎがうまい。なにしろ十字！ 股に挟んでする技がうまい。

—ガハハハ！ 股使いがうまい！

TK あそこのジムの面白さはね、グラウンドの練習やってるのを1週間ぐらい見てるとわかりますよ。コイツは何がうまいかって。それがわかるとオモロイ。

—練習から何から統一性がないっていうか、個性的というか。

TK 個性キツいし、言っても直さないし（笑）。こっちだと、いきなり「エビやれ」って言われてもやらないんですよ。みんなエビ嫌いなんですわ。

—ガハハハ、アメリカ人にエビ！ なんか不似合いですね（笑）。

TK でもなんとか我慢してやってくれるんですけどね。グラウンドの動きの中で全部エビって使うんですよ。でもやりたくない人は絶対やらない。で、何がやりたいかっていうと「どうやったら十字入れるか」とか、アキレスの取り方とか。そういう派手な動きをどうやったらできるようになるか。そのための練習ならいくらでもやるんですよ。

—派手なエサを与えないとダメ（笑）。

TK そう。で、最後に「十字に行くにはエビって動きが大事なんだよ」って言うと、初めてやる。最初に「これは基本です」ってエビ教えても誰もやらないですね。

—まずは基本からっていうのが通用しないんですね。

TK まずは形から見せて、「な、このためにはエビっていうのは必要だろ？ こういう動きって必要だろ」っていうのを教えないとやらないです。わからないことは必要ないと思って絶対やらないですよ。脇差したりする練習は、「こういうのやったらどうだ？ 立ったときに差し合いになるから」って言うと「いや、立ったときはキックで勝負する」って（笑）。

—身も蓋もない連中ですね（笑）。そういうときは日本人の血が騒いで「お前、ちょっとそこに座れ！」みたいにならないんですか？

TK だって14歳とかのクソガキに平気でタメロきかれるし、自分がスパーリングしてるときに「それ、ダメだよ！ オレが習ったのはこうだぜ」とか言われるし。でも逆にね、当たってることがあるんですよ。

—ガハハハ、当たりますか！

TK だから、ムカつきながらも、なるほどな、と思って。

—こっちに住んでると、いろんな価値観変わりますね（笑）。

TK 細かいことは考えなくなる（笑）。もっと大きな目で見なさいよって雰囲気はありますよね。ジムで自分の試合のビデオ見たりするんですけど、攻めあぐねてるシーンとかになると「あそこはああすりゃいいんじゃないの？」とか斬新な意見を言ってくれるんですよ。「よけ方がヘタクソだ」とか。そいつは21歳。

—そいつはまたヤンガーですね（笑）。ワールドレベルの選手に向かって素人が意見するっていうのが新しいですねぇ。

TK 確かに斬新なんですよ（笑）。

—高阪さんに正面切ってそんなこと言える人少ないですからねぇ。

TK 自分はこっちに来て明らかに強くなったと思うんですよ。その強くなった何％かはそうやって言ってくれるヤツがいるっていうのがデカいと思いますね。

—ジムのオーナーでもあるモーリスに向かっても、そういう意見するヤツっていうのはいるんですか？

TK 言います、言います。

—ガハハハ！ 面白い！

TK 楽勝ですよ、ホンマに（笑）。モーリスにも思いっきりタメ口だし、モーリスが遅れて来たりするとボロクソ文句言うし。「オレより遅く来やがって」とか（笑）。

—オーナーもへったくれもない（笑）。

TK 日本の選手でこっちでも人気あるのは、

例えば、佐藤ルミナ選手とか、エンセン（井上）、船木（誠勝）さん、桜庭（和志）さんなんですよ。「うーむ、サクラバはいい試合をする」って。でも、お前が言うなって（笑）。

―アマチュアミュージシャンがプロのミュージシャンに「アイツもなかなかいいプレイするぜ」って言ってるようなもんですよね（笑）。

TK 「いい音出してるじゃん」って言ってるのと一緒ですよ（笑）。

―競技人口が増えるってことは、スゴいことなんですね（笑）。プロとアマの垣根がないんだもんなぁ。

TK 関係ないですよ。要するにやってることが面白いか、面白くないか。見たいものにしても、面白いか、面白くないかだけなんですよね。

―こっちでもWWFとかいわゆる従来のプロレスっていうのは、フリーファイトとは明らかに違うものとして認識されてるんですか？

TK 全然違います。あれはもういわゆる演劇の世界。その中にアニメのようなストーリーを入れた世界だって思われてますね。

―まぁ、事実そうなんですけどね。

TK そういう目で見てる連中は面白がるんですけど、実際、グラウンドとか練習してる連中が、同じカテゴリーという視点から見たら面白くないですよね。

―逆にWWFを面白がってる人は、「こいつら、八百長やってんだぜ」みたいに小バカにした見方をする人もいない？

TK いない。アレはアレでいいんだって。

―でも、プロとアマの垣根がないとは言いつつも、例えばUFCでも、こっちではプロ意識がないと食っていけないですよね。

TK やっぱり自分もプロなんで、いかに見てる人にオレの強さが伝わるか、どうしたら簡単に伝えることができるかっていうのを考えながら試合するんですよ。そうやって考えると、お客さんが求めてるものっていうのがだんだんわかってくるようになったんでね。それは何かっていうと、明らかに「コイツの方が強い」っていう状態を作る、見た目でそういう状態を作んなきゃ絶対認めてくれないんですよ。例えば、攻められてるフリをして、実は脚狙ってるとか、そういうのじゃダメなんですよ。

―届かないんですね。1回でも度を超えた勝ち方をしないとダメなんだ。

TK そうです。そういう勝ち方をしないと絶対認めてもらえないと悟ってきたんで、自分の試合も日に日に派手になっていくみたいですね（笑）。

―悟って派手になるっていうのがいいですね（笑）。

TK 言っちゃうとムダな動きが多いんですよ。技に関して以外のムダな動きが。

―ダイナミックになっていくわけですよね。

TK 例えば、ブラジルでピート（・ウイリアムス）と試合したとき（98・10・16／第17回UFC）もそうだったんだけど、組まれて、なんとか逃げなきゃいけない。そのままベタッて倒すとか、外に抜けるとか、いろいろ方法があったんだけど、どうやったらわかりやすく攻守を逆転するかっていうのをフと考えたと思うんですよ。

―TKという人は（笑）。

TK ええ、高阪剛という人間が（笑）。それで、払い腰で投げた。

―投げましたか（笑）。

TK そういうのが自動的に出るようにはなってきてるんですよね。払い腰で投げるとエネルギー使うし、しなくても倒せるんですけど……でも、やりたいんですよ。

―ガハハハ、リスキーですねぇ。その、アメリカンなわかりやすさっていう意味では、アメリカのプロレスも、高阪さんが大技を使ってわかりやすく強さを伝えていく世界も、〝わかりやすい伝え方〟っていう部分では共通点がありますよね。いずれにしても〝わかりやすく伝える〟っていうのは難しい作業なんですよね。

TK そうかもしれないですね。

―そういえば伝えるっていう単語で思い出したけど、高阪さんから聞くモーリスの面白さが日本で伝わってないですねぇ。

TK アイツはメッチャメチャ面白いですよ！ アホなことばっかりやって。日本にいるときは試合のときだから、大してアホなことはしてないですけど、アイツはアホですよ（笑）。頭はメッチャメチャいいんですよ。でも……やることがアホなんですよ。

―例えば？

TK 一緒に水泳しに行ったんですよ。そしたら体重計があって、モーリスが測ったんですけど、思ったより重かった。それで「お前、デブだなぁ」って言ったら、「違うよ、コイツのせいさ」って言って、ちょうど腰のあたりにあった表示板の上に、ボテッてチ●コを置くんですよ。

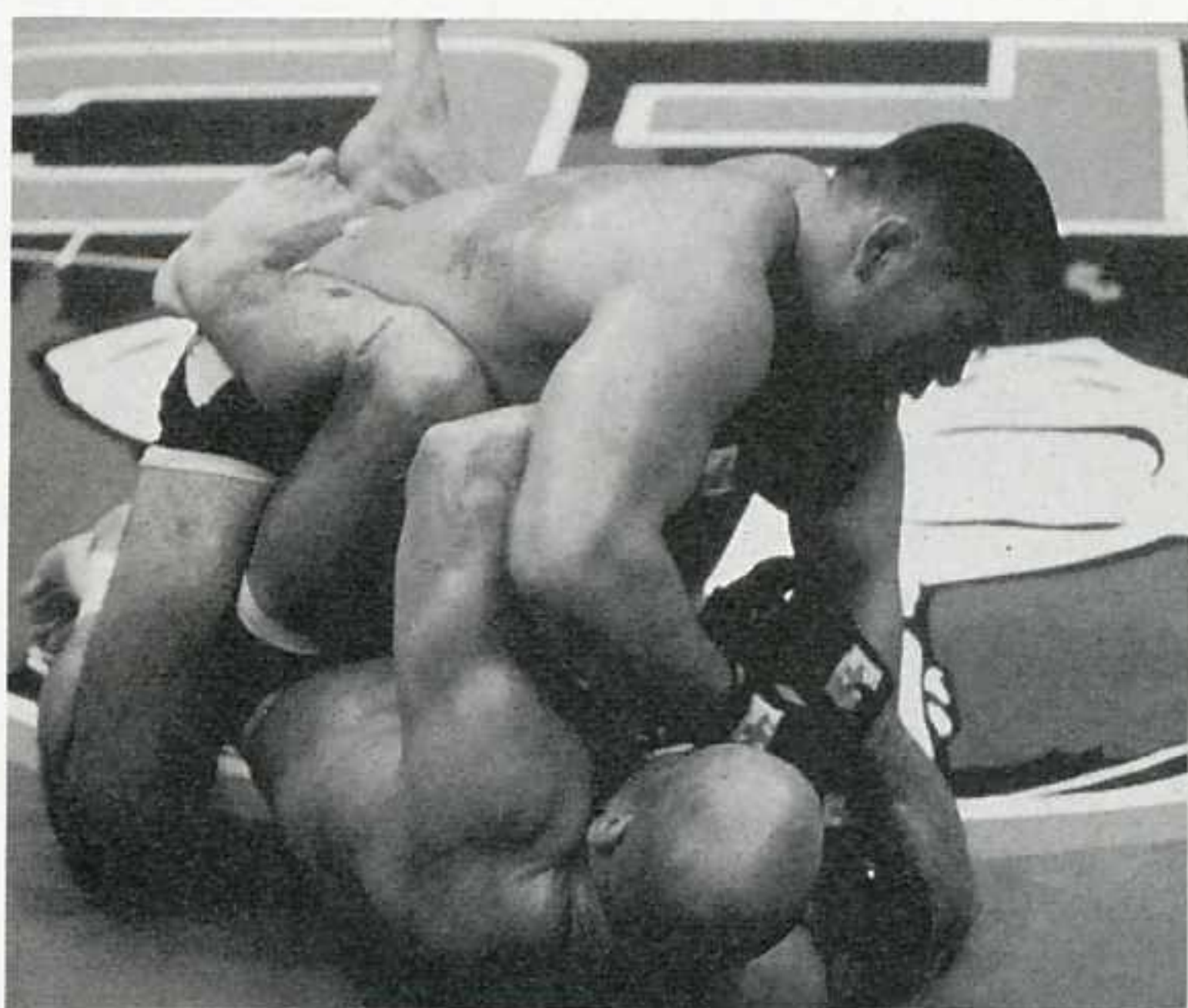
―置きますか（笑）。

TK そしたら、一気に体重が軽くなったんですよ。「コレを引いた分がホントのオレの体重だ！ この分だけ余計なんだよ。邪魔でしょうがない」って（笑）。ボテッて置けるところがスゲェな、と思って。

―ガハハハ！ それは凄い。最高ですね（笑）。リアリティもファンタジーもある、驚くべきイチモツの持ち主！

TK そういないですよね。ホントに体重軽くなるんだから（笑）。

―高阪さん曰く、モーリスはアホだけど頭いい。例えばアレク（サンダー大塚）なんかも、普段はボーッと見えるけど頭いいんですよ。強さには頭の良さも確実に含まれますね。

TK アレクはそうですね。あのバトラーツにはいるけれども（笑）。彼なんかものスゴい身体も優れてるし、藤原組に入門したときから一緒に練習したいな、と思ってたんですけど、なかなか機会がなくて。アレクは頭の中でパズルを組み立てることができる人間ですよね。しかも平常心で。それを一番感じたの

1・8のアメリカ・ニューオリンズで行われたUFCでは、グラウンドでは圧倒的に有利だったものの、バスを釣りそこねてしまったTK（写真右＝Photo／Susumu Nagao）。1・23のリングス武道館では田村を破り、リングス・ランキング1位となったTK（写真左）。これからはTKの試合は一戦一戦価値が上がっていきそうな気配だ

TK Revolution in Seattle Side B

ノールールへの注目が一通り終わればウチらのスタイルが浮かび上がってくる

が、リング作りをやってるじゃないですか、試合前に。あれもパズルだし、そういうのを全部頭の中でできるんですよ。

―しかもリング作りさえも試合のウォーミングアップにしてますからね。

TK ワハハハ！　利用できるものはなんでもする。

―マイナスをプラスにする能力があるんですよ。そのアレクのマルコ・ファス戦（98・10・11『PRIDE．4』）の勝利の陰にはTKがいますからね。

TK 練習しただけですよ、アレ。

―ガハハハ！　練習したのが良かったんじゃないですか。

TK いや、自分は彼と練習したかったから。

―ガハハハ！　そんな、ベルビューというどちらかというと高級住宅街に住んでるからって謙遜しちゃって。

TK じゃあオレのお陰です。そうしときますわ、そんなに言うなら（笑）。

―ところで、ノールールの試合スタイル自体の競技人口が増えていく可能性ってあると思います？

TK UFC自体はないと思いますよ。っていうのは、ボクは、あれはあくまでもお金を作るためのものだって割り切って考えてますから。例えば、もし自分がジム持ってたら、子供たちにグラウンドでこういうポジションになったときにこう殴るんだよ、とは教えたくないですからね。そういう試合のための練習はやるけど、日常生活には必要ないじゃないですか。健康のためにやるのもおかしいと思うし（笑）。

―ガハハハ！　健康のためにマウント取って相手の顔面を殴る！

TK ワハハハ！　それもおかしな話ですよね。その代わり、お金を作るとか、見てる人をエキサイトさせるとかいうシチュエーションっていうのはバツグンのものを持ってると思うんですよ。金網といい、レフェリーといい。でも、これも流行りすたりみたいなもんで、ノールールへの注目が一通り終わったときに、また浮き上がってくるのがウチらみたいなサブミッション・スタイルじゃないかなって思うんですよ。

―パンクラスの船木（誠勝）さんも、ノールールの闘いは〝外道（がいどう）〟と位置づけてますよね。

TK 自分もそうだと思いますよ。高橋（義生）さんがUFCに1回出たとき「パンクラスの方が難しかった」って言ってたでしょ。あれはまさにそういうことなんですよね。自分も初めて出たときそう思ったし。ああいう試合の展開とかルールもそうですけど、そういう中で試合するのは簡単なんですよね。お客さんを喜ばせるのは簡単だけど、納得させるのは難しいんですよ。

―リングスでの試合に関していうと、去年の田村（潔司）戦（6・27NKホール）はリングス・スタイルというものの、ほとんど完成型だったんじゃないですか？

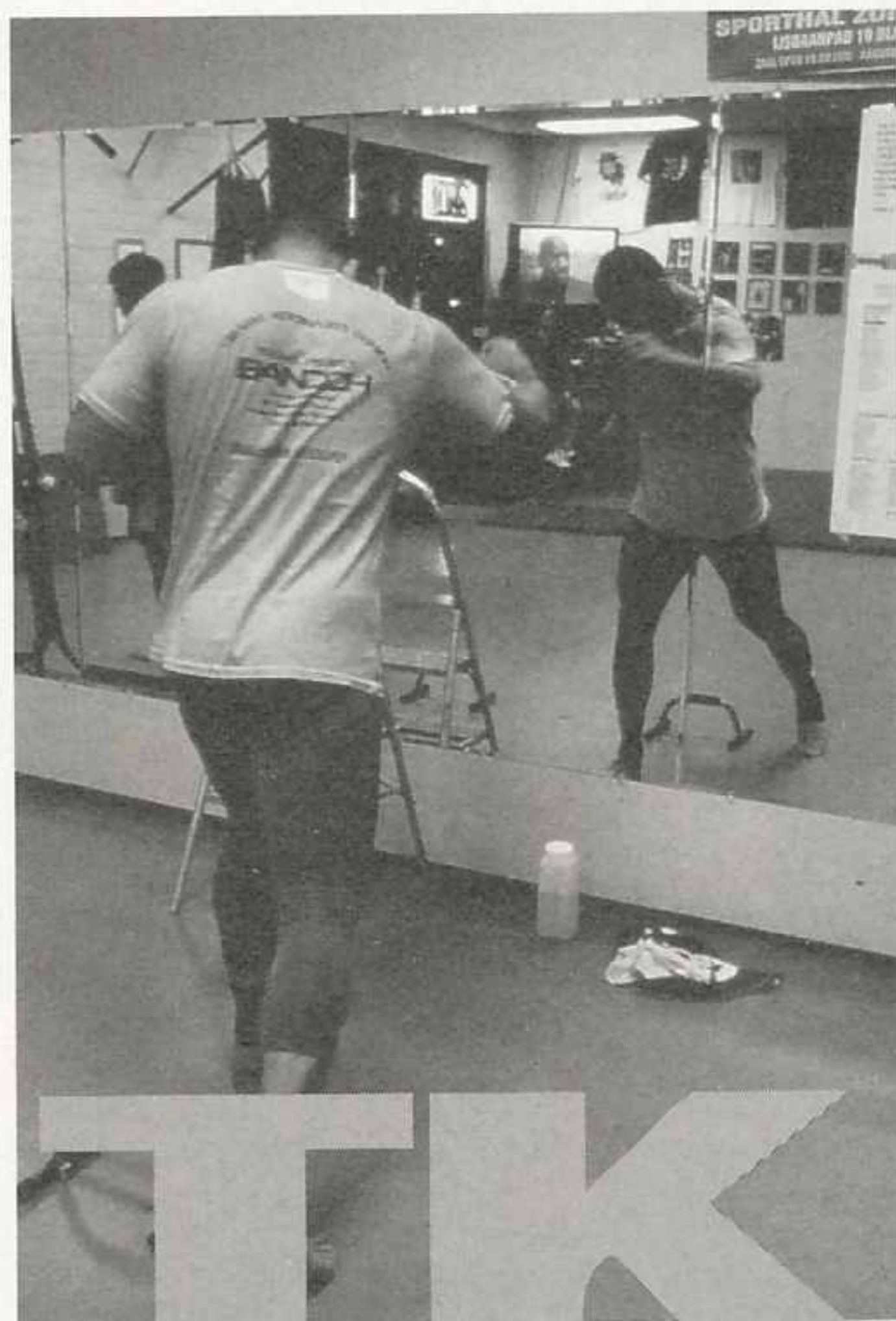
TK でも、あれはかなり納得できなかったとこがあったんですよ。

―あれでも！　向上心の塊ですね。

TK やりたいことがいっぱいあるんですよ。あれもこれもって思ってしまうとダメなんで、いまは一個一個の試合で課題を作って、長い目で完成させていけばいいな、と思ってるんですよ。

―UFC一本でやりたいというわけじゃないと。考えてみればUFCってアメリカそのものですよね。アメリカはいろんな民族が「アメリカ・ルール」のもとで暮らしている。いろんなバックボーンを持った選手が「UFCルール」の元に集まってきているっていう点では、アメリカそのものを象徴してる気がしますよ。

TK あと、本音と建て前が違い過ぎる。

―どういうこと？

TK 建て前は「ルールを統制して、安全にして、危険なことはまずない。安全管理はしっかりしてます」って言ってるけど、主催者としてはバイオレンスを期待してるわけですよ。そういう試合すると、「お前の試合はグレートだ」ってなる。安全に試合してるヤツは実際「なんて試合してるんだ！」って言われてましからね。アメリカ人ってそうじゃないですか。「人種差別はない」って言ってる割には、あるし。それも含めてUFCっていうのは、アメリカが生んだって感じますよね。

―矛盾の塊（笑）。

TK でも見てる人もそれを考えようとしないですよね。見た目で面白きゃそれでいいっていう。それをいやらしいほどやってるのがアメリカなんですよ。こないだの試合（1・8のvsバス・ルッテン戦）もそうですよ。バスと自分が試合するのに、「お前ら二人がこれからトップスターなんだから」って言われて、試合行ったらポスターもプロモーションビデオも全部バス・ルッテンだし。「まぁ、ええけどな」と思って（笑）。

―ガハハハ！「オレはなんやねん」ってやつですね。

TK 一瞬信じたんですけどね（笑）。でも所詮、日本人のわけわからんヤツが勝ったってアメリカ人は盛り上がらないんですよ。

―わけわからんヤツ（笑）。

TK やっぱりアメリカ人に好まれる顔つきとか体型じゃないとダメなんですよ。

―前田さんからもらった日本刀で入場するというアイデアも、そういったものに対する武器になりますね。

TK そういうのはあって当然だと思うし。これは自分なりの考えなんだけど、日本も選手は選手で勝手に管理させればいいんじゃないかと思うんですよ。いまの日本の団体っていうのは団体が選手を守っちゃうじゃないですか。だから、会社の中の雰囲気として、例えば「ボクはパンクラスの誰々と試合がしたい」とか、うまく言えない状況ですよね。それを言っちゃうと、「会社が言わせた」とか思われてもしょうがない状況じゃないですか。こないだガイ（・メッツァー）が話してたけど「エンセンと試合したい」とかね、誰でもそういうのはあるんですよ。別にビックリすることでもなんでもなくて、自分もバスと試合するの

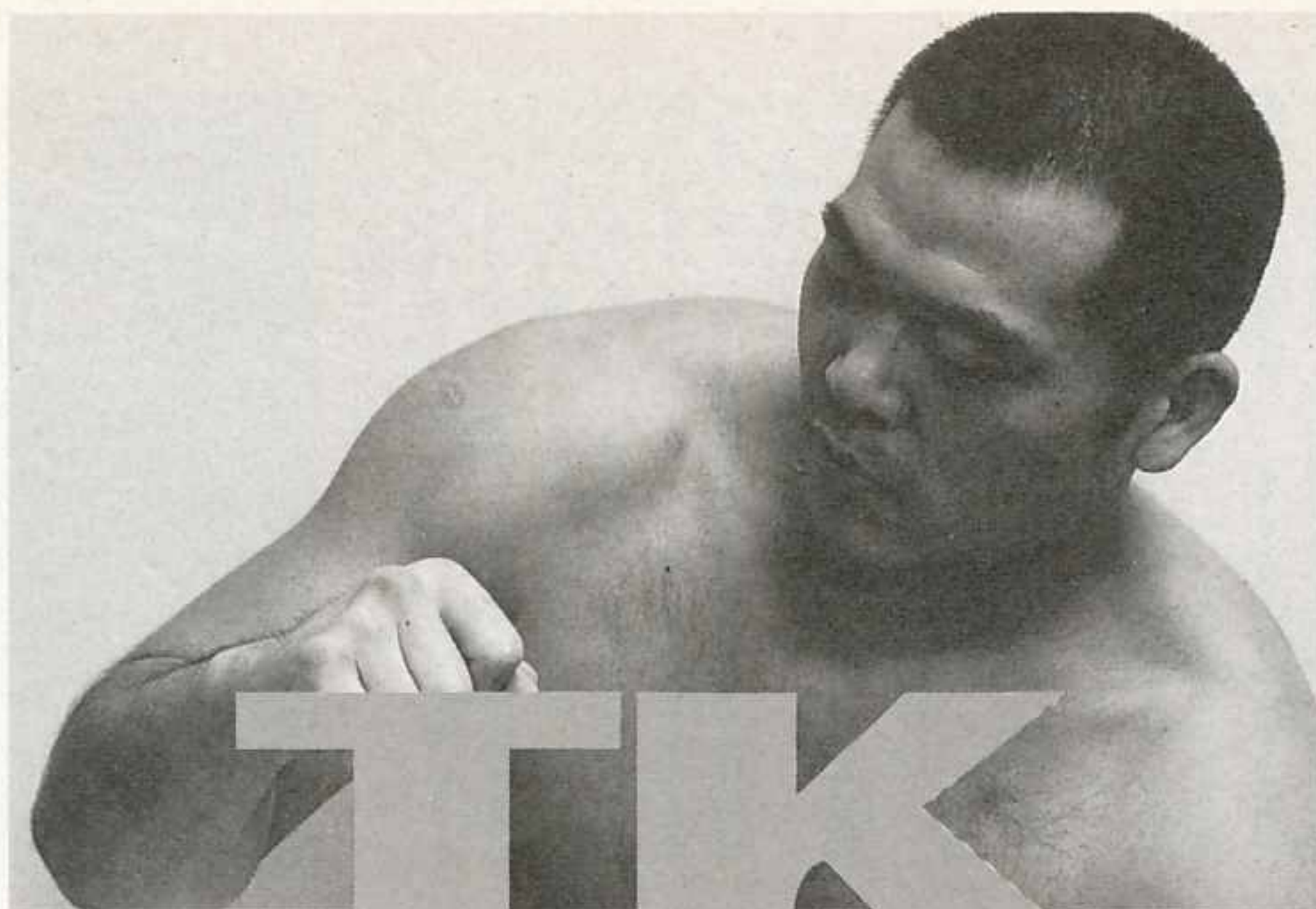
格闘ノストラダムス'99

プロレスか？バーリ・トゥードか？マット界の盟主を予言せよ!!

楽しみだったし。実際試合してよかったと思うし。勝てればもっと良かったんですけど。

――個人個人が、自分の売り出し方なり、強さの伝え方なりを、もっと良く考えて自己演出していくべきですよね。

ＴＫ　それで「誰々と試合がしたい」って誰もが思ってることを素直に言える状況ができれば、もっと細かいことがとっ払われていい時代になるんじゃないかな。試合前に「アイツはたいしたことない」とか、「アイツなら勝てる」とか言うヤツもいますけど、実際二人がハイレベルなものを持ってたら、試合やれば、見てる人も自分たちも納得すると思うんですよ。

――例えばエンセンなんかは「殺したいヨ！」とか平気で言うけど（笑）、そういった発言も無意識のうちのプロとしての計算で言ってる部分もあるし、何よりも自分自身に責任を持って言ってますからね。

TK Revolution in Seattle Side B

自分のことは自分で守るしかない状態　そのためには強くなるしかないですよ

ＴＫ　素直に言ってもいいと思うんですよ。見てる人間も面白ェなってことになるし。それで試合しちゃえばいい。そうやってエンセンがもし勝ったら「エンセンはスゴい」ってことになるし。そういうのを多く作っていくべきじゃないかなって思いますよ。理想を言えば、違う団体でも同じサークルの中で試合が全部できるようになることなんですけどね。現状では難しいと思いますけどね。

――高阪、エンセン、桜庭、船木、アレク、いろんな選手が集まった興行が見たいですねぇ。

ＴＫ　見てみたいですねぇ。あ、やってみたいですね！　見てたらアカンやん！（笑）。

――ガハハハ！　貴方が見ててどうするんですか！　でも俗にいうU系は、観れば面白い試合がいっぱいあるにも関わらず、正直言って客が入ってない状態ですよね。

ＴＫ　それはハッキリ言って、会社の経営陣の考えることであって、自分は試合するだけの人間ですからね。試合して、自分のやるべきことをやるだけの人間だから。呼んでくれた試合に関して、自分の評価っていうのはお金で付けられてますからね。見てる人が「アイツは客を呼べない」って言うなら、会社が自分をそうやって評価するべきだし、そのへんはかなり合理的になってます（笑）。

――さすがＵＳＡ在住！（笑）。

ＴＫ　自分がダメなんだったらギャラを落としてくれればいいし、そのかわり自分が納得できなければ会社と対立が起こるよっていうだけですね。

――リングスに関してぶっちゃけた話、ここをこうしてほしいとかないんですか？

ＴＫ　新しい選手、いま流れに乗ってる試合なり練習なりをしてる選手をどんどん輪の中に入れてほしいですね。その中に異端児がいると、それはそれでメリハリが効いてくるんですよ。

――前田日明、エンセンタイプですかね（笑）。

ＴＫ　あとは、選手がやってることを会社で客観的に見てる人がコントロールすればそれでいいと思うんですよ。いままでは前田さんが一人で全てを背負いこんでたから大変だったでしょうけど。

――いずれにしても、日本の団体方式っていうのは過渡期を迎えてますよね。

ＴＫ　正直言って限界に来てると思いますよ。

――何が限界なんでしょうね？

ＴＫ　たぶん、守るものが多すぎるんですよ。だからそこに費やす時間とお金がかかりすぎるから、自分で自分の首を絞めていくような状態にならざるを得なくなってくる。

――日本の経済状態と一緒ですね。閉塞状態っていうか。

ＴＫ　そうですねぇ。

――いまオレ、適当に言ったんですけど。

ＴＫ　ワハハハ！　自分も思ってますよ。

――でも、前田さんも言ってましたよ。「プロモーション方式に変わらざるを得なくなって来るんちゃうかなぁ」って。

ＴＫ　要はそれを誰がやるかなんですよ。でもそれをあんまり言いたくないんですよ。こういうこと言うと、「じゃあ、お前やれよ」ってなるじゃないですか（笑）。

――ハハハ。やるのは嫌だと（笑）。

ＴＫ　いまは自分はそういうことやりたくない。自分は選手としてやっていきたいから。あくまでも理想を語るとしたら、そういうことになりますよね。アメリカで生活してるとそういうことは、まず考えることがないんですよ。特にモーリスだとかフランク（・シャムロック）であったりとか、アメリカ人のファイターと接してると、自分のことは自分で守るしかないっていう状態。そのためには自分で強くなるしかないですから。

――だから、人気も含んだ部分で、〝リアルな力〟を持った人しか通用しない時代なのかもしれませんね。

ＴＫ「試合をやってくれ」って言われるような立場になるようにクオリティを高めていかなきゃならない、ただそれだけなんですよ。だから、なにも守ってくれるものもないし、団体に属していると怪我をしても会社がなんとかしてくれる。でもこっちで、試合中ならともかく、練習中に怪我したとかで試合に出れないってなったら、もう声かけてもらえないですからね。リタイヤするしかしょうがない。いまは確かに厳しい時期かもしれないけども、そうすることでムダな部分が削ぎ落とされて、シェイプされてくると思うんですよね。

――シェイプで思い出しましたけど、前田さんのシェイプされたボディは楽しみですね。

ＴＫ　あのトレーニングやってればかなりシェイプされますよ、間違いなく（笑）。

※

以上が、1月の14～15日に、シアトル郊外で2日間に渡ってＴＫと話した内容である。前号と合わせて読んでもらえれば、ＴＫがいま何を考えているかが、より鮮明にわかると思う。この他にも腐るほど話をしたのだが、そこで感じたことは、あらためて咀嚼し直してから、ＴＫが帰国した折を見はからって、もう一度ぶつけてみたいと思う。

ちなみにＴＫは、リングスの4・22大阪大会で漆黒の元気者、ギルバート・アイブルと激突する。

1・23武道館で撃破した田村に「強くなったが、何か大切なものを忘れている」という〝謎かけ〟をされたＴＫが、リング上のファイトを通じてどんなメッセージを出してくれるのか非常に楽しみだ。

というわけで、さらばシアトル！　シアトル！　英語はしゃべれないけどアディオス、シアトル！　なんじゃ、そりゃ。わけわからん（ＴＫ調）

もうU系はプロレスなのか格闘技なのかはっきりさせた方がいいですよ

1月23日、リングス武道館大会。ピーターース戦後のヤマケンの口から突如飛び出したフリー宣言。さらには「必ずエンタテイメントの世界に戻ってきます」との誤解されやすい微妙な発言まで残したヤマケン。一体、どうしたんだ！　その真意がまったくわからないまま月日はいたずらに流れたが、ついにヤマケンが口を開いた。それはU系団体に対する、ある意味青臭く、そして鮮血が飛び散るような厳しい言葉の数々だった!!

聞き手&撮影／チョロ
Interview & Photographs by Choro

山本健一改め

山本喧一

突然のフリー宣言の真意を熱く語り倒す！

——1・23武道館大会の試合後、山本さんから突然フリー宣言が出されてファンは驚いたと思うんですよ。で、一番驚いた部分は「必ずエンターテイメントの格闘技の世界に戻ってきます」っていう発言の〝エンターテイメントの格闘技〟っていう言葉だと思うんですね。これって結構、誤解されやすいし、ファン間でも物議をかもしてるようですし（笑）。

山喧　なるほど。

——まずはこのエンターテインメントという言葉にはどういう意味があるわけですか、山本さんの中では。

山喧　プロスポーツの世界でエンターテイメント性があるのは当たり前のことですよ。ただ、現在の僕の情況ではプロと名乗る人間が提供しなければならないエンターテイメントの世界には上がれないっていうことですよ。僕は自分をダマシ、ダマし、割り切って試合を見せるってことができなくなってきたんですよ。

——山本さんがマット界を本気で憂いていることは理解できるんですが、言葉にインパクトがあり過ぎるというか（笑）。「ダマし、ダマし」とか「割り切って」とか、発言が微妙過ぎます（笑）。

山喧　そうなんですよね（笑）。ホントはね。もうU系は、プロレスなのか格闘技なのかはっきりさせた方がいいんですよ。例えば、リングスが真の格闘技だとするならば選手を守るのはルールとレフェリーだけでいいはずですよね。

——そうですね。

山喧　だけど、エスケープがあるじゃないですか。エスケープがあるってことはプロレスなんですよ。殺るか、殺られるかの真剣勝負だというならば、エスケープがあっちゃあいけないんですよ。

——そうかもしれませんね。山本さんにとって、エスケープがあることによって、試合にゲーム性を持たせたものはプロレスということなんですか？

山喧　そうでしょ？　それを「競技として見せるためにエスケープを作ってる」って言うんだったら、それはもうエンターテイメントですよ。だから、僕はよく考えてほしいとファンのみんなに言いたいんですよね。よく考えてくださいと。だってね、エスケープっていうのは自分の意志じゃないですか。

——そうですね。

山喧　でも、ダウンっていうのは自分の意志じゃないですよね。だから、ダウンよりはエスケープの方が罪は重いと思うんですよ。だから、真の格闘技を追求するならばエスケープはいらないんですよ。でも、エンターテイメントとしても確立させようとしてる今のリングスの姿勢がエスケープを作りだしてるわけですから。"じゃあ、僕としてはいまの心情的にはそのリングには上がれない"ってことですよ。だから僕は前田さんとも男の話をして、考えとかをぶつけましたしね。それで、"心情的にも身体的にももう保たない"という気持ちがピークになってる情況でちょうど契約更改が来ちゃったんでね。

1・23武道館でヤマケンは突然のフリー宣言。あまりの唐突さに選手も関係者も困惑の色を隠せなかった

——じゃあ、いろんな理由がすべて重なってフリー宣言に至ったわけですか。

山喧　そうですね。

——田村戦で勝利を収めて、何か時代を変えるような発言なり行動をとろうと思っていたんですか？

山喧　でも実際自分が思ってるようにはいかなかったんで。……かといって今のリングスの中でね、危機感を感じないまま生きていくのはできなかったんでね。自分の気持ちに嘘ついてまでリングの上で自分を表現することができなくなってきたんですよ。

——山本さんは、キングダム時代から、「危機感」とかは常々口にしてましたよね。若くして二度も団体の崩壊を間近で経験してますからね（笑）。

山喧　自分も当時はまだ駆け出しでしたからね。ただもう今はキャリアも5年ですからね、はたして今、その時のままでいいのかと考えた時に、今はプロとして、やっぱり個人競技ですから、前田日明、高田延彦、田村潔司、みんなライバルなんですよ。ライバルでなきゃいけない者同士が仲良く一つのチームとしてやれるのかいなと。やれるんだったらそれはそれでよしと。やれないんだったらお互いライバルとして徹底して自分の名前を売ることを考えてね、自分の名前をプロとして旗揚げするべきじゃないかと思うわけですよ。例えばキングダムになったときは、自分がやりたいスタイルができるということで凄く喜んだしね。一生懸命練習して、その結果がリングに現れてたのが嬉しかったしね。で、まあリングスに戻ってきて…。

——戻ってきて？

の　やって未来がありますかいな

山喧　戻ってきてって表現はおかしいですけど、キングダムで、ボクたちがやりたかったスタイルっていうのは、格闘技の追求でしたから。人気なんていうのはいつかは冷めていくもんですから、それよりボクらは実力が欲しかったんですよ。なにか後に繋がるモノとしてね。将来のことを考えたら、例えば身体が動かなくなったとして、じゃあ次は後進の指導にあたって食っていけるのかとなったときに、難しいわけじゃないですか。

——昔っから言われてますけど、プロレス界は、引退即廃業みたいな感じで、保証は無いに等しいですからね。

山喧　そうですよね。だからボクらがやるべきことは、せっかくこういうスタイルができたんだから、真の格闘技を追求して、その中でホントに素晴らしいルールを作ってね、後は競技人口の拡大だとか、そういうのをやっていかないと未来がないんじゃないかと思ってるんですよ。

96・12・27■後楽園ホール隣接の5階催事場で行われたUWFインターナショナル解散記者会見。ヤマケンは「レスラーとして更生できて、一人前にしてくれたのはインターさんなんで、ありがとう」と感謝の意を表した。

——確かに、従来のプロレスと違って、U系スタイルであれば、底辺の拡大の可能性はあったわけですからね。それがUスタイルが誕生してから約10年経って、新人選手も、競技人口もそれほど増えていないですよね。

山喧　そうそうそう。だからオレたちがやらなきゃいけないことは、やっぱり底辺の拡大なんですよ。ホントに足下見てね、どないなってんねんと。底辺が育ってないのにデカイ箱で興行やってて注目されるわけないやろうと。今はマニアだけ相手にしてるわけですよ。マニアでもそのマニアが全員会場に足を運んでくれたらいいですけど、彼らにも用事があるわけですよ。毎回毎回会場まで来てくれるわけないじゃないですか。

——武道館大会は、その後に前田さんの引退試合が控えてたのもあってか、客入りは芳しくなかったですからね。

山喧　そうです。今までのリングスは前田さんの力が一番大きくて、それにプラスアルファWOWOWってもんが付いてたわけですよ。だから持ってこれたと思うんですね。インターの時もそうだったんですよ。結局高田さんがお客を呼んでたわけですよ。でもいつかはその人たちもやめていったり、ケガをして試合ができなくなるわけですから、1人のスーパースターに頼った興行するのはもうやめようやと。

——かといって、新しいスーパースターが出てきてないっていうのが悩みでもあるわけですよね。

山喧　だから、もうこんだけ月日が経ってても、ノウハウがないから次のスターを育てられないわけですよ。その中で、やれ強いだ、弱いだって言ってたって、そんなのは井の中の蛙の話でね。今となってはこんだけ団体が乱立してね、上の方では、やれ向こうは偽物だの、こっちは本物だの言い合って未来がありますかいな。今はちっちゃな会社が選手をいっぱい抱え込んじゃって、がんじがらめにしちゃってるんですよ。

——がんじがらめっていうとどういうことですか？　技の名前じゃないですよね（笑）。

山喧　あい〜や。まあ、これだけ団体が乱立して、『PRIDE』っていう興行も出てきてね、今まで無名だった奴がそこそこ名前があるプロレスラーを倒してるわけですよ。チャンスをもらえるわけですよ。時代はそういう時代になってきてるんですよ。ホントの自分の実力ってなんだろう？　って思ったときに、こういうジムとかでね、下の人間を育てていける環境を作ったり、そういうのを教えられるノウハウがあるのかどうか、そういうのがボクらU系の選手に試される時期じゃないかなと思いますね。そういうふうにしないと反対に、次の時代のレール作りができないんですわ。

——それで山本さんは、次の時代のレール作りのためにパワーオブドリームを始めたということですね。

山喧　そうです。ジムやってるとホント面倒臭いこと多いですよ。大変ですわ。かといって自分のことだけ考えて生きてても未来がないんですよ。

——ということは今回のフリー宣言は、自分のことだけではなく、U系の未来を見据えたものでもあったわけですね。

山喧　そうですよ。とにかく自分が考えてることと、今のU系の考え方との間にギャップありすぎるんでね、今の会社の方針には自分の身体もついていかないし、

今のままだと、月イチで試合に追われてリングに上がってるだけじゃやる気にも繋がらないし、練習にも身が入らないし、ケガしてたらそれを直すだけで精一杯だし、スキルアップに繋がらないんですよ。だからもう月イチ興行の時代でもないと思ってるんですよ。根本的に根こそぎU系のシステムを変えていかないとね。

――根こそぎ変えるっていっても、一人の力では到底できない話ですよね。

山喧　大変ですわ（苦笑）。まあ今は気持ち的に、人の下で働けるような状態じゃないんで。自分でやれることをやって、自分で何かを作って、それが業界の底辺の拡大に繋がったり、活性化に繋がったりすればオレはそれで満足ですよ。これからもっともっと団体がどこも地盤沈下していって、選手を抱えきれなくなって、さまよえる格闘家がウヨウヨしだすと思うんですよ。そん時に戦争を仕掛けていこうと。ケンカを売りにいこうと。今はその準備をしたいなと思ってるんです。

――その時までは、しばらく潜伏期間となるわけですか？

山喧　はい。そのうち戦国時代が来ると思うんですよ。全国の山本のファンにはね、その時まで待ってもらって、もう一回り大きくなって戻ってきた時には、「山本の試合は絶対に見にいかなきゃ損やで！」って言われるぐらいの迫力と最高のクオリティーを見せられる選手になりたい。

――今時点では、ファンに対しても納得できるものが見せられないと？

山喧　ハッキリ言えばU系はもうみんなに飽きられてきてると思うんですよ。これは誰かが言ってた言葉ですけど、「プロレスファンの皆様、目を覚まして下さい」と。

――ハッハッハッ！　UFOの小川選手ですね（笑）。一応U系ですけどね。

山喧　それは、言うところを間違ってると思うんですけど、新日本のお客さんに言うんじゃなくて、ある意味ではU系のお客さんに言えることだと思うんですよ。

――U系ファンの皆様、目を覚まして下さいと（笑）。

山喧　そうです。小川選手の言葉をお借りしますけどね（笑）。

――前から山本さんはファンの見る目も養って欲しいって言ってましたね。

山喧　目を覚ますのはホントにU系のお客さんだと思いますよ。こんなこと言ったら「何言ってんだ、ヤマケン！」ってなると思うんですけど、そう言うんだったら、自分の周りに離れていったファンはいないかって、ちゃんと自分の周りを見回してみろよと。昔、新生UWFの頃にファンだった人達が今はどうだと。

――新生UWFは社会現象にまでなりましたからね。チケットも何分で完売とか凄かったですからね。

山喧　そのチケットを買ってたファンが、今でもリングス、パンクラスを見に行ってるのかと。みんな離れていってますよ。

――そうですね。技術的な面では、新生Uの頃と比べて確実にレベルアップしてるんでしょうけど、それが動員数に直結するわけじゃないですからね。

山喧　ボクらがどんだけ、前田さんがいる新生Uの全盛期の時より凄い技術を持ってやってもね、お客さんの目が肥えてないから、ボクたちの試合を見ても沸かないわけですよ。それはインターの時にも感じてて、今はますますそうなんですよ。キングダムの時にボクの中では

向こうは偽物こっちは本物だの　や

98・1・28■後楽園ホール。若くして2度目の団体崩壊に立ち会ったヤマケン。「一人一人がジムを持つような状況にしておかないとU系って団体は生き残れない」と、この時の言葉を実践しパワーオブドリーム主宰！

凄く納得のできるスタイルをやってたつもりだったのに、実際リングスにきて、インターに逆戻りしたようなイメージがあるんですよ。

――それが先程の「リングスに戻った」っていう表現になったんですね。

山喧　そうですそうです。ただ、今のUスタイルではオリンピック競技になるのも無理ですよ。そういう意味では、ボクの中でU系は終わったと思ってますから。これから新しいUを作ろうじゃないかと。ニュー・ワールド・Uをね（笑）。

――nWuですか。なんかシックリきませんね（笑）。山本さんは、Uって言葉自体にこだわりはあるんですか？

山喧　ないよ。Uは終わってるんですよ。U、U言ってること自体が止まってるんですよ。先に進んでない。今はそのUっていうのが、もしかしたらアルティメットのUなのかもしれないし。

――もしかしたらUFOのUかもしれないし。

山喧　だからUって言ってるだけではね、Uの功績も認めながら、新しいUを作らないといけないと思いますし。ホンマは、オレなんかは、今こんなこと考えないでね、ガンガンイケイケで上狙ってね、オラーッて驚かしてるのが普通なんですよ（笑）。

――やっぱりそっちの方がシックリきますからね（笑）。それで今後は、例えば今年からシューティングはジム主催の興行形態になりますけど、山本さんもそういった形で、パワーオブドリーム主催興行とか考えてるんですか？

山喧　シューティングの興行形態っていうのは、U系がもっと早くやっておかなきゃいけなかったことですよね。前田さんとか高田さんとかが全盛期で活躍してる時にね。今現在、底辺も全然育ってないと。シューティングなんかはアマチュアもドンドン増えていってるし、若いヤツにもウケてますよね。

――シューティングは凄いですからね。グッズ売場も長蛇の列ですからね。

山喧　そうでしょ。シューティングがなんでウケてるかっていうと、自分たちに近い身体の人間が頑張ってチャンピオンになったりしてるからでしょ。だから若いヤツに支持されてるわけよ。それで軽量級でもあんだけ迫力のある試合やるんですよ。そういう意味でもロープエスケープなんかもういらない。エスケープがなくたって一発勝負であんだけ迫力のある試合やってんだから。エスケープありでグルグル回ってんじゃねえよ！　エスケープがあること自体、新日と全日と変わんないんだから。ヘタしたら新日の試合の方がエスケープなしで試合してるよ。

――そうかもしれませんね。山本さんにとって、エスケープがあることによって、試合にゲーム性を持たせたものはプロレスということなんですか？

山喧　そうでしょ？　だからプロレスな

98・12・23福岡国際センター■ヤマケンは田村との試合で時代を変えようと試みるが、田村のミドルキックによりTKO負けを喫する。この試合から１ヶ月後、衝撃のフリー宣言が飛び出した。

んですよ。ハッキリさせなきゃいけない。プロレスなんだから、ハッキリ、プロレスって言っちゃった方がいいんですよ。それを中途半端な状況でナァナァにやってるから、ファンが付いて来づらいわけですよ。こんだけ団体があるわけだから、ファンは選べるんですよ。「修斗の方が面白いなぁ」とか「アルティメットの方が面白いなぁ」ってなるわけですよ。

——あい〜や。それで前田さんが『週プロ』のインタビューで山本さんのことを「俺が山本　やってもフリー宣言するかなっていうところがある」、「いいもん持ってんだよ、彼は。がんばってほしい」っていう理解あるコメントを出してましたけど。

山喧　ボクは、前田さんとは筋道通してずっと話してきたんでね、個人的にもしっかり面と向かって自分の意見もしっかり言ってたし。それで前田さんの考え方もボクはしっかり聞いて、それはそれでよしと。前田さんの会社なんだし、好きにやったらいいと思いますよ。でも、ある意味では前田さんにはホント感謝してますよ。

——何度も話し合った上でだした結論だったんですよね。

山喧　ホントそうですよ。ある意味リングスさんには感謝してますしね。こうやってジムを出せるようになったのもリングスさんのお陰だし、協力してもらったしね。前田さんをはじめいろんな方にも感謝してますしね。だけどやっぱり綺麗事ではやっていけませんから。感謝は感謝で置いといて、綺麗事だけじゃ長い年月メシ食っていけないですからね。そしたらやっぱり今からリスク背負ってでも、将来ちゃんと安定したメシ

ボクは前田さんとは筋道通してずっと話してきたんで

を食える環境ってのを作っておいて、あとはプロとしてはとにかくバクチですわ。

——プロはバクチ！

山喧　プロはバクチ、興行もバクチ、とにかく派手なことやってナンボ。目立ってナンボ。プロは強くて当たり前！　それプラスアルファ、プロには必要なものって絶対あるんですよ。エンターテイメント性とかね。

——いつになるかはわかんないけど、またエンターテインメントの格闘技の世界に戻るって言ってましたよね。

山喧　今は、もっと自分をスキルアップさせるためにも、そういう場からは一時離れたい。ある程度準備ができた時にそういう世界にもう一回戻ってね。そう遠くないと思いますよ。今、一生懸命動いてますから。自分の考えてることが、どれくらいで完了するかによって変わってきますから。ボクも日、一日成長してますから。今後のビジョンはできてますから。いまやっと自分の足で歩き出したって感じじゃないですか、あい〜や（笑）。

——山本さんの未来は明るいんですね

山喧　全然明るいですよ（笑）。

——〝あかるい〜や〟って感じですか（笑）。今日はありがとうございました（笑）。

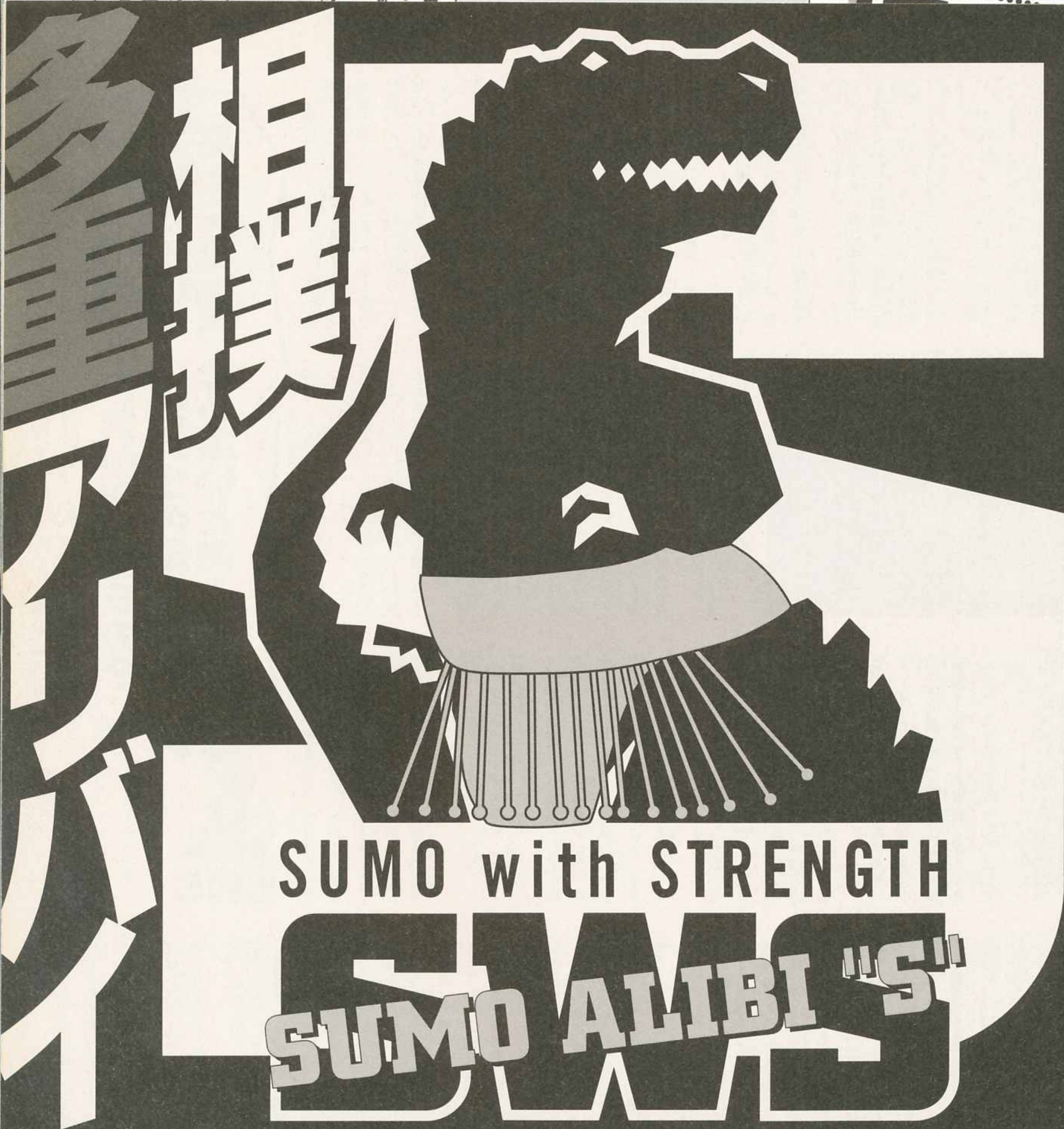
【3月6日／自由が丘／POWER OF DREAMにて収録】

近頃、高田
理由の一つ
おける「馬場
だの「人類？
いう一連の馬
なのだが、ど
のか。そこが
忘れられてい
もう一度振り
　そもそも本
すでにお伝え
端は馬場が
月10＆17日号
高田バッシン
にあったので

21 **最強格闘家ヒクソン・グレーシー倒れる!?**
●セガ・エンタープライゼス製バーチャファイター3 tb

相撲多重アリバイ

相撲レスラーの重鎮が語るさまざまな"S"

SUMO with STRENGTH
SWS
SUMO ALIBI "S"

第7回 石川孝志

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／坂井ノブ
Photographs by Nobu Sakai

プロレスのルーツは相撲にあり!!
今回のS多重アリバイは、相撲という視点から見ていきたい。SWSのSは相撲のSといっても過言ではないのだから。じっさいエースであり、一時期社長であった天龍はご存知のように大相撲出身。今回、登場してもらった石川の他にも数多く大相撲出身がいる。しかもSは部屋別制度まで採用、形態的には最も相撲に近づいた団体であると言えよう。石川には今回、レスラー人生を振り返りながら、相撲を通して見たプロレスを語ってもらった。するといままで見えなかった何かが見えてきた。ちなみに、じゅうぶんに四股を踏んでから読んでください。はぁぁぁ、ドスコ～イ!

何だっけパンクラスがやってるの？掌底だっけ？元力士の田上(明)や高木(功)がやったら凄いと思うよ！

STRAIGHT AND STRONG SWS

—最近、ヴァーリ・トゥードの影響でアマレスの強さは語られても、相撲の強さが忘れられているとボクは思うんです。それで石川さんに、ぜひとも話を聞かせていただきたいんですよ。

石川 相撲は瞬発力だからなぁ。土俵の中じゃあ、息を止めてる状態で瞬間的に力を使う。つまり短期決戦なんだよね。プロレスは持久力だから、つまり耐えて耐えての持久力の競い合い。どっちが強いかって言ったら……そうだな。確かにレスリングはプロレスに近いよな。だけど本来のプロレスは力道山が作ったものだからね。

—完全に相撲ベースですよね。やっぱり短期決戦の強さでいえば、相撲の右に出るものはないと思うんですよ。

石川 瞬発力ね。圧力もかかるし。土俵に入ったら相撲が一番強いな(笑)。だけど、やっぱりプロレスのリングでやればプロレスが強いだろうし。

—それがヴァーリ・トゥードによって徐々に揺らいできたと思うんですよ。プロレスラーにしても過去の格闘技経験が重要になるんじゃないかっていう視点が出てきて、アマレス出身者が脚光を浴びてるわけですけど。

石川 まあ、プロレスの基礎はアマレスだからね。

—それでいうと相撲も有効なんじゃないかなって思うんですよ。相撲出身者は異常に基礎体力が違いますから。

石川 そりゃそうだよ。相手を持ち上げるにしてもバランスがいいよね。

—それに丈夫さが明かに違うじゃないですか。昔の新日はアマチュア格闘技の経験があまりない選手が多いですよね。それでカール・ゴッチという象徴の元でトレーニングを積めば強くなるという新しい流れを作りだした。

石川 (アントニオ)猪木さんは相撲取りが嫌いだからね(笑)。

'77・10・31 大相撲の力士・大ノ海はフリーレスラーとしてプロレス入りを表明した。これは馬場の配慮によるものだった

—冷静に考えると、全日はアマチュアの強くてデカイ人をかたっぱしから集めてたじゃないですか。そこでボクの中では昭和の全日本再評価と相撲レスラー再評価が始まったんですよ。

石川 まあ、いまの三沢(光晴)にしたってアマレスでインターハイに出て優勝してきてるからね。(ジャイアント)馬場さんは選手としての商品価値を見てたんじゃないかな。自分自身もジャイアンツ出身っていう背景があったから、それによって多少なりとも話題になることを知っているからね。

—猪木さんはその姿勢を否定するように、実績のある人はほとんど入れず、経験はないけど強い人を作り続けてきましたよね。「こっちの方がスゴイ練習をしてるんだ」ってアピールして。

石川 うん。だから、猪木さんがいなくなってから安田(忠夫＝元小結・孝乃富士)が入ったよね。北尾(光司＝元横綱・双羽黒)が入ったときは、さすがにびっくりしたけど(笑)。

—でも石川さんがいた当時の全日はホントに凄いですよね。内容的にはいまの方が凄いにしても、メンバーの粒揃いさ加減が尋常じゃないというか。

石川 全日本OBvsいまの全日の全面対決も面白いんじゃないかな(笑)。

—ぜひとも相撲で対決して欲しいですね(笑)。石川さんは、もともとプロレスラーになるつもりで相撲をやられていたとかっていわれてますけど。

石川 いや。大相撲に入って新入幕3場所目ぐらいかな、糖尿病があったから、これ以上身体を大きくしていくのは大変だなと思ったわけ。それで知り合いに話をしたら、全日本の渉外部長(当時)の米沢さんを知ってる。じゃあ、話をしてみようかと。そしたらトントン拍子に話が決まってね。このまま幕内定着を考えるよりはよそに飛び出してなんかやった方がいいと思ったの。ただ前年に天龍(源一郎)が入ったもんだから「相撲協会に申し訳ない」って馬場さんは言ってた。それで俺は自分自身でアメリカ武者修業に行くっちゅう形で、全日本プロレスの中にはいるんだけど、「まだ表には出せないよ」っちゅう形を取ったんだよ。

—それでアマリロのファンクス道場に行くわけですよね。

石川 そうそうそう。日本を発ったのが10月の終わりぐらいだったかね。それでドリーとテリーと会ってアマリロのアリーナで練習したんだけど、オレ一人のためにそのアリーナを開けてくれたんだよ(笑)。

—練習のためだけに(笑)。

石川 そうそうそう。オレなんかヘッドロックの取り方もわからないし、チョンマゲもつけてる(笑)。英語なんかわからないしね。

—ああ、説明も英語でだから、見よう見真似でやるしかなかったと(笑)。

石川 そうそうそう。逆に身体と身体がぶつかってると雰囲気っちゅうのがわかるんだよね。それで一週間後には試合だよ(笑)。

—そういう違うジャンルでやることには戸惑いとかなかったんですか？

石川 やらなきゃっちゅう気持ちだけだね。あとは相撲で幕内までいった自信。全日本学生チャンピオンを取ったっていう誇りがあったからさ。

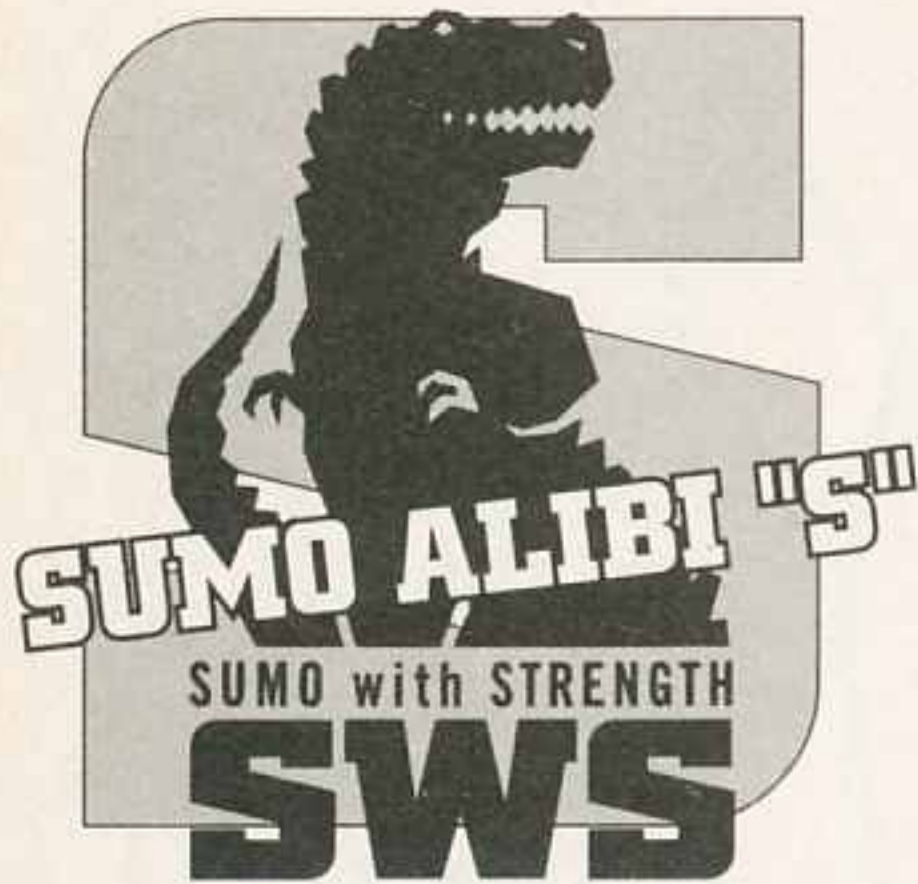
—特にファンク道場といえばプロレスのショーアップされた部分、たとえばオーバーアクションな動きとかを教えるイメージが非常に強いんですよ。そこに入ったら、かなりギャップがあったんじゃないかと思うんですけど。

石川 プロレスを習いたいって真っ白な気持ちだったから。ロックアップしてテイクオーバーして首投げで投げて、グゥーっと押さえて徐々に試合を組み立てていくのがドリーのスタイルだよね。でも、そういうのをやっておけば、後で役に立つのよ。だからファンクスに教えてもらって良かったよね。いまのプロレスは足を攻めたと思ったら頭を攻めてるでしょ。自分らが教わったのは首を狙ったら首に集中して攻めろっちゅうことだから。

—説得力のあるプロレスですよね。

石川 それが重みのあるプロレスになるんだよね。そうすると技の一つ一つが引き立つわけよ。馬場さんとか猪木さんのいい試合って、技なんか全然出してないよ。それで15分過ぎにブレンバスターなんか出すから、観客も「ワァーッ！」ってなるんだよ。

—力道山さんがプロレスに入って海外に出た時、デビュー戦では攻撃

SUMO ALIBI "S"
SUMO with STRENGTH
SWS

だけで受けが一切ないから怒られたそうなんですけど、石川さんはそういうこともなくスムーズにいきましたか？

石川 そうだね、わりとスムーズに入ったよ。力道山ってアナタ古いこと知ってるね、いまいくつ？

――28歳です。小学校4・5年の頃に石川さんの試合を生で見せていただきました（笑）。最近、力道山さんの本を20冊くらい読んで相撲幻想が一気に高まってきたんですよ。それで今日は相撲とプロレスについてのお話を聞きたいなということなんです（笑）。

石川 だから、張り手と突っ張りは違うからね。なんだっけパンクラスがやってるの？

――掌底ですか（笑）。

石川 元相撲取りの田上（明）とか高木（功＝現・嵐）がやったら凄い破壊力だよね。体重が重い人の掌底の方が単純に強いだろう（笑）。相撲っていうのはテッポウ柱で何千回も打ち込んでるもん。だってセメントみたいなヤツにバンバンバンバンってやるんだよ。そういう練習したのとサンドバッグ打ってるのじゃあ、手の平の固さなんかも全然違うよ。

――でしょうね（笑）。そういう凄味に引かれてるんですよ、ボクは。

石川 だから、力道山が木村政彦とやった時も2、3発で倒しちゃったでしょ。突きとか押しのパワーは凄いよ。

――それが根っこにあればプロレスでも違うと思うんですよ。日本プロレス時代のレスラーの基礎体力も、いまとは全然違うとよく言われてますけど。

石川 力道山から続いた相撲の流れだろうね。チャンコをはじめ、相撲の世界をそのまんま移してきてるから。

――隠語の類にしても、結局は全部相撲界から来てますもんね。

石川 そうそうそう。だから、猪木さんはだいぶイジメられたんだろうなって思う（笑）。猪木さんの中には否定する部分が大きいんだと思うのよ。

――否定してますよね。そういう意味では石川さんにとってプロレス界は馴染みやすかったんでしょうけど。

石川 そうだね。まさか馬場さんから相撲用語を聞くとは思わなかったしね（笑）。だから一緒なんだっちゅう感じだね。まあ、声にしても馬場さんはこもってる発音だからなぁ（笑）。

――聞き取りにくいわけですか（笑）。

石川 それでも2回3回聞き返すわけにもいかないし（笑）。でも、アメリカじゃあ、いいのよ。アップルジュースも馬場さんが言うと「アッポウ・ジュース」になって通じるんだ（笑）。

――そういう小咄ですか（笑）。

石川 いや、ホントだって（笑）。馬場さんの発音は英語にそっくり。普通にそうなっちゃうんだよ。

――ナチュラルに巻き舌になってるんですね（笑）。

石川 でも、馬場さんはアメリカに行くと日本にいるときとは全然違うね。

――リラックスしてますか？

石川 よく喋るしね、気を遣ってくれるのよ。ハワイなんかで輪島（大士）さんと合宿してるとアパートまで送り迎えしてくれるんだもん（笑）。凄くマメ。だから、外人ウケするの。凄いいい人なのよ、アメリカに行くと（笑）。

――アメリカではいい人（笑）。

石川 それで日本に帰ってくるとジャイアント馬場に戻るわけ。

――ファンの目がありますからね。

石川 そうそうそう。日本でサインを頼まれても、そっけない感じなんだけど、アメリカに行くと違うもん。

――（居酒屋チックに）「喜んで！」って感じなんですか（笑）。

石川 「ゴルフに行こう」とか誘ってくれるしね。しかも、ハワイだと全部出してくれるんだよ（笑）。

――ダハハハハ！

石川 日本で行くとワリカンよ（笑）。やっぱり日本にいるときはアメリカ的だなって思うんだけど、向こうにいるときは日本人だなって思うのよ（笑）。

――つまり、海外での馬場さんを見ないければ真の姿はわかんないと（笑）。

石川 わからないねえ（笑）。

――ところで全日本プロレスの道場っていうのはいかがでした？

石川 最初に道場に行ったとき、グレート小鹿に会ったんだ。

――あの人も相撲出身ですよね。

石川 まあ、序二段だけどね（笑）。「なんだ、この人は？」って思ったよ。函館生まれで訛ってるんだけどさ、時折英語が交じるのよ（笑）。「ノー、ノー、ノー。ユーはそれじゃダメよぉ」とかさ（笑）。

――何言ってんですかねえ（笑）。

石川 「うわぁー、スゴイなぁ」って思ってさ（笑）。で、すぐに受け身の練習よ。まあ、相撲取りは体力があるだろうって見られちゃうんだよね。行った初日に受け身を50発だよ！ 受け身やると痛いのよ、体中（笑）。どこで力を入れていいかわからないから。終わった瞬間はフラフラだったね。「この野郎！」と思ってさ（笑）。初日に50発っていうのは初めてらしいよ。

――そういうものなんですか？

石川 普通、新弟子が入ってきたら、ケガをさせまいと10発ぐらいなんだよ。でも、自分の時はみっちゃん（百田光雄）とか、よくしてくれる連中が多かったよね。ジャンボ（鶴田）なんかも手取り足取り教えてくれたしね。

――スパーリングとかはされました？

石川 やったよね。渕（正信）、大仁田（厚）、（ハル）園田とか。やっぱり渕が一番基礎ができてるのかな、アマレスやってたからね。

――道場なり試合なりで、この人は強いなって選手はどなたでした？

石川 伊藤正男（キッパリ）。

――意外な人ですねえ（笑）。さすがに試合は見たことないんですけれど。

石川 あれも元相撲取りなんだよね。力強かったよ。あとは大熊（元司）さん。あ、大熊さんも相撲取りか（笑）。

――ダハハハ！ やっぱり強いのは相撲出身者ってわけですね（笑）。

石川 渕は非力なんだよね。大仁田も。ジャンボは身体が柔らかいから関節が極まりづらい。あと強いのは桜田（一男＝ケンドー・ナガサキ）さん。

――それもやっぱり相撲ですね（笑）。

石川 ああ、そうか（笑）。やっぱり元お相撲さんの方が力は強いよね。

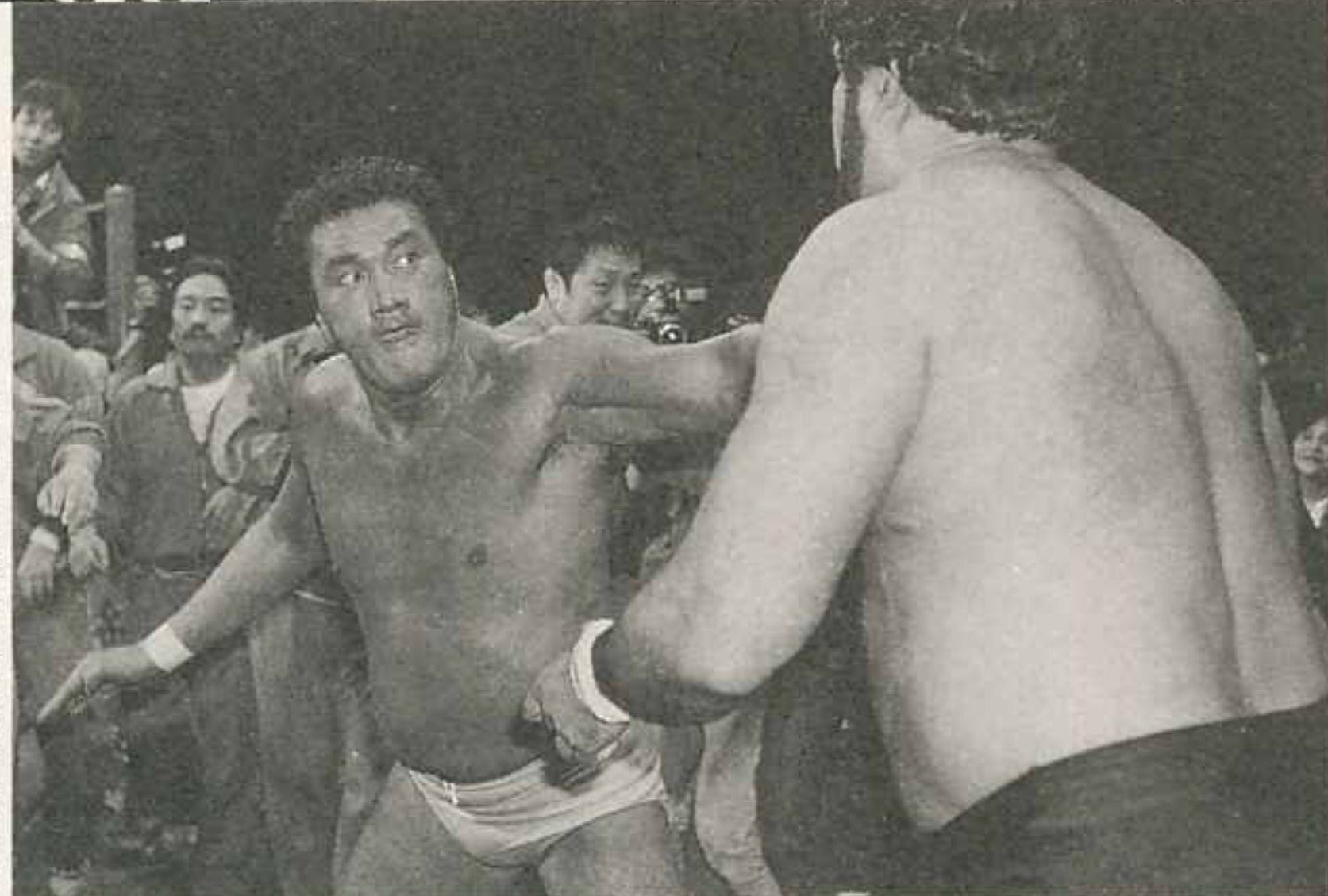
――そうすると全日に入られて石川さんが再認識されたのは、相撲は強いなってことだったんですか（笑）。

石川 そうだね。入ったばっかりだから技術もなんにもないから、力まかせってところがあるからね。

――それでデビューされてからはど

80年代の全日のアジア・タッグ戦線を寺西勇、アニマル浜口、保長昇男、渕正伸、佐藤昭雄らと競い合った石川。派手さはないかもしれないが、昭和全日の力強さを象徴する男たちである。

21 最強格闘家ヒクソン・グレーシー倒れる!?
●セガ・エンタープライゼス■バーチャファイター3 tb

近頃、高田
理由の一つ
おける「馬場
だの「人類？
いう一連の馬
なのだが、ど
のか。そこが
忘れられてい
もう一度振り
そもそも本
すでにお伝え
端は馬場が「
月10＆17日号
高田バッシン
にあったので

ロマンどうのこうの言ってもプロレスは職業。稼いでナンボ。プロレス同好会じゃないんだから

STRAIGHT AND STRONG
SWS

ちらかというと力を前面に出すというより、技術的な方向に進まれますよね。

石川　そうだね。どうしてもドリーのプロレスを見たり、教わってるから。いま考えると大したことない技なんだけど。でも、カッコイイなぁって（笑）。いまはもうみんなやるからね。

——逆に際立たないんですよね。

石川　だから、まわりがグーッとやってる時にマスカラスのあのトップロープから飛ぶヤツ？　あれが人気出たのは、マスカラスが指の先までピ～ンと伸ばして飛ぶからだよね。

——フォームが抜群でしたよね。

石川　やっぱり凄いよ。他とは違うもん。いまはみんなブレーンバスターとか投げ捨てジャーマンを連発してさ。

——正直言って安直ですよね（笑）。

石川　ドロップキックをやる選手も少なくなったね。やっぱり全日本、新日本がガッチリして協会みたいのを作って、全日本、新日本に10年所属しないと団体を持てないとか、対策を立ててレスラーを育てないとね。昨日までプロレスをやったことない人が、スポンサーさえいたらもう団体の長になるのはおかしいよ。いま一歩引いたところから見てると、プロレスを見に行こうかっていう興味が湧かないもん。

——相撲の方がいいや、と（笑）。

石川　いや、相撲も国技館にまでは行かないけどね（笑）。

——石川さんがプロレスをどう捉えていたかが、非常に興味あるんですけど。

石川　早く言うと仕事。それは全日に入ったときからそうだった。ジャンボを見てるとまさにその通りだよね。

——石川さんも「全日本プロレスに就職しました」って感じでしたか（笑）。

石川　やっぱりプロは見せてナンボ、貰ってナンボ。それはハッキリしてたね。だから、お相撲さんなんかもご祝儀を貰うときでも最初は「いや、いいですよ」とか言うんだけど、ジャンボなんかは「ああ、どうも」って、すぐ貰っちゃうもんなぁ（笑）。

——ダハハハ！　プロですね（笑）。

石川　「ああ、どうも」って（笑）。その人の性格によるけど、ジャンボは若い連中を飲みに連れて行かないね。

——そうらしいですね。

石川　自分の身体を作ろうとも思わないんだから。あの身体なのに毎日ラーメンライスを食ってるんだよ。

——それもまた凄いですよね（笑）。

石川　一人でブラッと行くんだよ、いやホント。宿を10時ごろに出発するじゃない。それでホテルに1時ごろに着くと、すぐにラーメン屋だもん（笑）。いま思うと肝炎になったのも納得できるような食生活だったね（笑）。

——偏った食事が原因でしたか（笑）。

石川　そうかと思えばガイジンっぽいところもあるしね。よぉ～くジャンボのことは見てるからさあ（笑）。

——アメリカナイズされてるとか現代っ子とか、よく言われてましたよね。

石川　だから、プロレスは職業なんだって。やっぱりプロは見られてナンボ、見せてナンボ。その見返りとして、お金を貰う。徹底してるよな。例えば、ジャンボはパン屋によく行くんだよね。そこで「サインください」って言われると、「じゃあ、このパンくださいよ」って（笑）。

——ギブ・アンド・テイクで（笑）。

石川　飲み屋で「サインしてくれる？」って言われると「パンティーじゃないとサインしない」とかね（笑）。

——ダハハハハ！　それは上田馬之助さんもやってましたね（笑）。

石川　まあ、プロレスはオレから言わせても職業。ロマンとかどうのこうのって言ってもやっぱり商売だと思うしね。稼いでナンボ。大学のプロレス同好会じゃないんだから。その辺はピシッとした方がいいと思うよ。

——石川さんの見せてナンボっていうプロ意識はインタビューでも感じましたね。「天龍さんは顔の表現がうまい」って以前、表現されていたじゃないですか。「気迫出せ」レベルの発言はよく聞くんですけど、顔の表現がうまいっていうのは凄い発言ですよね（笑）。

石川　自分のことはわかんないけど、人のことはよぉくわかるのよ（笑）。だから、天龍がなんで人気があったかっていうと、全日本の時にじゃ上にジャンボがいてスタン・ハンセンがいて（ブルーザー）ブロディーがいて、それに向かっていく姿勢がいいわけよ。

——常に不満を持ちながらですね。

石川　それがポッと団体を持っちゃうと魅力ないのよ（笑）。

——やっぱり鶴田がいたからこそ光ったっていう部分は大きいですよね。

石川　そうそう。ただ大きいだけじゃなくて、名のある選手とやって向かっていく。それが、天龍の顔が一番いい時だよね。で、自分と同等か下の奴とやってて試合がうまくいかないと、不満足な顔がすぐに出ちゃうんだよ（笑）。

——嫌そうな顔して顔面蹴って（笑）。

石川　もうねえ（笑）。だから、苦しんでる顔じゃないわけよ。「なぁんだ、こいつら」って言いながらの天龍は、客も絶対に見たくないと思うしね。

——ＳＷＳがうまくいかなかった大きなポイントはそこでしょうね。まあＳの話は後にするとして、先程プロレスは仕事だとおっしゃられたんですけど、石川さんも全日では仕事に徹してる部分があったと思うんです。それが長州（力）さんの参戦で変わってきたと思うんですけど、いかがですか？

石川　あの頃、長州たちが騒がれていたけど、全日本スタイルだからこそ受け入れることもできたよね。それで全日本プロレスのレスラーたちにもスピードが加わってきたと。馬場さんには、「いろんなレスラーのタイプがあるけど、そのどれにも対応しなければダメなんだ。世界各国のプロモーターの好き好きがあって、どんな対戦相手でもやれるようじゃないとプロとは言えない」と教えられてきたからね。

——それは正論ですよね。

石川　いろんな奴が来たけど、だいたい一番最初にやらされたよ。でも、

'86・11・1　石川県七尾で元・横綱の輪島がプロレスデビューを果たした（しかも相手はT・J・シン!!）一般マスコミも大きく取り上げて話題を呼んだ。以後も尻上がりに成長していったが…。

最強格闘家ヒクソン・グレーシー倒れる!?

● セガ・エンタープライゼス■バーチャファイター3 tb

一番バカ負けしたのはキラー・トーア・カマタがグレート・マーシャルボーグを連れてきたときだよ。

——あ～っ、ミスターXですね（笑）。猪木さんの異種格闘技戦史上、最大のダメ外人（それが全日に参戦したとき、マーシャルアーツを追放された恐怖の格闘家・マーシャルボーグになった）。

石川 凄い凄いっていうからさぁ。その一番最初よ、オレ（笑）。その点、馬場さんには感謝してるよね、どんな相手でもやれたからね。

——とりあえず最初にぶつけられていったのは、やっぱり相撲出身だから壊れないだろうってことですかね（笑）。

石川 それはどうなのかわからないけどね（笑）。だけど、馬場さんの考えでは、どんな相手でも合わせないといけないから。

——たとえグレート・マーシャルボーグでも合わせないといけない（笑）。

石川 そうそう（笑）。マスカラスとも合わせないといけない（笑）。マスカラスとやる時にはリバースしたり、ストレッチがきたらどう返すかとか考えなきゃいけないし。マーシャルボーグはな～んにもしないんだもん（笑）。

——ダハハハハハハハ！

石川 いまの連中は自分のスタイルしかできないでしょ。いろんなことをやって自分のスタイルってものを出せばいいのにさぁ。長州なんかいい例よ。ガイジンとは一切できない。

——そう言われてましたね。だから全日でも本領を発揮できなかった、と。

石川 そうそうそう（笑）。長州っていうのは凄い刺激にもなったしね。自分にとっても何クソって思わせた部分だったよね。だから、逆に気持ちは新鮮になった。

——真っ正面から受けても壊れないっていう自信があったわけですよね。

石川 そうだね（笑）。俺と谷津（嘉章）がやった時にコーナーのところで突っ張りを5連発やったのを覚えてるね。「そうはいくかい」ってね。

——意地があったわけですよね。全日としてのというか、力士としての。

石川 まあ、カンフル剤にはなったね。あのおかげでギャラもグッと上がったし（笑）。

——正直ですね（笑）。長州さんに対して、例えばプロレスを超えた部分でも負けないぞっていう意地みたいのものってあったんですか？　どういう試合になるかわからないって不安感があったと思うんですよ、初めの頃は。

石川 やっぱりガンガンガンガンやっていくしかないよな。一方的にやられたら全日本の選手はなんだってなるからね。だけど、それは毎日毎日続けられることじゃないし。あのね、やり過ぎると飽きてくるのよ、選手も（笑）。

——相当やってましたもんね（笑）。

石川 手のうちがわかってくると面白くないのよ。だから、最初の頃は面白かったよ、パターンが違うから。コーナーに一人投げてラリアートを連続し始めたのがあの頃だよね。いまは、み～んなやってるけどさ。

——しつこいぐらいやってますね（笑）。じゃあ、途中から飽きちゃったんですか、長州さんとの試合は？

石川 そうだね（笑）。だって同じところに2年いたら、その半分は試合するでしょ。やっぱり長州はプロレスがちっちゃいよね。自分のパターンは自分のパターンとして持ってて、それも素晴らしいことかもしれないけど、プロなんだから受けてナンボだよね。でも、それをやっちゃうと長州ってのは人気が出ないと思う。長州は攻めのパターンで、相手を考えないで5分なら5分攻めっぱなし。それが長州よ。だから、日本人同士でやるといいんだよ。そこいくとジャンボでも天龍でも凄いのはガイジンともいい試合ができところだよね。

——そういえば天龍さんが天龍革命を唱えた時も、石川さんは頑なに「そんなことよりガイジンといい試合をしろ」って言ってましたよね（笑）。

石川 天龍革命の頃も毎日、輪島さんと一緒にやってたけど、飽きたねえ（笑）。

力士はテッポウ柱やセメントに向かって何千回も突っ張りを叩き込み、自分の手のひらを石のように固くさせるのだ。この撮影時にもすごい音が周囲に響き渡った

——また、すぐ飽きますね（笑）。

石川 面白くないもん（笑）。やってる本人が楽しくないと絶ッ対ダメ！

——新鮮さが欲しいわけですか？

石川 飽きたら「またぁ？」って思うもん（笑）。あの天龍革命にしても、もっと華があって良かったかなと思うよ。もうド～ンヨリしてドス黒かったでしょ、なんか（笑）。それが売りだったのかもしれないけど、もっと華があっても良かったよ。平成維震軍もそんな感じだけどさ（笑）。わざとそういうものを作ったのかもしれないけど。

——その輪島さんがプロレス入りするとき、日大相撲部の後輩だった石川さんに相談されてるわけですよね。

石川 そうそうそう。そもそもオレも相撲を辞めるときに輪島さんに相談したのよ。輪島さんは「自分でやりたいことやって、行きたいところに行った方がいいよ」って。そしたら、数年後は逆に、「オレ、プロレスはどうかな？」っちゅう相談をされた（笑）。プロレスに関してはお互いに相談し合った。

——デビュー前から一緒にハワイにも行って特訓してましたよね。

石川 いま思うとだよ。輪島さんのあのクラスがプロレスを辞めて別の世界にいくんじゃなくて、団体を持ったら面白かったのになって思うんだけど。

——そりゃ面白いですけど、当時は結構叩かれましたよね。輪島さんにしろ、北尾さんにしろ、プロレスに入ったことだけで。それで試合をやってもヘタだと叩かれて。でも、いま見るとやっぱり強さが滲み出てるんですよね。確かに不器用ではある

SUMO ALIBI "S"
SUMO with STRENGTH
SWS

天龍から電話がかかってきていきなり「四股踏んどいてくれ」って言われたんだよ

STRAIGHT AND STRONG SWS

んですけど（笑）。

石川　うん。まあ、北尾は北尾でちょっと単細胞なんだけどね（笑）。

――北尾はダメですか（笑）。

石川　だって横綱が女将さんと喧嘩して出れる？　横綱までいったらやっぱり自分の言い分なんて通せないよ。そこはグッと堪えて、四股を踏まないとね（笑）。

――グッと堪えて四股を（笑）！　輪島さんからは全日で試合しているとき、悩みとかは相談されてたわけですか？

石川　いや、あの人は悩むタイプじゃないもん（キッパリ）。

――そういうものなんですか（笑）。

石川　あのね、いま野球で長嶋（茂雄）が面白い、面白いって言うけど、あの人は相撲版の長嶋だよ（笑）。

――それはわかりますよ。天然で面白いですよね、あの人の発言は（笑）。

石川　そう（笑）。それで、物事をあんまり考えない。だってハワイにいる時も日本に電話する時は「コレステロール・プリーズ」って言うんだよ（笑）。

――ダハハハハ！　それはやっぱりコレクトコールなんですね（笑）。

石川　それでオレが学生の頃。日大相撲部の合宿所が阿佐ケ谷にあって、花篭部屋が隣にあったんだ。で、日大の公衆電話に輪島さんに電話がかかってきたんだよ。そしたら、プーって音がしたんじゃない？「おーい。10円玉！」って叫んだんだよ、向こうから掛かってきたのに（笑）。それで「切れちゃったよ」って怒ってるし（笑）。

――ナチュラルなタイプですね（笑）。

石川　日大相撲部OBで5、6人いたら輪島さんの本を一冊書けるよ（笑）。長嶋どころじゃないよ（笑）。

――ボクも最近いろいろと輪島さんのインタビューを集めていたんですよ。イチイチ面白いですもんね。デビュー直後でも「オレは3年で力道山と並ぶ！」とか「いま鶴藤長天とか騒がれてるけど、なんでその中に輪がねえんだ、輪が！　オレはそれが一番頭にくるんだよな」とか吠えまくってて（笑）。

石川　面白いんだよ（笑）。

――もったいないですよ。その素材が活かせなかったっていうのは。確実に強いはずだし、キャラも立ってるし（笑）。年齢的にどうこう言われてましたけど、プロレス界に入ったのは37歳。いま考えればけっこう若いですよね。

石川　そうそう。ただ、その年歳で始めたっていうことをプロレスファンは納得しなかったんだよ。

――当時のファンは頑固だったんでしょうね。いまだったら輪島の一人や二人ぐらい認めますよ、絶対（笑）。

石川　だから曙が入る、とか騒いでるんだよ（笑）。

――その輪島さんと石川さんでは、プロレスを辞めるって決断したのはどっちが先だったんですか。

石川　オレが先だね。横綱に「自分、辞めます」って。そしたら「じゃあ、オレは？　オレも辞めるよ」って（笑）。「ええ！」ってなって、それで二人で辞めることになったんだ。

――どうして辞めようと思ったんですか？

石川　まずは……。

（本来ならば、ここで石川＆輪島の全日離脱の原因が語られる……はずだったのだが、馬場さんと石川＆輪島のやりとりは、馬場さんが亡くなった現在の状況で活字にするには、あまりに生々しい内容なので、石川自身の希望ということもあり、今回は掲載を見送らせていただきたい。ご了承ください）

――それでしばらくはプロレスから完全に離れて。

石川　2年ぐらいかな？

――そんな時に天龍さんから電話がかかってきて、いきなり「四股踏んどいてくれ」って言われたんですよね（笑）。

石川　「なんだろう？」と思った（笑）。

――それって本当に相撲幻想が高まりまくるエピソードですよね（笑）。

石川　銀座でバッタリ会ったのよ。オレが先に飲んでた店に天龍が記者を7、8人連れて現れてね。それで帰るとき、「また電話するよ」って言われて。2、3日したらホントに電話かけてきて「スポンサーがついたから四股踏んどいてくれ」って（笑）。

――ダハハハ！　それで実際に四股踏んでたんですか、家で（笑）。

石川　いや。嘘だと思ってたからね（笑）。でも、その頃はまだジムに行ってたのよ。そしたらホントにSWSが旗揚げするっていうしね。

――そもそも、SWSはどういう団体になるって聞かされてたんですか？

石川　天龍は説明が下手なのよ（笑）。メガネスーパーの社長がついて、このぐらいでっていうね。オレもね、その頃、運送会社に勤めてて、肩書きは社長付き部長ってことなんだけど、なんにも仕事はないけど年収1000万以上貰えてたのよ（笑）。「それでも来てくれ」っていうから、「それじゃあ、せめて倍はちょうだいよ」って（笑）。そしたら天龍は「わかった」って（笑）。

――いきなり即決ですか（笑）。

石川　実際に入ってみたら、「お前も来たの？」って感じで増えてきてね（笑）。天龍は天龍で自分の知り合い、（将軍KY）若松は若松で声をかけて、バラバラに集まってきた。やっぱりね、長が3人も4人もいたらダメよ。

――うまい具合にリング上でイデオロギーのぶつかりあいになっていけば良かったんですけどね。

石川　それであとから、「あいつは契約金も貰ったらしいよ」って、そんな話ばっかりだもん。

――裏でぶつかりあうだけで（笑）。

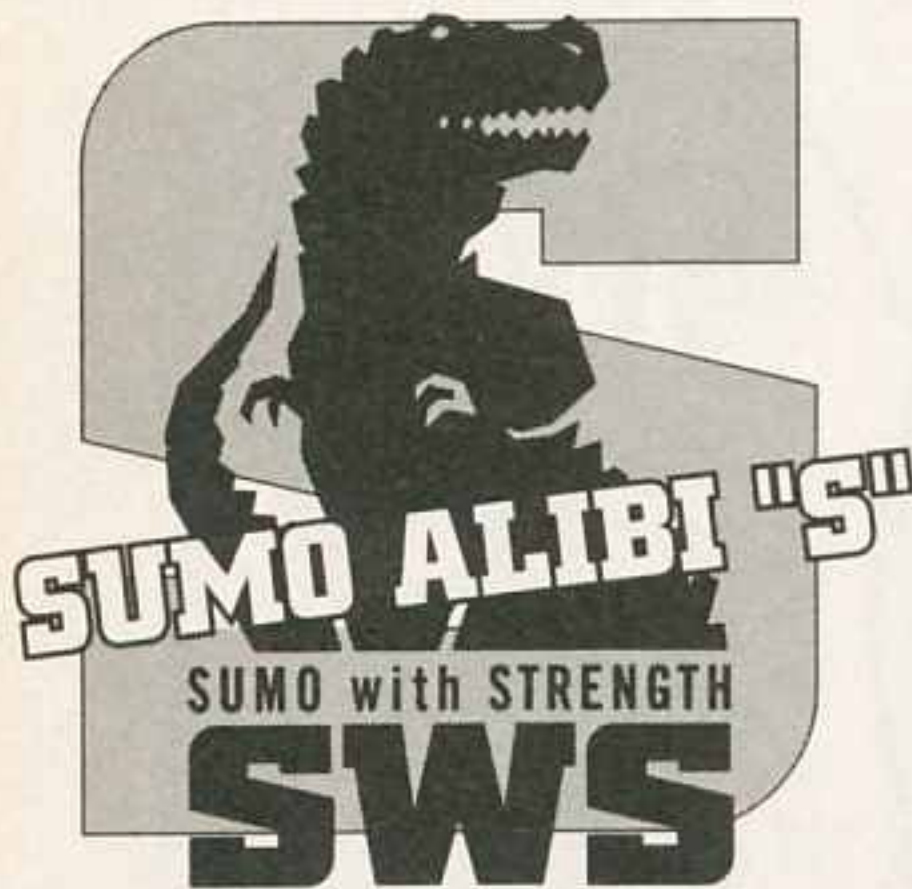
石川　天龍は天龍で自分の会社だと思ってるから必要経費を抑えるよね。冬木なんかが「もうちょっと上げてくれませんかね」って言っても「いや」って。でも、谷津や、仲野（信市）とか、よその道場の連中は田中（八郎）社長に直で「上げてくださ

相撲で幕内まで行った天龍、石川、そしてラグビーの全日本代表だった阿修羅原など、全日系の選手はバックボーンだけみても超一流の男たちが集っていた

21 最強格闘家ヒクソン・グレーシー倒れる!?

●セガ・エンタープライゼス■バーチャファイター3 tb

プロレス

い」って言えるわけよ（笑）。

――そうすると上がると（笑）。

石川 こっちは面白くないよな（笑）。

――リング上よりも水面下の闘いがジメッと激しかったみたいですからね、SWSは（笑）。それと道場の中とか。

石川 やっぱり全日本プロレスの練習と若松たちの国際、新日の練習は違うしね。ジョージ高野なんか練習しながらビール飲んでるんだもん（笑）。

――新日イズムですねえ（笑）。やっぱりハナから道場が3つに分かれていれば問題なかったんでしょうけど。

石川 それで3つとも田中さんのところに、ああでもない、こうでもないって言ってくるから、「もういいや」ってなったんじゃない（笑）。

――北尾さんの八百長野郎発言のときはどう見てたんですか。相撲出身の選手同士があおいう試合になって。

石川 う～ん。何があろうとプロでお金を貰ってるんだから、それは言えないよな。だから、人間性だよ。横綱までいって、勝負の世界で生きてるのに、「八百長」は禁句だよな。あるかもしれないけど、レスラーが言うことじゃないよな、プロなんだから。

――あれは北尾さん側が仕掛けたと言われてますけど、どうでしょう？

石川 オレは試合を見てなかったんだよね。でも相撲の世界でもボクシングの世界でも、試合が終わったあとに「この八百長野郎！」って言ったら一大事だよね。そのもの自体が落ちるでしょ。だから、自分が金を貰ってそこで生活してたら、言っちゃいけないことってあるのよ。それが武士の情け。

――それが北尾にはなかった、と。

石川 横綱で女将さんと喧嘩してやめるって、それ自体が信じられない（笑）。

――でも、相撲廃業直後に出した本だと、「相撲を八百長だと言うなこの野郎」って書いてるんですよね（笑）。

石川 だから、それは自分で地位を築いたからだよ。プロレスだと築いてないから言えるんじゃないの（笑）。やっぱり軽はずみで物事を言っちゃダメだし、自分の我を通してもダメだし。会社で自分の我を通したら、クビになるし。ところが、戻ってこれる世界なんだよな、この世界は。

――その日は鈴木みのる選手とアポロ菅原選手の試合もあったんですけど、そちらもご覧になってないんですか。

石川 えっ、鈴木みのるがいたの？

――試合に出てますよ、藤原組時代に。御存知ないんですか（笑）。

石川 へ～っ、出てたんだ？　あっ、そうかあ（笑）。

――忘れていた、と（笑）。あれはアポロさんが仕掛けたみたいですね。

石川 アポロもアマレスでインターハイ優勝してるんだよね。

――当時は鈴木さんの方が強いって言われてましたけど、実績から何から考えてみればアポロさんが弱いはずがないんですよ（笑）。ちなみに1・4の橋本vs小川戦はご覧になりました？

石川 ……う～ん（本気で悩む）。

――話ぐらいはお聞きになられた？

石川 ……う～ん（まだ悩む）。

――また気持ちがプロレスから離れちゃってるわけですね（笑）。

石川 離れてるってことでもないけど、あんまり興味ないね。今日もニッカンを見たら、大仁田が蝶野に何かしてたでしょ？

――大仁田さんは昔からああいう突飛な人だったんですか？

石川 うん。人をおちょくるところがあって、大熊さんが1回怒ったんだよね。昔、チューイングガムのオモチャで1枚引っ張るとパチンってなるヤツがあったでしょ。大熊さんにそれをやったのよ（笑）。

――うわぁ（笑）。

石川 怒った怒った（笑）。「テメエ、この野郎！」って殴られてたよ。それを一番覚えてる。ジュニア取った時に歌とか出してたんだよな。

――そんな記憶しかないんですか（笑）。それで小川vs橋本戦の話に戻りますけど、そういう風に仕掛けられたら石川さんだったらどうしました？

石川 リング上で？　外で？

――どちらでもいいですけど（笑）。

石川 柔道は着がないと絶対にダメだよな。つかめないんだから。だから、小川のやってるキックや関節技はいいことだよな、自分のレパートリーが広がるよ。猪木さんの団体はUSO？

――UFOです（笑）。USOは大仁田さんの団体です（笑）。

石川 やっぱりピンとこないねえ。

――石川さん自身ではプロレス的なことから崩れた試合の経験っていままでにありました？　海外とかも含めて。

石川 ないね、プロだから。

――ああ、たとえマーシャルボーグだろうと相手に合わせますからね（笑）。それで話を戻すと、石川さん的にはSWSは居心地良かったんですか？

石川 良かったね、あと10年続いてほしかったねぇ（笑）。

――収入はいいし（笑）。

石川 おう（笑）。名目上のハワイ合宿があるしね（笑）。

――名目上ですか（笑）。

石川 ホテルは一流だし、それでチケットが売れたとか、売れないとかは心配ないしさぁ（笑）。でも、あれが10年も続いたらバチが当たるよ（笑）。

――ダハハハハハハ！

石川 いまはみんなバチが当たってるんだよなぁ（笑）。

――結局は人生いいことばかりは続かないってことですか（笑）。

石川 そうそう。やっぱり人生っていい時も悪い時もあるけど、トータル的にはプラスマイナス0になるのよ。

――それでSは崩壊するわけですけど、WARの居心地はどうでしたか？

石川 良くなかったよ。だから、（ザ・グレート・）カブキさんも阿修羅・原も言わないけれど、そう思ってるよ。だって阿修羅も自分から辞めたいって言ったんじゃないんだから。カブキが新日本に行くのも、「行きたい」って言ったわけじゃないんだから。

――大人の事情があったわけですね。

石川 まあ、そうかな。

――あの頃、WARに相撲軍団が突如として出現しましたけど、あれは石川さんが引っ張ってきたんですか？

石川 そう。もうちょっと続ければ良かったんだけど。

――すぐにWARの新弟子になっちゃったのにはガッカリしましたけどね。

石川 まあね（笑）。

――石川さん的には、WARを相撲的な世界にしたかったんですか？

石川 いや、そういうわけじゃないんだけど、身近で考えられることは

SUMO ALIBI "S"
SUMO with STRENGTH
SWS

マスク＋まわしという強烈かつミステリアスなコスチュームでプロレスファンの心をガッチリと掴んで離さなかった嵐。その後も次々と増殖した相撲軍団だが、あっけなく消えてしまったのは残念

んですよ。ハ
プロレスか総
だから、ハッ
ゃった方がい
端な状況でナ
アンが付いて
だけ団体があ
べるんですよ
とか「アルテ
ってなるわけ
―あい～や
ロ』のインタ
「俺が山本
っていうとこ
んだよ、彼は
う理解あるコ
山喧　ボクは
ずっと話して
かり面と向か
ってたし。そ
はしっかり聞
前田さんの会
いいと思いま
田さんにはホ
―何度も話
ったんですよ
山喧　ホント
グスさんには
ってジムを出
スさんのお陰
ね。前田さん
謝してますし
ではやってい

引退するとは言ったけど、引退試合はやってないよ「引退するよ、そのうちな」って（笑）

STRAIGHT AND STRONG
SWS

それしかないのよ。とりあえずインパクトを与えようと。変な外人使ってもしょうがないから、安いヤツをいかに使っていくかを考えたらああなった（笑）。

――なるほど（笑）。でも安上がりな割に斬新で、単純に面白かったですよね。WAR時代に新日にも出ましたけど、そのときのことは覚えてますか。

石川　ああ……そうだよなぁ。そうだ、交流戦をやったんだよなぁ。そうだ、そうだ。

――これも覚えてないんですか（笑）。その後、WARを辞めるわけですけど、それでもプロレスを続けようと思ったのは何か理由があったんですか？

石川　その時は自分はこの世界しか知らない。やっぱりいままでの付き合いでいうと、プロレスに携わってる方がいいなと思ったわけよ。

――石川さんが旗揚げした東京プロレスも、いま考えるとスゴイ団体でしたよね。PRIDEシリーズでも勝ってる小路（晃＝元・誠軍団1号）選手がマスク被って飛んでたわけですから（笑）。

石川　でも、東プロもあと半年続いてたらいけたなって思ってるよ。単純に考えて資金力さえあればできるんだから。一時期は会場に入りきらないからって、お客さんを200人ぐらい帰したこともあるのよ。それ以降ダメになったんだけど（笑）。オーナーが手広く事業をやりすぎたのが原因だね。

――あのオーナーはバイク便以外にもなにかやってたんですか。

石川　オートキャンプ場を作るってことで千葉に8万坪の土地を買ってたのよ。

――スケールがデカイですね（笑）。

石川　都内に4店舗ぐらいスーパーもやったわけ。ああいう商売は現金仕入れなのね。で、金がそっちに回っちゃったの。結局、借金23億円だって。オーナーが突然いなくなっちゃったよ。

――オーナーの失踪を経て石川一家を率いたかと思えば、なぜか地方で引退試合をされましたよね。

石川　いや、引退すると言ったけど、引退試合はやってないのよ。

――そうだったんですか？

石川　だから、それがいつの時期なのか。今日、明日じゃないわけよ。

――けっこう先なんですね。（笑）

石川　「引退するよ、そのうちな」って（笑）。でも、オレも自分の人生を振り返ってみるとケジメって全然つけてないなってと思うのよ（笑）。相撲もフワフワって辞めて、全日本も引退試合もなく辞めた。だから、ハッキリした区切りがないから、またやれるみたいな。なんか、そんな印象だよね（笑）。

――大仁田さんみたいに「また戻ってきた」ってイメージがないんですよね。で、なんか不思議とコンディションもいいし（笑）。それで復帰戦が、大日本でやった相撲の試合でしたよね。

石川　いきなり「相撲取ってくれ」って言うんだもん。「え！」だよな（笑）。「マワシは？」って聞いたら「ベルトでいいよ」って（笑）。それで小鹿は自分だけ行司の格好してなぁ（笑）。

――相撲の実力を発揮したわけですよね。決まり手が仏壇返しですか（笑）。

石川　でも、あんな格好で相撲取りたくなかったよね。茶化してるみたいな。

――個人的にはプロレスラーによるリング上でのガチンコ相撲って面白いと思うし、単純に興味ありますよ。それで実力査定をしたいというか（笑）。

石川　まあ、いろんな問題があるよね。

――石川さんはレスラーとして、今後も活動する予定はあるんですか？

石川　そうだな。あえて自分から身を引くことはないな。それは馬場さんの考えだよな。

――動けるうちはやり続けると（笑）。個人的には、相撲出身プロレスラーだけの興行とか見てみたいですね。

石川　台湾でやってるんだよな。力士だけの興行。大相撲が巡業に行く前に顔見せみたいな形でやってるんだよ。だからオレは台湾でプロレス団体を作りたい。台湾の力道山なんか、すぐに作れるよ（笑）。

――ダハハハハ！　すぐ作れますか（笑）。期待してます。って期待しちゃっていいんですかね（笑）。

石川　ワハハハ！　そうだなぁ（笑）。

【99年3月4日、新宿区・新東京プロレス事務所にて収録】

'98・11・29　大日本プロレスの後楽園大会で行われた相撲マッチに石川孝志も出場。幻の大技、"仏壇返し"で見事な勝利をあげた。

いしかわ・たかし■昭和28年2月5日、山形県出身。元・大相撲力士の大ノ海。マゲをつけたまま海外のファンク道場に入門。全日本プロレスで約10年活躍。SWS、WARと天龍と行動を共にするが平成6年には自らの団体「東京プロレス」を旗揚げする。この団体にはUインター勢が多数参戦、いま考えると高田vsブッチャーという夢のようなカードも実現した。約2年するがインディー版SWSの「FFF」が旗揚げしようとした直前にオーナーが莫大な借金を抱えたまま失踪。その後は石川一家として、インディー各団体を渡り歩き、新東京プロレスを旗揚げ。引退を宣言するが、いまだ引退のメドはたっていない。得意技は相撲ラリアット&スモーピオン・デスロック。180センチ、110キロ。

プロレスマスコミ観察雑記

臨時増刊

ひっそりと今回だけ地味に復活。これはスポーツ新聞、プロレス専門誌、一般雑誌などに掲載されたプロレスネタの数々を勝手に観察して勝手に報告する、人のフンドシで相撲を取るような雑記帳である！

文／吉田豪　え／マツ

㉑ 最強格闘家ヒクソン・グレーシー倒れる!?

●セガ・エンタープライゼス■バーチャファイター3tb

血だらけで逃げるヒクソン・グレーシー。450戦以上無敗を誇る最強の格闘家が、何者かにつかまり殴られ、ついに追い詰められ力尽きたようにつぶやく言葉は「バーチャファイター」…。

ドリームキャストのソフト第1弾として、格闘ゲームの決定版とも言えるバーチャファイターのドリームキャスト版が発売された。「格闘ゲームの本物はこれだ！」と伝えたい。そこで、いま格闘技界で最も注目されているヒクソン・グレーシーを起用。彼でさえもかなわない格闘ゲームなのである、というパワフルなCMを制作したというわけ。

当のグレーシーは「実在する人間に負けるのは絶対イヤだけれど、バーチャルなキャラクターならいいよ」と、懐の深いところを見せ、快く出演をOKしてくれた。

グレーシーが鼻血を出して走っている場所は、横浜の千若町にある千若スタジオといって、閉鎖した工場がそのまま残っているところ。刑事モノの撮影などでよく使われる。

寒くても短パン1枚で頑張ってくれたグレーシー。彼はアクターズスクールにも入っているそうで、ご覧の通り、芝居も大変うまかった。殴られた時に口から血を勢いよく吹き出すというシーンも撮影したが、刺激が強いので(!?)、この場面を含んだバージョンは映画館でしか上映されなかったのだ。（博報堂＋パラゴン）

ジャイアント馬場の「芸能人になりたい人」発言の真相が遂に発覚！

（『CM NOW』99年3・4月号より）

近頃、高田は完全に逆風である。

理由の一つとして、本誌12号などにおける「馬場！」だの「アッポー！」だの「人類？」だの「抹殺！」だのという一連の馬場バッシングがあるようなのだが、どうしてその発言に至ったのか。そこが世間ではどうもすっかり忘れられている気もするので、経緯をもう一度振り返ってみるとしよう。

そもそも本誌10号の当コーナーでもすでにお伝えしている通り、抗争の発端は馬場が『サンデー毎日』（98年5月10＆17日号）誌上でアグレッシブな高田バッシングを繰り広げていたことにあったのである。

「この間、レスラーを辞めて何かの技を研究しだしたのか高田っていうのがいますけどもね、自分の名前を売りたい、芸能人になりたい、という人がヒクソンと試合をすること自体、僕は感心しませんね。ヒクソンとやるために毎日練習をしているんだったら理解できます。でも芸能人になりたい人たちが、格闘技戦に出場するなんて、一生懸命レスリングを勉強している人たちが迷惑すると思うんですよ」

この「格闘技戦に出場する＝芸能人になりたい人たち」という図式に憤慨した高田は、馬場の方がテレビに出ている芸能人だし練習だってしていないという至極真っ当な正論を吐き、ヒクソン再戦寸前という状況もあって読者に支持されたのだが、馬場の急死によって立場が逆転。いまではすっかり「罰当たり！」だの「最弱！」だの何だのとバッシングされまくるようになってしまったわけである。逆十字に続く逆風でタップアウト寸前なのだ。

しかし、アントニオ猪木が『文藝春秋』99年4月号掲載の手記で「あえて言わせてもらおう。死という引き際によって、ジャイアント馬場というレスラーは美化されている」とズバリ記していたように、いまこそもう一度、正しいのはどちらなのか冷静になって考え直すべきだとボクは思う。

そこで、ヒクソンが出演する『バーチャファイター3tb』（セガ）のCMが紹介された『CM NOW』の登場となるわけなのだ。

「実在する人間に負けるのは絶対イヤだけど、バーチャルなキャラクターならいい」

そんな持論を持つヒクソンが、CGキャラに殴られた挙げ句、「10年早いんだよ！」と言い切られるという、アキラ兄さんの演技指導が抜群に光っている（？）このCM。

口から血を勢いよく吹き出す凄惨な場面も映画館公開ヴァージョンとして撮影されたことなど、専門誌などだけあってここには未知の情報も織り込まれているのだが、もちろん重要なのはこの一節に他ならないだろう。

「彼はアクターズスクールにも入っているそうで、芝居も大変うまかった」

そう、実はヒクソンこそが馬場の言う「芸能人になりたい人」だったのだ！

とりあえず「格闘技戦に出場する＝芸能人になりたい人たち」という図式がブラジルの「柔術のオッサン」（高田・談）に当てはまった以上、馬場の言い分にも一理あった（というか、発見早すぎ）ことがいまさら明らかになったのであった。

結局、シューティングを超えたものがプロレスであったように、柔術を超えたものが芸能界だったわけなのである……。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

『戦国プロレス＝格闘技読本』の書評についてShow氏から直電あり。怒っているようだが、どうもピントが外れている。「あのね、内容はもう豪ちゃんは何を書いてもいいと思っているからいいんだけど、扱いが小さすぎるよ!」とのことである。はあ。それでもつまらないものはできるだけ短く、面白い物はできるだけ長い文章で紹介していく予定の書評コーナー。

無我

（藤波辰爾／主婦の友社）

冒頭で**「この本はファンよりも、むしろプロレスラーに読んで欲しい」**とドラゴンが書いているように、もともとファンに向けていないためなのか、面白いはずなのにどこが面白いのか全く記憶に残らない不思議な一冊。

「今度ファンに見放されたらもう終わりかもしれない」「いまこそ団体の利害を超えたプロレスサミットを開こうではないか」といつもの調子でアピールしたりするドラゴン節は随所で炸裂しているのだが、いつもの調子すぎてつい読み流してしまうわけなのだ。

しかもヴァーリ・トゥード出身の新日留学生、イワン・ゴメスとのスパーで**「簡単にチョークスリーパーで決められ」**たり、そのくせ**「グレイシー柔術のルールでは敗れた私も、プロレスのルールなら負けなかった」**と強がってみせたり、ドラゴン・ボンバーズを結成すれば**「私の行動力のなさが原因」**で失敗したり、長期欠場を経て復活すれば**「私の居場所は新日本にあるのかなと弱気に」**なったりするドラゴンは無性に切ない存在だったが、無我旗揚げ後のいまはパワー全開。

近頃人気の新日ジュニアだって**「試合内容も方向性が間違っている。戦いが見えてこない」**ものでしかないし、**「理にかなったレスリングを見せているのはケンドー・カシンだけ」**。そもそも**「いま新日本のリングで繰り広げられている戦いのスタイルは、猪木さんの流れをくんだものではない」**のだと、正論で牙を剥きまくるのだ。ボクも同感である。

それゆえ大技中心ではなくグラウンドで試合の土台を作っていくべきだとドラゴンは正論で主張するのだが、その理由もまた**「こうした展開は、私の大好きな城にたとえることができる。基礎や土台の重要性においてもプロレスと城にははっきりと共通するものがあるように思う」**と、やっぱり徳川家康マニアらしいものなのであった。

「城に再度たとえれば、石垣もろくに積まずに外観だけは天守閣らしきものを見せている、ハリボテ同然のプロレスまがいが横行している。まじめに石垣を積んでいる者までがそうした風潮に引きずられ、基礎工事が中途半端なまま、一日も早く天守閣を建て、他とは違うキャラクターをアピールしなければと焦っているのである」

無我を生み出した発端は、こんな考えと、**「前田が第2次UWFを旗揚げし大ブームとなっていたころ」**にドラゴンが猪木に語ったという独自の提案にあったようなのである。

「新日本はいま守りを固めようとしていますが、逆に攻めに出たらどうでしょうか。企業内企業みたいなものを作って、いったん新日本の外に出すんです。外から新日本を守るような。大名行列では行列を守る部隊が別に存在します。もし行列が攻められたときには外からはさみ打ちする戦略でした。同じように、的を新日本ひとつに絞らせるのではない戦略を立てませんか?」

歴史好きのドラゴンによると、これが無我とUFOの元ネタだったのだ。

しかし**「人と同じこと当たり前のことが嫌いな猪木さんなのに、世の中の格闘技ブームに乗ったようなUFOの旗揚げには釈然としない」**と、なぜかUFOには批判的。

さすがは猪木に後継者だと思われていなかった上、引退試合の対戦相手として真っ先に手を挙げたら猪木にすぐさまキッパリ断られて落ち込んだという男（新日の灰皿役・永島氏の著書より）、ドラゴンである。

それでも**「あえて言うなら、ファンの望みはやはり猪木・藤波戦ではなかったか」**だの**「できることなら無我に参加したいと思っているのは、実は猪木さんではないのか。私にはそう確信できる」**だのと言い張る姿勢が、たまらないほどにドラゴンなのだ。

挙げ句の果てには**「私は鶴田選手との対戦希望をいまでも持っている」**と、発売直後に引退発表するとも知らず、呑気に発言。

これはさすがに大失敗かと思えば、ゴングのジャンボ引退記念号でも「まだ完全にあきらめ切れていない。二年間アメリカに行くジャンボが体調を戻して帰ってきて、その時に自分がまだ現役で頑張っていたら、戦えるような気もする」と言い切ったりと、懲りずにアイ・ネバーギブアップ精神をアピールしているのであった。本物だぜ、ドラゴン！

ジャンボ鶴田のナチュラルパワー強化バイブル

（ジャンボ鶴田／ナツメ社）

ナチュラルパワーを作り出すための実用書だが、ジャンボという規格外の人間が基準になっているようでちょっと不安が残る一冊。

なにしろジャンボが歴代レスラーをナチュラルパワー度数で評価していたりと（なぜかゴッチとテーズの評価が異常に高い）、全ての基準がナチュラルパワーなのである。

それだけでも個人的には合格なのだが、ドリーが**「北海道で食事していたとき、近くにいた暴力団の組長みたいな人の刺身を『アイム・ハングリー』といいながら勝手に食べて」**しまったことや、テリーが**「脱ぐと、また明日はかなきゃならないから」「試合の後もタイツをはいたままシャワーを浴び、暖炉の前で乾かして、そのまま寝る」**ことなど、どうでもいいエピソードも満載されていて非常にジャンボらしい呑気な内容なのである。

携帯版99年プロレスラーカラー選手名鑑

（週刊プロレス・編／ベースボール・マガジン社）

毎年新年号掲載の選手名鑑を、ただカラーにしただけの非常に安直な一冊。スペースの大小に全く基準がない（アポロ菅原から小さくなる）のも気になるが、付加価値が会場リストぐらいしかないのも疑問だろう。

いっそ全ページをモノクロにして、これまでの歴代選手名鑑をまとめた方が資料的価値も買う価値も出てきたはずなのである。

ちなみに名鑑としては、異常に外人が充実した『1999ゴングプロレス名鑑』（日本スポーツ新聞社）の方がページ数も密度も下らなさも含めて上のはず。北沢幹之さんの紹介文が、「スパーリングでの強さはレスラー間で有名」だったりするだけでも合格なのだ。

ウルティモ・レボルシオン

（ウルティモ・ドラゴン／ベースボール・マガジン社）

本誌尿道坊主・ジャイ子が「表紙がイマイチ」と失礼にも言い放った一冊。『週プロ』連載の究極龍日記にウルティモ、シーマ、マグナム（いいレスラーだとは思うがインタビューはワンパターンでイマイチ。作ったキャラに縛られすぎである）のインタビューを織り混ぜたシンプルな構成である。

それゆえ語るべきことも、プラソ・デ・プラタがブラック・マーケットでも顔だという裏情報ぐらいしかない軽くて緩すぎるノリなんだが、ウルティモがヒジの手術に踏み切って失敗する辺りから状況は一変。

「睡眠薬を飲んでも痛みで眠れず、本当に気が狂いそうで、指を切断しようとか自殺しようかなどと考えた」という切実な告白が続き、**「俺は絶対にカムバックしてみせる」**と誓ったところ（98年10月初頭）をオチに持ってきて、日記の連載は現在も当たり前のように続いているにも関わらず、そこで強引に本を終わらせてしまうのだ！　これは卑怯でこそあるがツボに入ること確実だろう。

馬鹿モン！　文句あっか!!

（グレート小鹿／ベースボール・マガジン社）

絶賛コメントを寄せたテリー伊藤は絶対読んでないと確信できる、**「イインデーないの?」「●●だにッ」**などの不快な文体がいちいち鼻につく一冊。語り口調を活かしたいのなら完全なインタビュー本にするべきだろうし、生き様を全面に出したいのなら小鉄本やマサ本ぐらいキッチリした構成にするべきだろう。

この中途半端さが、抜群に面白いはずの素材を台無しにしているのである。

そして運の悪いことに、日プロのクーデターのとき芳の里&吉村道明と馬場を呼び出したら、「馬場さんは『オレは乗り気じゃないし、猪木と木村が勝手にやったこと。オレはウンとも言ってない』と全面否定したけど、『さっき上田が全部、告白したぞ！』って言ったら、さすがにあわててた」など、タイミングの悪い馬場ネタも目立つのだ。

小鹿が全日を引退するときも同様である。「函館の興行を売ってもらった。オイラの引退興行として、ね。普通さ、まぁ、功労金を出せ、とは言わないけれど、その代わりに、少しは興行代金をまけてくれそうなモンじゃない。ところが一銭たりとも安くしてくんない。定価ですよ。自分で一生懸命、キップを売って、自分で功労金を生み出さなくちゃいけなくなった。ふーん、冷たいもんだねえ～。冷たいっていえば、全日本が25周年のパーティーをやったときに、オレんとこに招待状すらこなかったんだよ。グレート小鹿の全日本での12年間ってのは、消しゴムで消されちゃったんですか？」

こんな発言がいま表に出るのは、小鹿にとってもきっと本望ではなかったはずなのだから。

それにしても、だ。大日本離脱時に中牧が言い放ったらしい「小説家になりたい……あっ、心配しないでください、大日本の暴露本は書きませんから」なる呑気な台詞は、本当に抜群なのである。ぜひとも出してほしいものだね、桑田暴露本に続く第2弾を。

みんな悩んで大きくなった！

（浅草キッド／ぶんか社）

かつて猪木が「プロレスはSEXみたいなもの」と語っていたのと対称的に、「UWFはオナニーだ」と世間では言われていた。

それは要するに「単なる自己満足だ」という意味だったわけだが、単なるオナニーで終わらなかったのがUWFの凄い所であった。

なにしろ日陰の存在だったオナニーを、ゼニの取れる域にまで昇華させたのである。

これはUWFに限らず、AVでもストリップでも何でもそうなのだろうが、そのオナニーが本気なのか演技なのかはともかく、面白ければそこに問題なんてあるわけもない。

たとえ演技だったとしても、そのときの感情を推理したり、たまに垣間見える本気を探し出すことに我々は喜びを感じるのだから（なお、こういった下品な比喩を嫌う潔癖なUWF信者も多いようだが、シュートが射精の意味であり首投げがファックの意味でもあるように、両者の共通点も異常に多い）。

そこで狂信的UWF信者として知られる浅草キッドもまた、単なるオナニーをゼニの取れる域（＝プライドの持てるオナニー）に昇華すべく、著名人とのシュートなオナニー対談集をリリースしたわけなのだろう。

オナニーであれば妄想の中で誰とでもやれるため、「いつ、なんどき、誰の挑戦でも受けることができますからね（笑）。猪木イズムで」と語る浅草キッドに、道場論（＝見えない所での日頃の鍛錬＝オナニー）を重視する昭和の新日流ストロングスタイルの幻影を見たのは、ボクだけではないはずだろう。

できればオナニーも知らずに育った猪木にも登場して欲しかった一冊なのである。

プロレス「監獄固め」血風録

（マサ斎藤／講談社）

小鉄、ピーターに続く講談社のハードカバーシリーズ第3弾は、またもや奇跡の傑作であった。なにしろ目次に「性と麻薬、そしてシュート・ファイティング」という章があるだけでも、個人的には文句なし。

自ら「俺のレスラー人生そのものが一つのシュートだったのかもしれない」と告白するだけあって、子供の頃からマサの人生は徹底してストロングスタイルだったのだから。

なにしろ高校の時点で、「当時のテリトリーは池袋界隈だ。池袋西口にあった『ドラム』というジャズ喫茶が不良どもの溜まり場で、女の子と出会うのもそこ。お互い目的は一緒だから苦労しない。仲間とたむろして、女を見つけ、喧嘩に明け暮れる日々。不良を気取ってカッコつけながらも、トレーニングだけは欠かさずやっていた」というように、後のマサと寸分違わぬ男らしい姿勢がこんな頃から完成していたわけなのである。

ヤクザの集団をKOして国士舘に転校すれば「今日から俺が番を張るからな」と宣言して「すぐに話がまとまって、俺が新しい番長に」なるし、大学に入れば「高校時代にさんざん遊んでおいたのがよかった」からアマレスに集中して無事に五輪出場を果たす。

初めての海外試合で「向こうの関係者に〈マフィア〉という仇名をつけられた」のも、オリンピックに出ても「負けたら坊主。それも下の毛まで。それが大会前からの約束だった」ため約束通りに剃るのも、決して期待を裏切らないマサらしい、我々のマサ幻想を膨らませるエピソードでしかないのである。

新日に入門しても、やっぱりこの調子。

「スパーリングをやっていても、肛門に指を突っ込むような悪さを仕掛けられたりした。こっちも気が強いからレスリングの反則技で応戦してやる。俺がグラウンドで相手を潰して終わったところで、ふっと手を抜いた隙に関節を極めてくる。とても練習をしているという気分じゃなかった」

おそらく相手は藤原組長辺りなのだろうが、こうして鍛えられたマサの資質がアメリカで大爆発したわけなのだ。それもセックス、ドラッグ、シュートファイティング方面で。

旧『紙プロ』本誌16号での「英語はベッドイングリッシュで学んだ。ベッドで女にさ。あとはプリズン・イングリッシュ」という発言通り、「英語は皆目わからず十分なコミュニケーションはできなかったが、そんなことはノー・プロブレムだ。金髪女とベッドに入るのも、レスラーとトレーニングするのも同じようなものだ」と力強く言い切ってみせるマサ。男はこうありたいものである。

「試合が終わると仲間と一緒にバーへ繰り出す。そこにはレスラー目当てのグルーピーがいて、俺たちに声をかけられるのを待っている。そのあとどうなるかは、言うまでもないだろう。そのあたりの大胆さが南部の女は桁違いなのだ」「こんなことが毎晩のように続くから、女関係の揉めごとがあとを絶たない。遊びが過ぎて自分のワイフを他のレスラーに寝取られたり、同じ女とできて兄弟になったり、その女を取り合って喧嘩になったりはしょっちゅうだ」

しかも男同士だけでなく「タンパの女とオーランドの女が会場で居合わせて二人がシュートマッチをやらかして泡を食ったこと」すらあるそうなのだ、マサは「まあそんなことにブルッていたらフロリダでは生きていけない」とあっさり結論づけるのだった。

そしてドラッグ方面で「俺もフロリダ時代にレスラー仲間に誘われてマリファナの味を覚えた」とカミングアウトしても、やっぱり「吸ったあとのセックスは、腹上死するかと思うくらいの快感」と、余計なことまでカミングアウト。コカインも「ミネアポリス時代、レスラー仲間と酒を飲んでいるときに勧められて、ちょっと試した」そうだが、これまた結論は「セックスの快感はマリファナ以上」というものだったりするのだ。

まさにザッツ・シュート（歌／シーザー武志）な告白なのだが、文字通りのシュート方面でもマサは「相手の目玉をくり抜いたり、正真正銘のでかい熊と試合をしたこともある」（臭くて「このまま息を止めて死んでやろうかと思った」そうだ）のである。

「アルティメットでは噛み付きや急所攻撃、眼潰しなどは禁止されているが、俺のいた時代は完全なノー・ルール。正真正銘の『何でもあり』だ」「『サイトー、やるか』と聞かれたら、答えは『イエス』しかない」

そんな理由で素人の腕自慢（空手家）の挑戦を受けて目玉をくり抜いたとマサは、「目玉を引き抜くにもやり方がある。やり方は知ってるんだが、いざとなるとそう簡単にはいかないもんだ」と呑気な感想を述べると、目玉から血が流して救急車で運ばれた空手家に対して「そいつは『プロレスラーってギミックだと思っていた。こんなに強いとは思わなかった』と、ほざいていたらしい。ざまあみろ」とクールに吐き捨てるのだ。

カッコいいにも程がある。花くま先生ではないが、これこそ「男の憧れ・マサ」だろう。

「肉食の習慣をDNAに刻み込んだ連中の凄さは、アメリカで二十年戦ってきた俺が一番よく知っている」はずなのに、「気の荒い客が多いテリトリーでは、毎日のように客をぶん殴」り、強盗に出くわせば「腹いせに渾身の力で強盗野郎をスープレックスでコンクリートの上に叩きつけ」てみせる。

こんな生活を送っていたら、ケン・パテラに巻き込まれて警官に暴力を振るい、刑務所に叩き込まれるのも当然だったのだ。

しかし刑務所に入れられたところで、マサの俺イズムは決して衰えることもなかった。

ガールフレンドが面会に来れば「相変わらずでかい胸に俺は思わず興奮」したり、「フロリダの女、メアリーとセックスした夢を見た。女が欲しい。クソー」と吠えたり、「昨夜は女の夢を見た。痩せた女とセックスした夢だ。おかしい。俺は痩せてる女は嫌いなはずなのに」と悩んだり、「秋田県のファンから小包が届いた。写真も送ってきた。秋田美人のかわいい女性だ。夜のトレーニングを張り切ってやった」とオナニーまで暗示してみせたりと、マサはいつなんどき、誰とでもでもシュートしていたわけなのである。

近頃の新日に噛み付く昔気質のファンがマサを決して否定しないのは、常にシュートで攻め込む、こんな姿勢ゆえなのだろう。

現場監督・長州に対する、「維新軍で暴れ回っていた頃は、寝るとき以外はほとんど一緒だった。滅茶苦茶な馬鹿騒ぎも毎晩のようにやった。しかし、結婚して子供ができて君は、リングを離れて馬鹿をやることはめっきり減った。いい意味で大人になった。これは皮肉じゃないぜ」というコメントもマサらしさが爆発していて文句なし！

最後には「言わなくてもわかってるとは思うが、俺のプロレス観は猪木さんと同じだ」と断言し、ブライアン・ジョンストンが近頃イチ押しのマサらしく「UFOはプロレスを原点に戻すための団体だと、俺は解釈している。それならばウエルカムだ」と広い心で理解を示して終わるのであった。

やっぱりラジャ・ライオンやトム・マギー、リチャード・バーンなんかと闘った経験による発言と、目をくり抜いた経験による発言では、説得力が桁違いというものなのである。

プロレス界でいちばん過激なプロダクションの実態に迫る!!

白鳥智香子オフィスの野望!!

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／戸成嘉則
photographs by Yoshinori Tonari

昼下がりのある日、ネット・サーフィンしていた本誌・吉田豪がものすごいページを発見した。

現在はフリーとして活動している白鳥智香子自身の書き込みで、「（前略）2日の後楽園、たくさんの応援ありがとうございました」とある。ここまではごくごく普通の範囲内、凄いのはその次だ。「物販も20万円も売れたと聞きました。幸先のいい99年のスタートです」。いちレスラーがここまで赤裸々に収入に語ったのを見たことがない。その後は、「白鳥智香子オフィスの伊藤」という人物が次々と前代未聞の衝撃的な書き込みを連発しはじめる。ファンからの質問に答えるという形だが「何もそこまで」という激しいものばかり。

「白鳥選手、今月はナント100万円くらい稼いでいます」

「私は白鳥智香子＝小川良成、リック・フレアー説で胸を張っています。プロレスは受け身!!」

「私は年収2500万円」

「智香子は焼きしゃぶ2人前と寿司のトロ・イクラ・えんがわなどを3人前食べ、それらはすべてオフィスが面倒を見ました」

どーですか、このキレっぷり。マジメなのか、フザケなのか？　業界のルールを飛び越えて、過激に中央突破するこの姿勢が潔よくて、じつに素晴らしい。とにかく、何を考えているのか気になってしかたがないので本誌編集部は、速攻で伊藤氏とコンタクトを取り、さっそくその謎の多い新興組織の実態に迫ってみた。もちろん白鳥本人にも、同席してもらった。

——いや〜、ホームページの書き込みはすさまじいですね。

伊藤　いやいや（笑）。ボクが表に出るのもどうかと思うんですよ。

——いいと思いますよ。アメリカじゃレスラーとマネージャーがセットで表に出てますからね。そもそも伊藤さんはなぜ白鳥選手の事務所を設立したんですか？

伊藤　最初は、彼女の試合を見て「いい試合してるな」と思ったからです。岡山県の笠岡でネフタリ選手と試合したのが、その日の興行の中でいちばんおもしろい試合だった。観客200人の地方大会で16分も試合して、しかも裏アキレス腱固めまで披露したんですよ!! その試合でいたく感銘を受けました。

——なぜ白鳥さんだったんですか？　Jd'には、他にも選手はいますよね。

伊藤　いろいろな選手を見ましたよ。全女の豊田真奈美選手も見ました。たしかに素晴らしい選手ですけど、人間というのは不思議なもので、一度感動したら他は目に入らないんですよ。

——その情熱が、伊藤さんに個人プロダクションを作らせたということですね。

伊藤　もしかしたら、白鳥はファンが言うように「クソレスラー」かもわからない。でも、ウチの選手なんですよ。ボクが「白鳥が一番!!」と思わなければ、誰が出来ますか？　何が何でも白鳥智香子が一番です。白鳥が三流レスラーだと思ったら、こんなシステムが作れますか？　彼女はタニマチというのを持っていないんです。その後、幸か不幸か自分のレベルを上げたいということで1人でJd'を飛び出した。そこで「お金や交渉の面でダマされるなよ」とアドバイスしたのがきっかけですね。まあボクのおせっかいで「白鳥智香子オフィスというのを作って基盤をつくりましょう」という話を持ち出したわけです。ボクがプロレス界の人間じゃなかったから、そういう発想が出来たんでしょうね。

——プロレス界も独特のルールがありますから、いろいろ大変じゃないですか？

伊藤　どこの業界にもルールはありますから、それを理解しなきゃいけないな、とは思ってますね。

——現段階ではどれぐらいわかってるんですか？

伊藤　う〜ん……たぶん現段階で100%わかってると思います。わかってやってる部分がありますからね（笑）。

——確信犯ですか（笑）。

伊藤　そう（笑）。ボクは白鳥智香子という名前を残したい。それもいままでのプロレス界にはなかったようなことを実現させてあげたい。でも、地に足つけて確実なギャランティーを稼ぎましょう、というのが現在の方針です。

——ギャランティーといえば、白鳥さんは1ヶ月の収入も公開してますよね。ここまで正直な人はプロレス界で初めてじゃないですか。

伊藤　何でそういうことするか、わかりますか？　ウチは物販の純利益の8割は白鳥の儲けなんですよ。事務所は残りの2割です。ファンの方が買ってくれれば買ってくれるほど、白鳥が新しい水着を作れたり、いい食事したり、トレーニング費用になったりできるわけです。だからファンは白鳥を応援しようということで、智香子セットを3、4個も買ってくれるんですよ。これは健全なんです!! ジャニーズのファンがCDを5枚も6枚も買うのと同じです!!

——普通だったら「ここまでやるか？」って思いますよね。同業の人は特に。

伊藤　ようするに、ただその月の売上を報告してるだけです。ホントは白鳥の収入だって、報告するのも恥ずかしいぐらいの額です。で、実際に3月は芸能の仕事だけで50本くらい来ました。これを全部やったら1000万円になりますよ!!

——い・っ・せ・ん・ま・ん！　1年間遊んで暮らせますね。

伊藤　でも、それをやったら彼女は芸能人になってしまう。彼女はプロレスラーなんです。タレント・白鳥智香子では1本も仕事は来ません。だから全部お断りしたんですけどね。

——もったいない。影武者送ってでも、全部こなしたいところですよね（笑）。

伊藤　これが彼女の立派なところです。あくまでプロレスラーですからね。

——1000万円を蹴ってプロレスに専念するというのは誘惑に釣られてしまいそうにならないですか？

白鳥　試合を休んでまで、芸能の仕事をするのは違うと思ってるんで。自分の中ではプロレスラーで、空いてる時間に芸能もやってみたいということですから。

伊藤　いまの言葉を補足しますけど、肝心要の仕事が来たときには、休ませるこ

ともあります。芸能は二の次とかいうわけじゃないんです。そういうことを言うと芸能の人から怒られますから（笑）。

——そこまで徹底して開けっぴろげに語ってくれると気持ちいいですね。

伊藤　ファンのみなさんがグッズやチケットを買ってくれたお陰です。そのかわり、ウチもバレンタインの日には白鳥ステッカーをファンの人にプレゼントで送ったりしてますから。ね？

白鳥　（うなずく）

伊藤　白鳥に切手貼りもやらせてますから。公言するのもなんですけどね。

——言わなきゃわからないですよ。

伊藤　ハッハッハッハッ！　当然のことです。ボクは関西商売人だから（笑）。関西商売人は1人勝ちしないんです。ビジネスの基本です！

——ファンのお陰で稼いだお金はみんなに還元するのが当然であると。

伊藤　その一環で、ファンを招待して飲み会もやってます。白鳥の出待ちをしてくれてるファンの子と交流すれば、忌憚ない意見が聞けるじゃないですか。そういう費用はもったいないとは思いません。感謝の気持ちですね。

——ずっとプロレス以外の世界にいらしたということでしたけど、伊藤さんから見たプロレス界の問題点はどこですか？

伊藤　経営です。ボクはレスラーのことはわかりません、みんな一生懸命ですよ。でも、フロントはレスラーと一緒に「ケガなんか考えるな！　イケイケ!!」ってなってしまったら、もしものときにお手上げですよ。ボクは門茂男さんの本を読んでいろいろ勉強もしてますから。ボクはもし白鳥が大ケガで引退するようなことになっても、「元プロレスラー」という待遇で一生面倒は見たいと思います。

——なかなかそこまで断言する経営者は少ないですよ。

伊藤　これは当然です。ボクの勝手な意見ですけど、やはり25歳定年制がベストです。でも、ボクはいろいろ言ってますけどね、悪いけどあんまりプロレス好きじゃないんですよ。

——爆弾発言ですね!!

伊藤　プロレスが好きなフロントというのが、経営をいちばん圧迫してると思う。嫌いな人の方が冷静に見られると思いますよ。プロレスファンが成り上がって、「歩」からいきなり「金」になる。これだから、凝り固まったファンとフロントがミクロな世界に視点を向けていって、一般ファンが入り込めなくなってきてるんですよ。趣味の世界ですね。でも、決して悪い面だけではないと思いますよ、このプロレス界も。白鳥が夢を賭けるだけの魅力がある業界だと思います。

——でも、あまりビジネスに長けた人がいないということですね。

伊藤　そうです。ボクらはドロップキックを食らったこともないし、痛みもわからないんだから。出来るのは、システム作りぐらいのものですよ。それとシステムと同時に、リング上も変えていくべきだと思います。

——リング上もですか？

伊藤　これはボクのファンとしての意見です。ボクは白鳥が試合に出るときでもチケット買って入ってますから。後楽園ホールに足を運んだら、同じ様な顔ぶれのファンが何回も来てるわけです。それじゃいけない。もっと一般の人が見にくるようにしないと。日本経済新聞に、「アメリカのＷＷＦがエンターテイメントとして割り切ったら、凄い経済効果が出て、ムーブメントになった」と書いてある。いままでアメリカではブルーカラー層をターゲットにしていたのが、いまやホワイトカラー層を取り込んでいる。なぜかといったら、プロレスの観客席に一般層が入ってきたからなんですよ。日本はその点、全日本と新日本以外はブルーカラー層をターゲットにしてますよね。

——白鳥さん自身は、現段階でどんなビジョンを持ってるんですか？

白鳥　いまJd'のベルトが欲しいです。

伊藤　ベルトが欲しい、トップに立ちたいというのは当然の欲望です。

——ところで、伊藤さんが展開している「白鳥智香子は女子プロレスの小川良成説」についても、伺いたいんですけど。

伊藤　彼女のファイトは損だから。受け身が多いからね。それもちゃんと受けます。ＮＷＡチャンピオン時代のリック・フレアーと同じようにいい試合をするんですよ。何ら恥じるところはないと思います。いまブレイクしてますけど、前座の頃からキチッとしたレスリングをやっていた小川選手が、ボクの中で白鳥とリンクしたんです。白鳥も今年、ブレイクしてくれるといいんですけどね（笑）。

——ご自身としては、いかがですか？

白鳥　普通です（笑）。凄くないです。受け身は取れて当たり前ですよ。

伊藤　なんでそういうことを言うかと言うと、白鳥は線が細いから受け身を取ってないようにみえるんですよ。ところが彼女は井上京子やネフタリとかの巨漢とやってもケガをせずにいるんですよ。この人たちの年代は、全女の頃に１００回投げとかの特訓をしている世代だから、受け身がヘタクソなわけがない。

——地獄の特訓ですね。

白鳥　自分はケガをしない方だという自信があります。

——では最後にファンの方へのメッセージをお願いします。

白鳥　応援ありがとうございます。リングの上で答えを出します、としか言えないんですけど、女子プロレスの世界で結果を残していきたいです。

伊藤　今年の後半には白鳥の評価がガラッと変わってきてるかもしれませんよ（笑）。白鳥のファンの方。しばらく我慢しましょう。また、新しいファンを捕まえて帰ってきますよ。プロレスラーだけじゃない、芸能の面でこれから活躍するかもしれないから、いろんな白鳥智香子を愛してください。

【99年3月5日、横浜・スタジオぶぞうにて収録】

★白鳥智香子のメインラジオ決定！　RNC西日本放送ラジオ（1449kHz）で白鳥がメインパーソナリティーを勤める番組が4月2日からスタート。その名も 白鳥智香子のプロレスチックな夜 毎週金曜日午後10：30〜10：45。伊藤氏も毎週登場する予定だ！　聞き逃せない！

帰ってきた 青空プロレス道場 REPORT

紙のプロレスRADICAL PRESENTS

こんばんわ、石井苗子です……というわけで、いよいよラストスパートに突入した「青空プロレス道場」全10回。この号が出た後にはすべての講義が終了しているわけですが、満足していただけたでしょうか？　非常に充実していたと思います。ここでお知らせ!!　この講座からビッグな企画が動き出すかも？　発表までもう少し時間がかかるので心して待て!!

【第7回 2月10日】『馬場さんを語る夕べ』

ゲスト ターザン山本先生

馬場さんの話を食い入るように聞いていた生徒さんたち。そのうえ、ターザンの自虐的失恋ギャグの連発にも2時間、笑いっぱなしだった

締切ギリギリに馬場さんが亡くなったことで、本誌編集部はとても時間に追われていた。などと書き始めると言い訳がましく聞こえるかもしれないが、前号（2月10日発売）の入稿作業にとりかかる以前から「ゲストは佐山聡」というラインで事務所に話を持ちかけていたのであしからず。

じっさい佐山以上に「青空プロレス道場」向きの素材は他にいない。〝元祖ケーフェイ〟佐山聡が誌面に載らない完全な密室トークをするとなったら、オリの中でライオンを放し飼いにするようなもの。さすがに、1・4のマーズアタックin闘強導夢の直後だけに、事務所側が「危険すぎる」と判断したのか佐山サイドから土壇場になって「ノー」という返事が返ってきた。う〜ん、ある程度は覚悟していたが、実際にそうなってみるとツライ……。

時は夜10時過ぎ。こんな時間に、「翌日の夕方に講義して下さい」なんて言って受けてくれる人などいるはずもな……そういえば、いた。早速、ターザン山本氏に電話を入れ、「佐山さんと馬場さんのことを語れるのは山本さんしかいません！　お願いします」と出演依頼をすると受話器の向こうで机をドンドン叩きながら「オレが語らなきゃダメですよぉぉぉ」とすっかり炎上している。というわけで土壇場でゲスト講師は決定した。

もちろん馬場さんのこともキッチリと語ってくれたターザン先生。しかし、いつしか話は横道にそれて、失恋の話へと移行。

と思ったら、その1時間後にターザンから電話が掛かってきた。「悪いけど、明日はキャンセルさせてくれ。彼女と新しい彼氏が来るならオレは講座に出ませんよぉぉぉ」とダダをこねだした。じつは、ここ数カ月プロレス業界と落武者フリークを震撼させ続けたターザン山本のラブロマンスのお相手はこの「青空プロレス道場」で出会った女子であることはあまり知られていないが、別に知らなくてもいい話題ではある。彼女に事情を説明すると、しっかり納得してくれたのは救いだった。まったく申し訳ない話なのだが、こちらも背に腹は代えられない。

さて、翌日。いざ本番に突入しても、暴走失恋戦士ターザン山本は止まらない。ガチンコファイターとなり興味のない観客の首根っこをひっ掴んで強引に自分のペースに引きずり込んでいく。「彼女はターザン山本の花園にいたわけだよ。そこは楽園そのものだよ!!　ボクの花園は1分、1秒ごとにジェットコースターに乗る気構えで生きなきゃいけないんですよ。彼女はボクのスピードについて来れなかった。普通の人だって、2年3年は持ちますよ。なのに彼女は5ヶ月しか持たなかったんですよぉぉぉ。オレは彼女に勝ったんですよ！」とのっけから大炎上&勝利宣言。しかし、すかさず本誌・吉田豪から炎上したターザンに水をブっかけるようなツッコミが入る。「ジェットコースターには、あんまり長時間乗るもんじゃないですよ。たまに乗るから面白いんであって」。

……ターザン山本、鎮火!!　一時はどうなるかと思ったが、気を取り直して、再起動したターザン山本ジェットコースターが、馬場さんのことや佐山のことなどを語りまくっているうちに、アッという間に2時間が過ぎていった。

（デブ）

そして、ターザンを見つめる大女がひとり……。身長180センチの大型カップル誕生の可能性は!?　この〝大きな恋の物語〟の顛末は？

★次回、青空プロレス道場は7月14日からスタート（3ヶ月間全6回）

［第8回　2月24日］『蘇る道場伝説』
ゲスト　ドン荒川先生（メガネスーパー）

約束の時間の40分以上前に会場に現れた荒川先生。出番まで時間がある旨伝えると「じゃあ、二歩、三歩、散歩してきまーす」と早くもダジャレ攻撃。時間までジャイ子がお付き合いさせていただきました。

新日ファンクラブ「エキサイティング・ガールズ」所属だったジャイ子は当時、荒川先生と仲良しで、にアイスおごってもらったりしてました。あれから約10年（ホントはもっと）、荒川先生はジャイ子のことを覚えてくれた。感激。再会の記念にメガネの割引券をくれました。「プロレス道場っていうから稽古つけるのかと思ったよ」「ワタシ、喋るの苦手だから大丈夫かな〜」「いやー、ワタシね、いまが一番幸せよ。ジョギングしてるだけで金もらえるんだもん。今日は雨だから走れなかったけど、昨日は20キロ走ったよ」。『紙プロ』が新日に嫌われてるって話をしたら、「坂口さんに電話すればいいじゃない。荒川ですって言えばすぐつないでくれるよ」と、マシンガン・トーク（内容はあくまでも呑気）炸裂。先生、もしかして沈黙恐怖症？

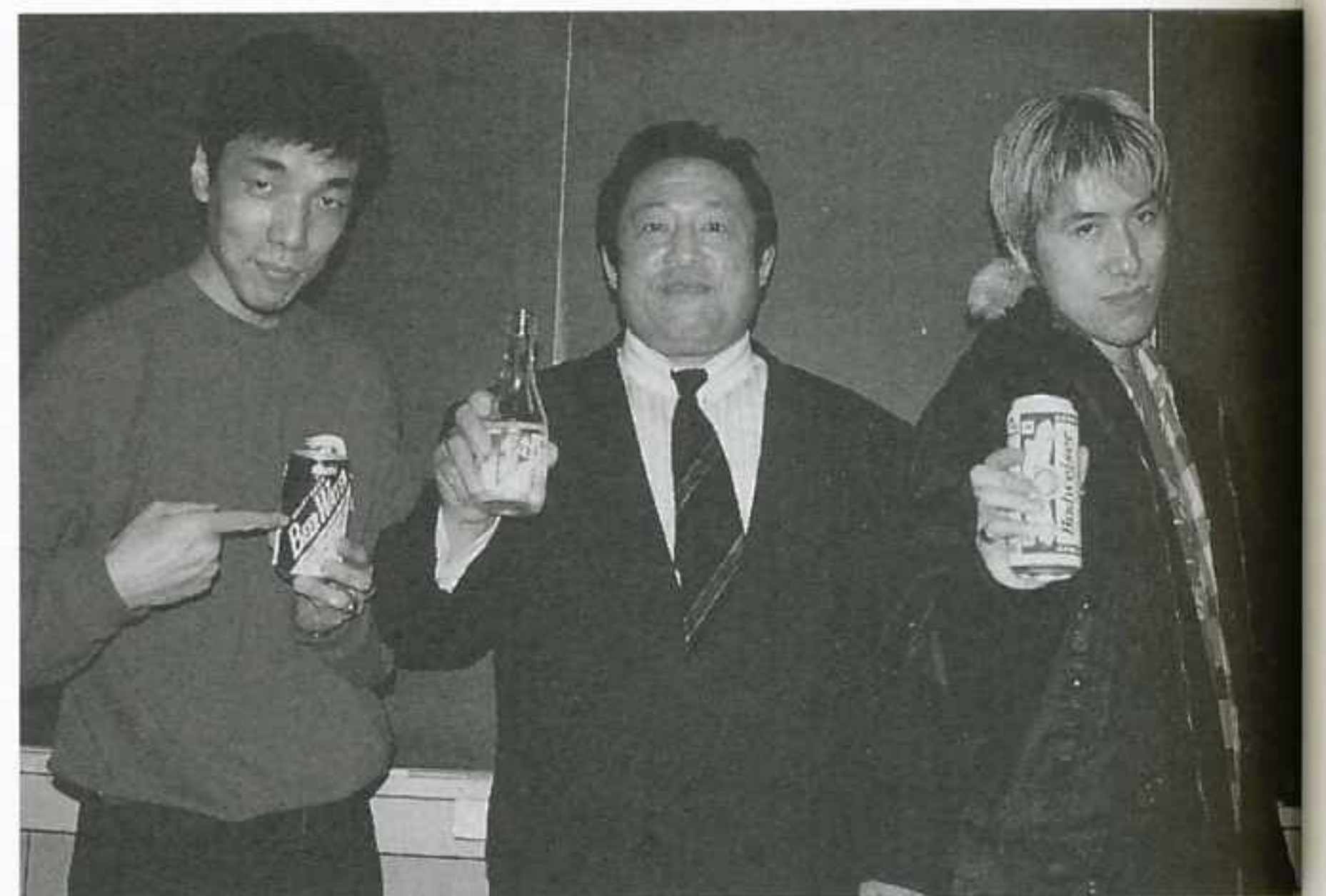
教室に入るなり「すいません、無口なもんで」とカマしつつ、道場内のメガネ度をチェックする荒川先生。抜かりない。「素晴らしいですね。メガネの人がたくさん。割引券配っといてね」。昭和の道場王は今や愛社精神溢れるサラリーマン（自由出勤）。

ここで衝撃的事実が判明！　荒川先生はあの松浪健四郎と対戦していた!!　昭和44年にアマレスの大会に出場した荒川先生。1本目を先取され、2本目にドロップキックを放つもスカされ、チョップを見舞ったところで警告。結局反則負けだったとのこと。アマチュア時代から観客の目を意識しまくった試合内容。松浪氏は当然「もうやりたくない」。なんでもこの試合は長州と鶴田が観戦してたらしい。無闇に豪華なメンツ。約20年後に船木誠勝がUのマットでドロップキックを試みたのは荒川先生へのリスペクトだった？

「昔の新日道場はバカばっかり、カバですよ」「キラーカーン？　キンコンカーンですね」もう、ダジャレというより勢い。力技。笑いには勢いが必要と痛感させられました。隣の山口日昇は仕事を忘れ、どの道場生よりも大笑い。ノゾキとイタズラに明け暮れた巡業ライフには「毎日、温泉巡りみたいなもんでしたよ」温泉巡りがストロングスタイルの源だったのね。なるほど。

以前本誌・吉田が破壊王に荒川先生の話を振ったところ、破壊王はブルーになり「荒川さんは、洒落にならん!!」と一言。なんでも手の甲に箸を刺されて、その傷が消えないらしい。このエピソードを講座終了後の飲み会にノリノリで参加の先生に確認すると「よく知ってんね〜。言うこと聞かねえから、やっちゃったんだよ〜」とゴキゲンに答えてくれました。いまだに破壊王をブルーにさせる男・ドン荒川。昭和新日道場幻想は膨らむ一方です。　（デカ）

ただの陽気なオッサンにしか見えないが、この方こそが昭和の新日道場王。今年こそ試合に出るとのこと（出場団体はまだ秘密なんだって）。キミも市役所固めを生で見ろ！

飲み会でもゴキゲンな先生、一曲披露してくれました（もちろん歌詞は下ネタ満載の替え歌）。

実は、酒飲みながら講座やってました〜。左の金髪のアンチャンは、この日秘蔵ＶＴＲから「ドン荒川vsライスマン清六」の一戦を披露。

［第9回　3月10日］『プロレスラーは芸人なんだよ!!』
ゲスト　ザ・グレート・サスケ先生（みちのくプロレス）

座頭市のコスチュームで登場した、プロレス界の勝新・ザ・グレート・サスケ。当日は、「教室に入りきらないのでは？」というほどお客さんが殺到。やはり、逆境でもサスケは強い！

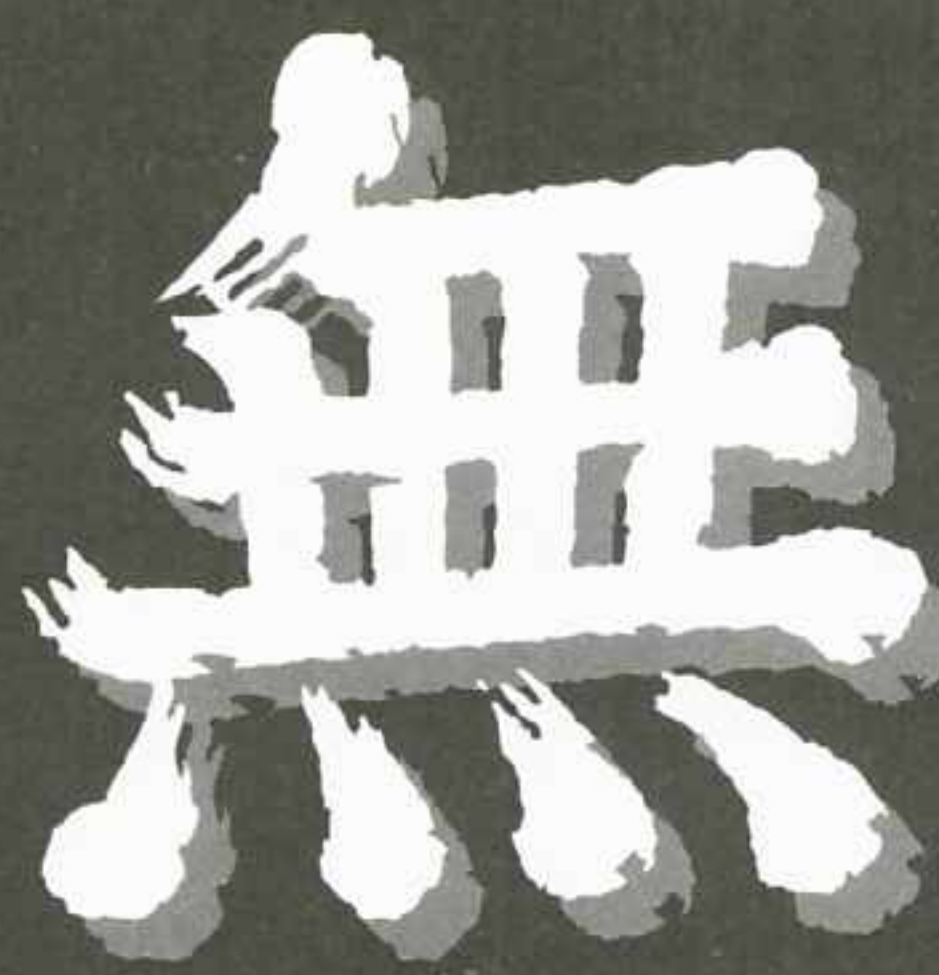
デルフィン派離脱以降、謹慎処分を受けて公の場には姿を見せていなかったサスケが登場だ！　いいサスケに戻ってからは、初の公開トークということもあり、客席はギュウギュウ。バカ話＆載せられない危険なトークの連続波状攻撃で会場のボルテージは上がりっぱなし、するとサスケ社長も、それを受けて返す!!　詳しいトークの内容はP57からのサスケ社長のページを読んでください。

ちなみにこの日借りてきた衣裳は、なぜかサイズが異常に小さく、ズボンがわりのステテコが尻の位置まで上がらなかった。それを無理矢理テープで止めて客前に出ていた、というわけだ。さらに、サスケ社長の着替えに立ち会ったノブの証言では、「エグい黒ビキニ」を着用していたという。プロレス界の勝新的には、パンツにもこだわりがあるのだろう。でも、勝新ってトランクスだったような……でも、細かいことを気にしないのもサスケ!!　ステキ！　（デブ）

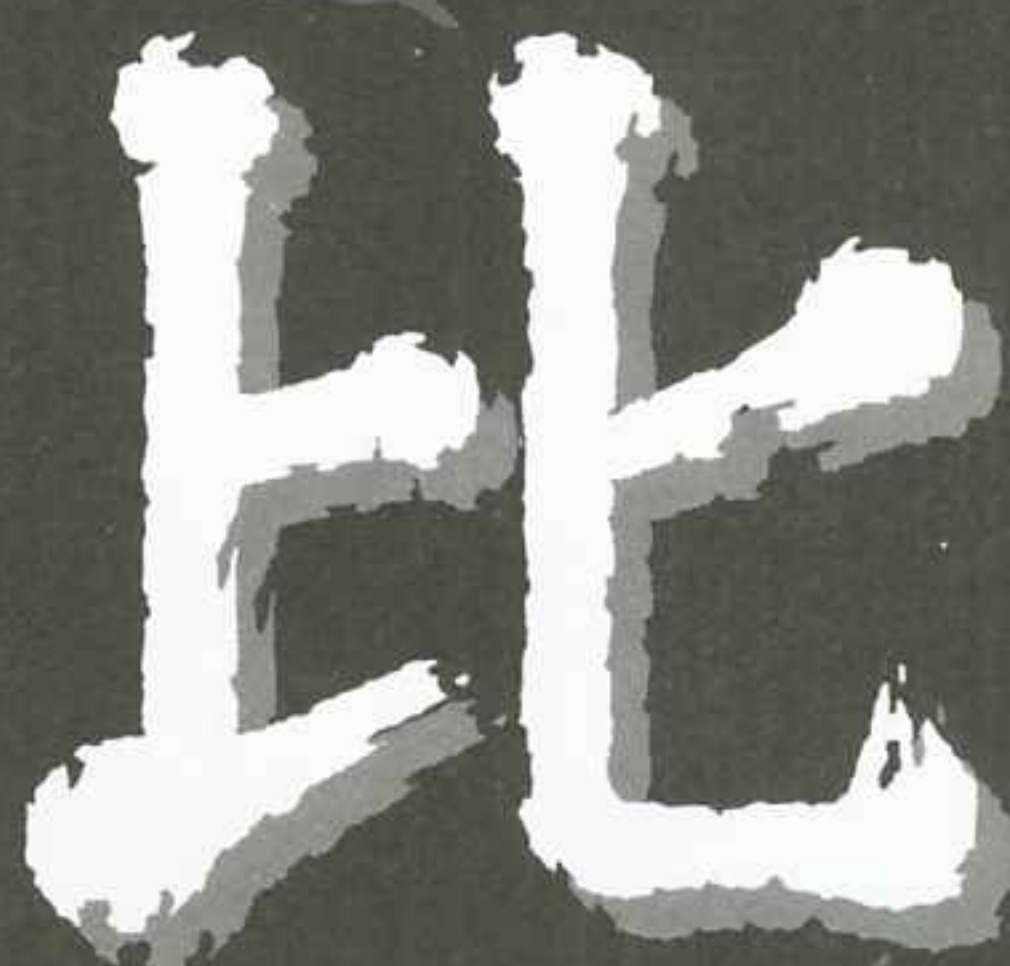
次回の講座の受付は5月25日からスタート!!　お問い合わせ　西部池袋コミュニティカレッジ　TEL 03・3988・9281

最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

Mubito

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

(34)

Illustration/中川雅博

プロレス専門誌発行人である千堂は、万無比人の持つ天性の格闘センスを見抜き、なかば強引にプロレス界へと引きずり込んだ――。無比人は、昨年の目標として掲げた異種格闘技戦路線で一応の成功を収めると、次に千堂のアイディアのもと、ダーク・ジャガーを名乗り、インディーズならではの破天荒なスタイルで世間にも好印象を与えていた。しかしながら低迷を続けるマット界にとって、到底風穴を空けられるものではなかった。プロレス最強伝説をいま一度取り戻すために、無比人はヒクソンの前に立ちはだかった。

二月十九日。

カレリンが成田空港へ到着した。オルガ夫人、ロシア・レスリング連盟のミハエル・マミアシビリ会長、同顧問のウラジミル・ベルコビッチが一緒だった。

言うまでもなく、二日後の二十一日に迫った前田日明との一戦に備えての来日である。会場は横浜アリーナ。カレリンとのこの試合に勝っても負けても現役を退く、と前田は表明していた。

アレクサンドル・カレリン、ロシア・ノボシビルスク市出身。身長一メートル九十一、体重百三十キロ。

生まれた時点で体重五千五百グラムと、すでにして〝大器〟であった、といえようか。幼時から少年期にかけては水泳選手として活躍、グレコローマン・レスリングをはじめたのは十三歳だが、十五歳のときに試合中に足を骨折。水泳よりもずっと危険とのことで親は止めさせようとするが、それが逆効果となって練習漬けの日を送る。

その甲斐あって一九八五年、八七年と世界エスポワール選手権で優勝。八七年に旧ソ連国内大会で世界王者のロストロスキーに敗れたのを最後に、それから十二年間というもの国内外に亘っての試合で無敗記録を更新し続けている。

八八年のソウルオリンピック優勝を皮切りに、九二年バルセロナ、九六年アトランタとオリンピック三連覇。毎年行われる世界選手権も含めるならば、実に十一連覇を達成中である。

過去に五輪を三連覇したレスラーとしては、旧ソ連のアレキサンダー・メドバジ(六十年ローマ、六四年東京、六八年メキシコ――フリー百十キロ級)がいるが、カレリンが次のシドニーでこれまた金メダルを獲得した暁には、史上初の四大会連続金メダリストの誕生をみることになる。

輝ける実績を踏まえて日本のプロレス界、アルティメット大会などからのオファーが引きも切らないが、グレコローマンのマットでなら誰とでもいつでも戦う用意はある、と総ての誘いを一蹴。世界王者になって以降、グレコローマン・スタイルではない試合に臨むのは前田戦が初めてとのことであった――。

空港から宿舎である新宿区内のホテルへカレリン一行は直行したが、同日五時過ぎ、長時間のフライトの後にもかかわらず仮眠を取っただけの王者から、さっそくにトレーニングで汗をかきたいとの要望があり、関係者を慌てさせた。

前田の率いるリングス側がホテルに近いスポーツジムでのトレーニングを設定し、これを公開としたために空港から引き揚げたばかりの格闘技マスコミは再度大挙して詰めかけることとなった。

千堂も急を聞いて駆けつけたくちで、やはり彼も成田にカレリンを出迎え、そこでの記者会見ではしかし紋切り型の問答しかなされぬまま、途中ちょっと寄り道をして社へ戻ってみると、公開練習について報じるFAXが届いていたのだ。

『四角いジャングル』誌でもご多分に洩れず〝前田vsカレリン戦特集号〟を次に予定し、緊急態勢を布いて千堂自ら前田に会いインタビュー記事もすでにものしていた。材料は多いにしくはなく、スポーツジムへ着いたらウォーミングアップをすませたばかりらしいカレリンが丁度エアロバイクを漕ぎはじめたところであった。

器具を用いてのトレーニングは好まないとのことで、旅先となればしかし妥協せざるを得ないのだろうと千堂は、一抹の同情をおぼえつつ間近から人類最強の男を改めて見入った。樹齢を重ねたシベリア杉のような首回り、猛禽のそれを思わす鋭い眼光、肉厚で異様に指の太く長い手は誇張していうのではなくて野球のグローブだ。

人類最強なる尊称もこれまた誇張とばかりもいえず、先のアトランタ五輪の決勝でカレリンに敗れたガファリ(米国)が、

「最強の霊長類――即ちゴリラにレスリングを教えるよりほかに彼の連勝記録をストップさせる方策はない」

と呆れ返った面持ちで評したそうな。以来、スポーツマスコミには付きものの誇張

本格格闘プロレス小説

表現にもそれなりに真実味が盛られ、その称び方が定着したと千堂もこの度の来日に際して、そちこちで聞かされていた。

エアロバイクの後、油圧式のスクワットマシンにカレリンは挑んで、あっさり三百二十キロをクリア。彼の背筋力は優に四百キロはある、と内外レスリング界で伝えられている、それを裏付けた形となった。そういえば十代の頃、一家が引っ越しを行った際に偶たまマンションのエレベーターが故障していたため、百二十キロからある大型冷蔵庫を抱えて八階まで運んだ、などという眉に唾したくなるようなエピソードもあるという。

途中で千堂は、さりげない風を装って報道陣の群れを抜け、スポーツジムを後にした。一計を案じたからにほかならない。

レコード店を見つけて入り、そこでバッハやベートーベンなどクラシックのCDを幾つか見繕って買い込むと、カレリン一行の宿舎として記者会見の折に発表された西新宿のホテルへ回った。

空港で一緒のロシア・レスリング連盟会長と顧問はスポーツジムでも見かけたものの、カレリン夫人の姿はなく、つまりホテルの部屋で休養中なのではと閃いて公開練習の場を早退けした次第だが、フロントで聞き出したルームナンバーのドアをノックすると、待たされずに開いた。

カレリン夫人オルガは英語は不得手の様子で、千堂がジェスチャーを交えて来意を告げても要領を得ない、といった面持ちで招じ入れられるのは難しいかと思われた。それが試しにレコード店の紙袋からCDを出して提示すると、パッケージを見て途端に表情が綻んだ。ドア・チェーンを掛けたままのやりとりだったのが、これを外して千堂を部屋へ迎え入れた。

カレリンの趣味として読書、詩作などとともにクラシック音楽鑑賞とスポーツ紙が報じていたのを思い出し、駄目で元々と自分に言い聞かせて抜け駆けを狙ったのだ。まんまと図に当たり、フロントに言ってプレーヤーを持ってこさせ夫人とCDを聴くうち、カレリンは帰着。連れは部屋に引き取ったとみえて彼一人で、その点も千堂にすれば願ったりであった。

人類最強の男への単独インタビューが叶うなど記者生活でもこれが最初で最後だろう、と幸運を神に感謝する一方で、ぞくぞくするような気分のうちに留守を襲った非礼をまずは詫びた。カレリンが英語が堪能であることも新聞で知り、それが企ての根底にあったのは言をまたない。

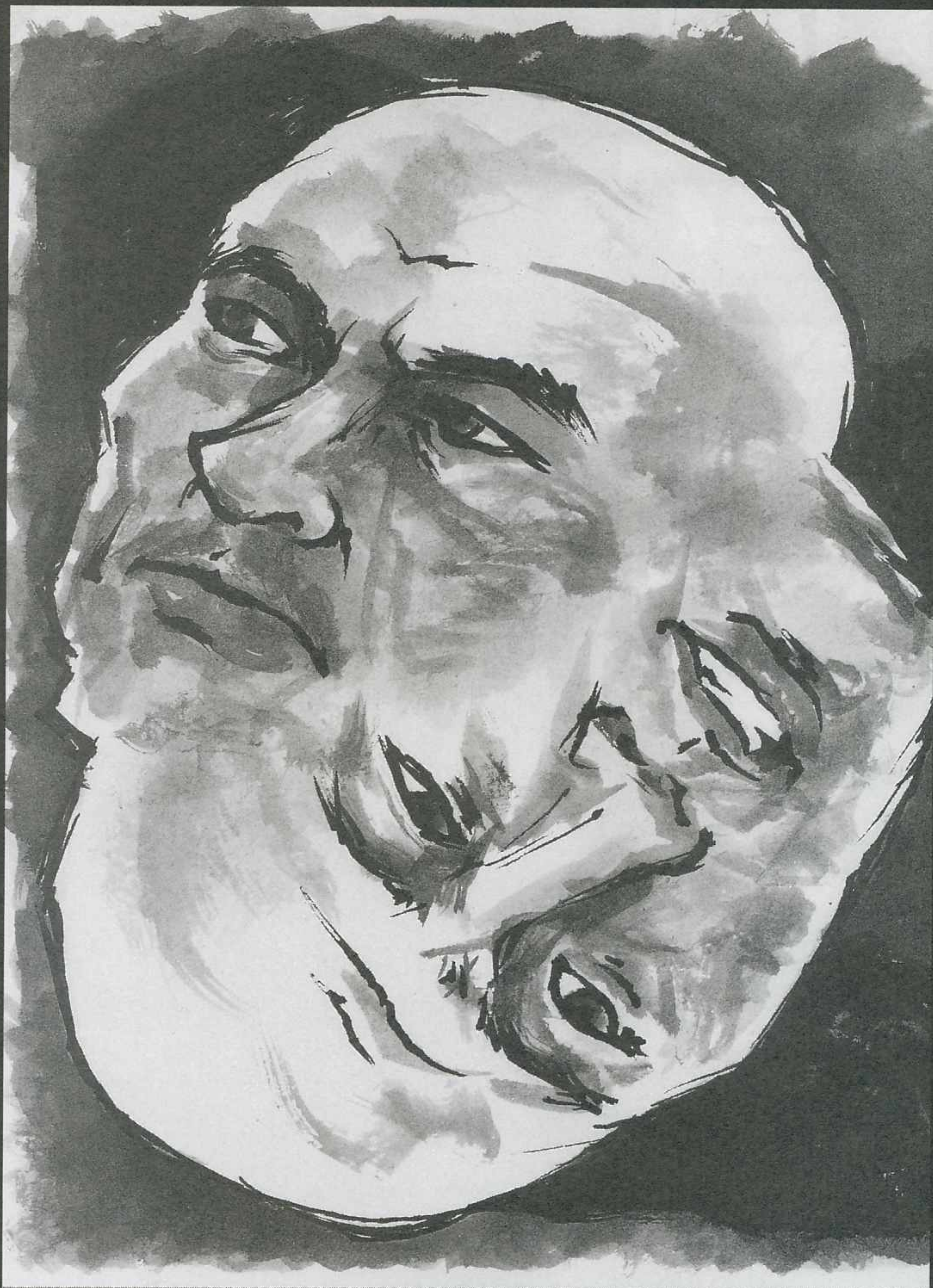
夫人が口添えしてくれた模様で、最初は不興げだったグレコローマン・レスリングの王者も機嫌を直したか、応接セットのソファに向かい合わせに腰を落ち着けるに到った。三十分だけ、と時間を切られはしたが。

器具を好まない、という平素のトレーニングの内容について訊くことからはじめた。

「一つは故郷の湖に浮かぶ船——といってもボートのように小さくはなく、遊覧船ほどはあるか——それを漕いで上半身の鍛錬を心がけます。冬には分厚い氷が張って船も欠航せざるを得ないので、その季節だけは避けなくてはならないが。

その間、冬場はだから足腰を鍛えることの方に重点を置く。雪ですよ、雪。腰の辺まで積もった雪原を分けて走る。下半身が埋もれたままでは走れないので、片脚ずつ交互に雪の中から抜き上げることになります。当然、その都度腰に負荷がかかる。それこそがこのトレーニングの特筆すべき点で、一日に三時間は走りますか。主なところでは、以上の二つですね」

次に目下十一連覇を続けていることを自身としてはどう視るか、とぶつけてみた。これに対してはカレリンは、うーんと唸って天井を仰いだ。思案顔を見せたが、ややあって、

「勝つことを宿命づけられたというか、目には見えないなにか大きな力に後ろから押

しこくられているようで、立ち止まれない。そんな覚束なさが感じられ、だからこそ闇雲にトレーニングをして不安を拭おうとするのだろうか。それと勝ち続けることを、心のどこかで恥じてもいる。敗者を沢山つくり、同じ世代の選手たちの出世を妨げているわけですから。傲慢というか、鉄面皮というか……」

　日本ではグレコローマンよりフリーの方に人気があるが、この点についてはとの質問には、残念、と即座に答えが返ってきた。

「有名選手、実力のある選手が現れないというのであれば理解の仕様もあるが、かつてミヤハラという素晴らしい選手がいたのに」

　宮原の名前が飛び出して千堂としても、面食らう一方で懐かしさを禁じ得なかった。プロレス志向ではしたが、五十二キロ級のロサンゼルス五輪金メダリストでソウルでも銀を獲得した宮原厚次の活躍振りに胸を熱くしたことも記憶にしかと根付いていた。

　カレリンが腕時計へ目をやった。最後にもう一つ、と畳みかけて千堂は最も訊きたかった点に言及した。

「グレコローマン以外の試合をおやりになるのは、今度の前田戦が王者としては初めてだそうですが、それを決意されたのはいかなる理由からなんでしょう」

　金を積まれたからでは、と再度気分を害することになるのを覚悟で言い足した。二度の高田戦でヒクソンの懐に入ったと噂される、法外な額のことが頭にあった。

　果たしてカレリンは俄然また厳しい目色に変じたが、それはしかし帰り着いた直後に見せた眼差しとは幾分趣を異にしている、そのように千堂には感じられた。

「積まれた、といえるほど大層なファイトマネーではありません。リングスを通じて話が持ち込まれたとき、一度は辞退したものの、前田選手と直接話してみて考えが変わったのです。彼と話して感じたことは、日本独特のサムライ精神というか、ハラキリというか——それがひしひしと伝わり、試合に応じなくては失礼に当たるのでは、ということで心が決まりました」

　その迫力ある押し出しとは裏腹に、全体像としては至極生真面目な印象のカレリンのその言葉を聞き、千堂の胸中には先に前田と会った際の思わず襟を正したくなるような重い手応えが、いままたおのずと甦るようであった。

　カレリンとの引退戦を前に前田日明にインタビューしてみての手応え——それはまさしく死に場所を求めている、その一語に尽きた。

本格格闘プロレス小説

(35)

巨匠入魂 第15回

真樹日佐夫

女王様ルックで一分の隙もなく極めた氷見子が正面へきて、腰に両手を当てがうポーズを取って立った。

千堂は、ソファに脚を組んでふんぞり返ったまま、やや上目ごしに氷見子を直視した。

「もっと挑発的なポーズを！　おまえがついさっきまで店で、M男の客どもを徹底的に見下していた、その際の傲岸な内面を掻き立てて——」

「そんなこと言ったってぇ」

氷見子は戸惑いを隠せぬようだったが、千堂が取り合わずにいると諦めた様子で腰から右手だけを外した。その手をまっすぐに前へ伸ばし、人差指一本を立てて二度、三度と手招くジェスチャーを見せた。

心持ち頭を上げ、鼻先と視線とに軽侮の色を含ませている。

「脱げ」

頃合いと感じて、千堂は言い放った。

「そんな生意気な衣装はおまえには似合わん、全部脱いで裸になれ」

氷見子の立ち姿におののきが奔るのが見てとれた。Sから一転してMへ、その落差に得もいわれぬものがあった。

「返事は！」

「はい……」

「返事になっとらん！」

「はい、ご主人さま」

氷見子はコスチュームを脱ぎはじめた。

ピンヒールだけの細身の裸像が、千堂の前に妖しく息づいた。

「そんな物も似合わんぞ。玄関に戻せ」

「あ、はい」

ご主人さま、と付け加えて氷見子は言いピンヒールも脱ぐと玄関へ置いてきた。それを履いたまま上がるよう、千堂が命じたのだった。

「ご主人さまとこうしている場合に限り、戻り道は最早おまえにはない」

「——」

「女王さまへの戻り道だ、わかっているな」

同じ返事を氷見子は三度口にのぼせた。呆気ないほどの従順さだ。

絹子のペントハウスへ連れ込まれ、浣腸プレーの洗礼を受けた夜を境に氷見子をまた時折千堂はマンションへ呼ぶようになっていたが、出前は出前でもプレーではSとMの立場が逆転。グリセリンによる便意を我慢し切れず、粗相の現場を見られてしまったとあっては元に戻れようはずもなく、かつて千堂に対して働いた狼藉を今度は一つ一つ氷見子自身がなぞらされる展開となった。

そして前田対カレリン戦から丸一ヶ月、連休明けのこの日もプレーの出前を命じたわけだが、千堂には一つの目論見があった。

引退戦で前田が大方の予想に反し、カレリンに敗れはしたものの大健闘したことが刺激になったか、千堂と一緒に試合を見に出かけた帰りに無比人は、

——早いとこヒクソンの野郎とのカードが組めないかねえ、部長。言っていた〝ヒクソントーナメント〟の方もなかなか転がり出しそうにないし、奴さんのファイトマネーとして一億も積んでくれる奇特なスポンサーはいないものかな。ああ、まったく！

と腕を撫して慨嘆していた。

「ここへきて跪け」

氷見子はテーブル沿いに回り込んでき、千堂の足許に両膝を揃えて坐った。

「ご主人さまのナニが欲しいか」

「欲しゅう存じます」

「では与えよう。心して味わえ」

ズボンの前チャックがためらいがちに引き下ろされ、勃ちかけのペニスが取り出された。唇と舌の練り絹のような感触。

仰ぎ見た女王さまに口で奉仕させている……。征服感に酔いながら、千堂は。

「忠誠を示す意味からも、ここらでひと働きしてもらうか」

努めて厳かに告げた。

〈以下次号〉

HAGAKI OF DREAM

POST CARD
151 0051
渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス
夢のハガキ行
HAGAKI OF DREAM

前田vsカレリン戦の翌日、会社の留守電を聞くと「こちらは横浜アリーナ管理室です。そちらのサカイノブ様の上着が拾得物として届いております」というメッセージが…。クソ寒いこの季節に上着を忘れるバカがどこにいる? カメラをなくし、テレコをなくし、ついでに恋人は手離し、増えていくのは体重だけという、ダメっぷり、忘れっぷり、太りっぷりばかりがやたらと目に付く坂井ノブに愛想を尽かした私チョロが、強引に2ページを奪い取り、新たな読者コーナー「HAGAKI OF DREAM」を勝手に発進させます。あい～や。

代表＝チョロ

ハガキから愛～や!!

速報

武田いづみちゃんが見事、第一志望校に合格! 入学祝いとして特別に10点差し上げます。

僕はNO12から『紙プロ』を読み始めて、先日初めてハガキを送りました。そしてNO15の『紙プロ』のハガキ道場にカレリンの似顔絵がのっていた時にはメチャクチャうれしかったです。ヘタな絵をのせていただいてありがとうございました。粗品がメチャクチャ楽しみです。『紙プロ』は歴史に残るおもしろさだと思います。それだけにハガキ道場にのったのはホントにホントにうれしいです。VIVA!! 紙プロ!!

(金沢県　ブルドッグ　男　19歳) 5点

★ホントにホントにうれしかったのか、ブルドッグ君は10枚以上もハガキを送ってきてくれたよ。確かにまだまだ荒削りだけど、情熱とセンスはメチャクチャ伝わってきたよ。俺と一緒に手を組んで歴史に名を残そうぜ! くれぐれも送り先を間違えないようにな。ハガキ道場じゃなくてハガキオブドリームだぞ。なっ!

11月にみちプロみに行ったけど、うるさかった女性客にむかって「うるせぇデブ!」と言ったジュードー・スワが最高でした。

(岩手県　戸澤広美　女　20歳) 2点

★スワさん、坂井ノブにも言ってやって下さい。

読プレ担当、ジャイ子ちゃんになったんですね。私、153センチしかないんででっかい人って無条件であこがれちゃうんです。だからジャイ子ちゃんは私のあこがれよ。私も「でっけえ!!」って言われる人生を歩みたかったよ。いいな、ジャイ子ちゃんは。私もちっこくても負けないからジャイ子ちゃんも負けないでね!! 応援してるよ!!

(愛知県　真下純子　女　29歳) 10点

★ジャイ子は読プレ担当でも何でもないんだけどね。言われるがままのウドの大女なんだよ。おかげでチョロぶれがドンドンでっかくなっていくばかり。あれっ! 誰かと思ったら、『紙プロ』編集部に(安田忠夫)チョコを送ってきてくれた、純子ママさんじゃないですか。お礼に10点差し上げます。キッズに何か買ってあげて下さい。

前略、ダブルクロスから送られてきた包みを開けて驚いてしまいました。これは何!?『紙プロ』品切れの代わりに『リンたま』ア!? ハァ～っ!? しかも97年版!! 何故!? なめとるんかー!! 何でやねーーん!! ボケーッ!! それって『サンダーライガー』のビデオを注文したら「品切れなんでサンダー杉山の試合でも観てて」つうのと一緒です!!『リン魂』が九州ではオンエアーされてないからって(見たくもないし)、地方のプロレスファン、ましてや『紙プロ』読者をなめんじゃねー(怒) ダブルクロス!! それに何故写真があぁっ!? これ誰の!? 私物??? わけが分からんっ。地方のプロレスファンだからレスラーの写真が欲しかろうって? プロレス観戦歴25年、ゴッチともハシミコフとも握手した事のあるローカルファンをバカにしないで下さい!! どーせ田舎者だよぉおぉっ。へっ……な～んちゃって! ウ・ソ!! 冗談!! 正直申し上げて、感動致しました。何という誠意!! これがダブルクロスのやり方なのか!? いちいち読者にこの様なきめ細かい対応をしていて体が持つの!? いやはや心を打たれてしまいました。こんなに親切にしていただいたのは生まれて初めてです(ちょっと誇張)。いや、ホント嬉しいですヨ。◎林ヘックション一枝サマ　きっとアナタは美しくて賢くて心優しく、ちょっぴりおちゃめなとてもカンジの良い女性であるに違いないでしょう!! ますます『紙プロ』ファンになってしまいましたス・テ・キ!!

(福岡県　山田愛　女　?歳) 3点

(一部略)

★その通り! みんなもバックナンバーを買うべし。

面白かった記事

「佐山聡」"公園の散歩"は蓋し名言だ。

(札幌市　藤原章男　男　26歳) 2点

★Walking in the parkは名曲でもないけどね。全く関係ないけど原タコヤキ君は人気者!

「プロレス狂の詩」の杉作J太郎の「プロレスを見て女にモテろ!」文は面白かったが杉作氏、最近調子こいてるから。

(港区　増沢洋明　男　28歳) 2点

★面白きゃいいだろ。問題なのは、最近調子良く肥えて杉作先生に風貌も似てきた坂井ノブ! 投稿は「夢のハガキ」まで。そういう事です。

「ザ・検証」椎名さん、同じ椎名でも、体育会系バカの誠の100倍、いや1000倍、文章面白いです。

(練馬区　鈴木典嗣　男　34歳) 3点

★椎名さんのUFC日記は最高だったね。でもね、桔平だかへきるだか林檎だかイーストンだか知らないけど、立ちションで恋文を書いちゃうほどアウトドア派な俺は、誠先生も好きだって。

「アニマル浜口」おもしろすぎ! ここしばらくは死角になっていた感のある(俺だけ?)浜さんが、タチの悪い火星人よろしく突然の来襲。しかも、とてつもなくパワーアップして現れたって感じ。特に「前田日明とは何かを考えて、レポート用紙に『ローキックがいい』とか何十枚も書いた」ってとこ。もう完璧。

(目黒区　辻村芳修　男　26歳) 4点

★浜さん親子の「ハラワタ対談」は大好評!「カタブツ君のベストバウトでは」という声も。ところが当の本人は、浜さんに「中村さんは長渕剛に似てるねぇ」と言われ大困惑! ロクなもんじゃねぇ(ブチ繋がりなだけなのに)。

「語ろうマサ・サイトー」花くまゆうさくさん最高!! もう尊敬の域に達している。ちなみにバンバンビガロの店長とプロレスを語り合って仲良くなった。マサ・パーカーを買おうと思ったらサイズがなかった。

(埼玉県　本間徹哉　男　16歳) 4点

★「BBM社主催・マサ写真展」トークショーにて、マサ本人の口から、「カルピスは原液でなんか飲まないよ」と衝撃の告白! 期待してた皆さんすごくご迷惑をかけました。でもみんな忘れました! (マサ引退マイクより)

(熊本県　山崎英紀　男　33歳) 4点
坂井ノブも餅つきパワーボムを喰らえば腹も引っ込むはず。

つまらなかった記事

「SASUKEインタビュー(におけるチョロ)」チョロは、もうちっと自分の立場を認識したほうがいい。

(目黒区　辻村芳修　男　26歳) 3点

★ん～、自分の立場かぁ。立花理佐の限界ショットは認識してるんだけどなぁ。あい～や。まあ、まだまだ俺も発展途上人。読者からの叱咤、激励、ご指導ご鞭撻なんでも待ってます。

「SASUKE」ケガが多すぎる

(長崎県　空閑敏成　男　23歳) 1点

★伝えておきます。

「ジャイジャイ日記」武井とジャイ子には「昭和新日本」のニオイが感じられないから。

(千葉県　佐藤勝政　男　28歳) 1点

★昭和新日本時代に「エキサイティングガールズ」なんていうファンクラブに加入していたジャイ子。ギャンブル好きで有名なエル・サムライもジャイ子にかかれば、未だに「マッツ」呼ばわり。中途半端なニオイは感じられます。

「ジャイジャイ日記」この記事を全国紙に載せて何万の人に読ませるという行為をさせてしまった『紙のプロレス』は雑誌を作る会社として最低レベルだと思います。この記事にOKを出した山口編集長の神経を疑う。

(網走市　井上章子　女　29歳) 5点

★同感です。

「ちょうの出来事」チョロ見てないのに「世界のプロレス」のことといろいろ言うな! もし来てくれたら中州で酒をおごろう。

(福岡市　下川智男　35歳) 4点

★「見てないのに」って失礼な! ここだけの話、ペ●シ・ボ●イの正体って俺なんだけどね。まあ、おごってくれるんなら今回は見逃してやる。でも酒よりペプシの方が嬉しいんだけどなぁ。●妊とかにも使えるし。ベストはドクターペッパー。ドクターなだけに。

(愛知県　今村龍彦　男　31歳) 3点
おそらく世界最強であろうリングスだんご3兄弟。

「浜口親子」こわいから

(愛知県　太田桂右　男　16歳) 5点

★あい～や、さては君、童貞クンだな! それはたまたま相性も良くてテクもある女性に巡り会ってないだけです。一旦コツをつかめば、あとは応用もきくので、何とか一度そういう相手に遭遇すれば、浜さんの素晴らしさが身に染みてわかるハズ。ぐわんばれ!

「浅草キッドの前田日明熱烈応援文」浅草キッドって何してる人ですか?

(兵庫県　藤田敏彦　男　34歳) 1点

★確か藤田さんは14号の読者ハガキでは「宇野薫っていったい誰ですか?」と投稿してきましたね。この際だからまとめて教えてあ・げ・る。浅草キッドは、今年、早大受験で『東スポ』紙上を賑わした、たけし軍団所属の実力日本一漫才コンビ。プロレスファンには昨年のバトラーツ両国大会にKPG(キッドプロレス軍団)として登場したのはあまりにも有名。一方、宇野薫は、先に行われたUAEでのアブダビコンバット76級で2位に輝くなど、人気実力とも急上昇中の慧舟會所属の格闘家。プロレスファンには現在廃刊中の『爆闘プロレス』(93年10月号)の「パンクラス入門テスト」ページで若かりし頃の姿が掲載されているというのはあまり知られていない。あい～や。

『紙プロ』にアナタはいくらまでならだす?

百万円(ホンマに)。

(大阪市　祖父江伸知　男　17歳) 10点

★この間なんて五百円玉で給料出たもんなぁ(いや、これホント)。そんな貧乏会社に若き救世主登場。ホンットにありがとう。なんか名字からして金持ってそうだもんなぁ。次号から請求書送るからヨロシク!

読者に断り無く値上げした上にその後の説明もないのに、まだ値上げするか! やっと軌道に乗った「紙プロR」を山口日昇はつぶす気か?

(東京都　島本直也　男　28歳) 1点

★いつから軌道に乗ったのかは知らないけど、

松澤チョロが道場主を務める投稿コーナー『HAGAKI OF DREAM(夢のハガキ)』では、目的意識を持ってもらうためにランキングを制定します。採用されたハガキには、ハガキから感じられる情熱に合わせて1～5点を差し上げます。どんどんポイントを取ってチャンピオンベルトを手に入れようぜ! あい～や。

みんなのアイドル マサ・サイトー引退記念イラスト6連発!?

(埼玉県 マサ・ナカガワ 男 21歳) 5点
マサ・ナカガワデザイナーにもマサTデザインをしてもらいたい。

(静岡県 渡辺てる美 女 26歳) 4点
メチャメチャ恥ずかしがってるキュートなマサ。

(神奈川県 キャロン先生 男 23歳) 4点
カルピスを飲み干してしまったマサ。残るは性欲のみ?

(愛知県 キャプテン名倉 男 29歳) 5点
大変だ! マサ火山が大噴火してます。こうなったらもう誰にも止められません。

(東京都 アミロース和泉 男?歳) 3点
ボクはマサ引退試合を見ながら不覚にも涙を流してしまいました。

(東京都 笹原靖 男 20歳) 2点
これはちっと似てないなぁ……って思ったらインディー界の大物・鶴見五郎でした。

山口日昇は「俺は癌かもしれない」と言って会社にも出てこないので真相は薮の中。メガネスーパーさんスポンサーに付いて下さい。

世紀末だからいくらでもいい。
(埼玉県 本間徹哉 男 16歳) 5点

★本間クンのような暴れはっちゃくな内弟子をハガキオブドリームでは随時募集しています。底辺拡大! 未来は明るい!

もし値上げしても買いますよ~。やりくりには自信あるし。
(愛知県 真下純子 女 29歳) 5点

★ありがたいねぇ。俺もヤリヤリクリクリには借金あるし。頑張るよ!

「650円」今の定価は少し高い気がします。最初はもっと安かったです。少し強気になりすぎ。
(滋賀県 奥村良輔 男 19歳) 2点

★入会金無料にするから許してくれ。あい~や。

文句があるならかかってこい!

ふざけとんかえー、だいたい1月下旬発売予定やったんちゃうんか。何回本屋に行ったと思うねん。カソリン代かえせ。このドロボー野郎。その上このプレゼント15日必着てどういう事よ。13日にやっと買ったばっかりやねんぞふざけんな。読者をなめとんのか、バカヤロー!! 富山の舎中やおもてなめんなよー。(原文ママ)
(富山県 橋本美代子 女 33歳) 3点

★まあ落ち着いてくれ。15日必着のプレゼントは前田vsカレリン戦のチケットだけ。そしてあなたのプレゼント希望は山口日昇アメリカ土産。OK? 確かに発売日が送れてしまったのは悪かった。ただカソリンってなんだかわかんないから返せないや。ゴメンなすって!

(大阪府 WCWあまぐり 女 18歳) 5点
カラーで見せられないのがちっと残念。

あなたがマッチメーカー!! 第1回【リングス編】

前号で華々しく始まった"あなたがマッチメーカー!!"一生懸命考えて投稿してきてくれた読者の皆様すいません。私の企画ミスでした。どうにも面白くなりそうにないので、これで終わりにします。さらには中川画伯に考えてもらったマッチメークにおいて誤字、脱字等が5箇所も指摘されました。中川画伯、本当に申し訳ありません。お詫びに、今回紹介するブルドッグ君と中川画伯には、リングス特製グッズをお送りいたします。今後もリングスに限らず面白いマッチメークを考えついたら、「HAGAKI OF DREAM」まで送って下さい。何かの参考にします。

石川県・ブルドッグ君の考えた マッチメーク 5点

試合	カード	コメント
第1試合	坂田亘vs桜井速人	リングスvs修斗オープニングマッチ
第2試合	D・V・ポパイvsジェラルド・ゴルドー	恐すぎる2人による恐すぎる戦い!!
第3試合	成瀬昌由vs佐藤ルミナ	リングスvs修斗セカンドマッチ
第4試合	ヴォルク・ハンvs武藤敬司	結構レベルの高い寝技の攻防が見られそうな気がする
第5試合	ハンス・ナイマンvsアンディ・フグ	ナイマンはK−1でも充分イケると思うわけなんだが(吉田調)
第6試合	田村潔司vs船木誠勝	どっちが真のヤセマッチョか戦って決めたらええんや!!
第7試合	ビターゼ・タリエルvs小川直也	小川がタリエルの「世界一の正拳突き」をどうさばくかが注目!!
第8試合	山本宜久vs高橋義生	前田道場vsビーズ・ラボの看板をかけた戦い!!
第9試合	金原弘光vsヒクソン・グレイシー	金原ならマジで勝てると思う
第10試合	高阪剛vsマーク・ケアー	TKよ世界一強い男になってくれ!!!

まさに夢のカードだらけのマッチメークだね。武道館クラスは超満員間違いなし。個人的には、ハンvs武藤は是非とも実現してほしい。できればIWGPをかけてね。ハンにドラスク! ハンにムーンサルト! ハンとスタイナーポーズ!

HAGAKI OF DREAM オフィシャルランキング

順位	名前	点数
1位	真下純子	15点
2位	武田いづみ	10点
2位	ブルドッグ	10点
2位	祖父江伸如	10点
5位	本間徹哉	9点
6位	辻村芳修	7点
7位	中川雅博	5点
7位	WCWあまぐり	5点
7位	井上章子	5点
7位	太田桂右	5点
7位	キャプテン名倉	5点

(東京都 斉藤日明 男 25歳)
試合開始直前なのに撮影OKを出してくれたGK。撮影担当のマスクド店長が緊張していると「早くしろ、カチ喰らわすぞ!!」なんて気配りの一言。そんなGKにリスペクトの念をこめて、僕らは「GK組」を名乗らせて頂きます。

(シカゴ ホーク・ウォリアー 男 40歳)
ニホンダイスキ。カミプロ、イチバン

(世田谷区 ぴのこ 男 27歳)
大好きな小島選手と新日道場の近くで撮らせていただきました。IWGP世界ヘビー級チャンピオンになるまで毎日応援しています。身体に気を付けてコジマックス・ホールドにいっそうの磨きをかけて下さい。

(福井県 藤野敦 38歳)
何が楽しくてボクは中華料理屋の追っかけをしてたんだろう。今になっていろいろと考えさせられる一枚です。

HAGAKI OF DREAM

では、夢のあるハガキをいつでも受け付けています。しかも無料体験キャンペーンを毎日実施しておりますので、お気軽に!

●本誌へのご意見、ご感想 ●愉快なイラストたち ●『紙プロ』でやってほしい企画 ●街で見かけたプロレスラー&格闘家 ●プロレスラー&格闘家との記念写真などを送って下さい。宛先は「ハガキ道場」ではなく「夢のハガキ」係までです。くれぐれもお間違いのないように。HAGAKI OF DREAM で一緒に夢をつかもうぜ! あい〜や。合言葉はストレートに「あざとい男!」です。これを明記するのが筋っちゅうもんや。ハガキ&手紙の宛先は……

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 (株) ダブルクロス「夢のハガキ」係まで

POST CARD
1510051
渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス
ハガキ道場行

ハガキ道場
SAKAI NOBU

ハガキ道場

どうも、最近「ちょっとだけ痩せた」と評判のノブです。この『ハガキ道場』もちょっと痩せて、今回は2ページでお届けします。バトミントン特訓でちょっと東京を離れていたから、その隙にチョロさんが2ページを強奪していきました。これはズバリ言って生存競争です。「手にしたものは離さなければいい。失ったものは取り戻せばいい」というノブ・イズム全開で細く長く燃え続けようと思います。サイキョッ!!

代表=SAKAI NOBU

（石川県　ブルドッグ　19歳　♂）5点
2年以上やって初イラストだよ。それがこれ。だいたいどんなツラなのか、わかります。ありがとう、ブルドッグ！

ひとり寂しく会社に残って仕事を片付けていた夜中のことです。「NO.15でサロン・ド・ロケンカに載った者ですが」という女性から電話が掛かってきました。曰く、「『編集者は芸人なんだよ』ってどういうことですか？ プライベートなんかねえんだよ。」「ジャイ子って女の子かわいいじゃないですか？ ブスって言ったら傷つくんじゃないですか？」「言っておきますけど、この電話は録音してありますから」と非常に女性らしい口調で、いろいろ抗議をおっしゃってるのでひとつひとつ説明申し上げました。そしてその女性の方、最後には「あなた、私より年下でしょ？ なんなのこの文章の言葉遣いは？ 謝罪文出しなさいよ!!」とおっしゃるのです。別に書いた内容に関しては謝る気はサラサラないのですが、まだまだボクも発展途上の身であります。「年上の人に敬語を使わなければならない」という、大事な教訓を頂きました。自分のいたらなさに胸が痛み、目から涙がとめどなく流れ、手の震えは止まらず、お腹は張り裂けそうです（次ページ参照になさってください）。自分も、名前を出して、顔も出して、挙げ句の果てには腹まで出して文章を書いているので、細心の注意を払っておりますが、この件に関してはあなた様のおっしゃるとおりでございます。本当に申し訳ございません（以上、坂井ノブからの謝罪文）。というわけで、目上に敬語、目下には宇宙語を駆使してお届けするガラクタ読者ページ、お元気に発進いたしますが、皆様におかれましては準備よろしいですか!? それでは、始めさせていただきます!!

ジャイ子さまへ。背が高くて大きいと結構じゃないですか！ 私なんか157センチしかないので、電車の中では人に埋もれて酸欠になるし、K-1を見に行っても選手の上半身しか見えないし、ロクなことないです。チビ男のタワ言など気にしないように！ ところで、いまだイったことがないそうですが、それはたまたま。相性も良くテクもある男性に巡り会ってないだけです。いままでの人がヘタだったのです。一旦コツを掴めば、あとは応用もきくので、何とか一度そういう相手に遭遇すればいいのですが……。ぐわんばれ！ 私もその境地に達するまで5年かかってたけど（以下略）。
（神奈川県　匿名希望　26歳　♀）5点

★ジャイ子の許可を得て、公開しました。これを読んで泣いています。そうか、そんなにありがたかったのか…感謝の気持ちという、人間が最も忘れてはならない大事なハートを取り戻したんだね。おめでとう、ジャイ子!! えっ、違う!? 悔しい？ 気持ち悪い？ 尿道が痛いの？ あらそう。というわけで、このアドバイスがジャイ子にどういう影響を及ぼしたかは確認が取れませんでした。結果が出るまでがんばれジャイ子!!

（東京都　大塚芳行　男　36歳　♂）
リング外のカレリンのタコみたいにクネクネした動きはかわいかった。

橋本！ とっとと新日本やめちまえ！ プロレスなんか守らなくていいから、己のプライドを守ってくれ！ プロレスを守るのは蝶野、武藤らに任せておけ！ 小川！ あんたは猪木というよりモハメド・アリにそっくりだ！ その調子でどんどん狂え!!
（神奈川県　キャロン先生　23歳　♂）2点
★アリもいいけど、いまならルパンでしょ。とにかく最高だった小川の猪木パネル泥棒事件。「マスコミは『東スポ』だけでいい」と常日頃から言っている長州選手はあれを独占スクープした『東スポ』をどう思っているのだろう？

私は小川と同じ明治大学だったのですが、当時つきあっていたテニスサークルの先輩が、体育クラスが小川と一緒だったそうです。ある日、柔道の授業のとき、彼が小川に「ちょっと技をかけてみて」と言ったら、足首の骨を折られてしまい、現役最後の試合に出られなくなってしまった……という話を突然思い出しました。先輩（元カレ）は「チクショー。ちょっとって言ったのに、笑いながら本当にかけやがって」と怒ってました。その頃から、キラーぶりを発揮してたんですね。
（東京都　高橋由美子　30歳　♀）5点
★笑いながら骨を折れる男・小川選手の凄味あふれるエピソード。洗脳とか言われてるけど、小川は元々タチの悪さと強さを併せ持った超豪傑なのだと再確認できました。こういう超人的エピソードをゴロゴロ持ってるのがプロレスラーであるべきと、つくづく思う。ホント素敵なプロレスラーですよ、小川選手は。もう最高!!

「ビッグレスラー」4月号 愛読者カード

あけましておめでとうございます。（年賀状）

（千葉県　武田いづみ♀18歳）4点
季節外れの年賀状、どうもありがとう。殿堂入って（本誌14号参照）受験勉強に精を出す武田いづみちゃんから届いたファンキーな年賀状。オーイェー。ところで受験はどうなったの？ 連絡ください。

ボクはキャプチャーの斜め向のコンビニでバイトしているのですが、先日コピー機のところに地下室マッチの対戦表が忘れられていました。思わず持って帰りました。
（神奈川県　吉備津紘　20歳　♂）2点
★前号で母親が、太田章氏にナンパされたことを告白してくれた吉備津さん。そんな楽しそうなところに勤めてると、たまに北原選手が大暴れしたりするんですかね？ 何か事件があったら報告してください。

今回晴れてシニアファイターに昇格させて頂いたのだが、「そこそこいい粗品」すらもらっていない。お礼をきっちり考えているというのに。
（愛知県　キャプテン名倉　29歳　♂）3点
★2月21日の前田日明引退興行で、大量に物販部隊を投入した我が社。その看板娘（とにかく目立つからね）のジャイ子に「キミに会いに来たよ」と、かっこよく捨てぜりふを決めたらしいキャプテン。そんなアナタにジャイ子の一日デート権をプレゼントしてもいいかな、なんて思ってます。とりあえず返事ください。

ジャイ子のカラーページ（アイドル誌とかのプロフィール記事みたいな）とか『CUTiE』みたいなモデル姿が見たい!!
（兵庫県　伊尾木泰一郎　33歳　♂）1点
★フリップ・フラップに似てるともっぱらの噂だがどうしてなんでしょう？ 最近、ストレートヘアにチェンジしたジャイ子は、ボクの目から見ると石井苗子そっくり（乳は除く）だと思うんですが、いかがですか？

正月早々「びっくりしたなあ、もう」と南伸介が生き返って、出てきそうな勢いの1・4 エスチャー!!〃in東京ドームでした。ハンパじゃない化け方をした小川直也。「オーちゃんだけに『バケラッタ、バケラッタ』ってか!?」とは近所のオバQマニアの声です。また実質的に小川以上に「問題ありますよ（ホメ言葉）」な佐山インタビュー。面白さが度を超え過ぎている。クスリ打っているのはアンタか!? ということで"狂人放し飼い"UFOの未来は、とことん明るいでしょう。
（熊本県　塩本祐介　33歳　♂）5点
★うまいっっ!! いいねえ、寿司食いねえ。佐山インタビューの危険性は、いろんな人

99・2・21 前田日明 STORY

おしまい。

（大阪府　英加直純　♂）5点
文句なしのクオリティですよ。わかりにくいかもしれないが、じつはこれは切り張りなんです。グーの音も出ない。

特集
イラストで振り返る 1・4事変!!

（神奈川県　西野宏明　♂）4点
のび、飛距離、殺傷能力、ともに最高レベル。精度を上げればノー問題。それにしてもフライvsゴルドーは見たかった。

（愛知県　キャプテン名倉　29歳　♂）5点
相変わらず小川は目ぇ飛んどるやん。飛んでるし。

（熊本県　塩本祐介　33歳　♂）4点
巨匠、相変わらずナメた佐山を書かせたら右に出る者はいない。

（山口県　今年のチョコは17個でした　18歳　♂）（12&14号分含めて15点）
怒涛のような書き込みでピンナップにもなった（12号&14号）彼のイラスト新境地。

イラスト ガラクタ軍団 結成!!

レベルが高いとおしかりを受けるハガキ道場のイラストだが、絵は上手くなくてもおもしれえイラストがごっそりある。その人たちを愛と敬意を込めて『ガラクタ軍団』と呼びたい。

各1点

(岡山県　アミロース和泉　花の19歳　殿方)
合い言葉も、ちょっとした気配りで華やかなものになります。

(神奈川県　渡邊孝一　27歳 ♂)
27歳とは思えないフリーキーなイラスト。ルイージだと思うんだけど、あなたは何に見えますか？

(東京都　西山昭二　19歳)
さびしいな。

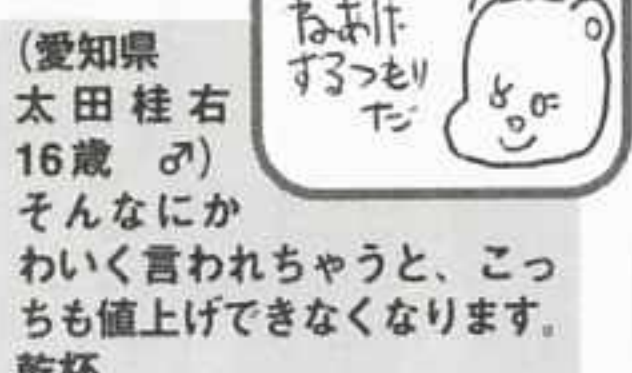
(神奈川県　国本泰成　19歳 ♂)
お前ら、よく聞け!!　ガラクタと、ポンコツは違うんじゃ!!　はっ!!　すみません、言葉に気をつけます。

(富山県　福原統　19歳 ♂)
ジャンクな猪木。熱もない、思い入れもない、でも夢があるじゃないか。ってな感じのイラスト。

(愛知県　太田桂右　16歳 ♂)
そんなにかわいく言われちゃうと、こっちも値上げできなくなります。乾杯。

(広島県　柚山貴史　19歳 ♂)
数年前のパンチパーマな日明兄さん？

前号の人気投票

紙プロ RADICAL No.15 御意見番

1位　小川直也with S.S.　インタビュー
- いま一番ホットな話題の超本人の声だから(東京都　山崎雅幸　19歳 ♂)
- 佐山さんのヒドすぎる発言がいい(静岡県 伊村勇希 21歳 ♂)
- 目を覚まさなくてよし。ず〜っと寝てろ(北海道　佐々木裕　23歳 ♀)

2位　佐山聡　インタビュー
- 佐山、最高！ もう頭痛いねっ!!(東京都 緒方弘 18歳 ♂)
- さりげなくすごいこと言ってるからで〜す。(宮城県　小松俊紀　36歳 ♂)
- どんどん佐山さんがわからなくなった(神奈川県 村越みな　28歳 ♀)

3位　前田日明in USA　インタビュー
- 他誌での報道がなさすぎ(千葉県　荒正紀　25歳 ♂)
- シアトルでのインタビューなんてダブルクロスも大きくなりましたね。これからもいろんな場所に飛んでください。(北海道　田中正　32歳 ♂)

4位　4代目タイガーマスク　インタビュー
- みちのくでは元気のなかったタイガーとは全然違うのでショックだった(岐阜県　富山さえ　21歳 ♀)
- 「鉄砲玉」っていうのも好きだし、「入場の時に相手の奇襲に備えてた」というのは痺れた。ヤクザ映画とか大好きなので(高知県　海野達也　32歳 ♂)

5位　小川vs橋本戦　証言ファイル
- 谷津、佐山、前田の話を読んでいくと仕組みが見えてくるようなこないような……猪木-長州のホットラインがあるんじゃなかろうかと疑いたくなりました。(福島県　森拓介　32歳 ♂)

が心配してくれます。が、本人の耳に届いているかどうか。馬耳東風、蛙のツラに小便、佐山に甘いものといった感じでしょうか。

高田発言、ところどころの馬場GAGはあまりにもタイミングが悪すぎた。バカ掲示板のクソ共に何言われても、「やる時ゃやる」モードの「らしさ」を期待しています。

(千葉県　荒正紀　25歳 ♂) 2点

★たしかに、タイミングの悪い人は多かった(ボク、藤波を含め)。もう、リングで結果を出すしかないでしょ。

デカ日誌よりデブ日誌が読みたいス。自分も秋から冬にかけてデブの道を進みつつあり、それがネックで人前にも出られません。坂井結核に戻したら、ゲッソリやせそうな気もするのだが、どうだろう？

(宮城県　入澤琢磨　24歳 ♂) 3点

★だから、オレは痩せたんだって。ちょっとだけど。全然、結核じゃなく、超健康優良児になってしまった。いまじゃアレクサンダー・デブリンなんつってな、ハハハハハ……はあ。

友人の拓ちゃんに頼まれて、初めて『紙のプロレス』を買ったのだけれど、同じ日に拓ちゃんも買っていて、結局自分で読みました。長い間プロレスに興味を失っていたもので知っているプロレスラーがほとんどいなかった。プロレスに熱中していたのは力道山や大木金太郎やマミーやブラッシーが活躍していた頃だから、時は流れたんだなーと思った。

(東京都　山本直彦　41歳 ♂) 5点

★拓ちゃんって誰？　そして読んだ感想が「時は流れたんだなー」ってそれだけか！　チクショウ、おもしれえじゃねえか!!

『週プロ』『ゴング』『ファイト』は小川の意見も聞かずに橋本寄りに書いている。新日本が怖いのだろうが、そのクセ読者のページには小川よりの意見を載せまくるという矛盾によるストレスをこのインタビューは解消してくれたから。

(東京都　及川喜彦　28歳 ♂) 4点

★でも、こちらから新日って取材、出来ないんですよね。読者パワーで嘆願書とか署名運動してくれないかな？　まあ、引き続き頑張ります。

オイオイオイどうなってんだよ吉田豪!!　アンタの文章メチャクチャおもしれーじゃねえか!!　しかも男前じゃねーか!!　しかもパツキンかよ!!　さしずめイカした東京人ってとこかよ〜。これからも頑張ってくれよな!!

(石川県　ブルドッグ　19歳 ♂) 5点

★前号で載せたら、今号は山のようにハガキを送ってきたブルドッグ。かなりの高打率で面白いハガキを連発するのだが、載せられない!!　その中でもこれは、場外ホームラン級の一枚。それまでは「何だよ、コイツ」とか言っていた吉田豪も、このハガキを読んだ途端「こいつはいいヤツだ」と言いだしたとか。これからも我が社に幸せを運んで下さい。

前号P.60の『女の闘いはあさましいエゴの死守にある』。このようにカタブツ君がこんな素晴らしい記事を書けるとは思わなかった。カタブツさんに感心した。でも何かのうけ売りではないでしょうね。

(愛知県　後藤幸雄　31歳 ♂) 4点

★ここ最近巻き起こっているカタブツ再評価の声です。いまだにちょっと信用がないのがカタブツのカタブツたる所以です。

16号が出る頃、おそらく私は無職。一体、どーなるんでしょうか？　って自分で辞めたんやけど。仕事ください。そして今日、犬を追いかけてて、転んで、水たまりに顔から突っ込んだ。マジブルーっス。カタブツの顔を見るのと同じくらいムカついた!!　アホっ、ブチ!!

(北海道　上田恵　28歳 ♂) 2点

★そうかと思えば、相変わらず嫌いな人は嫌いみたいです。あなた、「山口日昇のヨメになりたい」と言ってましたよね？　そのために仕事辞めたの？　だったら迷わずゴー・フォー・ブローク!!

本当なら私も前号の新日アンケートに参加していた筈でした。忘れもしない1・4闘強導夢大会終了後、寒空の中で私もカタブツ君から声を掛けられました。私はそのとき、必要以上に勝の低い彼に対して、これ以上はないほどの好印象を受けたのです。そして彼は、筆記用具の持ち合わせのなかった私に、一本のボールペンをかしてくれさえしたのです。しかし、そのボールペンは不良品なのか、ひと文字さえ書くことは出来なかったのでした。やはりカタブツ君は使えない奴でした。それでも、私は卑屈なカタブツ君が大好きです。編集部のみなさん、どうかこれ以上彼を虐めないでください。使えない奴は虐めすぎると「鬱病」に掛かって余計に使えなくなります。ちなみに、現在私はソレで自宅療養中です。

(神奈川県　匿名希望　34歳 ♂) 4点

★そんなあなたに元気をお届けする『紙プロ』です。しかし、相変わらずやってることはやってる。カタブツ君のナイスジョブちょっといい話。

(千葉県　神子佳世　16歳 ♀) 5点
ハガキ道場の金の卵・神子佳世ちゃん(女子高生)。特に気になったのは「父は10月24日旗揚げ戦が大好きです」というところ。あんまり、そういう単位で好きにならないよね、普通。その他の受け答えも、なんか素敵なズレ方してるね!!

(東京都　北野篤 ♂) 5点
紹介するのが遅れてしまって申し訳ないのですが、「ビートたけしの息子さんが『紙の前田日明』を読んで面白いと言っている」という情報を教育係の浅草キッドから受けた本誌編集部。さっそく篤くんにバックナンバーありったけをプレゼントしました。そして、律儀にもお礼のハガキまで頂いてしまいました。うぉ〜、なんか感激だ!!　これからも読んで、ハガキ出して下さい!!

(愛知県　キャプテン名倉　29歳 ♂) 4点
せっかくのイラストにブチはタバコの灰を落として焦がすという無法ぶり。最近はインテリになりたいらしく、本ばかり読んでいます。いいことです。

(熊本県　塩本祐介　33歳 ♂) 3点
ファン一堂の気持ちです。いや、これホント。

(埼玉県　中川雅博　20歳 ♂) 5点
前号の『あなたがマッチメイカー』で、こんなに誤植を指摘されたチョロ。TARUでさりげなく怒りを表現するあたりが「画伯」って感じです。みんな、ハガキはハガキ道場に出そう。

紙のプロレスRADICAL　No.15 P.110
ヘニズマン → ヘイズマン
コピュロフ → コピィロフ
ヒュードロフ → ヒョードロフ
交換 → 好感
とても残念です。
中川雅博
あまりにガッカリ…

ハガキ道場 オフィシャルランキング

❶中川雅博 82点　❷塩本祐介 64点　❸今年のチョコは17個でした 56点　❹キャプテン名倉 36点　❺武田いづみ 23点　❻今井麻実 20点　❼うしえもん 18点　❽英加直純 15点　❾佐藤耳夫・ブルドッグ・武富浩二 12点　⓬神子佳世 10点

オーッ!! からピクピクから最強論まで語り尽くせ!!

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai

ジャンボ鶴田引退or転職!?記念 オー者(鶴田好き)たちの座談会

馬場逝去の衝撃が一段落しかかった2月20日、ジャンボ鶴田が記者会見で突然の引退&大学教授としてアメリカに行くことを発表した。けた違いな体格で圧倒的な強さを見せつけ、「鶴田最強説」まで誕生してしまったジャンボ。しかし、長州や天龍や馬場や猪木といった時代の寵児たちに比べると鶴田はいたって寡黙。そんな鶴田に勝手に幻想を抱いてしまった男たちが、その魅力を語る!

日本一語りにくいレスラー
ジャンボ鶴田を語る4人のオー者たち
（順不同）

マスクド店長（バンバンビガロ・岩渕）
17年前、勝手に藤波のマンションへ行くも本人不在でガッカリ。が、「明日の4時からいるからまたおいで」と言うかおり夫人に感激!! 翌日サインをＧＥＴしてからのドラゴンバカ。今日は永遠のライバルを熱く語るぞ!!

中田潤
1959年、岡山生まれ。フリーライター。「僕のレスラー人生で完敗した唯一の試合」と鶴田本人が語る昭和63年3月27日、日本武道館での対ブルーザー・ブロディ戦を観て完全な鶴田信者と化す。

花くまゆうさく
私の小学生時代は、全日ガイジン天国でして、個性的なガイジンレスラーに首ったけで、鶴田に熱い視線を向けることはなかったです。しかし、それでも「友美」という本名が「寛至」や「正平」とともに、小学生心をくすぐったもんです。

吉田豪（本誌スーパーバイザー）
よりにもよって猪木引退の記念日、4月4日に新宿ロフト・プラス1で悶絶プロレス秘宝館3発売記念＆ジャイアント馬場追悼イベント『馬場さん、目を覚ましてください』を開催。当日はゲストに山口日昇本誌編集長も登場予定？

鶴田ファンではないけど、鶴田最強説は唱えてた（花くま）

――今日はジャンボ鶴田の引退を記念して、鶴田の魅力について語り合いたいんですけど、3月6日の引退セレモニーはご覧になりましたか?

豪　顔が抜群だったよね。たまらない笑顔のたびに冷静になったりして。

――最後はテンカウントゴングもなかったですよね。

豪　「オーッ」は10回やったけどね。

岩渕　それがまたカッコいいところですね（笑）。惜しかったなあ。肝炎にさえならなければ。

豪　でも、これで逆にいい状態のまま永久保存されたと思いますよ。

中田　前田（日明）だったら「もう身体はボロボロだけど、俺がお前らの脳味噌のシワを伸ばしてやる」っていうだけのものがあるんですけどね。鶴田はなんなんでしょう、最後の挨拶のときにフランク・シナトラの『マイウェイ』を流して（笑）。

豪　流れてましたね（笑）。

岩渕　せめてシド・ビシャスが歌ったバージョンにしてほしかったなあ。

豪　ＷＯＷＯＷの前田引退生中継のエンディングが、それだったんですよ。シド・ビシャスの前田と、フランク・シナトラの鶴田なんですよ（笑）。

花くま　ボクは勝新の『マイウェイ』が良かったなあ（笑）。

豪　ダハハハ！ ベストですよ。

中田　鶴田は正調『マイウェイ』でしたけど、あれこそが鶴田なんですよ。

豪　『週プロ』でやってたインタビュー・シリーズのタイトルが「俺の道」でしたからね。

中田　伏線はあったんだ（笑）。

――中田さんは昨日、鶴田本人にインタビューしてるんですよね?

中田　ええ。鶴田って着るものも革のイメージがなくて、どちらかといえば毛糸ってイメージありますよね。案の定、昨日も毛糸のセーターを着てきた（笑）。中にポロシャツを着てたんですけど、その襟になぜかボールペンをさしてて、それが身体に入ってるんですよ。

豪　まあ、教師型ですからね（笑）。

中田　それで「ボクも人間になりたいんです。もう怪物は嫌です」って、延々と言ってるんですよ。「人間に戻ったら、もう一回幼稚園からやり直すんです」って。

豪　わけのわかんないことを（笑）。

中田　それでニコッと笑うと、すごく幸せな気持ちになれる（笑）。

豪　「早く人間になりたい」って、もはや妖怪人間ですよ（笑）。でも、ホントに笑顔は抜群ですよね。

――先日、引退したマサ斉藤は引退してもプロレス界には残ってますけど、鶴田はいなくなりそうですね。

岩渕　消えそうですね。ほっといてくれってことでしょう。『ゴング』とか『ファイト』読んでも、「試合やれ！」みたいなことは誰も書いてないし。

豪　いま、誰だって試合は見たくないですよ。むしろ藤波（辰爾）が対戦要求する方がおかしいでしょ（笑）。

――病気した後の鶴田はゲッソリしちゃってましたからね。

豪　藤波は最近出た本の中でも、相変わらず対戦要求してるんですよ（笑）

中田　「マスコミを通じて藤波がああいうことを言ってくるのは間違いだ」って引退の翌日に言ってました（笑）。

豪　藤波的にはマジメに考えて、全日の会場に乗り込んだりしてたんだろうけど、すべて裏目だったと（笑）。逆に鶴田は引退の記者会見のときも、「やり残したことは?」という質問に「唯一、闘いたかった相手は前田日明」って答えて（笑）。あれでまたボクらの幻想は一気に膨らみましたね。

中田　鶴田の視野にはまったく入ってなかったね、藤波は。

岩渕　藤波ファンとしては「どひゃ～」って飛んじゃいましたもんね（笑）。

豪　全盛期に鶴田と前田がやったら、デカイ者同士で良かったでしょうね。

――たとえＵＷＦの蹴りや関節技を食らっても、鶴田なら大丈夫だろうという意見もありましたよね。

花くま　ボクは鶴田ファンにはなったことないんですけど、鶴田最強説は唱えてたんですよ。結局、誰とやっても本気にならずに勝つと思うから。

豪　格闘技的に見て、鶴田ってどうなんですかね?

花くま　そういうのを超越してる（笑）。そういうことを考えさせないで、近づく者をみんな鶴田ペースに入れるでしょ。たとえヒクソン（・グレイシー）に締められても、（ピーター・）アーツのハイキックを食らっても、こういう痙攣（両手をナハハハと広げる）すれば勝ちなんだよなぁ（笑）。鶴田は一生ああでしょ。

岩渕　ホントにマイペースですよね。

花くま　レスリングは大学に入ってから始めたのにオリンピックまで行っちゃったんでしょ?

中田　3年間練習しただけでオリンピックに出ちゃうのは化け物ですよ。昨日も、「大学の頃は人の倍練習した」とか言ってましたね。プロレスに入ってからは「殴られる練習ばかりやっていた」って言ってた。

豪　そこから先は仕事の話（笑）。興味なさそうですもんね。昔から社長になる気はなかったらしいし。「強いのはわかるけど、ファンになったことはない」って、さっき花くまさんが言ったけど、それが不思議ですよね。強いのになぜか熱狂的な支持を受けられなかった。

花くま　小学生の頃には鶴田ファンなんか一人もいなかったもん。

中田　そう。ぼんやり見てるしかないんですよ。

豪　日本人なら、とりあえず天龍（源一郎）を応援しちゃいますからね。

花くま　「オーッ」も、最初はバカにしての「オーッ」でしたからね。

中田　「そんな余裕を見せてないで、次の技かけろよ」ってね（笑）。

豪　それが余裕なんですよ。「ガツガツやってもしょうがない」っていう鶴

それぞれの「旅立ち」'99

田なりのプロ観（笑）。

中田　でも、「それがいいんじゃないの」って思ったら好きになっちゃった。

花くま　それでも気にせずに鶴田はやり続けて、あんな声援になっちゃうんだから、やっぱ凄いなあ。

豪　鶴龍対決の頃も、「天龍のプロレスは宗教みたいなものだ。ああいう浪花節的なものはファンが支持するが、オレにはそういうプロレスをやる気はない」「24時間プロレスやる気はない」というスタンスで押し通しましたね。

中田　ボクは中学生ぐらいの天龍ファンに怒られたことがあるんですよ、「なんであなたは鶴田を応援するんだ⁉」って。でも、答えられない。「だって強くて大きいから」とか、こっちが小学生になっちゃう（笑）。

岩渕　〝善戦マン〟と呼ばれてる頃から、殺伐とした雰囲気は皆無に等しかったもんなあ。

豪　（ジャイアント）馬場さんが亡くなって、鶴田の凱旋試合（昭和48年10月9日蔵前国技館、馬場＆鶴田vsファンクス）の映像が流れてましたけど、いまみるとメチャクチャ上手いんですよね。

中田　蔵前の凱旋試合で馬場さんが鶴田を立てちゃったところから、プロレスは変わりましたよ。普通は、新人はタッグマッチに出たら先陣を切ってボコボコにやられるじゃないですか？　なのに馬場さんが最初に出た。

岩渕　谷津（嘉章）とは対称的ですね。

豪　プロレス的な制裁を一度も受けないまま来ちゃってるわけですよね。最初で最後ですよ、あんな扱い受けた人。

中田「就職します」って言えたのも、「ここだけは相撲社会のような嫌なところではない」という印象を馬場さんから受けたんでしょうね。

豪　（グレート）小鹿が言ってたんですけど、鶴田がそれまでの相撲的な流れを断ち切ったみたいですね。それ以前は〝かわいがり〟的な相撲体質があったんだけど鶴田からなくなったと。鶴田って馬場さんの靴の中で子猫が寝ていたのを見て、全日入りを決意するんですよね。

中田　また毛糸系の話じゃないですか。冬の日だまりのようなヌクヌクした感じ（笑）。

豪　実際には寝返りを打っただけで猫を圧殺してるんですけどね（笑）。

岩渕　猫殺しだ（笑）。

中田　でも、鶴田本人は入団記者会見で「就職します」と言ったことを凄く後悔してるんですよ。

豪　だから今回も引退じゃなくて鶴田にとっては単なる転職なんですよ。

中田　豪さんは鶴田は最初から好き？

豪　ホントに凄いと思ったのは、三沢（光晴）とかとやり始めてからですね。「これは底なしだな」と思って。

'84・2・23蔵前国技館　ニックを破り、日本人初のＡＷＡ王座を取った。この試合は、レフェリーなのに場外で鶴田以上にピクピクするテリーが強烈に印象に残っているファンも多いのではないか？

中田　やっぱり同じだな。それまではぼんやり見てるしかなかったもの。

花くま　ボクは天龍戦あたりかな。ピンフォールで勝った天龍がクタクタになってて、その横を鶴田が「おつかれっ!!」ってひょうひょうと歩いていく姿を見て（笑）。

岩渕　（リック・）フレアーとかニック（・ボックウインクル）に挑戦し続けた頃はイライラしましたよね。やっとニックからＡＷＡのベルトを穫ったときには、やけにスカッとした。「やっと勝ちやがったか」って（笑）。

花くま　あの頃は引き分けの試合ばっかりでしたよね。「残り時間30秒」っていうアナウンスが入ってから、鶴田はいきなりボストンクラブするんですよ（笑）。ああいうので、「何やってんだよ!!」って思ったなあ（笑）。あの頃、ボストンクラブで試合が終わるなんてめったになかったもんね。

岩渕　他になんかないのかよって感じですよね（笑）。オリジナルの技っていったら拷問コブラツイストぐらいかな？

豪　いや、ジャンピングニーもそうですね。「沢村忠の真空飛び膝蹴りを見て開発した」って（笑）。

岩渕　テーズ仕込みのバックドロップを伝授されてからはやっと「強い鶴田」っていうイメージになってきたけど、星パンツを履いてた頃は応援できなかったな。長州との60分フルタイムで引き分けた試合って、いま考えると最初に底なしの鶴田が垣間みれた試合ですよね。試合でキレたことはあったんでしたっけ？

中田　パワーボムで天龍を投げたら気絶しちゃったとき（89・4・20大阪府立体育会館、鶴田vs天龍）「俺ってこんなに力が強いんだ」って思ったらしいですよ。やっと気づいたか、鶴田って感じですけど（笑）。

岩渕　30代の後半になってから（笑）。

花くま　逆に鶴田が本気を出したら負けって感じがしますよね。

岩渕　鶴田がキレたら、どうなるんだろうなあ。天然さでは、北尾（光司）がちょっとマジになったような感じを受けるんですけど。

豪　北尾チックなわがままな部分がなくて、マイペースなんですね。山梨出身っていうのが大きいと思うんですよ。武藤（敬司）も「オレは山梨の山猿だ」って発言してますから（笑）。

中田　そうか、風土が原因かもしれないね。でも、以前はジャンボを応援するというのは屈折した心情だったわけじゃないですか。ボクもインディーのパンクバンドをやってたもんで、ジャンボを応援するのがなんとなく私の心情にピッタリという感じの嫌なヤツですよ。中学生に怒られても仕方がないですよね。それが（ブルーザー・）ブロディーが鶴田に勝って泣いた試合を見て、屈折した気持ちで応援していたのが間違いだったと気づいた。

岩渕　全日本も毎週ＴＶ中継を見てましたけど、ジャンボがいなくなってから見なくなりましたよね。

豪　ボクも完全にそうですね。

岩渕　三沢の鼻っ柱をにガツーンとエルボーを入れてた頃は激しかったですよねぇ。

――「一試合中にハイキックで菊地（毅）のアゴをハズして、ジャンピン

花くま先生による完全脱力主義者・ジャンボ鶴田のピクピクを見事に描ききったイラスト。試合終盤、ダメージが大きいと鶴田はよく痙攣したものだ

「大きい人は練習しません」って三沢が言ってましたよ（中田）

グニーで元に戻した」って話もありましたよね。

豪　鶴田という壁に立ち向かうという構図が全日としてはベストなんですよね。天龍にしてもそうだし、三沢とかにしてもそうだし。

岩渕　いま考えると鶴田＆田上（明）組って、ホントに最高だよなあ。あの頃は大嫌いだったんだけど。田上はなかなか鶴田になれないですよね（笑）。

中田　そうだね。でも、鶴田ファンとしては期待しちゃいますよね。

'85・11・4　長州とのシングルマッチは60分時間切れ引き分け。鶴田は自ら「作戦勝ち」と振り返るように、いかに自分が強く見えるかを考えてプロレスをしていたという

岩渕　馬場と鶴田がうまくミックスされたのが、田上ですよ。

豪　鶴田の呑気なキャラクターを受け継いでるのが田上なんですよね。他の本（『戦国プロレス＝格闘技読本』）でも書いたけど、鶴田が病気になった直後にアルティメット大会が出てきて同列に語れなくなったのは、鶴田の強みでもあり弱みでもありますよ。まあタイミングも良かったんですね。

岩渕　三沢にフェイスロックで負けた試合（91・9・4日本武道館鶴田＆田上vs三沢＆川田）も解せなかったね。

豪　でも、鶴田が最初に三沢に負けた試合（90・6・8日本武道館鶴田vs三沢）って最高じゃないですか。ロープに股間を打ち付けて（笑）。

中田　でも、三沢に会って「いままで対戦した中で、いちばん強かったのは？」って聞いたとき、「飛び抜けてたのは鶴田さん」って聞いたときは、嬉しかったな。

岩渕　ホッとしますね。

豪　「練習しない」って言い切ってたんですか、三沢は（笑）。

中田　「大きい人は練習しません」って言ってましたよ（笑）。田上のことも指してるんだろうけど。

豪　おそらく馬場のことも言ってるんでしょうね（笑）。

中田　三沢の話を聞いたら、「格闘技だ、バーリ・トゥードだってあるけど、あんなもん鶴田が病気してなかったら誰が来ようが負けるわけがない」って気になりますもんね。

豪　パッとしない星パン履いてた時代から、「鶴田は強い」っていうイメージはあったんですかね？

中田　どうだろう？　急に強いことになっちゃったからなあ。

豪　当時はまだアマレス幻想はない時代でしたよね。

岩渕　「天龍は西本（聖）、俺は江川（卓）」って言ってましたけど。

豪　その流れでいい発言があって、「みんな俺に横山やすしを期待するだろうけど、オレは西川きよしなんだ」って（笑）。

中田　嫌われてることを自覚して、こういう発言をいっぱいしてますね。

豪　嫌われてることを知ってるから、「俺はこんなに呑気なんだ」っていうことをアピールしてるんですよ。

中田　全日本は「あんなのスターになるわけないよ」って感じのヤツをスターにしてたんだよね、馬場さんが。

豪　泥臭い集めましたよね（笑）。

――顔だけ見てたら、みんな凄いで

馬場派から見たジャンボ鶴田論　栃内良さん

馬場さんが、長州力の新日カムバックについてコメントを求められたときに「泥に手を突っ込んだような2年間だった」ということを言ってるんです。猪木がつくり出した長州というレスラーは、馬場さんにとって泥だったんですよ。自己主張することも含めてね。ボクは、三沢や川田の世代も、ちょっとは泥にまみれちゃってると思うんですよ。馬場さんがつくり出した泥のない清らかな水の世界に最初から最後まで身を置いていたのは鶴田だけですよ。

天龍、藤波、長州が「俺たちの時代」って言ってましたけど、勝手にみんなが言ってるだけで、鶴田は自分が入ってるとは思ってないんじゃないですか？　妙な自己主張しませんからね。たぶん藤波が「鶴田と闘いたい」って言ったり、長州がムキになったりするのも鶴田にとっては、なんでかわからないだろうと思います。「清い水だけでやってるのに、なぜそんなに目立とうとするのか」と思ってると思うんですよ。バスケット、アマレスで五輪選手、馬場さんの全日本プロレス、そして大学教授。人から後ろ指さされるような生き方はまったくしてないですからね。コンプレックスをもってどうのこうのという生き方はしてないんですよね。

やっぱり清い世界をつくるには圧倒的な人望と財力がないと成し得ない世界なんで、そういう世界はもう二度と出来ないような気がします。それが唯一出来たのは馬場さんですよ。馬場さんのウソをつかない、人を騙さないという道徳の教科書的な生き方は、いまの茶化す時代の中ではお笑い草なんですよ。そういう時代の中ではたとえ、鶴田のような圧倒的に能力がある人が出てきても、それを抱え込む清い世界を作るのは不可能ですからね。

2月2日　馬場さんの遺体が密葬に向かうところでは、最前列で見送ったジャンボ。鶴田が自己主張しないのは、馬場の世界が確立していたからだ

もし鶴田が馬場さんじゃなくて、猪木さんの元へ行っていたら。あの邪念のような感情を持っていたとしたら、怖ろしいですよね。ボクは、鶴田はずっと見えない力に導かれてきたような気がしますね。馬場さん支持派としては、「最後まで馬場さんの側にいて、馬場さんと共にマットを去っていきましたね。本当にありがとう」という感じです。（談）

すよね（笑）。

豪　ＵＷＦが出てこないと、鶴田が強いっていう概念が出てこなかったと思うんですけど。

――東京ドームで新日と当たってからですかね（90・2・10東京ドーム鶴田＆谷津vs木戸修＆木村健吾）。

豪　木戸にワキ固めを極められても、いつもの鶴田だったんですよね（笑）。

中田　どんな試合だったっけ？　ハンセンvsベイダー戦の印象にかき消されちゃったのか、よく覚えてないなあ。

花くま　ボク的には凄い試合でしたけどね。木戸ペースと鶴田ペースが、交じっちゃって。みんな鶴田に近づくと鶴田ペースになっちゃうんだけど、木戸は木戸だったから（笑）。

豪　マイペースな者同士の地味なつばぜり合いがあったんですね（笑）。

中田　話は変わるけど、鶴田って好奇心の固まりだよね。

豪　『「ランボー」みたいな映画を撮るのが夢』ですからね（笑）。『いじわるばあさん』とかにも役者で出てたし。

――音楽もやってましたよね。

豪　ジョン・レノンが死んだとき、ホントにショックで2、3日ボーっとしていたらしいですよ（笑）。

岩渕　ドラゴンも三橋美智也好きですけどね（笑）。

中田　最近は子供がいるから、ギターを弾く暇がないんだって。

豪　いいなあ。昔、巡業中にギター弾いてて、隣の部屋の馬場に「うるさい」って怒られたらしいですよ（笑）。で、レコードを聞くと、サーフ系なんですよね。若大将みたいな（笑）。キャラクターとピッタリなんですよね。

猪木的な生き方を馬場以上に否定してたんじゃないかな（吉田）

岩渕　クソォ、鶴田はいいなあ。ドラゴンよりかっこいいじゃないですか！

中田　藤波は綿が似合う人だよね。鶴田は毛糸（笑）。

豪　鶴田の子供って表に出てこないですよね。その辺が藤波との大きな違いですよね。鶴田は家庭的だけど、あんまり家庭を出さない。

――CMには出てなかったんですか？

花くま　トラクターのCMかな。

豪　最近、『ミエと良子のおしゃべり泥棒』に鶴田が出たときのビデオを見たんですけど、凄いんですよ。30分間、全部下ネタ（笑）。「ボク、マンジ固めが得意でね（笑）」とか。猪木さんとまったく同じギャグを言ってるんですよ。ホントにプロに徹してますよね。「TVに出たらこういう話をすればいいんだな」っていうのがわかってますよね。あの頃の鶴田はエースなのに女装までしてたし。

中田　他にもサーフィンやったり、テニスやったりしてましたよね。

豪　シティーボーイですよね（笑）。

中田　「でも、このキャラじゃあ」っていうのは、ありましたよね（笑）。

岩渕　ひたむきな感じはなかったなあ。

豪　異常にデカイですしね。

中田　80年代の女子大生文化みたいな人だからね（笑）。いちばん忌み嫌われる感じ？

花くま　田中康夫みたいな感じだ。

岩渕　ハハハ、いい表現だなあ（笑）。

豪　下ネタ好きもそこにつながりますよね（笑）。

中田　あのバカな時代に同化しようとしてたんだから。

豪　ホントは忌み嫌わなきゃいけない存在のはずなんだけど、やっぱりスケールがケタ違いなんですよ。

中田　そこにいちゃいけないんだよ。でも、トラクターの人なのに（笑）。でも、その文化にのっかってる人たちに鶴田のファンなんていないんだから。すごく無駄なことをやってるんだよ。

豪　でも時代に迎合すればウケるっていう邪心もないんですよね。自分が普通でありたいっていうだけで（笑）。

岩渕　その頃から、「怪物じゃないんだ」って思ってたんでしょうね。

中田　中央大学法学部卒だから、優等生だしね。でも、もう一回受験勉強出来ちゃうのが凄いよね。

豪　鶴田ってプロ意識は持ってたんですよね。でも、その持ち方が特殊だったわけですよ。「バス引っ張ったりとかするのは、プロレスラーじゃない」ってことですよね。猪木的な生き方を馬場以上に否定したんじゃないかな。

中田　「一時のウソをついて話題作りをするのは最低だ」って言ってましたからね。

豪　猪木はそれを無理矢理続けたから面白いんですよ。鶴田は何もしないことで、逆に伝説が出来ましたよね。何でも一貫して続けていれば、いつかわかってもらえますよ。

（ここで鶴田＆谷津組vs木戸＆健吾組の試合がモニターに映し出される。相変わらずの鶴田ペースで試合が進む中、全員が食い入るように見入ってしまい座談会もストップ。この試合中、ジャンボのラリアットを木戸がワキ固めで切り返し、ジャンボがナハナハと耐えきるシーンでは拍手喝采が起きた）。

花くま　そういえばこのとき天龍ファンと長州ファンがケンカしましたね。

豪　WARと新日の対抗戦のときも、ケンカがありましたよね。

岩渕　……じつはボク、あのときケンカしてました（笑）。

豪　ダハハハハ、WARファンと？

岩渕　そう。天龍vs長州で、長州が負けちゃった瞬間に、後ろの客が「見たか、オラァ！」とか（将軍KY）ワカマツみたいに騒いでるから、「オッサン、ブッ殺すぞ!!」って（笑）。

中田　でも、ジャンボってそういう試合は一回もないですよ。

豪　ジャンボの中では、そういう試合は良くない試合なんですよ。プロとして完成されたものを見せて変な幻想を与えようとしない。そういうプロレス界になって欲しくなかったんですよ。

中田　だから語りにくい。だって最後に試合しないって、どういうこと？　本人に「最後にやった試合は何ですか？」って聞いたら、「う～ん……」って考え込んじゃうだから（笑）。

豪　マニア的な見方は嫌だったんですよね。ボクらがこうやって話してることも、鶴田にしてみればたぶん嫌だと思うんですよね（笑）。

中田　そういう人だから熱く語るのって無理なんですよ。

岩渕　鶴田自体がユルいからしょうがないんですよ（笑）。でも、見方を変えれば、鶴田はホントに面白いなあ。

花くま　時間がかかりますよね。いきなり鶴田ファンになる人っていないでしょ。

豪　嫌なファンですよね。それはそれで問題ありますよ（笑）。

【99年3月8日、明大前・梵婆家にて収録】

'99・3・6　引退セレモニーを終えた怪物・鶴田は、「うれし涙」を流して人間に戻った!?

掟破りの舌好調！　『紙のプロレス　RADICAL』御意見番

SPWF 谷津嘉章の マット界、目えつぶって30秒!!

構成＆撮影／チョロ
Text & Photographs by Choro

超大型連載 第4弾

大好評連載、谷津嘉章のマット界批評！ 今回は、谷津親分ともゆかりの深かかった、故・ジャイアント馬場さん、惜しまれつつ引退したジャンボ鶴田さん、さらには総合格闘技の話題まで、てんこ盛りでお届けするぜ。なっ！

俺は馬場さんに哀悼の意を込めて一日一本葉巻を吸ってると

馬場さんには、ジャパンプロレスの頃から、なんか一期一会でね、いろいろとお世話になったよな。

俺が全日を抜けた時も、結局、三沢、川田は俺の後輩だからってことで、そういう事情を馬場さんと話してさぁ。別れ際に馬場さんがキャディラックから出てきて「谷津、頑張れよ」って言ってくれたのが今でも忘れられないんだよな。

昔は仲良くさぁ、いろんな話なんかしてたわけだよ。一緒に酒を飲みながら人生について語り合ったりしたんだよな。

まあ自分が全日抜けてからは、馬場さんも頑張ってるなぁって思って、気には留めてなかったけど、やっぱり亡くなっちゃうと、昔のことを思い出しちゃうんだよなぁ。

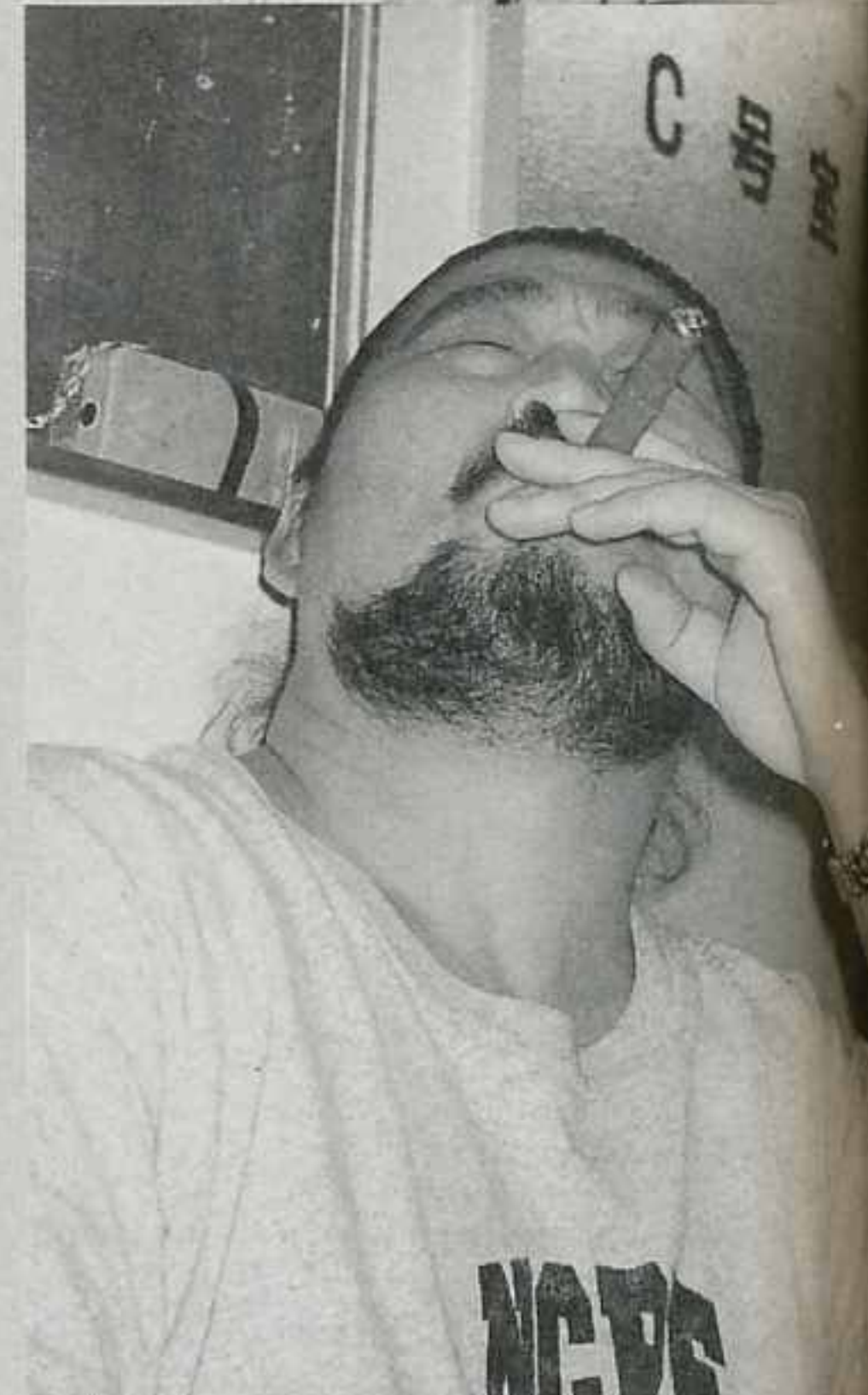
それで俺は葉巻吸っておこうって思ってさ、馬場さんに哀悼の意を込めて一日一本葉巻を吸ってると。これが一本三千円もするんだけど、うまくないんだよな（苦笑）。でも馬場さんが吸ってた葉巻は一本一万円とかするらしいんだよな。ここにもメジャーとインディーの差が出るわけだよ（笑）。

馬場さんが亡くなって、今は馬場さん追悼で、例えば生前のコスチュームとかをディスプレーしてとか企画ができるよな。それはそれでいいと思うんだよ。でもそれは目先のことで、大事なのは要するにこれから二年三年ってやっていったら馬場さんというものが風化してくるわけだからな。今は、日テレちゃんのテレビ中継も45分枠でやったりしてるけど、アレも馬場さん効果だからな。話題になってるウチはできるわけでな。親の七光みたいなもんだからな。

ある意味では、選手達も馬場さんは何年も闘病生活やって亡くなったっていうわけじゃなくて、突然だったわけだからな。新しい体制が自然にできるんじゃなくて、交通整理をピピピッってしながら、あえて作るわけだから、大変なとこがあるよな。

でもホントに馬場さんっていうのは大きい存在だったね。馬場さんは存在感がなさそうであった人なんだよな。猪木さんよりも、ある感覚で言えば、もっと存在感があった人だからな。業界にとってもそうだと思うし、それぐらい偉大な人だったわけだよ。一つの昭和っていう時代が終わったなって感じがするよなっ。

ジャンボも引退しちゃったけど、基本的にジャンボはマイウェイな人だからな。いい意味でも悪い意味でもマイペースだからな。まあどっちかっていえば頑固者だろうな。

俺はジャンボとは人生とかあんまり語り合ったことはなかったなぁ。でも、たま〜に一緒に新幹線かなんかで、持論は言い合ったことはあるよ。「ヤッちゃん、やっぱりこの世界は幻だから、いざケガしちゃったらおしまいの世界だから。だから俺はそんな派手に遊んでられない」って言ってたことあったなぁ。それであの人の場合は不動産投資に走ったわけだよ（笑）。要するに財産を残していったと。なかなかそれはできないもんなんだよなっ。いざ金があると、要するに遊びに使っちゃったりな、バクチに使っちゃったりする人間が多いじゃん。そういう意味では意志が硬いわけでしょ。質素に倹約に生きるわけだから。そういうのは自分の意志を貫くんだから、やっぱりある意味では

頑固者なんだよ。

もちろんジャンボ鶴田は、アマチュアレスリングでも活躍したし、バスケットでも活躍してたわけだからな。跳躍力とか、もって生まれた運動能力は素晴らしいものを持ってたと思うよ。まあどっちかっていったら努力家っていうよりも、生まれながらの身体を活かして、天才肌になるかな。余裕があるレスリングをするしな。アレは凄いことであって、マネしようと思ってもできないと思うからな。ああいう選手は、これから先もなかなか出てこないと思うよ。そういう意味では、ジャンボは最初の三冠も獲ってるわけだし、やっぱり偉大なレスラーだよな。

まあこれからは教授になるっていうからな。プロフェッサーって呼ばなきゃいけなくなるよな（苦笑）。確かにジャンボは頭が良かったしな。まあ、ジャンボ、馳っていったら体育会系でも、どっちかっていったら学力優秀な奴らだしね。藤田とか俺とかな、中西なんかとは違うよな（苦笑）。長州も俺達と同じようなもんだけどな。俺が大学生の頃は勉強なんかする時間もないわけだよ。毎日、一日七時間も練習してさぁ。さしづめ日大レスリング学科だよな（笑）。体育学部レスリング学科みたいなもんだからな。

それでまあ、今年のプロレス界は、前半から馬場さんが亡くなってしまったと。それで新日本プロレスが今まで25年以上もストロングスタイルを貫いていたのが、突然、大仁田を認めて、デスマッチをやらせると、ある意味では世紀末に近い話だよな。

一方格闘技の世界も、まず異種格闘技を始めたのはアントニオ猪木なわけだよな。それからいろいろと枝葉が出てきて、今は一つの総合格闘技というものが確立しつつあるじゃん。それはやっぱお客さんのニーズにプロレス業界が応えたからそうなっただけの話だでな。でももう、それを統一するような新しいルールを作らない限りはどこも生き残っていけないと思うんだよな。

要するにある意味では近代五輪じゃないけどな、そういうわかりやすくて、なおかつフェアで、それでケンカであってケンカに見えるけど、試合が終わったら握手できるようなそういうルールを作らないとな。

自分が見た感じで、それに一番近いのが、修斗だと思うんだけどな。俺から言わせれば、アレは佐山がいなくなったから良くなったんだよ。ああいう頭でっかちな奴がいなくなったから、コミッショナーができたって話だからな。佐山がいたら今みたいにコミッショナーができてなかったと思うんだよな。そういう意味ではＵＦＯっていうのは、ある意味ではアレはガン！　だって佐山っていう元大根役者がいるんだからな。世紀の役者がいるんだからな。まあ言わなくてもわかると思うけど、アレはガン！　ある意味では総合格闘技のファンと、プロレスのファンを両方洗脳してしまえっていう腹なんだよ。だからそれは純然たる修斗をやってる人間に対しても、ファンに対しても、それはある意味では冒とくなんだよ。だけど「資本主義だからそんなのなんだっていいんだろ」って言われれば、それは俺には関係ないからな。俺が言ってるのは、あくまでも俺の見解なわけだからな。

まあ今年はいろんな意味でＵＦＯがかき回してくるとは思うけどな。

例えば今、「谷津、どの格闘技が一番強いんだ？」ってなった場合は、「ルールが違うから、どこも強いとこなんかないよ」って俺は答えるよな。ただ今の総合格闘技のルールでいくんならば、ジャケット着てないアマレスが一番強い！　それは一番スタイルが近いと思うんだよな。ただ、アマレスラーが殴ったり蹴ったり、サブミッションとかができるのかって言われてるけど、それは習えばすぐできちゃうから、そんなものは。そうするとやっぱりアマレスの連中が強いと思うんだよな。結局相撲みたいなルールでやったら相撲が一番強いって話だからな。

でも、そういうのってね、ハッキリ言ってテーマがないんだわ！　最初から接点がないんだから、それを誰が強いだとか思って見るのは大間違い！

グレイシーだったらグレイシーの柔術の大会を俺は見てみたいと思うんだよ。修斗だったら修斗を見てみたいと。高田だったら高田のとこの試合をやればいいわけだよ。

どこもまあ真剣にやってると思うし、例えば俺がやったとしても、そういうスタイルになっちゃうと思うんだけど、見てるとオカマが抱き合ってるみたいなんだよ！　オカマのエッチみたいでな（笑）。だから膠着したら立たせないとダメなんだよ。

ああいう試合をするんだったら、プロレスの方が全然夢があるよな。遥かにある！　今の世の中ね、善と悪がはっきりしてないじゃん。プロレスのルーツは善と悪だから、ナショナリズムだから。「日本人頑張れ！」って、「アメリカ人頑張れ！」って言われると。アメリカに行けば、俺たちが悪役になる世界だから。今は日本人っていうのはなんでも中間色なんだよ。逆によぉ、悪役応援しなきゃいけないわけでしょ。それはやっぱりある意味では、もっと先いっちゃうんだけど、日本の戦後教育が間違ってんだよ。

全日本時代、幾度となく馬場さんと対戦している谷津。馬場さん、猪木さんの両巨頭と対戦経験があるレスラーもそんなにはいない

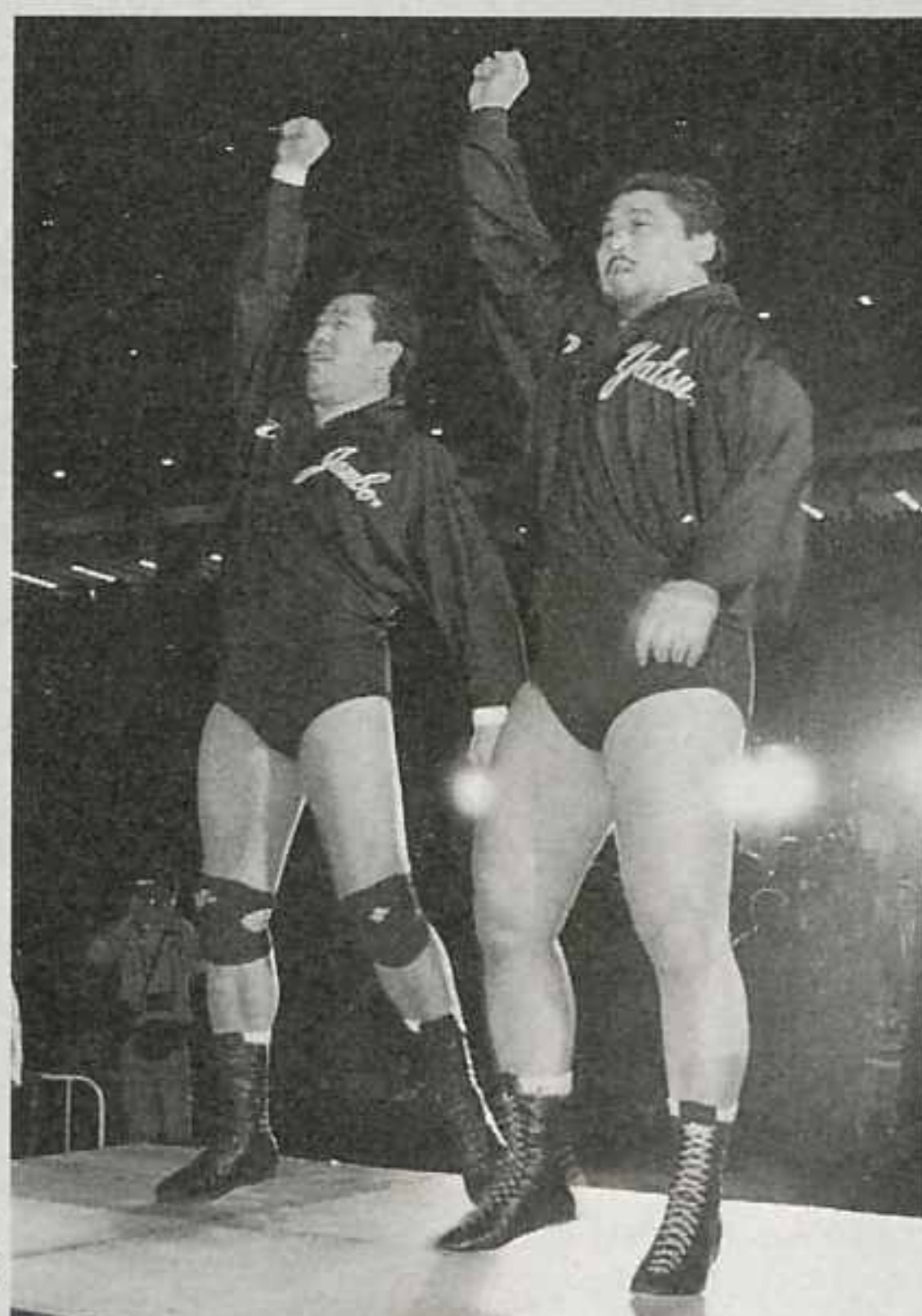
まあ俺が見た感じでは、アルティメットが一番強いと思うな

どこの国でさぁ、国旗を掲揚しないバカがいるんだよ。じゃあ世界大会とか行って、国旗掲揚が嫌だとか言って揚げないわけ？そんなとこねえだろっ。そんなことで揉めてること自体、日本の国はどっかおかしいんだよ。と俺は思うな。

だからやっぱりプロレスっていうのは、これからそういう形で、善と悪をはっきりするようなプロレスじゃなくちゃいけないんだと思うんだよ。情操教育のためにね。青少年の育成のためにさ。中間になっちゃいけないんだよ絶対。それはあくまでも自分の主張かもしれないけどな。

馬場さんは昔は、フリッツ・フォン・エリックとか（フレッド・）ブラッシーとかニックボック・ウィンクルとかと闘ったわけでしょ。善と悪の中で。だからみんなが馬場さんを応援したっていう純粋な世界があったわけよ。今はそれがないんだよ。だから馬場さんは偉大で日本を代表するレスラーと言えたわけですよ。今は日本を代表するレスラーって言ったらスタン・ハンセンになっちゃうわけだからなぁ（笑）。

俺は、それじゃいけないと思うんだよな。ましてや今はインターネットや情報通信時代で、ボーダレスの世界になっちゃってるよな。だからそういった人種差別のようなことを経験したことがある奴がいなくなってるんだよな。海外行っても観光地とか、いいとこしか見てないからな。それをもっと民衆が見てわかるようになればね、外人とかを応援するより、日本人を応援しなきゃいけないんだって、自然に気がつくような気がするんだけどな。

だからって俺は人種差別がいいと言ってるわけじゃないんだけど、そういう経験を積まないとな。やっぱり可愛い子には旅をさせないとそういう経験できないじゃん。自分で稼ごうって気がしないもんな。みんなバーチャルな世界になっちゃってさ、中間色になっちゃってさ、オカマになっちゃうんだよ！ それじゃいけないと思うんだよな。

善と悪を伝えられるのが唯一プロレスだと思うんだよ。またその可能性があるのがプロレスなんだよな。総合格闘技は一、二年で下火になると思うけど、プロレスは下火にはならないからな。プロレスは絶対死なない！ 何故かっていったらプロレスはビジネスだからだよ。

だからグレイシーとかみんな言ってるけど、結局グレイシーマジックに掛かっちゃってるだけなんだよ。それだけの話！

一番いいのは、アルティメットのチャンピオン！ グレイシーのチャンピオン！ パンクラスのチャンピオン！ みんなで集まってやってみろっていうんだよな。俺だって意義があれば出ていくしな。

アマレス歴2年半で五輪出場を果たしたジャンボと、モントリオール、モスクワ（幻）と、2度五輪代表権を獲得している谷津。この二人には世界最強タッグという言葉がよく似合う

まあ俺が見た感じでは、アルティメットが一番強いと思うな。なんか西部の荒くれどもが揃ってる感じだよな。命知らずのバカどもばっかりだろ（笑）。アイツらスゲーもんな。ルールなんかないじゃんなぁ。

でもアレは、青少年育成のための教育からいって排除されるよ。実際いくつかのアメリカの州ではできなくなってるよな。あれじゃスポーツっていうカテゴリーじゃないもんなっ。

結局、俺から言わせれば、グレイシーなんて相手選んでるだけだからな。マスコミがグレイシーグレイシーって騒いでるだけであって、そのおかげでメシ喰ってるようなもんだからな。じゃあ俺が例えば、「高田このヤロー！」って噛み付いたら、高田はやるかっていったら、やらないと思うんだよ。理由はなんだっていったらね、「金にならないでしょ」とかじゃなくて、要するに「対外試合は認めない」とか「会社のフロントに任せてます」なんか言っちゃってさぁ。グレイシーだって同じだよ。「悔しかったらアンタらもやればいいじゃねえか」って言うけどさぁ、結局言ってることは「アンタらがやっても客呼べないだろう」ってことなんだろうけどな。確かにそれは認めるよ。高田っていう一つのビッグな名前を持ってやってるわけだからな。

多分俺とグレイシーがやっても客は入らないと思うからな。前田だからカレリンとやってアレだけ客が入るわけだしな。俺なんかカレリンとやったとして、例え内容があったとしても、客は来ないわな。

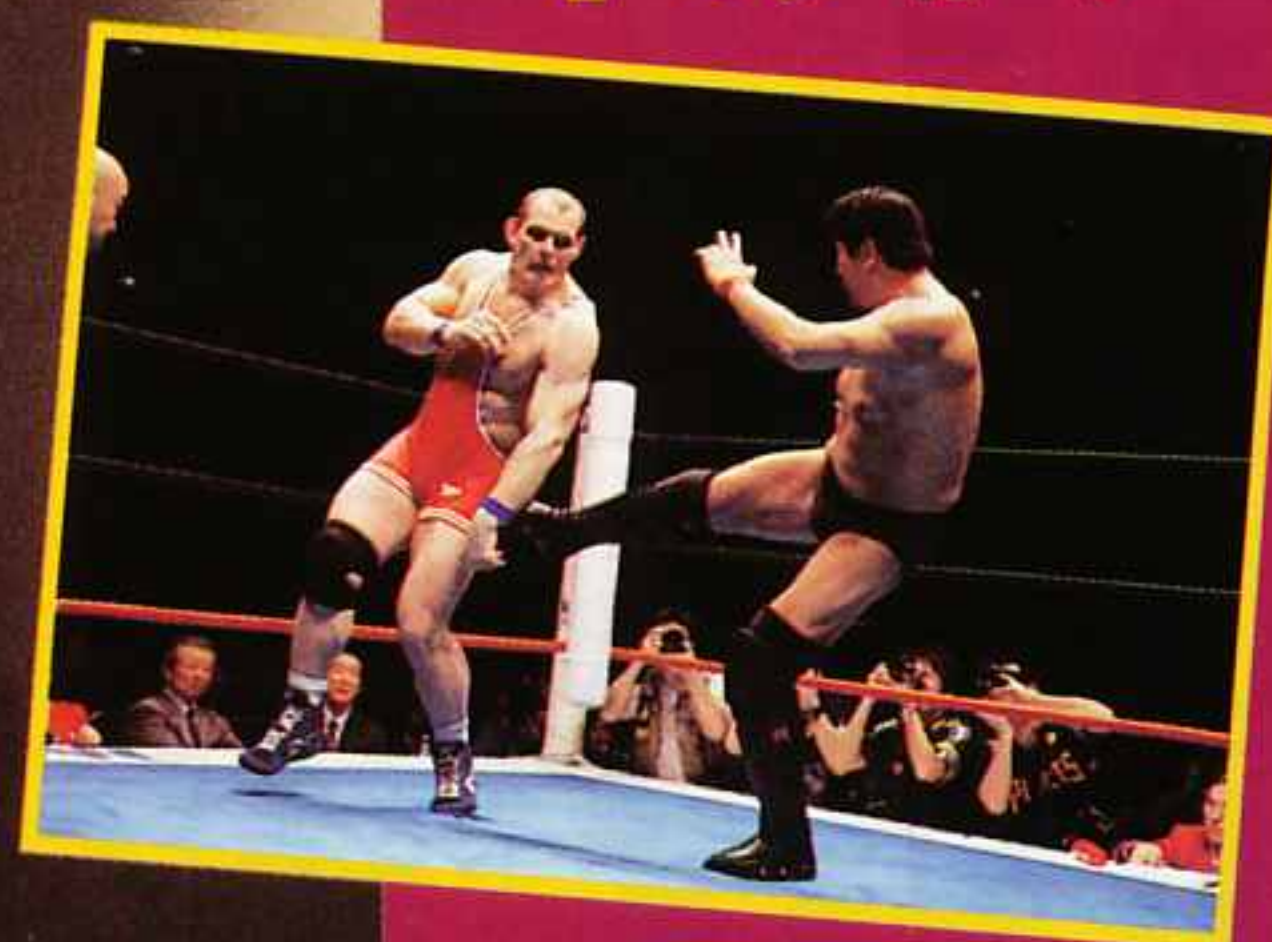
そういう意味では、高田が、「俺が強いとか弱いとか言う奴がいるかもしれないけど、悔しかったら自分でチャンスを探してやれよ」って言ったってさぁ、契約したくてもできないだろっていうんだよなぁ（笑）。やるっていってもスポンサーだって探さないとできない話でさぁ。結局はスポンサー自分で探して自分のギャラの中からグレイシーに払うような感じになっちゃうよな。高田の場合は違うじゃんよ。高田も呼んできた、グレイシーも呼んできたって感じだろ。負けても勝ってもギャラ貰えるんだからいいじゃんなぁ。そんないい商売ないよ。負けたら一銭もやらないよっていうんならいいけどなぁ。それだったら高田はやんないと思うんだよな。キャイ～ンなんて言ってさぁ（笑）。そういう屁理屈は言っちゃいけないと思うんだよなっ。そういう感覚じゃないよっていうんならね、「じゃあ俺とやれよ！」ってなるよな。「グレイシーとやる前に俺とやってみろ！」って話だよな。

今年のSPWFは見逃せないぞ！

3月11日、SPWFが実に4年振りの後楽園ホール大会を開催。会場には1490名のSPWFファンが集結した。谷津親分は、神格闘十字軍に洗脳されていた元・愛弟子・高智と闘い、20分近い熱戦を繰り広げ、最後はパワースラム連発でKO。勝利とともに高智の洗脳を解くことにも成功し、めでたく師弟関係を復活させた。更に、この日のメイン「ゴルゴダの丘デスマッチ」を制した嵐・大刀光のコンビ名が発表された。その名は、チームコンボイ！　似合いすぎて怖い。なっ！

それぞれの「旅立ち」'99

2・21カレリン戦を振り返り、マット界の今後を斬り倒す!!

前田日明、引退後初のロングインタビュー

躊躇してるヒマはないよ! 一歩踏み込めば、あとは極楽

聞き手/山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi
撮影/森鷹博
photographs by Takahiro "yakupon" mori

99・2・21、横浜アリーナ――。

リアル版・未知の強豪アレキサンダー。

カレリンが現実にリング上に立っている。

地鳴りのような前田コール!!

前田が蹴る!

前田が押さえこまれる!

前田がねじ伏せられる!

前田がエスケープを取る!

前田が宙に舞う!

興奮の坩堝と化した空間の中で10分はアッという間に過ぎ去った。

理屈抜きに凄くて、面白くて、確実に歴史に残る一戦が幕を閉じた。

カレリンは大きな身体を丸めて小走りで走り去り、前田日明の〝最後の大航海〟は奇妙な余韻と熱を残して終わりを告げた。

マイクを持ってのメッセージも、額縁に入れて持ち帰る感動的なセレモニーも何もない。

大航海の途中、シアトルに寄港した前田日明は、自分の手足とファイターとしての気力を取り戻し、最後のメッセージを肉体言語のみに託したのだ。

〝最後の大航海〟から数日後、前田日明の〝生〟の言葉を取り戻しに話を聞きに行った。

そこには、いつものように〝生〟の前田日明がいた。

(日明兄さん引退記念として、ちょっとだけカッコつけてみました。でしょ?)

〝人類最強〟と組んだらどうなるのか 自分のための語り草として経験したかった

――ところで、今日は僕はなぜか緊張してるんですよ。

前田 なんで?

――いや、カレリン戦を見て、こんなに凄い人だったんだって、あらためて前田さんを見直したというわけです(笑)。

前田 なんや、それ(笑)。

――カレリン戦はめちゃめちゃミーハー化して見ちゃいましたからね。で、なんでまたヒゲ生やしてるんですか?

前田 単純に剃るの面倒くさいから。毎朝かったるいしさ。放っといたら伸びてきて、最初の1週間ぐらいは剃ってたんだよね。でもだんだん億劫になってきてね。

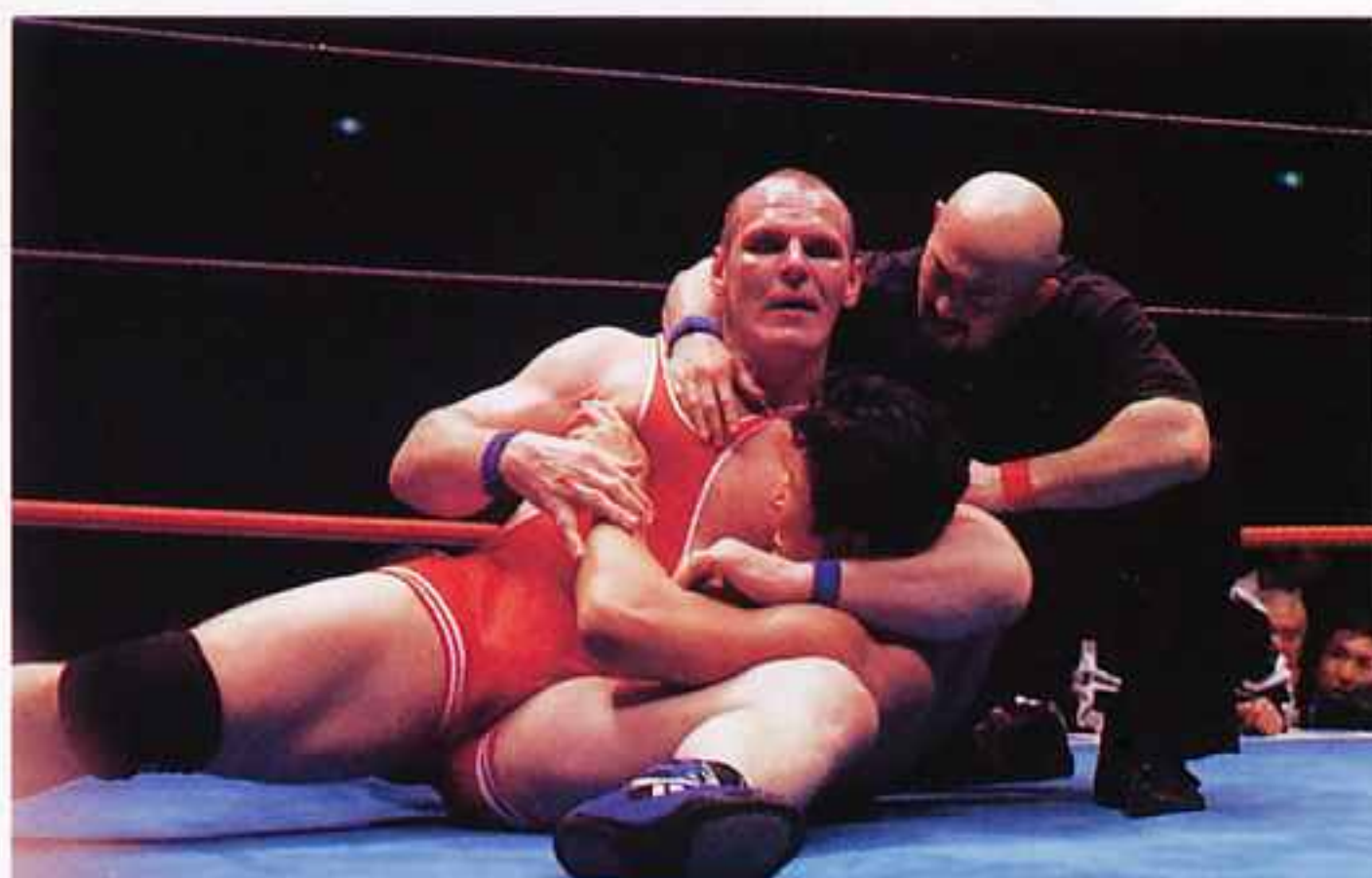
――試合当日には剃って来ると思ってましたけどね(笑)。

前田 剃ろうかな、とは思ったんだけどね。まあ、最後の1試合ぐらいいいだろうと思って。

――いや、普通は逆ですよ。最後の1試合だから剃るんですよ(笑)。

前田 最後だから、いいやいいやってね(笑)。

――でも、そのヒゲのおかげか、当日は凄く精悍に見えましたね。カッコ良かったですよ。いまさらながら前田日明ファンになってしまいました(笑)。

前田 なに言ってんの(笑)。

【写真上】恐怖の裂裟固め。「まさか現役最後の試合で袈裟固めでエスケープをするとは」と思ったのは、前田本人だけでなく、ファンも同じ気持ちだろう。【写真下】館内が悲鳴と驚きの声を張り上げたカレリンズ・リフト!

――冗談はともかく(笑)、1月にシアトルまで取材に行きましたよね(前号参照)。

前田 うん。あのさ、山口君が来てたとき、ちょうど右足痛めたでしょ? あれ、軽いと思ったら筋断裂だったんだよ。

――エッ。あのときに痛めたのが!? 左膝に加えて右足のふくらはぎを筋断裂ですか!

前田 そう。だから最後まで走れなくて、でも心拍数上げなきゃいけないっていうんで水泳やったんだよね。でも水泳も思ったほどできなかったね。

――そのシアトルでは、「俺は『どろろ』なんだ」って言ってましたよね(手塚治虫の漫画で、妖怪を倒しては自分の手足を取り戻していく自分探しの物語)。今回、カレリン戦に向けてトレーナーのケビンさんと調整したわけですけど、自分の手足を取り戻したって感覚はあるんですか?

前田 あるある。バランスがよくなったんだよね。左膝痛めてから重心がおかしくなっちゃったでしょ。それからは、簡単に言うと、上半身は左向いてるのに、下半身は右向いてたんだよ。

――そのバランスが取れるようになったと。

〝最後の大航海〟のトレーニング・パートナー
ケビン・ヤマザキさんをカレリン戦の翌日に直撃

「ケビン・ヤマザキさんなくして前田vsカレリン戦はなかった。感謝!」――これと同様のハガキが編集部に届きまくっている。

ケビン・〝ノボル〟・ヤマザキさんとは一体何者か? 詳しくは前号を読んでいただきたいが、ぶっちゃけた話が、日明兄さんのカレリン戦に向けてのトレーニング・メニューを作成し、トレーナーとして付いたお方だ。

この人、NFLや大リーガーに付くほどの、その筋では有名なお方。K―1の佐竹、フランシスコ・フィリョ、グラウベ・フェイトーザ、そして我らがTK(高阪剛)、TKズフレンドのモーリス・スミスらにも付いたことがある。

日明兄さんは、このケビンさんに付いて約4週間、アメリカはシアトルで「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」というメニューをこなした。このメニューの柱は、日本なら医学療法に分類される「科学トレ」。「頭で考えてることと身体の動きのギャップをピシッと合わせる」トレーニングだ。TKに言わせると、「身体の一つ一つを自分で支配できる」ようになるトレーニングだという。これに加えて、ウェイトとスパーを織り込んでいるものが、「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」ということになる。

もう説明は面倒なので、これ以上知りたい人は、ホントに前号を読め! というわけで、前田日明引退試合の陰の立役者、ケビンさんをカレリン戦の翌日に直撃した。

それぞれの「旅立ち」'99

じゃあ、普段の生活も身体は軽いですか?

前田　軽い、軽い。試合が終わってね、不摂生な生活してるんだけど体重2キロ落ちたよ。

――なにも、試合終ったからってすぐに不摂生になることないじゃないですか(笑)。

前田　胃袋小っちゃくなったのもあるし、普通の食事してもあんまり油っこいものが食えなくなった。

――実に健康的ですね(笑)。で、実際、カレリンを相手にしたときの自分の闘いぶりを振り返ってみてどうですか?

前田　カレリンとやるからって、小細工したくなかったんだよね。離れてロー打って足殺してっていうのはね。どっちにしても2ラウンドしかないんだし、5分2ラウンドでそんなことやってもしゃーないしね。組むのを拒否してチンケな試合にしたくなかったし。あと1試合で、次のこと考えなくていいっていうのもあるし、"人類最強"と言われるような人間と「組んだら」どうなるのかっていうのを引退の置き土産に、自分のための語り草として経験したかったしね。

――贅沢な闘いだったんですね。

前田　でも、そう思わない? 真っ正面から闘いたかったしね。オリンピック3連覇、今度のシドニーを取れば4連覇、12年間無敗。そんなヤツ、今後出てこないで、絶対。

――それだけの間オリンピックに、しかも格闘競技で出られるってこと自体が凄いことですよね。

前田　そういうヤツと組んでみたら、自分の壊れた身体でも、自分がどのレベルでこれまでやったんだなってわかるじゃない。

――それを引退試合で確かめるっていうのも凄いですね。

前田　変に間をおいて、ヒット&アウェイみたいなね、そういう潔くない試合してもしょうがないと思ったから。翌月のこと考えなくていい試合っていうのは俺にとってはそういう意味だったんだよね。だから全人格を懸けてやらなきゃいけなかった。イチかバチかのね。ヘタすると子供扱いだから。

――でも、ダミー人形のように投げられる前田日明っていうのは初めて見ましたね。

前田　踏ん張りようがないっていうか、最初に首殺されちゃったから、踏ん張ったら首イカれると思ったからね。ガチッと極められて力入れられて、こっちもエスケープしようとすると、ガーン! とダンプカーが正面衝突してくるような力を入れてくるんだよ。

――並外れた力があるのと、あれだけのガタイを覆っている筋肉が柔らかいという

試合翌日のスポーツ新聞は、ほぼ全紙、この一戦を一面に。一般朝刊紙でも取り上げられた。TVの報道or特集も加熱し、前田人気、カレリンへの注目度を物語ることになった。『アサヒグラフ』でも特集されているから驚きだ

――昨日は疲れたでしょう? (笑)。

ケビン　そうですね(笑)。やっぱり精神的に疲れましたね。まあ、でも前田さん、負けちゃいましたけど、終わってホッとしてますよ。

――ボクが取材に行ったのは1月中旬だったんだけど、前田さんはそれから1回日本に帰って、再びシアトルに行きましたね。2度目の渡米では、トレーニング内容とか変わったんですか?

ケビン　基本的には同じなんですけど、後半は神経系のトレーニング入れたんですよ。チューブ・トレーニングみたいなやつね。アレをたくさん入れましたね。

――ああ。より実戦的になったわけですね。

ケビン　そうですね。最後の1週はそんな感じですね。前田さんの場合は、最初は目一杯やられたっていう感じだったんですけどね、正直言って。トレーニングできる段階じゃなかったのは事実ですけど。

――前田さんの場合、ぶっちゃけた話、運動不足だったということですか? (笑)。

ケビン　そういうことです(笑)。まあ、しょうがないよね、それは。ビジネスで忙しかったから。あと左膝の怪我ね。

――一旦普通のレベルまで引き上げて、そこから上積みさせるトレーニングだったわけですよね。

ケビン　そうなんですけど、同時にやろうとして最初の1週間ちょっと無理しちゃったところもあるんですけどね。そのころは僕も彼のことをそんなに理解してなかったんで「大丈夫です、大丈夫です」っていうのがね、アメリカ人の「大丈夫」と違うんで。

――意地を張ってた(笑)。

ケビン　ハートでやられるんでね、前田さんは。それがいいところなんだろうけど(笑)。

――ちょっとアメリカ的な考えからすると理解できない部分がありますか(笑)。

ケビン　理解できないですね、ハッキリ言って。痛かったら中止するの当たり前なんだけど、彼の場合、痛さが当たり前みたいなところがあるんですよね。痛くないとトレーニングじゃないみたいなところがあるんですよ(笑)。

――それは前田さんらしい(笑)。

ケビン　そうなんでしょうね、知ってる人から見ると。だからモーリス・スミスなんかにはそういうこと考えられないですよね。

――最初の1週間は、それまでの運動不足のツケが出てきちゃって、2回目に渡米したときは、レベル的にはだいぶ低い状態にあったわけですか?

ケビン　ホント正直言うとね、そういうことですよね。でも結果的に体脂肪5〜6%落としたり、筋力上げたり、心肺機能25%ぐらい上げたり。普通の感覚では、例えばモーリスなんかに「やれ!」って言っても同じレベルではできないですよね。そこまで分量こなしたのは凄いと思いますよ。あの状態からは普通、4種目こなせないですよ。でもあの人はこなすわけですよ。だから、普通だったら筋肉が使えない状態になっ

正直言ってグレコをナメてた　アンドレみたいな奴ともやってるし

のはわかったんですけど、思ったよりスピードはなかったですよね。

前田　スピード云々っていうよりもね、組んだときのタイミングの外し方とか凄いもんがあったね。組んで四つになって、押したり引いたりとかしたんだけど、うまく自分が持って行きたい方向に相手の動きをごまかしちゃうっていうか、そういうのがうまかったね。

――いま考えて、戦略的には予定通り行けたんですか？

前田　俺、1個大ミステイクしちゃったなあって思うのは、4年ぐらい前にグルジアのグレコのヤツとやってアバラ折られたことあるから、胴にクラッチされるのを絶対警戒してたんだよ。それを警戒しすぎてグラウンドの動きが消極的だったっていうのが、それだけが心残りやね。スリーパーももっと落ち着いて、アゴが出たらガチッと行くんだけど、カレリンのケツが高くて不安定だったから。とりあえず取って足を入れてしまえばいいと思ったんだけど、スリーパーよりも、ああいう状況のときは、横にヘッドロック気味に組んで首を極めたほうがよかったかなって、いま考えればそう思うね。そうやって相手が逃げたときにスリーパーにうまく変換するって方向のほうがよかったかなって感じやね。あのときはコレを逃したら後でどんなエラい目にあうかと思って、ホント必死だったからね（笑）。

――写真を見たら、凄い顔して絞めてますからね（笑）。

前田　そう。必死で取って、「あ、取れた！」と思った瞬間にケツがグッと上がってきて、前にバランス移さなかったら、手がグッと伸びてきて後頭部掴まれて前にボテーンと倒されたからね（笑）。

――WOWOWの中継をあとで見たら、そのシーンで、糸井重里さんがひと言「ひ、ひどい」って呟いてましたね（笑）。試合後、前田さんは「悪いクセが出て、研究不足だった」みたいなことを言ってましたよね。

前田　正直言ってグレコっていうのをナメてたんですよね。いくら力が強いっていっても、俺自身、アンドレ（ザ・ジャイアント）みたいなヤツとかとやってるし。

――人間離れした相手との経験はあるわけですもんね。

前田　あと、グレコ出身では（ディミータ・）ペトコフともやってるし。彼も強いんだろうけど、カレリンは力が強いっていうだけじゃないんだよ。力の使い方がわかってる。カレリンはテクニシャンですよ。

――パワーばかりじゃないんですね。前田さんが、試合後の会見で「研究不足だった」って言ったのは、前田さん自身の経験をモノサシとして測った場合に、カレリンには測りきれない部分があったっていうことですよね。

前田　力の使い方が、パワーファイターとかそういう枠から、遥かに飛び抜けてたからね。そういうものでは捉えきれない人だったのは確かやね。実際、普通だったら袈裟固めとかでギブアップなんか取られてたまるかって思うやんけ！　でしょ？

――はいはい（笑）。

前田　新弟子じゃあるまいしね。何十年もやってる人間としてはね。

――圧迫されたぐらいで「まいった」してたまるか！（笑）。

前田　そうそう。袈裟固めに取られてカレリンがガッ

たりするんだけど、3週間目から4種目やられてたんでね。だから最後の1週間ぐらいはホントに充分過ぎるトレーニングやられてるんですよ。

――なるほど。その4種目の内容っていうのは？

ケビン　朝、スピード（科学トレ）やって、昼にウエイトやって、それからモーリスのジム行ってスパーリング、それと水泳ですね。初めの1週間は2種目ぐらいで終わりでしたからね。でも2週間ぐらいしてから、もう4種目こなせるようになりましたからね。基礎代謝量がものすごく上がりましたね。あれが脂肪を落としてくれたようなもんです。

――なるほど。無理してやったのが結果的によかったっていう矛盾したところがあるわけですね（笑）。

ケビン　まあ、偶然的というかね、常識から言ったらヘンなんですけどね。だから逆にこっちがのせられちゃうっていうかね（笑）。あんな人初めてです（笑）。日本の選手は初めてじゃないけれど、あの身体の状態というかレベルで「はい、わかりました」とか「大丈夫です」とか、そういうの言わないですからね。「疲れてたらウエイト抑えますけど？」って言っても「大丈夫です、全然問題ないです」って言ってね。足、肉離れしてるんですよ。

――ガハハハ！　肉が離れてますか！

ケビン　大丈夫なワケない！　そういう、普通なら痛くて立ってられないような状態でもああいうこと言われるわけでしょ。考えられないですよね。やらなくちゃいけないことは絶対やる！　みたいなね。気持ち悪いですよね（笑）。

――ガハハハ！　気持ち悪いですか！

ケビン　僕には理解できないね。彼のことは好きになったけど、それはちょっとね（笑）。

――科学的なトレーニングの基準からいうとおかしいってことですね（笑）。

ケビン　おかしいね。あの人の考え方とかね。会話なんか聞いてると「痛くないとトレーニングやったような気がしない」とか「試合後にケガしてないと試合したような気がしない」とかね。ヘンでしょ？（笑）。

――リスクがないと燃えないんですよ、あの人は（笑）。

ケビン　1カ月に1回のペースで試合してこられたせいもあるんでしょうけどね。そういうのが身に染み着いてるっていうか。

――会社の社長がアメリカまで行ってそこまでトレーニングするというのは、普通じゃ考えられないことですよね。

ケビン　考えられない！　石井（和義）さんが来るようなもんですよね（笑）。

――ハッハッハ。トレーナーの観点から見てカレリンはどうでした？

ケビン　あんな、寝てる状態から上に持ち上げるとか凄いと思う。ただ、僕たちの言う第2エネルギーから第1エネルギーに行くダッシュの部分がないですよね。スピードがない。キレ味がいい！　とかそういう感じ

と力入れたら、胸のボックス全部折れちゃうとか言う人がいたんだけど、ハッキリ言って信用してなかったからね。実際そうだったかもわかんないけど。でもいままで経験した中では「エ～ッ？　人間ってこんなに力出んの？」って思ったね。胴体をクラッチして切り返そうとか、そういうことを考える余裕をなくさせる。相手に対してパニックを与えるような力を持ってるんだよ。

——相手にパニックを与える力ですか。やっぱりその袈裟固めを決められたときはパニックになったんですか？

前田　パニックというか、まず耐えるしかないって感じだよね。それでもメリメリってくるから、もうどうしようもない。耐えてもそのあと身体が動かなくなるから。「耐えろ」って言われれば耐えるけど、試合は続いてるわけだからさ。

——カレリンの関節の対応に関しては？

前田　みんなカレリンは関節知らないって言うんだけど、関節まったくできなくて、ソ連の軍の大会だとか、サンボの大会で優勝できない。みんな、ソ連の国内のサンボ大会だからって甘く見てるよ。そう思うんだったら、1回ソ連のサンボ大会とか経験してきたらいいんだよ。見たこともないような奴がそういうことを言うのはちょっとね。

——カレリンの戦略的なものはどう感じました？

前田　カレリンを過大評価するわけじゃないけど、少なくともグレコの動きにこだわってやったとは思うね。

——はっはー、グレコの動きにこだわった。個性と個性のぶつかり合いになるってカレリンは言ってたけど、自分の個性にこだわったわけですか、カレリンは。

前田　1月の記者会見のときに、アイツ、「グレコローマンの技術っていうのはそういう闘いには全然役に立たないと言われたけど、その技術だけで闘って、そうじゃないってことを証明しましょう」って言ってたでしょ。で、俺も後で見てみたら、アイツ、グレコローマンの技術しかやってないんだよね。俺が足首を取りにいったときも思いっきり足踏ん張ってね。片足タックルで倒してアキレス取りにいったら裏返ったでしょ。だから逆エビ取ろうとしたら、グッと力入れられてね、足が持ち上がんないんだよ。で、「アリャーッ」と思ってヒザ使ってどうのこうのって一瞬考えたんだけど、太ももから足引っ掛けたらもうなんにもできなくなるから。

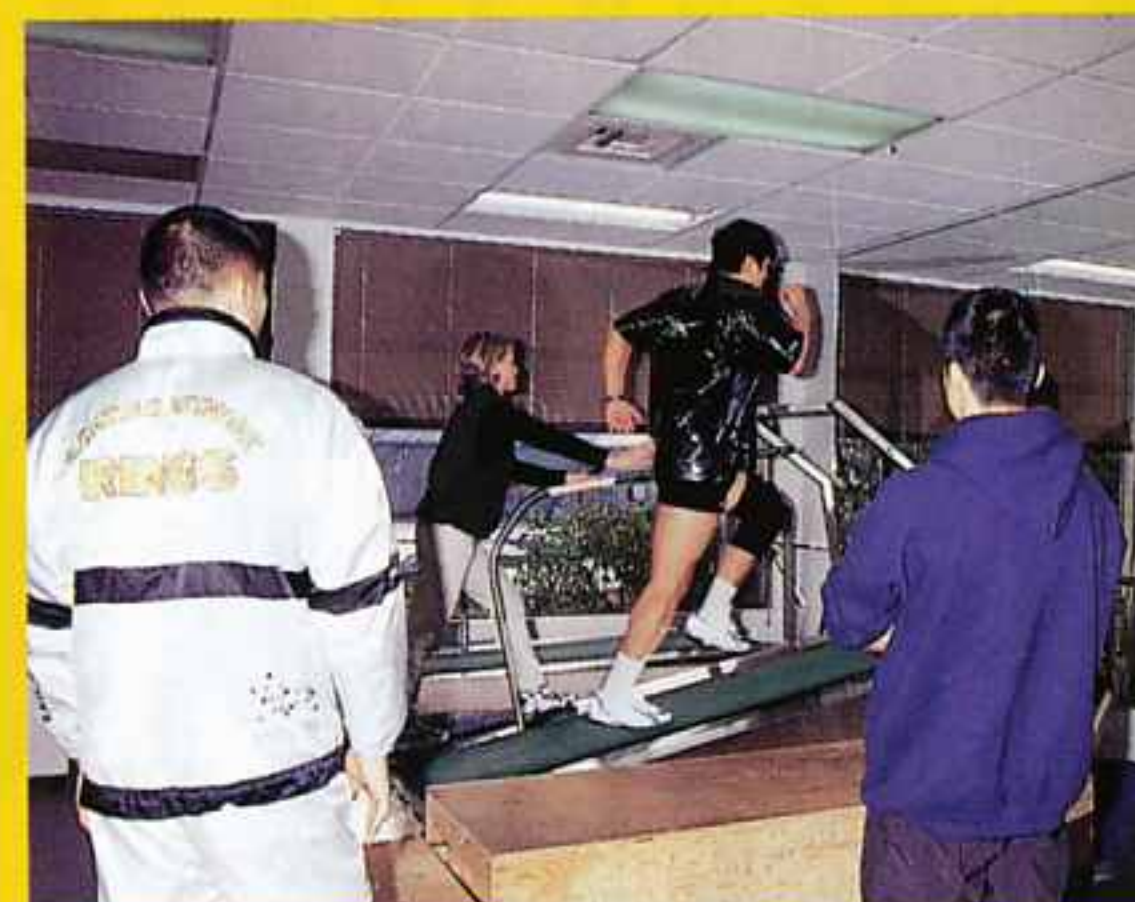
——そうか、あのときの防ぎ方というかバランスの取り方はグレコの防ぎ方なんですね。

前田　基本的にカレリンはそういうとこムキになってたよね。こだわってたというかね。

——打撃の手応えは？

前田　ローは効いたと思うんだけどね。あそこで左が切れたらね。ハイなりローなり、うまくフォローできたらよかったんだけど。左膝やってからは、右のハイとか打つと軸足に負担がかかるから、できなかったんだよね。それ一発であとの試合を全部捨てちゃうような博打はできなかったから。だから今回は右で後ろ回し（蹴り）とかも考えたんだけど、さっきも言ったように、胴タックルでクラッチされるんじゃないかって、そういう心配があったからね。もうちょっと思い切ってそれをやってみればよかったね。

——1月の武道館のときのコメントで、「なんだかんだ言っても新日本プロレスの受け身は世界一だと思う」って言ってましたけど、その受け身っていうのは役立ちました？

前田　役立ったと思うよ。リフトされて、あの前に首が壊れてたから、これで落っこちたら首が動かなくなるんだろうな、まい

カレリン戦に向け、米・シアトルで4週間の科学トレ・キャンプを張った日明兄さん。その傍らには、いつもケビンさんと、それを見守るシアトル在住のTKがいた

じゃなくて、締め付ける持続性みたいなね、そんな感じですよね。第1エネルギーっていうのは、例えば400メートルずっと走ってると、ハァハァ言い出しますよね。そこからのダッシュ力。第2エネルギーっていうのは、その400メートル走を延々と続ける能力ですね。だから第2エネルギーはカレリンはもの凄いものを持ってるんじゃないですか。それと、筋肉の持続性って違うんですか。筋肉のほうが僕は凄いと思った。まぁ、怪力っていうかね。気味悪い感じですよね（笑）。

——前田日明もカレリンも、ある意味、科学で測れない人たちですか。

ケビン　そうですね。前田さんの場合はハートですね、ホントに。あれがファンに受けるんだろうし。彼のいた位置から、3～4週間の間にいまの位置へ持っていくっていうのは凄いと思いますよ。体脂肪5％落とすのなんて、しょっちゅうないですからね。それは彼の持ってる精神力っていうかね。

——ＮＦＬの選手とか、運動能力では世界のトップレベルの人、バケモノみたいな人たちを教えてるケビンさんでも驚きますか。

ケビン　彼らは必要なことしかやらないし、痛かったらやめるし、それ以上もなければそれ以下もないみたいなね。やることやったらサッサと出ていくしね。前田さんはそういうのがないんですよ。熱いんですよね。前田さん見てたらファンになってきましたよ。僕も頑張ろう、みたいな（笑）。

——そうか、前田日明っていうのは本当に非科学的な人間ですね（笑）。

ケビン　ハッキリ言って僕から見たら非科学的ですよね。僕の尺度で測れない感じの。

——デジタルとアナログでいうとアナログな人間ですね。

ケビン　あ、それは間違いないです、絶対（笑）。

——そこがいいんですけどね（笑）。

【3月15日／聞き手・けびん・ノボル・ヤマグチ】

今だから言うけど、記者会見の後に一回、キャンセルになりそうだった

ったなと思ったけど、投げに関しては凌げたからね。

――ボクね、あの試合を見て、敢えて言わせてもらうと、「プロレス」の原点みたいな感じがしたんですよ。

前田　ああ。でもな、どっからどこまでがプロレスっていうのかっていう問題があるからな。少なくとも大仁田とかああいうのとは一緒にされたくないからね。目指してるものが違いますよ。

――それはわかった上で、単純に見た目で「凄い」「面白い」と思える闘いでしたからね。そういう意味で「プロレス」の原点というか。矛盾した言い方だけど、ボクには前田日明が総合格闘技の父、力道山に見えましたね。

前田　もっと早くカレリンと出会って、ヒザが壊れる前の状況でやってみたかったね。心残りとしてはそれだね。

――それにしても、ソ連勢とかロシア勢とか大変でしたね、カレリンに気を使って（笑）。

前田　あれは嫉妬やね！（笑）。リングに上がってさ、俺のセコンドに誰が付いてくれるんだと思ってさ。（アンドレィ・）コピィロフとか俺とズッとスパーリングやってたのに、あいつまで向こうに付いちゃったからな。

――ガハハハハハ！「お前、こっちやろ」って。

前田　そうそう（笑）。ハンとかコピィロフとか全員向こうだからね。それで試合やってる最中にカレリンに指示してるんだからな。

――「お前ら、仲間ちゃうんかい？」（笑）。

前田　そうそう（笑）。

――リングスネットワーク崩壊の瞬間ですね（笑）。ハンとかがインターバルでタオルであおいだり、みんな神経使ってましたよね。

前田　カレリンはなにせ大佐だからね。偉いねん（笑）。

――ガハハハ。税務警察局大佐を蹴っ飛ばしたらダメですよ（笑）。糸井さんが、去年ある雑誌に「強い選手の証明として手中にした数々の勲章は物体であるから失われることはない。だけど、〝強い〟という状態は記憶や記録という形でしか残らないものだ。死ぬまで強いという幻想を僕はいまでも心の中で信じていたい。しかし、そんな子供じみたファンの夢想する世界を粉々に打ち砕くのが前田日明という英雄の新しい仕事なのだ」と書いてるんですよ。

前田　（頷く）

――まさしくカレリン戦ってこれじゃないですか。

前田　あのね、実際「なんでいまカレリンなんだ」っていろいろ言われたけど、そう言われたとき、心の中で「キミたち！そうは言っても、実際にカレリンがリングに上がって動き始めたらわかるよ。節穴のような目をよく見開いてよく見なさい。エッヘン」なんて思ったんだけど、冷静になって考えたら、その相手って俺なんだよなぁって思ってね。気合い入れなアカンなって（笑）。

「あの、最初にエスケープ取ったのは俺ですから。最後に負け惜しみを言わせてください」――最後の最後まで負けず嫌いの前田日明はやっぱり素敵だ！

――ガハハハ！それで、その続きで糸井さんは「〝強い〟ということの厳しい現実をリアルに見せてくれれば結果にはこだわらない」と書いてるんです。だから、さっき「プロレス」の原点と言いましたけど、力道山のころから40年以上かけて進化してきて、「〝強い〟ということの厳しい現実をリアルに見せてくれる」時代が来てるんだなぁと思うと感慨深かったですね。それは第一次ＵＷＦ、第二次ＵＷＦ、リングスを牽引車として引っ張ってきた前田日明なくしてはなかったことなんですよ。その辺をわかってない人が多すぎますね。

前田　エッヘン！（笑）。そんなこと言われてなんて答えればええねん（笑）。

――新生ＵＷＦを旗揚げしたころに、「馬場さんや猪木さんができなかった部分でのプロレスの可能性を追求していく」って言ってましたよね。

前田　そうやね。そのころはそう思ったこともあったね。でも、いまはプロレスの先にあるもの、格闘技としての可能性の追求でしょ。

――カレリン戦はまさしく、その可能性を追求してきた前田さんの〝最後のわがまま〟っていうか、次の世代が育ってきてる中での自分自身への〝はなむけ〟として行ったというのは凄くわかる気がするんですよね。

前田　まあ、負けた試合をあれこれ言っても始まらないんだけどね。でも、5分2ラウンドだったし、最低、引き分けぐらいには持ち込めるかなと思ってた。組んだときのパワーが想像以上だったんだよね。四つんばいになって、パッと首取られて、グッとひっくり返すとするじゃない。ネルソンでもそうなんだけど、マットにおでこつけたら、頭押しても床でストップがかかるから、それ以上いかないんだよ。でもアイツは関係ないんだよね。おかまいなし！（笑）。でも結局、試合やってみて、Ｕでもいろいろやってきたけど、けっこうイイ線でやってたんだなっていうのはあるね。今回カレリンとやってみて、まわりの人間はともかくとして、俺自身はよかったと思うよね。タックルにいって、届く前にグシャッて潰されて、アッと思ってとりあえず四つんばいになって、カメになって。カメになったら取らせない自信あったからさ。それで今度は腹ばいになってディフェンスポジション取ったらさ、手がニョキニョキってきて首をガーッてやられてさ。ハンパじゃないんだよ、力が！

——グラウンドで前田さんの頑丈な首を、片手でコントロールしてるシーンは一番恐ろしかったですね。

前田　真剣に「首折れるんちゃうかな?」って3回ぐらい覚悟したもんな。

——横浜アリーナのてっぺんから見てもわかる力でしたよね。

前田　でも終わった瞬間パッと思ったのが、「なんで一本取らせちゃったんだろう?」っていうことやね。でも首がイッてたから、どうしょうもなかったし、もう動けなかった。でも、「人類最強の男」と言われる奴と肌を合わせて自分の感覚でもって彼を体験できたっていうのは大きな財産だよね。

——試合後にはカレリンと何か話したんですか?

前田　帰り際に挨拶しに来てくれて、「首は大丈夫か」と聞かれたね。「シドニーでは金メダル取ってくれ」って言ったら、チラッとこっち見てフンッて感じで行っちゃったよ(笑)。

——ガハハハ!　ニコリともしないんですか?

前田　「当然だろ」って顔して行っちゃったよ(笑)。

——凄いなぁ、カレリン(笑)。

前田　凄いっていえば、終わってから凄い試合だって言われるんだけど、あんまりピンとこないんだよね。そうなんかなぁ?って感じやね。負けた試合で「凄かった凄かった」って言われるのがまた余計実感わかないんだよね(笑)。

——負けず嫌いですねぇ(笑)。実はまだ現役でやりたいんじゃないですか?(笑)。

前田　いや、言われれば言われるほど、現実感ないんだよね。これが勝ってとか、辛うじて引き分けにでも持ち込んで「よかった」とか言われるんならともかくさ、関節極められたっていうんじゃなくて袈裟固めでエスケープしてさ、新弟子じゃあるまいし。

——そんな新弟子いませんよ(笑)。

前田　カッコ悪いやんけ(笑)。

——でもあの日の前田コールはバッグンに熱がありましたね。入場のときにも、地から湧き出るような前田コールが起こってましたよね。

前田　全然聞こえなかった。試合のことに集中してたから。とにかく最初のポイントを取らないと、先に取られるような展開になるとズルズル行っちゃうと思ったからね。なんとかして「取らな、取らな」と思って。それなりに技術を持ってる人だから小細工きかないし、どうしたらいいかって考えてたからね。

——でも、あの日の盛り上がりは、前田さんの最後の勇姿にプラスして、カレリンという"未知の強豪"への期待感というのも大きかったですね。期待以上の凄玉ぶりに客席も驚きの連続でしたからね。

前田　カレリン自身こういうことする必要がないんだよね。彼自身3月の終わりか4月の始めにロシアでレスリングの国内予選があるんだよね。その前に余計なことをして、勝ち負けとか以前に、オリンピック前の彼の大事な身体を痛めたりとかさせることを、まわりが異常に嫌がってたからね。彼はロシアの人間国宝みたいなもんだからね。今だから言うけど、一回、記者会見の後、試合がキャンセルになりそうになったんだよ。

——エ!　1月の記者会見の後ですか!?

前田　そう。ロシアの選手が頑張っていろいろやってくれて、「この状況でキャンセルになったら、間違いなくリングス本体もリングス・ロシアも、それに関わってるロシアの人も生活の糧を失う」って言ってくれてね。カレリンはけっこう男気のある人でね、それだったらやるって言ってね。アイツはアイツで、まわりから「なんでそんなのに出るんだ」って言われてプレッシャー抱えてたんだよね。

——キャンセルになりかかった理由っていうのはなんなんですか?

前田　一にも二にも、大事なオリンピック4連覇前にそんなことする必要はないっちゅうことやね。

——ところで、試合後の会見で「自分の世代の役割っていうものがあって、それを全うしてきただけだ」みたいなことを言ってたんですけど、前田さんの世代の役割は、いま振り返ってみるとどういうことになりますかね。

前田　格闘技っていうものがどういうものかっていうことを認識させることと、じゃあ、自分らの状況でどういうことができるのか、どういうことが可能なのか、不可能だとか夢物語とかいろいろ言われるけど、本当にそうなのかというところでの確認作業だね。

——総合格闘技っていう部分で言うと、シューティングっていうものを作った佐山聡という人物も発展に貢献した重要な人物だと思うんですよ。前田さんと佐山さんの道が別れたのは、人間関係以外での部分。格闘技観の違いっていうのがあったんですか?

前田　プロっていう部分で始めたんだけ

チャンス到来!　前田がスリーパーを狙ったが、立ち上がり様にゴロンという感じで、前田を前方に落としてしまったカレリン。この他にも恐怖のシーンが、いくつも現出した世紀の一戦だった。五輪は頼んだゾ、カレリン

ど、あの人はハッキリ言って世間知らず！　現実感のない空想物語で進めてるんだよ。空想か、夢想か。現実感がなんにもない‼　ユニバーサルプロレス（第一次ＵＷＦ）は、まぁプロレスだったけども、毛色の違ったものができた。将来的に発展する可能性もあった。でも観客動員全然ダメ。後楽園だけ。地方に行ったら大赤字。社員なんか、11ヵ月無給だよ。

——ほぼ1年。キツイなあ。

前田　選手はもらってたんだよ。遅れることはあったけどね。佐山さん本人は当時スーパータイガージムを、全部ユニバーサルプロレスの人脈とか金とかでやらしてもらってて、社員が給料もらってないの知ってても知らんぷりでしょ。で「試合を月に2～3回にしよう」って、どのツラ下げてそんなこと言うんだよ！　それでさ、選手6人しかいないのに「A、B両リーグに分けよう！　3人ずつ！」なんや、ソレ。アホか、お前はって。1リーグ3人ってなんや？　子供のかくれんぼじゃないんだよ！　でしょ？　そうやって現実感のないことばっかり言うんだよね。理想がバーンってあるんだけど、現実と交差してないんだよ。いつまでも遥かかなたに理想がある。俺は違うからね。理想があったら現実がある。どっかで必ず交差させて少しずつ上にあげていくんだよ。

——佐山さんはタイガーマスクですから飛ぶんですよ（笑）。

前田　理想と空想は違うんねん。理想っていうのは現実を通過して到達することだよ。でしょ？　空想は空想。現実は関係ない。頭の中であるだけの話。いまのシューティングが発展したっていうのは、佐山聡が追ん出されて、現実感のある運営方法が入ってからやんけ、ハッキリ言って。ウチらスポンサーなしで、自分らの手で作ってるからさ、自分らの頭と身体とで。ハートと腕と頭で。三種の神器ですよ。

——ヒザは壊れましたけどね（笑）。格闘技観の違いっていう部分では……。

前田　（遮って）あの人ケンカもしたことないような人だから、わかんないって！　ハッキリ言って。ケンカなんか一回もしたことないですよ。「道路で人殴ったら動かなくなっちゃったぁ。死んじゃったのかなぁ？」とかよく言ってるけど、実際に人が死ぬんじゃないかっていうところを見てないし、やったこともないよ。されたこともないし。そういった意味で格闘技をナメてるんだよ。全然違うよ。

——佐山さんは「ケンカのことならまかせて下さ～い」って言ってましたよ。

前田　イザとなったら、あの人一人になったときに何やった？　なあ、何やった？　一人になったら弱いやんけ。みんな弱いじゃん、旧ＵＷＦ系の奴ら。見てみィ。意気地も度胸も行動力もないやんけ。そういう〝腹〟がないんだよ。〝胆〟がないの。女々しい！　淋しいオカマや。

——じゃあ、技術的、格闘技的にどうこうよりも、〝胆〟の部分なんですね。

前田　胆があれば技術でもなんでもついてくるよ。そうでしょ？

——なんで佐山さんの話をしたかと言うと、マット界も大きなフィールドの再編成を誰かがやらなきゃいけない、そういう時期に来てるじゃないですか。だから、佐山さんの作ったとこや船木さん（誠勝）のところとも行き来できるようになれば選手も……。

カレリン、あなたは強かった‼

とにかくわかりやすい！　一目瞭然の強さとド迫力を携えてアレキサンダー・カレリンがやってきた。

バーリ・トゥードルールではカレリンはそんなに脅威の相手ではない、といった声もあるのは事実だ。しかし、グレコローマン・レスリング以外の試合に出るのは初めてで、しかも、あの前田日明を相手にして、ここまで強さを伝えられるのだから、やはりただ者ではない。

バーリ・トゥードスタイルでは見られないコクのある迫力をたたえた前田との一戦だったが、カレリンにはシドニー・オリンピック出場。五輪4連覇という怪物にしかチャレンジできないステージが待っている。

例え、アマチュアとはいえ、全世界の視線が注ぐオリンピックという舞台で、前田日明の引退試合の相手が人類未到の記録に挑むのだから、前田ファン、リングスファン、プロレスファンにとっては、また楽しみの幅が増えたといっていいだろう。

アレキサンダー・カレリン。

その男、強豪につき——。

決戦後の控室では、アレックス・シェイクハンドが実現！
アレク（サンダー大塚）のリングネームは憧れのカレリンにあやかってつけた。、いまや有名な話である。んむはぁ。

●2・21試合後のコメント抜粋

「非常に激しい蹴りで、よく効いた。いま、試合が終わって少し身体も冷えて、痛みもさらに増した。これは後遺症が残るんじゃないか、次の試合に影響が出るんじゃないかという心配もあるね」

——今日はどういう形で勝とうとしてたんですか？

「まず、得策というのは別になかった。距離をなるべく置かないように注意することだったね。Ｍｒ．マエダも試合が始まって、蹴りを私の頭の位置までに上げてきたが、そういうこともあるんじゃないかと。だから距離をなるべく詰めていこうと思っていた。そして、ある程度相手が疲れたら、いまコンディションが非常にいいので、そのときに必殺技を掛けようと思っていた」

——必殺技というのは？

「掛けようと思った技は三つあった。今日は一般的なブリッジからの投げ技しかできなかったが、リフトを掛けようと思っていた。ただ、相手のスタミナを奪おうと思って、つい自分もスタミナがなくなってしまい、掛けることができなかった」

——2ラウンド目になって、かなり疲れていたように感じられましたが。

「正直言って、非常に疲れた。なぜなら観客が非常に多くて、それを見て緊張してしまった。それでスタミナが早く切れた。違うルールで闘うことは私にとってはこの試合で一番つらい面だった。しかし、それより遥かに見に来ている人数の影響、それが非常に大きなプレッシャーになった」

——1ポイント差の勝利という結果には満足してますか？

「この試合は私が初めて別のルールで闘う試合だった。そういう意味で1点差で勝って満足している。とにかく、少しでも有利で終わってしまえばそれで満足だ。特に、私の相手は最強の男の一人だし、非常に戦術も体力も強い選手。そういう意味で満足している」

——三つのうちのもう一つの必殺技はなんですか？

「今日はかからなかったので、この場でその技の名を言う必要はない」

——キックが効いたと言ってましたが、前田選手の関節技はどうでした？

「私が感じたのは、ロープが近くにあってよかったということだよ。あと一瞬でギブアップするところだった」

——普段のグレコの試合が100だとすると、今日はどれくらいの力なんですか？

「何パーセントというのは非常に言いづらい。たとえばオリンピックの場合は私の世界なので気楽に闘うことができるが、今回はその面では比較できないね」

それぞれの「旅立ち」'99

前田　（遮って）別にね、佐山が作ったからシューティングがどうのこうのっていうのは、俺は全然ないよ。パンクラスにしても、俺はパンクラスそのものがイヤとかじゃなくて、ひと言いたいのは、俺と船木たちの間で起こった、イザコザでも何でもないようなことを女々しくいつまでもグチグチ言うなってことなんだよ。掘り返してまた火を点けてね、いつまでもそんなことやってんじゃないって。お前らみたいなのを女の腐ったのって言うんだよって。

――ガハハハ！　そういうこと言うと向こうは余計引きますよ。

前田　この前も「女の腐ったの」って言ったら「絶縁です」ってなったしな（笑）。「どっちが女の腐ったのか勝負しましょう」って第一試合からやったら面白かったね（笑）。でも、船木（誠勝）たちとは、俺から仕掛けたり揉めようとしたことなんて一回もないよ。こないだのパンクラス騒動だって一番最初は向こうが言ってるんだよ！　でしょ？　選手もマスコミも含めて言えるのは、この業界は女々しい！　ホントに女々しい!!　女の腐ったのばっかり。

――「女々しい」は前田日明のマイ・ブームですね（笑）。

前田　男らしいヤツがいない！　やるほうも書くほうも女々しい。清々しい表紙になるようなカラッとした選手がいない。

――前田さんの中ではリングス、つまりハードの部分はどういう方向に持っていこうと思ってるんですか。

前田　いま、抱えてるもんがあるんですよ。団体っていうのがどうなんかな？っていうのがちょっとあって、団体という枠をとっ払ったところで、団体にこだわらないところでなにかできる方法があるんじゃないかっていう部分で一個気付いたことがあってね。それをちょっと具体化しようかと思ってるんですよ。いまのリングスルールの欠点っていったら、ひと月に一回試合をしなきゃいけない。そのためには選手にダメージを負わせないようにするにはどうしたらいいか。そうしたらグラウンドでの打撃とか、顔面への攻撃とかはできないんだよね。

――それは凄くよくわかりますよ。

前田　俺たちは読売ジャイアンツとか、西武ライオンズとか、大相撲協会とかみたいに強大な企業とか国とかのタニマチがついてるとこじゃないから。ウチと関係あるところは、一対一の小取引だから。内容が悪かったらバサッと切られる。それだけの話ですよ。

選手もマスコミも含めて言えるのは、この業界は女々しい!! ホントに

――大きなスポンサーが付くスポーツより面白いことやってるはずなのに、格闘技というのは恵まれないですよね。

前田　だから、自分らがやれる毎月の興行によって純益を上げて、未来のための投資だとか現実的な投資だとか、資金還元とかしなきゃいけないんだよね。

――前田さんから見ると、佐山さんは、その現実をスッ飛ばして、「格闘技として発展するにはこういうルールを作んなきゃいけない」という理想から始めたわけですね。

前田　理想はいいんだよ。理想はいいんだけど、現実とどう交差させるかでしょ。彼は「好きだったらやればいい、イヤだったらやらなくていい。好きだったらおマンマ食えなくてもやるだろう」って。そんなん関係ないんですよ。俺がやるからには、みんなに飯食わしてやりたいし、ある程度ステータスもキープしながらうまく新しい世界に進出、展開させていきたいし。そのためにはどうするかでしょ？　シューティングだって、リングスの頑張りがなかったら、いまの成功はないよ。UWFがあれで終わってしまって、シューティングがあのまま細々と佐山聡体制でチョコチョコやってたら誰が見に行くの？　社員だって給料あげなかったら何もできないでしょ。できる限りのことはしなきゃいけないでしょ。どうやってもできなかったら、「こういうワケでできないんだよ。選択は二つあるけどどうする？」って言うべきでしょ？　それさえも最初から放棄してね、「食えないけど、好きだったらやればいいじゃん」って、そんなんじゃどうにもならないよ。それで資金はどっかに出させてタニマチ根性丸出しでさ、そんなんダメですよ。

――前田さんのこれからの格闘技的な部分、ソフトの部分でのビジョンを語るとしたらどういうことになります？

前田　ルールに関しては、格闘技をスポ

ーツ化するっていう部分において、一番の理想はある程度の選手層の確保。そのときに初めて完全なルールができるんですよ。いろんな意味で。だから、ある部分でバーリ・トゥードを視点に入れて考えたんだけど、あれでさえ格闘技っていう大きな枠で考えたら、みんなが気付かなかった盲点なだけであってね。あれだって大きな意味ではショー格闘技っていう枠に入ってしまうじゃない。ただ、あれも一個の大きな刺激になったことは間違いなくて、そういうことも踏まえてルール作りできるんだよね。そのためにはまず選手層。底辺拡大。あとはどうしても資金的なことに関係してくるんだよね。

――結局、理想は資金でつまづきますからね。

前田　一番怖いのは金ですよ。金で人なんかコロッと変わるし、変えられてしまうし。でも逆に言えば変えることもできるし、変わることもできる。だから金は怖いんだよ。怖い部分もあるし、心強い部分もあるし。

――金で思い出しましたけど、よくヒクソンがギャラ一億円とか言われてますけど、カレリンはそれより上なんですか？下なんですか？

前田　お金の話はしないほうがいいでしょう。

――そうですか（笑）。

「太く生きたからと言って人生が短いとは限らない」by前田日明

前田　一つ言えるのは、彼はお金必要ないですよ。必要ないような生活をしてるし。でもヒクソンが一億ってよく言うんだけど、アメリカでヒクソンに一億出す人いる？　ヨーロッパにいる？

――いないでしょうね。

前田　日本だけじゃない！

――エンセンが面白いこと言ってましたよ。「ヒクソンは、たぶん一億円分ぐらい試合やりたくないんだよ」って。

前田　あ、それは俺もまったく同感だね。

――ところで、リングスでもバーリ・トゥードが行われるようになりましたけど、リングス・スタイルというのはどうなっていくんですかね。

前田　バーリ・トゥードに行くとか、そういうことじゃなくて、ある程度引き込むためにはしょうがない部分もあるんだよね。俺がリングス始めたときに、リングス・ルールって言っても、いろんなもん巻き込むために限定版でルールの改編とかやってきたでしょ？　それができたからいまのネットワークがあるんだよ。それと同じようなこと。同じような経験の繰り返しですよ。

――引退はしても楽にはなれないということですね（笑）。

前田　選手も勘違いしちゃいけないのは、リングス・ルールっていうのは完成形じゃないから。ウチは日本だけでチマチマやる団体じゃなくて、世界を相手にしてるから。アメリカの選手がUFCのルールでしかできないって言うんであれば、それとの兼ね合いで、ある部分での改編とかしていかないとね。そこで何を変えちゃいけないかって言うと、ルールが作る自分たちの競技のゲーム性っていうのを失わずに、そういったものを取り込むっていうことを念頭において考えなきゃいけない。そういうことですよ。いま、選手層が薄いんで、簡単なのは選手全員に「フリーになれ。ウチは年間4試合しかやらないよ。その分ギャラは高くするけど、使うかどうかはわかんないよ」って言えればいいんだけど、みんな「イエス」って言えないでしょ？　でも選手は「リングスではUFCルールではやりたくない、でもアメリカではUFCやってみたい」って言うんだったら、もう勝手にしてくれって言うしかないよね（笑）。深く考えないで言ってると思うんだけど、そうやって言うんだったら、実績のみで選手使うよ。負けたら次は試合ないよ。そう言うと「ヤダ」って言うんでしょ。みんな団体に甘えてるんだよね。ウチらはさ、使いものになるのかわかんない選手引っ張ってきて、飯食わして、練習させて、教えて一人前の選手にして、下のほうから順番にマッチメイクして、育てていってやっと使えるようになりました。なった途端に「ボクはUFCに行きます」ってなんや、ソレ。でも、これからはそういうような状況になっていくと思うよ。リングスもそういうUFCスタイルで、アマチュア組織だけを統括して、プロにおいてはフリーでどうぞっていう風にね。だから、プロの分野では、例えばUFCとかとガッチリ提携してやっていくと思うよ。

――そうすると実力をつけるのは選手次第ということになりますね。

前田　それをいつ始めるかっていうのは、もう選手次第だよ。選手が「リングスのネットワークはこういうことなんだよ」って言って「自分らもがんばりますよ」って言ってくれてるうちはいいよ。そうじゃなくて、実力がついたらUFCに行って、高阪（剛）みたいに金稼ぎたいってみんなが言い出したらできないじゃない。ああいう試合だったら2ヵ月3ヵ月に一回ぐらいしか試合できない可能性もあるし。それでリングスの試合できませんってなったら、何のためのリングスよ？　別に恩義がどうのって言うつもりはないよ。でも、みんながそうやってがんばらないとやっていけないことなんだよ。それがちょっとわかってないんだよ。

――高阪さんに関しては気持ちよく承認してるんですよね？

前田　高阪に関しては、アメリカ進出の問題もあったし、本人も「やりたい」って言ったし、誰か一人アメリカに出してもいいなっていうのを考えて、バッチリとタイミングが合ったからね。高阪の姿を見て、勘違いされちゃうとね。まぁ一瞬そういう問題に発展しないかなっていう危惧はあったんだけど、俺の場合はやるかやらないかでウジウジするよりも、やったあとから対応すればいいじゃないかって主義だから。

――実に気持ちいいですね（笑）。

前田　手を挙げたときに考えるんだよ。「ハイ、先生！」って手を挙げて、「ハイ、前田君」って指されて立ちながら考える（笑）。

――ガハハハ！　とりあえず手を挙げて

みる。

前田　いつもそうだよ。全部そう。最初から考えこんでも何にもなんないよ。いつも臨機応変に状況に対応しないと。まあ、これからも何とかなるでしょ！

—引退してもラクはできないってことですね。作っては壊し、壊しては作り（笑）。

前田　こうやって「アメリカに住みたい」とか言いながら、年とっていくんかなって思う今日この頃……。

—……のアキラ君であった（笑）。

前田　高阪見て「いいな、俺もアメリカ行きたいな。ムスタング買いたいな。アメリカで家も買いたいな」とかズッと「いつか、いつか」と思いながらハッと気が付いたらお爺さんになってたとか。

—それはそれで素敵ですよ（笑）。

前田　家族も家もなくて。

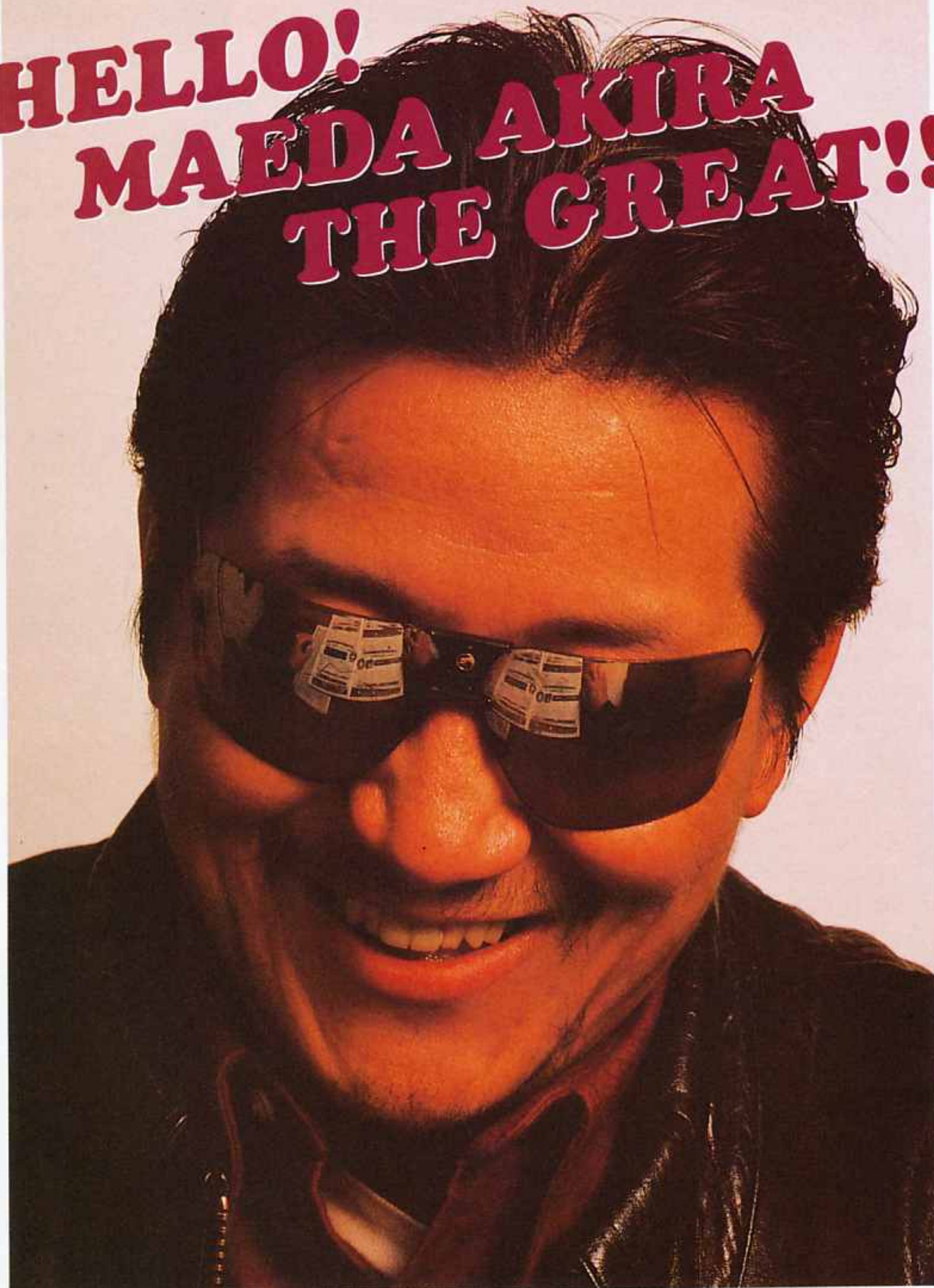
—そんな淋しい話になっちゃって（笑）。

前田　しんみりしちゃうね（笑）。

—そういえば、出場予定だったヨットレースはどうなったんですか？

前田　断念だね。断念で、だ、だ、ざ、ざ、残念ですよ。

—ダジャレ言おうとして失敗しましたね（笑）。

前田　一番大きくて早いクラスの一等賞目指すって思って、超スーパー仕様のヨットだったんですよ。それで動いたんだけど全然金が集まらなかった。ホントに、不況、凄いよ。

—不況なんて、とりあえず手を挙げて吹き飛ばしましょう（笑）。じゃあ、引退試合を終えたということで、最後に読者にメッセージをお願いします。

前田　俺は「俺を見るな、自分を見ろ」って言ってたんだけど、そんなの当たり前の話で、俺は誰の手本にもなるつもりはないし、できない！　俺がせいぜいできるとしたら反面教師ですよ。俺がカッコよく見えたら真似すればいいし、カッコ悪く見えたら真似しなきゃいいし。参考にできるとこがあればすればいいし、なければしなきゃいい。ただ、俺のチンケな現役生活21年の経験から言えることが一つだけあるんだよ。

—聞かせてください！

前田　「太く生きたからといって、短いとは限らない」by前田日明やね。

—それはカレリン戦の翌日の東スポの手記でも言ってましたね。

前田　これですよ！　やってみなけりゃわかんない、人間なんていうのは。だからなんでもやんなきゃダメ。まずトライして、やりながら考える。人生なんて躊躇してるヒマないよ！　一歩踏み込めばあとは極楽ですよ。

—穴があったら入れろ！（笑）。

前田　意志とチ●ポは固いほうがいい。

—ガハハハ、どんなメッセージだ！

前田　そういうことですよ。まあ、そのうちUFCに覆面でも被って出ますよ。謎のマネージャーでも従えて（笑）。

—いいですね！　マエダアキラ・ザ・グレートとして甦る（笑）。長い間お疲れさまでした！

前田日明〃最後の大航海〃が本当に終わってしまった。

カレリンという名の港にはたどり着けなかったが、一度はその港に帆先を着けた。もうファイターとして航海に出ることのない前田日明だが、その足跡はいつまでも記憶に残るはずだ。

前田日明はファイターとしての全盛期が過ぎ、破れはしたものの「強かった」。カレリンは初のプロのリングで、恐ろしいほどの個性を見せつけ「凄かった」。

前田vsカレリン戦は理屈抜きに「面白かった」。

つまり、前田vsカレリンは「強い」「凄い」「面白い」という3要素が揃った、最高級の試合だったことになる。

その試合を実現させた前田日明という男の生き方は、度を超えている。

その度を超えた生き方をリング上を通して見れないのは残念だが「引退」というリアルな現実の前には、それを受け入れるしかない。

前田日明は、カレリン戦が決まった後、「時間に劣化されない相手、くすまない相手、間違いなく歴史に残る相手がカレリンやね」と言っていたが、本誌は「時間に劣化されない男、くすまない男、間違いなく歴史に残る男。それが前田日明やね」と置き換えさせてもらう。

リングス・ラストマッチのときも言ったが、もう一度言おう。

さようなら、ファイター・前田日明。

こんにちは、人生のトータル・ファイター、前田日明・ザ・グレート。

【3月1日／渋谷・リングス事務所にて収録】

元気ですかーッ!

㊗小川直也、NWA王座奪取記念!
巻末スペシャルINTERVIEW

日本で一番元気な人がマット界の「環境問題」について語る——!!

アントニオ猪木

馬場さんの訃報を聞いたとき、猪木さんは、なぜブラジルのジャングルにいたのか? なぜマット界は閉塞状況なのか? 1・4にはどんなメッセージがあったのか? そしてライオンタマリンとは何か? あらゆる事象をまとめてカッ斬る2回連続ロング・インタビューの第1回。それではみなさん、いきますかーッ!

聞き手/山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影/森鷹博
photographs by Takahiro Yakupon Mori

けじゃなく

というか

ジャングルを守るだけじ
ジャングルを作る!!
と

――昨日の、馬場さん追悼の10カウントゴングのあとの「元気ですかーッ!!」にはビックリしましたね（笑）。〈下の「3・14猪木総帥リング上からの挨拶完全再録」参照〉

猪木　ンムフフフ。あれは別に考えてたわけじゃないんだよ。馬場さんへの追悼の挨拶は、本当はもうちょっと格好いい文章書いて挨拶しようと思ってたけど、暇がなくてね。前日も地方に出て、夜遅かったもんですからね。会場に行ったら原稿書いてる暇がなくて。半分書いたヤツを、人が来たんで破いて「もういいや、いらない！」と思って捨てちゃった。

――ガハハハ！　捨てましたか（笑）。

猪木　まあいいや、と思ってね（笑）。もうちょっといい挨拶をしたかったんだけど。

――馬場さんへの思いということで、会場内はシーンとしてたんですよね。それで神妙な雰囲気の中で10カウントゴングが終わったあとに、いきなり「元気ですかーッ!!」ときましたからね。

猪木　ンムフフフ。まあ、なんにつけても元気がなきゃ始まらないというかね。

――今日は、馬場さんの話を直接聞きたいのはヤマヤマなんですが、その馬場さんの訃報を聞いたときに、なぜアントニオ猪木はブラジルのジャングルにいたのか、というところから話を聞かせていただきたいなと思います。

猪木　うん、そうですね。90年に就任したブラジルの大統領が、たまたま私のアニキ（相良寿一氏）の空手の弟子だったんでね、招待を受けて就任式に出て。

――大統領がお兄さんの空手の弟子！

猪木　うん。そのあと私のアニキが山歩きをしててね、木にも登ったりして。

――木に登ってたんですか!?

猪木　うん。で、たまたまアマゾンのゴールドラッシュがあったときに、そこも結局、いろんな環境問題も含めてね、あとはイタイイタイ病というか、水銀汚染とかね、そんなことをきっかけにアマゾンには行くようになったわけです。それでまぁ、今回もチャーター機を用意して行った。そんときアニキに「飛行機代、立て替えてくれよ」って言ったら「いいよ、金（きん）で払う」って言うんだよ。

――金で払う！　豪華絢爛ですね（笑）。

猪木　いまだに払ってないと思うよ（笑）。それで、たまたまブラジリアからアマゾンまで3時間ぐらい掛けていって、その晩には用事があってリオに行かなきゃいけないっていうことがあってね。

――実にスケールが大きい移動ですね（笑）。

猪木　アマゾンに着いたら、ジャングルの中に滑走路だけ付けてあるから、そこに車で迎えに来てもらってね。ちょうど昼の12時くらいに着いて、そこでまぁ、陳情があった。

――環境問題の陳情ですね。

猪木　そういった水銀問題とか、いろんな陳情があったんだけど、30分ぐらい聞いて、もう乗らないと間に合わないんで、そのまま引き返して飛行機乗っかって帰って来たんですよね。で、ブラジリアで乗り換えて家に帰って、翌日の朝の一番便で、今度ぁヘリコプターで、ライオンタマリンっていう絶滅寸前の猿を視察しに行ってね。最初はそんなに興味はなかったんだけども、環境問題を中心に動いてましたから非常に無視するわけにはいかない。それで、そのライオンタマリンの生息地が9年間燃えてる。

――ウワッ！　9年間！　山火事ですか？

猪木　そう。以前、そこの現地に行っても、どこに火があるかわかんないから、ヘリでその上には降りられないんですね。それで写真を撮ったりなんかして。なんで火を消

UFO3・14横浜アリーナ大会 猪木総帥、リング上での挨拶完全再録!!

えー、ご挨拶をする前に、先日亡くなられましたジャイアント馬場さんの追悼のご挨拶をしたいと思います。

早いもので、馬場さんがあの世に旅立って42日が経ちました。その馬場さんの訃報を私はブラジルのジャングルの中で聞き、なんとも無念の気持ちでいっぱいでした。私がブラジルに14歳のときに移民をいたしまして、39年前力道山先生にスカウトされ、**身ぐるみ一枚で、**時を同じくして、馬場さんがプロ野球からプロレスへと転向して参りました。最初は私のまわりに、私より大きい人を見たことなかったんですが、**あの大きな馬場さんを見て、大変ビックリし、ショックを受けたわけです。**入門して二人は5歳年が違いますので、**本当に仲のよい兄弟のように……苦しい時期に手を取り合いながら頑張りましたが、**こんな思い出がいま甦ってまいります。

過酷な練習のあと、道場の食事だけでは間に合わず、ラーメン屋に駆け込んで一杯ずつラーメンを食い尽くし、そのあとそれでも足りず、お互いにポケットを探りながら小銭を出し合ってもう一杯のラーメンを買いました。半分ずつ分け合って食べた。そんな仲で、本当にあの大きな手で**「おい、寛至」**と言われると、兄弟が多くの中で育ってきた私が単身で日本に戻ってきたとき、本当に心の支えになり、感謝しています。

そんな中でお互いにプロレスラーとして成長していく中に、お互いに主張も出て来、あるいはマスコミの中ではライバルとして扱われるようになり、力道山先生が残してくれたプロレスを、お互いの道に別れ、ジャイアント馬場という全日本プロレス。そしてアントニオ猪木の新日本プロレス。という、お互いに形を変えて今日までやってきたわけですが、私にとって、**いま思えばジャイアント馬場という存在があったからこそアントニオ猪木という形が出来上がり、そしてお互いに切磋琢磨の中で**プロレスの繁栄に貢献できたと思っています。

いま、奇しくも今日のメインイベントは**NWAという**

大変盛り上がってジャングルを歩いている時に、馬場さんの訃報を聞いた

さないのかっていうとズバリ言って金がない！　でも、その横に川が流れてる。川から一帯に水を引いてしまえば火は消せるんです。どのくらいのお金があったら消せるのかっていうと4～5万ドルだって話なんだよね。

——4～5万ドル。

猪木　大した金じゃないよね。俺一人だって負担できるし。まぁ、とりあえずみんなに声掛けて。日本に帰って来てみんなに協力してもらったらすぐ集まってね。持ってったよ、約束通り。

——金（きん）じゃないですよね？（笑）

猪木　それは現金。そんな縁からね、財団を作るということになって、そこの名誉会長になってくれって言われてね。要するにライオンタマリンっていう猿は小さな猿で、400頭を切ると絶滅するという、まぁ、そういう中で保護するのが世界的な運動になってる。ＷＷＦという……プロレスじゃないよ！

——はい（笑）。世界環境保護基金でしたっけ。

猪木　それでブラジル政府も真剣に取り組んで、まぁ繁殖センターを作って、自然に帰してるんですね、タマリンを。それがいま、500頭ぐらいまで回復してきたのかな？　でもやっぱり、すごく繁殖率が低いんですね。

——400頭切ってたこともあったんですか？

猪木　そう！　アマゾンからずっと海岸線にかけて、リオ、サンパウロの山岳地帯というよりは海岸線からちょっと上がったぐらいのジャングルに生息してたんですけど、人間がその間に入ってきて、どんどん追い詰められて最後に残ったのがホストアンタスという本当に一握りの山にしかいなかった。で、今回、政治も辞めたし、それからまぁ、レスリングも辞めて、自分自身本当にやりたいことっていうのをやってみようと思ってね。もう一つの目的は、やっぱり、「ジャングルを守りましょう」、あるいは「自然を守りましょう」という提唱でもって動いてるボランティアの人がいるんだけど、じゃあ実際に今度ぁジャングルを作りゃあいいじゃねえか！　というね。

アントニオ猪木

——守るんじゃなく、ジャングルを作る!!　凄ェ!!

猪木　ンムフフフ。要するに杉を植えたり、なんかを植えるんだけど、とりあえず元のジャングルを再生すんの！　焼き畑で捨てられちゃった土地を再生していこうというね、非常に自分としても燃えられるテーマというか！　世界にアピールしていけることをやってやろうじゃねえかというね。

——ホントに元気ですね！（笑）。

猪木　だから、本当の意味で自分が燃えられる一つの仕事としてやろうと。今回はそういう中で動いてたわけです。消防署と軍と、変わったばかりの州知事や新任の議員さんが、そういうことに一生懸命耳を貸してくれた。それで大変盛り上がってジャングルを歩いてるときに……正式にはホテルに戻ったときなんだけど、そういう中で馬場さんの訃報を聞いたという。まぁ、日本を出る前にね、ちょっとそういう噂（重病説）を聞いたんですよ。

——猪木さんは馬場さんの容態を御存知だったっていう話もありますよね。

猪木　知ってたというよりは発表もなかったしね。もしかしたら、たいへん不謹慎かもしれないけど、5月2日にドームを取ったのはいいんだけど、もしかしたら追悼試合になるかもしれないっていうようなことを言ってたら、その通りになっちゃったでしょ。正直なことを言えば、そういう心の用意があったからショックというよりは、〝あの噂は本当だったんだ〟という驚きと同時に、なんて言うのかな……ブラジルのジャングルと向かい合っているときにフと感じたことは、やっぱりいま、本当にストレス社会でいろんなことが起きてますよね。それで、いろんな病気の根源っていうのは、ミネラルの不足から来てる!!

——ミネラル革命っていうのはそこから来てるんですか。

猪木　（身を乗り出すように）だからガンも同じように、人間、本来は押さえる力を持ってるんですね。それが老化と共にバランスが崩れてきたときにガン細胞が増殖していくっていうのかな？　馬場さんもある意味では本当に、まぁ、誰が見ても健康そう

それぞれの「旅立ち」'99

現代の人間の病気の根源はミネラル不足！　と言い切るアントン総帥だけに、この日も非常に元気よくミネラル・ウオーターをゴクリと飲み干した！

繁栄に貢献できたと思っています

いま、奇しくも今日のメインイベントはＮＷＡという**馬場さんが一度は腰に巻いたベルトに小川が挑戦する。これもなにかの因縁かなと。**そして、生涯現役レスラーにこだわり、それを貫き通した**馬場さん、世界一の果報者ではないかと思います。**

いつの日か人形町の道場で、そして巡業で血と汗と涙を流したあの過酷な修行時代を思い出しながら語り合えるときが来ると思いますが、とにかく**馬場さんが残したもの、そして力道山先生から受け継いだもの、私はこの一身に、両肩に抱えてプロレスの繁栄に貢献していきたい**と思います。

よろしくお願い致します。

馬場さんの御冥福を祈り、安らかに旅立っていただきたい。そんな思いを込めまして、10カウントゴングを贈らせていただきます。

【10カウントゴング】（会場中静まり返る）

（ゴング終了後、すかさず）**元気ですかーッ！**（いきなりの場面転換に会場中がひっくり返るほどビックリする）

第3回目を迎えましたＵＦＯ横浜大会、今日はホントにまだまだ駆け出しの中にみなさんの応援をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

今回はＮＷＡとＵＦＯの提携として、えー、夢におけるイベント、そして今後また、アメリカに向けてＵＦＯが発進できる、大変意味深い提携がなされました。かつて私のライバルでもあったドリー・ファンク・Jrも来日しております。21世紀に向けて日本の格闘文化が世界に発進できるまで、我々は一生懸命頑張り、みなさんの期待に応えていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

ありがとうございました。

いきますかーッ、やっぱり？
今日はみなさんはどんな思いでしょうかねぇ。
こんな思いかなー？
いくぞーッツ！
イチ・ニ・サン・ダーッ！

アントニオ猪木

ストレスがあると、本当の笑いが出なくなっちゃうというかね。ンムフフ

には見えなかったからね。

――馬場さんは、いつも同じたたずまいだから、健康かどうかもわからなかったところはありますね。

猪木　本当の話をすればね。だから、死んだ人は全てがご破算、そして美化していく。これには俺は異存ないんですね。死人に鞭打つなんていうつもりもまったくないし。ただ、そういう現実を見てしまうと、本当に大変だったんだなぁと。リングに立って生涯現役でやっていく中で、重い鎖で繋がれてる人生、あるいは宿命というか。そういう鎖から解き放たれて、本当の意味で馬場さんは自由になったというかね。そんなことが俺が感じた部分ですね。

――なるほど。

猪木　一般的に言えば「いやー残念でした、涙が止まりません」ってなるでしょ。でも、そういうふうに表現するんじゃなくて、共に闘ってきた人間としてね、馬場さんは馬場さんらしい、素晴らしい人生の幕引きができたんじゃないかなと。遺族に対してはもちろんお気の毒という気持ちはあるんだけど、ただ、共に闘ってきたライバルとしては、これが本当に偽りのない気持ちなんです。

――しかし、ジャングルを守るんじゃなくて、ジャングルを作る！っていう発想が非常に猪木さんらしいですね。馬場さんはジャングルがあったら守るタイプだと思うんですよね。そこでも実に対照的ですね。

猪木　要するに我々ができることは、こういう人気商売をさせてもらってる。そこで、そういうきっかけをつくるというか、人に訴えるというか、モデルを作ればそれは世界的な運動につながっていく。だからいま、世界中の自然が喪失してる中で、そういう運動が将来につながっていけばいい。昨日もたまたまそういうイベントの中でね（3・14の試合前に猪木と学生の討論会がリング上で行われた）、東大生から慶應、早稲田、みんな優秀な連中が「何をしたらいいんでしょうか？」っていうんだよね（笑）。

――みんな、何をやっていいかわかんないんですね。

猪木　うん。そういう部分の道しるべを示してあげるっていうのかな？　俺なんか、何をやったらいいのかなんて迷ったことがないから！

――「迷わず行けよ」ですからね（笑）。

猪木　やはり、全てが裕福になってしまった時代。だけど、本当は物質じゃなくて、手をかざしてもつかみ取れない大きな夢を、みんな持ってもらいたいなと。そういうことではね、環境問題のボランティアにしてもなんにしても、「みんな、行くか？」って言うと「行きますッ!!」って言うからね。

――「行きますかー!!」（笑）。

猪木　あとは、時間がね。時間っていうのは限られてますから。今回もあれだけの遠い所へ一回行く、あるいはジャングルの山を越えて行くとなると、車だとなかなか行けない。消防署がヘリで連れていってくれたり協力してくれてるんで、たいへん効率よく現地を視察できましたけどね。ちょうどそこには何頭ぐらいいますかね、タマリンが。タマリン系っていうのは3種類ありましてね、ゴールデン・ライオンタマリンっていうのは全部金色なんですね。あと、足元だけが金色のヤツ。3種類なんですよ。

――いずれにしても金が基調なんですね。

猪木　もうひとつはマーモセットっていう小さな猿ね。そういうのがワンつがいずつ、ずっと檻に入っているんですよ。

――ワンつがい！　もう、いちいちたまらない言葉が出てきますね（笑）。

猪木　で、アマゾン系のタマリンっていうのはものすごい獰猛なんですね。見るからに悪魔みたいな顔してて、こんな小さな顔なのにね。耳が立っててね。あんまり人種のこと言っちゃいけないけど、そういう顔の人いるじゃない。

――ガハハハ！　言わんとしてることはわかります（笑）。

猪木　たまたまね、俺が行ったときは、タマリンが檻から手を出してたから、普通は引っ掻くらしいんだけど、1～2分かな？　にらめっこしてね、ジーッと目を見てやったんだよね。それでスルスルッと撫でてやったら、撫で返してきたんだよね。その院長が「コイツが一番獰猛なんですよ！」って。

――タマリンも手のひらに乗せたわけですね（笑）。

猪木　「こんなの珍しい」みたいに言われてね（微笑）。だから、人間が置き忘れてしまったものというか、あるいは自然との対話ができるというか。本当に自然の蘭の花があるんだけど、そういうのと向き合ってると、なんか匂いと一緒に伝わってくるようなメッセージが感じられたんですね。そんなことを思い起こしながら、ジャングルの中を歩いてましたけどね。

――猪木さんはあっちこっち地球規模で飛び回ってますけど、どうやって時間を作ってるんですか？

猪木　例えばどんなに忙しい人でも恋人との時間は作るじゃない。だから、ズバリ言って、時間なんて取ろうと思えば取れるんです！　ブラジル人と日本人を比較するとね、ラテン系のいい加減さというか、ブラジル人は「また明日」っていう感じだね。日本では「明日に延ばすなかれ」という言葉があるんだけど、そこらへんの時間に対する物差しというか、そういうのが違うね。日本人が、いまこれだけいろんなものが豊かになってしまったのにも関わらず、なんでこんなにガツガツしてるというかイライラしてるというか。昨日、村上（一成）っていう選手が挨拶に来たんだよね。俺が昔、ブラジルのコーヒー園にいたころは、ケンカなんかしたことがないっていう話をしたんだけども。

――ブラジルに移民してたころは、ってことですよね（笑）。

猪木　いや、まぁ、もともと俺はケンカしたことないんだよ。それに加えて争いごとって少ないんだよね、田舎では。都会に来ると「アイツ、どうのこうの！」ってことになる。そりゃあ田舎なりの問題はあるんだけど、村上に「お前は農業の体験ないだろ？」って聞いたら「いや、私はあります」って言ってたね。富山の山奥のなんとかってとこで。「田舎のほうで争いごとはある？」って言ったら「ないです」って言うんだよね。土と交わったり、自然との関わり合いがなくなってきたために、人間のストレスっていうのが溜まりに溜まってるっていうのはあると思うね。

――森高千里の歌にもありますね（笑）。

猪木　もう一つは労働という問題がある！　自然と触れてれば、食べるものもおいしいし、スポーツクラブに行かなくても身体を使ってるというね。俺もロスに戻って、そのあとこっちに帰ってきたら、まぁ、右を向いても左を向いても全部そういう……。

――ストレスだらけですか（笑）。

猪木　ズバリ言って、そうなんだよね。

――ところで昨日、佐山（聡＝初代タイガ

それぞれの「旅立ち」'99

ーマスク）さんに勝ったアレクサンダー大塚選手が、試合後のフェアウエル・パーティーで締めの挨拶を任されて、「猪木さんにはたいへん失礼ながら例のやつをやらさせていただきます。イチ、ニ、サン、ダーッ」をやったって言ってたんですよ。

猪木　うん（笑）。

――で、終わって猪木さんに挨拶に行ったら、猪木さんに「今度、本当のダーッのやり方を教えてあげるよ」って言われたらしんですね。それで猪木さんがニコーッて笑ったらしんですけど、アレクは「『1・2の三四郎』に出てくる猪木さんとまったく同じ笑顔だった」って言ってましたね。ボクも、あの漫画に出てくる笑顔と、本物の猪木さんの笑顔と、イメージがピタッと重なるんですよね（笑）。

猪木　ンムフフフ。そうねぇ、ストレスの話じゃないけど、ストレスがあると本当の笑いが出なくなっちゃうというかね。やっぱり子どものころ本当に転げ回って腹がよじれてっていう笑いが、どっかで大人になっていく中で作った笑いに変わっていくし。だから、ズバリ言って、非常に笑いって大事なんだと思いますね。緊張してるときや、鬱になったときは出ないでしょ？　だから、努めて笑えるように、例えばジョークというのはそういう意味ですごく大事だからね。メシを食ってて、つまらないジョークでも、そこに笑いの一つも起きれば、一つ幸せなことが起きるっていうね。

――今日、ワイドショーで「羽賀研二くんもいろいろ借金が多いみたいだけど、男ならシャッキンとせい！」って猪木さんが羽賀クンにメッセージを送ってたらしいですね（笑）。

猪木　ダーッハッハッハ！

――不謹慎な話かもしれないですけど、馬場さんに本質的な“笑いの概念”っていうのはあったんですかね？

猪木　やっぱり環境というか成長していく中で、「俺はこういう劣等感を持ってるよ」っていうのは本当に心を開いたり、あるいはそれを武器にしちゃったり、本当に気心の知れた者同士じゃないと言わないでしょ。

まぁ人間、それでもどっか防御してるけどね。まぁ、そういう意味で本当の馬場さんは確かに優しかったと思うけども、誰もが言わない「大きい」ということに馬場さんは劣等感を持っていたというかね。少年時代からずっとどこ行ったって立ってるだけで目立つわけだよね。だけど唯一、「大きいことがいいことだ」というプロレスの世界は、あの人にとって天職というか。それだけで存在感あるんだから。

――目立ちまくりますからね。

猪木　だから、なぜ生涯現役ということにこだわったかというと、ホントは生涯現役なんかありえないんだけど、でも、そういうふうに言って自分のキャラクターを維持してったっていうのかな。これは、たいへん頭のいい人だと思うんです。そこからもう一つは、唯一「大きい」というレッテルを貼ってても、それがプロレスでは商品になるっ

ていうね。またそこから降りることが、ただの人に変わってしまうという恐怖感というものがあったんじゃないか。俺にはそういうのは、もともとなかったからね。引退するのにそんなにこだわる必要もなかったし。もう、身体も動かないんで終わり！っていうね。

――まだボクの中で猪木さんが引退したって感覚が全然ないんですけど（笑）。リングを降りても現役選手よりエネルギーを感じるというか。

猪木　でも俺、夜のほうは引退しちゃったんだよね。なーんつってね。ダーッハッハッハ！　まあでも、不思議に思ったのは、こうやって半分アメリカに生活移して、ちょうど引退してから1年ですよね。このサイクルの早い時代の中で、なんだかわかんないけど、どこに行っても渦が起きちゃう。これはいいことなんですけどね。銀座行ったってバーッておもてなししてもらえるし、こないだも中華街行ったら、人がいっぱい集まって通りで歩けなくなっちゃったりね。例えば、日ごろ我々が付き合ってる仲間が、そういう現実を見ちゃうとまたビックリしちゃうっていうね（笑）。俺自身もテレビにそんな出てるわけじゃないんだけど、そういう部分でキャラクターっていうのがいかに大事かっていうね。

――だから会場で挨拶するだけでもキャラクターっていうより、内面から出るエネルギーで持ってかれちゃうから、小川（直也）選手やUFOの選手もたいへんだなって思いますね。結局のところ猪木さんの挨拶が一番盛り上がっちゃうっていう（笑）。

猪木　だから大河になってくれりゃいいんだよね。大きい河に。小川だと、どっかに使われちゃう（笑）。ダーッハッハッハ。

――ガハハハ！「春の小川はサラサラいくよ」ということですね。

猪木　ンムフフフ。

――昨日の興行のことなんですが、個々の試合についてはすごく評判がいい。ただ興行全体としてはもう一歩という声も多いんですよね。それについてはいかがですか？

猪木　いや、ズバリ言って、その通りだと思います！　やっぱり、俺もそこまで手が届かないんでね。一番難しいというか、それでやっぱり超満員にさせたいと思うんだけど。大きな会場で、あれだけ入ってくれれば恩の字という一つの思いと、一方でや

風穴を開けるのが次の時代へのステップ
1・4がその先鞭をつけたというか

っぱりあの大きな会場を溢れさせたいという思いと二通りあるんだよね。いまは正直言うと営業マンもいないんですよ。

――人手不足ですか。

猪木　で、まぁ佐山が代表というかたちでやって、彼も奮闘しながらやってきて、本当に、半年そこそこでね、そんな中では1・2・3とジャンプできたかどうかはともかく、まぁ、一応見通しとしてね、三つの興行を総括すれば、まあまあできたほうかなぁ、と。

――しかし、小川選手っていうのはホント、素直に強いですね。

猪木　うん。強さを感じさせてくれる選手、いまファンがそういうのを待望してる部分じゃないかなぁ。格好いい選手はいっぱいいると思うし、アメリカ的にマイクパフォーマンスもできる。でも本当の強さを見せてくれる、もっともっと、なんだろうな……身体全体から醸し出す空気というのかな、それが備わってくれればね。

――内から出るエネルギーというか。

猪木　うん。

――小川選手といえば、1・4東京ドームで、小川vs橋本（真也）戦という問題提起があったんですけど、これを「マット界の環境問題」と捉えると、あれを環境破壊だと捉える空気が蔓延してますよね。ボクらからしてみると、あれはプロレスにある〝自然〟を保護してると捉えてるんですよ。

猪木　あれは環境問題じゃなくて日本の閉塞状態、経済とか政治という部分で捉えてたんで、環境には結びつかないなぁ（笑）。なぜかと言うと、政治も経済もどうにも動けない、出口が見えない。そん中で喘いでいる状態でしょ。なんとか出口を作るため、風穴を開けるためには、異質なものが入ってこなければ変わらないですよね。そういった環境から、また21世紀に向けて、どう風穴を開けるかっていうのが次の時代へのステップだと思うよね。だから、いま本当にプロレスがその先鞭をつけたというか。小川vs橋本戦がね。

――プロレスが真っ先に風穴を開けたということですね。

猪木　だから、ある意味では既存の常識をブチ破ることが、経済にしても政治にしても必要でしょう。まぁ、プロレスにしても、明日生き残るための一つのメッセージじゃないかな。

――ムリヤリ環境っていう言葉に結び付けると、1・4後の新日本プロレス側は、いまのままの環境を守っていくという感覚を持ってるわけですよね。だから、UFOに関しては、余計なことをしてくれたなという感覚があるんでしょうね。

猪木　環境があんなに太りますかね？

――ダハハハ！　もしかして橋本選手のことですか？

猪木　ンムフフフ。環境の話が出たからね、ついでに言っとくと、例えば「アマゾンを破壊しちゃいけません」とか、みんな言うよね。確かにそれは破壊しないほうがいい。でもね、自然も寿命がある。8千万年かな？　アマゾンの歴史というのは。その中でやっぱり天変地異があったり、いろんなことがあるけど、結局、巨木というのは、1本大きな木があると周りに大きな木が育たない。酸素の供給という面から言うと、飛行機で上から見ていくとガーッと緑のジャングルが広がるんだけど、下から見るとね、大木はもう葉っぱを付けてないんですよ！　結局いつかは巨木は倒れていくんですけどね。やっぱり、我々は酸素吸ってますから、小さな、これから成長期にある木を育てなきゃいけない。あるときには人間が手を加えてそういう環境を変えてあげるというかね。植林もそうなんだけど。そういう、老化しちゃったジャングルに新しい命を吹き込んであげるというね。よく、ジャングルって大蛇がいて、アマゾン河があってっていう恐ろしいイメージで語られるけど、アマゾンはいろんな顔を持ってますから。だから……。

アントニオ猪木

※

残念ながら、ここで第1R終了のゴングが鳴ってしまった――。「だから……」の続きはなんなのか？「結局巨木はいつか倒れていく」というのはジャングルの樹木の話そのままなのか、何かの比喩なのか？　謎かけなのか？　猪木的ブーメラン・インタビュー第2弾は次号に続きます！

待ってる間に、もう一度心の中の耳をかっぽじって、今回の猪木さんの話を聞いてほしい。猪木さんの話はいつの世でも根源的であるから、ズバリ言ってどんな話にも結びついていく。読み込めば〝猪木イズム〟の核が見えてくるはずだ。

ひと昔前は、日本中を熱狂と感動の渦に巻き込み、世界に向けて発進されていた〝猪木イズム〟。マット界に限らず古い価値観と新しい価値観が交差する不安定な時代の中で、これから〝猪木イズム〟は、はたしてどういう役割を果たしていくのか？

次号では、マット界をブッタ斬る、1・4の意味なども含めた、ますます元気で過激なコメント。そしてジャングル、テーマパーク、アドベンチャーワールド、インターネット、ミネラル……一見、プロレスとは無関係の話題から、この時代における〝プロレスの役割〟〝猪木イズム〟の根っこを探っていきま……いきますかーッ、やっぱり？　次号はみんなどんな思いかなぁ？　こんな思いかなぁ？

いくゾーッ！　イーチ、ニーッ、サン、ヨイショッ、ダーッ!!

【3月15日／オーちゃんがNWA王座を奪取した翌日、六本木アートセンターにて収録】

小川直也

「目を覚まさした」あとに、ダン・スパーンを眠らせる!!
3・14NWA世界王座奪取

猪木も100点満点を出した、3・14小川直也のNWA王座奪取劇。厳密にいえば馬場さんの保持していたことのあるNWA世界のベルトとは違うNWAなのだが、ここはオーちゃんのベルト奪取を祝してノー問題。ドリー・ファンク・jrの笛吹きレフェリングも選手はやりづらいだろうが、面白いのでノー問題。

さて、ノー問題といえば高田延彦だが、オーちゃんは試合翌日から「防衛戦は高田さんと」とまたもや暴走、いや暴飛行。この勢いを止めるのは、高田か？　橋本か？　それともドリーの笛か？　いずれにしても、今後もオーちゃんから目が離せない！

というわけで、ハマのリングで勝負した新王者・小川直也の試合後の共同会見を再録しよう。「なんでいまさらNWAなんだよ」というネガティブな読み方をしていたら何も見えないので、注意しながら、コメントをしっかり読み込みましょう。いまの時代の息吹を吸収しとかないと、新王者に再び「目を覚ましてくださ〜い」と言われかねないので、ファンの皆様、そこのところよろしくっていうことで。あ、小川選手は試合後でコーフンしてたのか単に忘れてただけなのか、マウスピースを付けたまま会見開始。聞きづらいったらありゃしなかった。でもオーちゃんは「強くて・凄くて・面白い」のでノー問題！

※

〈闘いづらかった？〉

小川　そうですね。ちょっと、レスリングに偏ってたんで、あと、顔面パンチなかったんで、ちょっと。

〈チャンピオンベルト取りましたけど〉

小川　これからが全てです。

〈今後の目標はなんですか？〉

小川　ベルト云々より、もっとUFOが幅広く発進して行けばいいかな、と思います。

〈小川選手、マウスピースを取ってください〉

小川　すいませんでした（マウスピースを取る）

〈1・4以来の試合という部分で、どうでした？〉

小川　そうですね、エラい緊張しちゃって、空回りしちゃったかなって感じですね。

〈蹴りを多用していたが？〉

小川　今日、正式に最後の顔面パンチなしってなったんで、どうしても。キックはいいと言われたんで。

〈相手が下半身タックルに来たところを、いいタイミングでヒザ入ってましたけど〉

小川　ヒザっていうか、オレもビックリしてます。偶然入って。ヒザを出してたのは狙ってたんじゃなくて自然に出たっちゅうのかな？　偶然当たったたから、あ、ラッキーかなって（笑）。

〈レフェリーの方からブレイクがかなりかかってましたけど〉

小川　どうしても、笛っちゅうのがどうもね。あれだけは勘弁してほしいね。

〈これで、アメリカマットで試合をするチャンスが出てくると思うんですけど〉

小川　そうですね、それよりNWAを自分の手で変えていきたいっていう目標ができました。

〈具体的には？〉

小川　今日みたいなルールが。ロープブレイクとか、UFOルールと近い形でどんどん変えていきたいな、と。

〈プロレスのベルトから枠を広げるっていう意味？〉

小川　そうですね。まわりからいろんなものを吸収していくっていうね。なんていうのかな、プロレスの枠っていうんじゃなく、全ての枠っていうね、そういう方向性を持ってやっていきたいな。

〈いまの体重はベストですか？〉

小川　体重はね、ずっと落としながら様子見てるっていうんですかね、模索してるっていうんですかね。自分でもどれが一番いいかなって。ただ、トーナメントとかだったら体型変えなきゃいけないけど、シングルマッチっていうのかな？　トーナメント以外だったら無駄な脂肪はいらないんで、その試合によってどんどん変えていこうかなと思ってるんですけど。

〈スピードがでたと思ったんだけど。いまの体重は？〉

小川　114ぐらいですかね。

〈スパーンとの再戦予定は？〉

小川　もちろん。何回でも。逃げるつもりはないですから。ダン・スパーン自体もアルティメットの中でズバ抜けた選手ですから、そういうスタイルで来たらね。よくわかんないけど。オレはそういうのを望んでるから。いろいろ仕掛けたけど乗ってこなかったんで。最後まで王者としてのプライドを取っといたのかな。反則の面で見ればオレの方が反則。仕掛けたのもオレだし。それ承知でやらないと面白くないから。

〈敢えてルールというものを踏み越えていったと〉

小川　もちろん。あと、NWAにも見てもらいたかったのもあるんですよ。ベルトにこだわってる問題じゃないよと。ただ、K-1のときはあれで負けちゃったけど、今回こっちの場合は少しは明かりが見えたかなと思ってます。

〈いろんなものを吸収してと言ってましたけど、防衛戦としてはNWAが派遣してくるレスラーだけじゃなくて〉

小川　もちろんNWAの了解っていうのを得るっていうのかな。得るっていうか強引にでもやりたいと思います。いちいち承認取ってるんじゃなくて。その分自分が責任持って守っていかなきゃなんない。夢というものを持って。

〈佐山さんに勝ったアレクサンダー大塚が「NWA王者とやりたい」と言ってるが〉

小川　もちろん。「いつ、何時」っていう姿勢はありますから。望むところです。ただ、オレの場合UFOルールでやってもらいたいなと。

〈今日のスパーン戦ですが、「UFOとはこういうものだ」っていうのを相手に見せようと思ったか？〉

小川　もちろんUFOっていうのを広めていきたいっていうのはあるから、ベルトという次元にとらわれないように。でも歴史のあるベルトなんで、そういうふうにベルト軽視しちゃ失礼かなっていう思いもありますけど。いま、そういう時代じゃないんで、常に先見て勝負していきたいなと思います。UFOもいろんな選手が、今日も（マーク・）コールマンが来てたっていうし、選手が興味を持って、どんどん標的が出て来るんで、それに負けないように練習したい。

〈ベルトにはこだわらないという話でしたが、プロになって初めてのベルトってことで〉

小川　照れくさいですね。別に、チャンピオンとかそういうガラじゃないし、そういう枠で括られてたもんもあんまり好きじゃないし、ただ、一つの通過点として大きく成長していく上でのありがたいベルトですね。もっともっと上に行くにはここに立ってちゃいけないんで、常にチャレンジしてやっていこうと思います。

※

どーですか、お客さん！　ちなみにこの日はアレクも佐山タイガーから2勝目をゲット！　実は「強くて・凄くて・面白い」ヤツらはゴロゴロいる。時代のプレートは確実に動いているのだ。このムーブメントの真の主役は誰になるのか。そのヒントこそ…この続きは次号で…（シッシー調）。

野球帽を被ったまま笛を吹きまくり、小川とスパーンをブレイクさせまくったドリー・ファンク・Jr特別レフェリー。かつて名勝負を演じた猪木総帥とも握手

「オメデトー！」の声とともに、新王者を祝福した猪木総帥。この日は「いつもいつも辛口じゃしょうがないんで」と、満点を小川に付けていた

「ハイハイハイハイ！」「来いよ、オラ！」マウントからの顔面パンチ、挑発的な張り手など、この日も実にふてぶてしかった小川。とにかくもっともっとオーちゃんの試合が見たい

『小林洋傘店』
荘司和子さん（41）
「若い頃はジャンボ鶴田が好きで、よく会場にまで行ってました。キャー、恥ずかしい（照笑）。馬場さんが亡くなったって聞いたときはショックでしたけど、馬場さんは現役のままで本望だったんじゃないかな」

『百果園』
飯島実さん（63）
「俺、力道山が亡くなってから興味ねえんだ、プロレスには。160文キックだっけ？　16文か。俺は野球が好きだから巨人時代の馬場さんは知ってるよ。一回、敗戦処理で登板しただろ？　でも、いなくなるのは寂しいな。心の中で合掌したいよ」

『東屋ふとん店』
深沢武仁さん（68）
「俺はプロレス見ないけど、馬場さんと同郷なんだよ。彼も死んだか……と思うと寂しいね」

『矢崎海苔店』
矢崎晴久さん（55）
「突然消えるように亡くなったよね。英雄的な死に方だと思うよ。奥さんとの話もTVで見たけど、奥さんは偉かったな」

『永楽堂』
横尾せつ子さん（自称25）
「あれだけのキャラクターを持った人って、いまいないでしょ？　残念ですね、まだまだ若いのに」

『稲毛屋』
川崎武さん（76）
カムバックすると思ってたんだけど、寂しいねえ。癌は、早期発見すれば怖くないんだけど。そういえば隣の店は昔、アントンリブだったんだよ」

『メリー』
相野谷理子さん（54）
「ほとんど知らなかったけど、TVの追悼番組を見て知りました。失礼ですけど、あの風貌なのに人格者で立派な方だったんですね」

『ゼイタク煎餅』
向井重信さん（61）
「あんまり知らねえ。巨人でピッチャーをやってたのは知ってる。身長は203センチぐらいあったんだっけ？　乗り物も大変だよな」

『村山電気』
原敬司さん（27）
「全日本プロレスはよく見てたよ。馬場さんが病気のときはホントびっくりしたよ。ご冥福をお祈りします」

『川岸眼鏡店』
大塚幸子さん（56）
「一生懸命やってた人ですよね、もうやめてもいい頃だったんじゃないですか？　非常にやさしい印象ですね」

ジャイアント馬場、死去——プロレスファン、プロレス業界にとっては、もちろん最大級の哀しい出来事だ。では、世間一般の人々にとっては果たしてどうなのだろうか？　というわけで、本誌アンケート特別班は巣鴨にある“とげぬき地蔵”へと急行した。別名“おばあちゃん銀座”と呼ばれ、非常にお年寄りが多いここなら、きっと馬場の全盛期を知っているだろう。そして、哀しみに暮れている人も大勢いるだろう。素敵な思い出話を聞かせてくれるだろう。というわけで商店街のお店を一軒一軒訪ねてまわり、馬場さんの話を聞いてまわった。もちろん、知らない人などいるわけもない。みんな脳天唐竹割や16文キックを知っていた。顔マネまでしてくれるサービス精神旺盛な人もいた。そして、細かいことは知らなくても、みんなが愛していた!!　馬場さん、あなたは日本の英雄でした!!

COLLECTION in巣鴨とげぬき地蔵

『マルヨシ』左から
鈴木洋子さん(50)
「いい人でしたよね。わりと学者で、インテリだったんですよね。本をたくさん読んでたってね」
行本三津子さん(40)
「私は乱暴な男の人はダメなの。馬場さんは好きでしたよ、あの温厚そうな笑顔が好きでした」
鈴木美智子さん(50)
「プロレスを作った人ですよね? プロレスラーも力道山、猪木と馬場さんしか知らないわ」

『松美屋』
松宮秀明さん(45)
「ゆったりとのんびりとしてて、良かったなあ。印象に残ってるのはボボ・ブラジルとの試合かな」

『桜花苑』
恩田三枝子さん(52)
「私なんかタレントの馬場さんしか知らないよ? 試合は見たことがないけど、あんなに痩せて大丈夫かなと思ってたら癌だっていうから……」

『松月堂』
野溝允子さん(64)
「ちょうど20年前かな、馬場さんがとげぬき地蔵の豆まきに来たことがあったけど、娘と握手してくれたんですよ。すごく気軽でそのまんまのいい人でした」

『コトブキヤ』左から
田中和子さん(50)
「あの人を見てると、こっちまで顔がほころんじゃうわね」
渡辺美恵子さん(50)
「身長も高いわよね? 230センチだったっけ? とにかく日本の宝よね」

『ますや』
北沢輝之さん(68)
「かけがえのない人だよ。俺、大好きだったのに。早すぎる」

『丸木時計店』
斉藤忠七さん(62)
「力道山の頃はプロレス見てましたけど、最近は……大きかったという印象ですねえ」

『フルーツタムラ』
田村泰一さん(21)
「信じられなかったです、全日は好きだったから」

馬場さん、あなたは日本の英雄でした!!

馬場さんありがとう全日グッズ特集

全日ファンはマストプレイ!
プレイステーションソフト『王者の魂』　3名様
4/8発売予定の新作は初のクラッチシステム搭載&モーションキャプチャーを駆使した超リアルな仕上がり。このクラッチシステムは、いままでのゲームと違って「つかむ」という動作にバリエーションを持たせたモノ。これでダイナミックな田上の動きも思いのままさ。顔だって写真を取り込んでるからそっくりさ（チト無表情なとこがまたナイス）。　そして解説は生前の馬場さんの生声を収録。豪華すぎ。　**【HUMAN提供】**

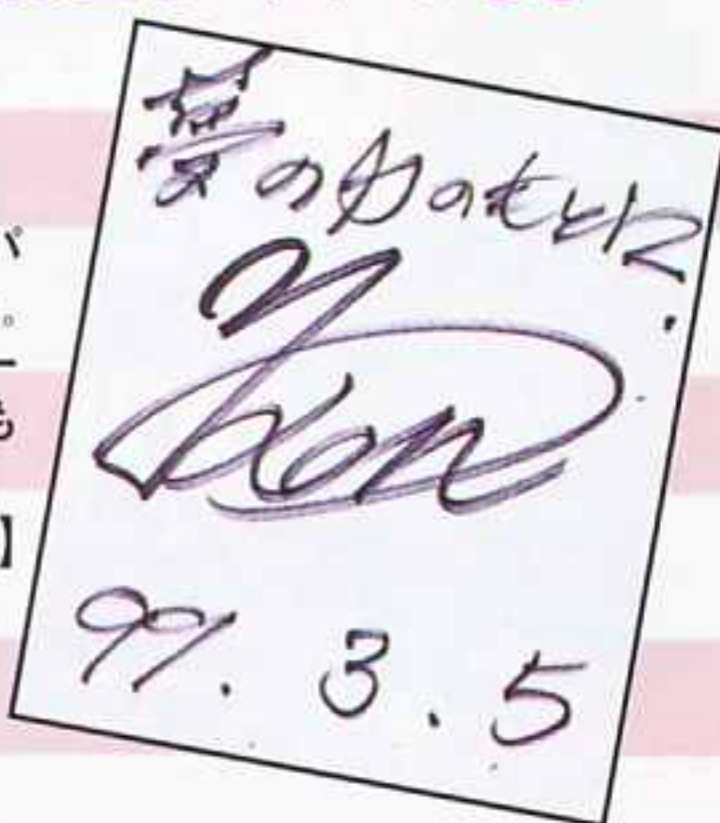
花くま先生絶賛!　プレイステーションソフト『爆走デコトラ伝説』　3名様
本誌山口日昇が元・トラックの運ちゃんだっつーことで、これもいただいちゃいましたぁ。桜庭選手も話題にしてたよ。自分のトラックを改造しつつ全国のトラッカー達と競い合うゲームなのさ。ジャイ子は自分を改造したい!!　**【HUMAN提供】**

欲しいでしょ?　黄金のジャイアント馬場フィギュア　1名様
超レア!　ステキすぎるこのフィギュアは純金製（ウソ）。既に大好評の全日のガチャガチャ（byユージン）に3月末までの期間限定で入ってる黄金の馬場さんです。本誌ノブは10回で出しました。**【ノブ提供】**

ジャイアント馬場携帯ストラップ　1名様
こちらはTシャツの顔とうって変わってラブリーヴァージョン馬場さんのストラップ。イェーイ!　これでいつでもどこでも馬場さんと一緒だね。

35周年記念・ジャイアント馬場Tシャツ　1名様
渦巻き状の「GIANT BABA」の文字に馬場さんの自己主張が感じられますね。大胆に着こなせ!!

プロレス関連グッズ

「夢の力のもとに……」ヤマケン直筆サイン色紙　2名様
フリーになったヤマケン選手からはパワーオブドリームな色紙をプレゼント。なお、ヤマケンジム・パワーオブドリームでは一日無料体験入学、見学者も随時募集中とのこと。行ってみる?
【ヤマケン選手提供】

ドン荒川サイン入りメガネスーパー割引券　50名様
現・メガネスーパー営業部所属。担当者欄に荒川眞の文字が輝く割引券。『青空プロレス道場』ではメガネをかけた受講生に配りまくってました。来れなかった諸君、宝物にするもよし、メガネ購入時に使うもよし、とにかくゲットだ!!
【ドン荒川選手提供】

「元気ですかーッ!」春一番マグカップ　各1名様
コーヒーブレイクのお供に最適な春一番さんのマグカップ。猪木ヴァージョン、桜ヴァージョン、しましまヴァージョンと3種類。こちらはバンバンビガロで発売中です。　**【春一番さん提供】**

ありがとう

読者のみなさん、商品を提供してくれたみなさんに深く感謝して読者プレゼントとさせていただきます

前号では「リングスのチケットの締め切りが早すぎる!」「田舎をバカにしてんのか!」「発売日遅れといて勝手なこといいやがって」等のお叱りを受けました。だってさぁ、締め切り遅くしたら試合の日に間に合わないもん。あと、他の商品希望なのに焦ってハガキ送って来た人も怒ってたけど、みんな落ち着いてね。読めばわかるさ。心は広く、身体はデカく、顔はブサイク!（ジャイ子）

アキラ兄さん引退記念超レアグッズ特集

家宝にしろ!　その1　前田日明直筆サイン入り非売品ポスター　各1名様
チャ渋の非売品ポスターはなんと贅沢に兄さんの直筆サイン入り。うつむき兄さんと上向き兄さん、どちらか明記するべし!!　**【クエスト提供】**

家宝にしろ!　その2　前田日明直筆サイン入り前田vsカレリン戦ポスター　1名様
こちらも激シブ!　カレリンも兄さんもイイ顔してます。　**【リングス提供】**

家宝にしろ!　その3　前田日明直筆サイン入りリングス2.21パンフレット　1名様
即日完売の豪華ケース入り2冊組パンフをゲット。もちろんサイン入りであ・げ・る。
【リングス提供】

家宝にしろ!　その4　前田日明直筆サイン入りリングス2.21ポスター　1名様
超クール!　いや〜、今回のアキラ兄さんのポスターはどれもカッコよくて困っちゃいますねぇ。アナタはどれがお好み?
【リングス提供】

家宝にしろ!　その5　中身は見てのお楽しみ。RINGS福袋　1名様
RINGS　2.21横浜大会にて販売された福袋。もちろん即完売。中身をチラッとだけ紹介すると、Tシャツ2枚、ポスター、ステッカーなどなど。あとは見てのお楽しみ。3000円とはとても思えないこのボリュームに気絶しそう。
【リングス提供】

新日関連グッズ特集

「真鍋ぇ～!!」2・14武道館大会で大仁田厚が落としたタバコの箱 1名様

突然の乱入、その後テレ朝の真鍋アナを怒鳴りつけながらもタバコ吸ってましたねぇ。大荒れのバックステージでShow氏がゲット。証拠はないが、本物じゃー!! 【Show氏提供】

『～長州力 引退記念復刻版～POWER HALL』PART3&4 セットで2名様

94年に発売されたモノの復刻版。88年、89年のvs猪木戦、93年のvs天龍戦など盛りだくさん。天龍選手との対談も収録! 猪木論、革命論、長州にとって天龍とは? 天龍にとって長州とは? など、熱く語り合う姿が堪能できまーす。【東芝EMI提供】

『'99 WRESTLING WORLD IN闘強導夢』PART1&2 セットで2名様

おとそ気分もブッ飛んだ1・4東京ドーム大会を全試合ノーカット収録! 大仁田の新日マット初参戦、UFO上陸、その後の橋本……。お蔵入りも危惧されたこの興行をまるまる見れちゃいます。偉いぞ新日&東芝! 【東芝EMI提供】

『ジュニアvsヘビー』3名様

ムタvsライガー、武藤vs大谷、橋本&蝶野vsライガー&ペガサス、藤波vsライガーなど、タイトル通りジュニアvsヘビーの階級を超えたベストバウトを厳選して収録!! 熱くなってくるよ。【VALiS提供】

『nwo 4ever97.9.13～98.7.6 nwo HISTORY2』2名様

こちらはWCWのnwoでーす。97年プロレスビデオNo1ヒットの『nwo 4 Life』の続編。デニス・ロッドマンのデビュー戦からゴールドバーグがホーガンを破るまでの1年間を収録!初回特典として赤nwoステッカー、オリジナルTシャツ応募ハガキ付きでーす。 【東芝EMI提供】

『金本浩二』 3名様

女子人気ナンバーワンの金本選手が単独でビデオ化。92年から98年のベストバウトのダイジェストで、タイガーマスク時代の試合も2試合(vsライガー戦、vs折原戦)収録。このビデオでしか見られない独占インタビュー、若手時代の貴重な映像など盛りだくさん。 【VALiS提供】

『佐々木健介vs大谷晋二郎』3名様

98年12月23日、選手会主催興行で行われたスペシャルマッチ。かつて付き人関係だった両者(大谷が健介の付き人ね)の一騎打ちは、これ一戦で商品化されちゃうぐらいのベストバウト。両者のロングインタビューも収録。 【VALiS提供】

猪木&UFOグッズ特集

アントニオ猪木携帯ストラップ2種 各5名様

持ってるだけで元気になれそうなストラップは、ガウンヴァージョンと「ダーッ」ヴァージョンの2種類アリ。「携帯ストラップのオーバーザトップ!(資料より)」。意味はわからないが凄い勢いだ! 780円でもうすぐ発売。 【イマ・コーポレーション提供】

「いつ何時誰の挑戦でも受ける!!」UFO Tシャツ 3名様

猪木信者垂涎のTシャツ。3.14横浜アリーナ大会から絶賛発売中!! 3000円。通販の予定もアリ。ストラップとセットで身につければ元気一億倍!! 【UFO提供】

インディー激レアグッズ特集

また来てね。スナヤン直筆サイン色紙&ジャッキー・リン直筆サイン色紙 各1名様

DDT2/28大会に特別参戦のシラット柔術のスナヤン選手、酔拳のジャッキー・リン選手のサイン色紙をプレゼント。なんでもスナヤン選手は日本の競技人口10名のシラット柔術を広めに来日したらしい。ガンバレ!! 【スナヤン選手&ジャッキー・リン選手提供】

天龍一家(?)二瓶組長ステッカーセット 1名様

WARでも活躍中の組長が、会場ですれ違いざまにくれたステッカーで～す。組長、いつもステッカー持ち歩いてるのかなぁ? 【二瓶組長提供】

新日99年カレンダー 1名様

本誌ノブが闘魂ショップでお買いものしたときにもらったもの。6枚組の決め技特集(?)。小島のラリアット、中西のアルゼンチン・バックブリーカー、高岩のデスバレー・ボムなどバツグンな写真満載。ピンナップとしても大活躍するね。

国際プロモーション・佐野直Tシャツ 1名様

佐野選手オリジナルTシャツでーす。後ろに写ってる門田幸子選手(二瓶組)からは「カッコいい男子に私をプレゼント!写真付きで応募してくださーい」とのこと。ジャイ子もお薦めしちゃいます。 【佐野直選手・門田幸子選手(?)提供】

二瓶組・タノムサク鳥羽試合用コスチューム 1名様

いきなりお願いしたら、こんないいモノくれましたぁ。トランクスに書いてある文字は「ボクもなに書いてあるのかわかりませ～ん」(タノムサク・談)。タノムサク選手はキャプチャー、DDT等で活躍中。 【タノムサク鳥羽選手提供】

祝・旗揚げ サバイバル飛田Tシャツ 1名様

販売分がなくなってしまったので、本人が着てたのを脱がして無理矢理ゲット。埼玉プロレスの旗揚げ戦は3/29大田区民プラザで18時半より。メインはサバイバル飛田vs原始猿人ヴァーゴン(誰?)だ!! 【サバイバル飛田選手提供】

エンセングッズ特集

新作! 大和魂アブダビ限定Tシャツ・NO-RULE Tシャツ・修斗クンTシャツ(白・黄)各1名様 PUREBRED 携帯ストラップ 3名様

またまた出ました!! がんばれコレクター! アブダビTシャツはもちろんアブダビ語だかヘブライ語だかのロゴ入り。修斗クンTシャツは女子用サイズ。キュート&ラブリーですね。こちらの新作グッズは通販にて絶賛発売中。アブダビTシャツは4000円、あとのTシャツは3000円。ストラップは1000円です。お問い合せはイーフォース・ジャパン☎047-378-6400まで。 【イーフォース・ジャパン提供】

その他新旧エンセンTシャツ&トレーナー 各1名様

他にもたくさんもらっちゃいました。ラケットボールトレーナー・ラケットボールTシャツ、大和魂トレーナー(青)・E-FORCE(エンセンの会社だよ)Tシャツ、大和魂ロングスリーブ(黒)の5点。エンセンの愛するラケットボールもTシャツ化。こっちの方がレアかも。 【イーフォース・ジャパン提供】

女子プロ&プロレス大好きshop特集

令嬢・白鳥智香子サイン入りポラロイド 1名様

ラジオも始まり絶好調の白鳥選手のサイン入りポラ。相変わらずお美しいです。ジャイ子もあやかりたいよ。

【白鳥智香子選手提供】

大盛況おめでとう。Ozアカデミーパンフレット、Tシャツ　セットで1名様

２回目の主催興行も大盛況、FMWの中山選手も加わり、ますますパワーアップのOzアカデミーからはオリジナルグッズ２点をセットで。こちらはGAEAの売店にて絶賛発売中。４／４横浜文化体育館は要チェック!!

【Ozアカデミー提供】

マスクド・スーパースターTシャツ、足四の字Tシャツ、T・J・シンTシャツ、迷彩Tシャツ、キングコング・バンディTシャツ、アトミックドロップTシャツ 各1名様

前回も大好評だったHAOMINGから新作Tシャツをドド～ンと6点大放出！　微妙な色使いがオシャレ心をくすぐるね。これからもガンガン出す予定アリ。取扱店はチャンピオン東京、バンバンビガロ、ブレーンバスターの3店です。気になるお値段は3200円～3400円。別注で染めてるのにこの値段は買いだ!!　サイズはS・M・Lです。

【HAOMING提供】

今度はこうきたか。キラー・カーンTシャツ、T・J・シン&上田馬之助Tシャツ 各1名様

毎回毎回、昭和プロレスファンの心をシェイクするバンバンビガロからの新作をプレゼント。ヴィヴィッドカラーが斬新でステキ。通販もやってるよ。問い合わせは　☎03-3460-1145　世田谷区北沢2-33-11-2F　バンバンビガロまで。

【バンバンビガロ提供】

ついに出た!　SWS Tシャツ、ブロディーTシャツ、リスマルクTシャツ　各1名様

またまたオシャレな洋服屋さんがプロレスTシャツ界に殴り込み!!　こちらの商品は各3800円。武蔵野市吉祥寺本町4-25-7　☎0422-20-9567　e-mail　nort@ask.ne.jp ノーザンライトで買えます。営業時間は12:00～20:00。

【ノーザンライト提供】

YOKOZUNAフィギュア　1名様

最近『紙プロ』誌面に頻繁に登場!の店長さんからのプレゼント。ヨコヅナのとぼけた表情がステキ。みんなも梵婆家に行こう!　☎03-3323-5629

【梵婆家の店長提供】

応募要項

希望商品が決まったボーイズ&ガールズはハガキに右側の要領で記入の上、送るべしっ!!　面倒くさがっちゃダメダメ。レッツ応募!　締切は4月20日（当日必着です）※応募券のないハガキは無効で～す。わかったぁ?　ジャイジャイ。

宛先は
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロRADICAL』編集部「劇団って入稿とかないじゃん」係まで

応募券
1.郵便番号・住所
2.氏名　3.年齢
4.職業
5.電話番号
6.希望商品
7.面白かった記事&その理由
8.つまらなかった記事&その理由
9.『PRIDE.0』(P116～)の勝者は誰?
10.『紙プロ』で作って欲しいグッズは?

紙のプロレス RADICAL
No.16
1999年4月25日発行
定価：本体743円+税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）
編集兼発行人：山口日昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロ／八木賢太郎（ダイエット成功のため非番）
スーパーバイザー：吉田豪
助っ人：ジャイ子／恒遠バカツネ
デザイン：ツー・スリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、ふる～る）
カメラマン：斉藤ユーリ／遠藤政文／森鷹博／戸成ぶつぞう／乾晋也
お勘定：林ヘックション一枝
ニューバランス：中村カタブツ君（36歳）
フィニッシュ：ツー・スリー
印刷：図書印刷株式会社
印刷人：大杉すぎすぎ昌也

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてね。ジャイジャイ。

紙のプロレス RADICAL
No.17は
4月下旬
発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

岡本魂選手

超限定生産につき、完売したらデッドストックです!!

紙のプロレス T shirts

利害を超越して誰も出来ないこと
誰もやらないことを
夢として それに挑戦する!!
それが岡本魂
Tシャツである

アントイ石川（談）

BATTARTS ANTOY

1.バトTシャツ

お陰様で、これと同じデザインのTシャツをバトラーツ両国国技館大会の際に販売したら、アッという間に完売してしまいました。バト全選手がかっこよくプリントしてあるクールな逸品です。もちろん小社にも問い合わせ殺到!! リクエスト続々!! 「気になるあの娘が振り向いてくれました!!」との声が多数！ というわけで、満を持して色違いバージョンを出します。

Mのみ（Lは売切）
¥3500

2.魂Tシャツ〈ネイビー〉

本当に残りわずかとなってしまいました!! すでにMサイズのみですが、今後は追加生産する予定もないのでお早めに!! 日本全国の岡本魂ファンのみな様は、彼の復帰を祈りながら待つべし!! 待つべし!! フォーマルな場にも、カジュアルな場にも最適なネイビーTシャツはおすすめです。

Mのみ（Lは売切）
¥3000

3.魂トレーナー

岡本魂選手の熱いハートが宿った、このトレーナーをお薦めします。バックには格闘探偵団バトラーツと『紙のプロレス』のダブルネームが入っています（ここに紹介した4枚、いずれもバックは同じデザインです）。

M、Lとも
¥4500

4.魂Tシャツ〈レッド〉

燃えるような赤で、キミの情念をスタイリッシュに表現してみないかい？ いま、巷で話題の"あのTシャツ"のように、気軽にオシャレに着こなしてほしい逸品です。現在、負傷で長期欠場中の岡本魂選手が不死鳥のように戦線復帰してくる日が一日も早くやってくることを祈りつつ……日本全国の「岡本さん」は一家に一枚！

M、Lとも
¥3000

つまりのところ早いモン勝ちということですね?

さあさあ、早くしないと売り切れちゃいますよ。お陰様で、トレーナー、岡本魂のレッド、岡本魂のネイビーL、バトTシャツのLは寒梅のようにひっそりと完売いたしました。乾杯!! というわけで、完売してしまった商品は若干ですがチャンピオン東京店に残っています。残すところ、バトTシャツ&岡本魂Tシャツのネイビー Mサイズのみです。繰り返しますが、ホントに完売しちゃったら二度と入手不可能ですよ。「ワン&オンリー」が『紙プロ』Tシャツのポリシーです。いまのうちに買っておかなきゃという人は、希望商品の代金＋送料500円に、あなたの住所、氏名、電話番号、希望商品を明記したメモを同封して現金書留で右記住所まで送って下さい。ちなみに「4月末には新しいデザインのTシャツがお目見えする予定なので、待っててね♥」とは小社Tシャツ大臣の林ヘックション一枝嬢（28歳＝自称）からのメッセージです。これからも『紙プロ』Tシャツから目が離せない!!

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「紙Tヘックション通販係」
[お客様お問い合わせダイヤル]
03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 103 1999 No.16

激烈! マット界の陣地取り

平成11年4月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体743円+税

9784898295533

雑誌 69862-03

©DOUBLECROSS 1999 Printed in Japan
印刷:図書印刷株式会社

ISBN4-89829-553-3
C9476 ¥743E

1929476007438

エンセン井上初の単独表紙&修斗くんの子供誕生記念ポートレート

プロレス界の勝新 ザ・グレート・サスケ

てめぇら!!
叩き斬ってや